公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第620集

今宮遺跡

県立障害者リハビリテーションセンター再編整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2016

群馬県健康福祉部障害政策課
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

今宮遺跡

県立障害者リハビリテーションセンター再編整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇一六

群馬県健康福祉部障害政策課
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

今 宮 遺 跡

県立障害者リハビリテーションセンター再編整備事業に伴う
埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

2016

群 馬 県 健 康 福 祉 部 障 害 政 策 課
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

1　調査区中北部(中央：1号古墳　右上：8号古墳主体部)

2　8号古墳主体部(南より)

序

県立リハビリテーションセンターは、昭和50(1975)年に開設された身体障害者更生援護施設であります。開設以来、施設の拡充が図られてまいりましたが、平成21年度には同センターの再編の検討が行われました。その結果、既存施設の南側に、重度障害の利用者に対する医療的ケアやリハビリ訓練の機能充実を目的とした、新棟の建設が計画されました。

この新棟の建設予定地は、周知の遺跡である今宮遺跡内にあることなどから、当事業団が平成26年に、記録保存のための埋蔵文化財の発掘調査を実施いたしました。その結果、旧石器時代、縄文時代、古墳時代、奈良時代、中近世の遺構が発見、調査され、出土遺物を得ることができました。この発掘調査を通して、旧石器時代の姶良丹沢火山灰から浅間板鼻褐色軽石群にかけての石器の出土、古くからの土地利用を示す縄文時代前期の竪穴住居や縄文時代の陥穴、古墳時代の集落や、波志江沼西古墳群の一部を構成する古墳、水利への苦心が偲ばれる江戸時代の溜井など、様々な知見を得ることができました。

以上のような今宮遺跡の発掘調査成果をまとめ、この度、埋蔵文化財発掘調査報告書として上梓することとなりました。発掘調査から報告書作成まで、ご指導、ご協力を賜りました群馬県健康福祉部障害政策課、群馬県障害者リハビリテーションセンター、群馬県教育委員会文化財保護課、伊勢崎市教育委員会文化財保護課、伊勢崎市水道局など関係各位に感謝申し上げます。そして、本報告書が今後地域の歴史を知るうえで広く活用されますことを願い、序といたします。

平成28年12月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長　　中 野 三 智 男

例　言

1　本書は、平成26年度県立障害者リハビリテーションセンター再編整備事業に伴い発掘調査された、今宮(いまみや)遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　今宮遺跡は、群馬県伊勢崎市波志江町3029-2・3030-3・3032-1・3031-2・3033・3091-5・3092・3094-1・3094-2・3095-1番地　他に所在する。

3　事業主体は群馬県健康福祉部障害政策課である。

4　調査主体は公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。

5　発掘調査の期間と体制は次の通りである。

調査期間　平成26年10月１日～平成26年12月31日(履行期間：平成26年９月１日～平成27年２月28日)

調査担当　調査部調査課　主任調査研究員　松村和男、専門調査役　相京建史

遺跡掘削請負工事：株式会社シン技術コンサル

委託　地上測量：株式会社シン技術コンサル　　空中写真撮影：株式会社シン技術コンサル

土器洗浄・注記作業：株式会社測研

6　整理事業の期間と体制は次の通りである。

整理期間　平成28年４月１日～平成28年10月31日(履行期間：平成28年４月１日～平成28年12月31日)

整理担当　資料部資料２課　上席専門員　石守　晃

7　本書作成の担当者は次の通りである。

編　集　石守　晃

本文執筆　第３章第１節４項は、石守が執筆し、徳江秀夫(資料部長)が加筆した。また第４章第２・３節は加速器分析株式会社の科学分析報告書を転載し、第５章第２節は小原俊行(専門員)が執筆し、その他本文は石守が執筆した。

デジタル編集　齊田智彦(主任調査研究員)

遺物観察　縄文・弥生土器：石坂　茂(専門調査役)　　石器・石製品：津島秀章(資料第２課長)（２次加工ある剥片の一部と棒状石器は石守加筆)　　土師器・須恵器：神谷佳明(専門調査役)

中近世陶磁器・土器：大西雅広(上席専門員)　　金属製品・製鉄遺物・炭化物：関　邦一(補佐(総括))

遺物写真撮影　津島秀章・石守　晃・大西雅広・関　邦一

保存処理　関　邦一(補佐(総括))

8　石材同定は飯島静男氏(群馬県地質研究会会員)に依頼した。

9　発掘調査諸資料及び出土品は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

10　発掘調査及び本書作成に当たり諸氏、機関よりご協力、ご指導、ご教示を得た。記して感謝の意を表します。

群馬県健康福祉部障害政策課、群馬県立障害者リハビリテーションセンター、群馬県教育委員会文化財保護課、伊勢崎市教育委員会文化財保護課、伊勢崎市水道局

凡　　例

1　今宮遺跡の遺構平面図は世界測地系国家座標(座標第Ⅸ系)を用いて測量した。遺構図の中で使用した北方位はすべて座標北で、真北方向角は＋0°24′20.82″である。

2　遺構図の中で使用した北方位は、すべて座標北を示している。

3　遺構の方位は、座標北を基準として主軸角度等の傾きを計測した。

4　遺構平面図の縮尺は、原則として以下を使用した。但し遺構によっては異なる縮率を用いたものもある。

竪穴住居　1/60、竈・炉　1/30、掘立柱建物　1/60、古墳　1/100、同石室　1/50、

溝(平面)　1/100、(断面)　1/50、土坑・ピット・陥穴　1/60、溜井　(平面)1/160、(断面)1/80

5　遺物図の縮尺は以下の通りである。

土器　1/2、1/3、1/4、石器・石製品　1/1、4/5、1/2、1/3、1/4、金属製品　1/1、1/2

6　遺物番号は出土遺構ごとの連番で、番号は本文・挿図・表・写真図版ともに一致する。

7　図中で使用したスクリーントーンやマークは、以下のことを表す。

焼土　　撹乱　　硬化面　　炭化物　　As-BP　　ススス

8　本書では必要に応じて、浅間A軽石(As-A)、浅間B軽石(As-B)、浅間C軽石(As-C)、浅間板鼻褐色軽石(As-BP)などの主要テフラを略号のみで表記した。

9　土層や土器の色調観察は、原則として農林水産省農林水産技術会議監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』を使用した。

10　第1図は昭和59年度の国土地理院の問い合わせに対する指示に基づいて、国土地理院20万分の1地勢図「宇都宮」を使用した。

また、第2図・第3図は、伊勢崎市より平成28年10月21日付、伊都第204－2号にて承認を得た、伊勢崎市発行2千5百分の1現況図16(平成22年度10月測図)を用いた。

第6図・第7図は、明治18年測図の陸軍迅速図「伊勢崎」「大胡」を用いた。

目　次

口絵
序
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
写真図版目次

第１章　今宮遺跡の発掘調査とその経過 …… 1
第１節　調査に至る経過 …… 1
１．群馬県立リハビリテーション
センターと新棟建設計画 …… 1
２．試掘調査 …… 2
３．発掘調査に至る経過 …… 4
第２節　発掘調査の経過 …… 4
１．本調査の経過 …… 4
２．立会調査 …… 5
第３節　発掘調査の方法 …… 5
１．調査区の設定 …… 5
２．簡易グリッドの設定 …… 5
３．発掘調査の方法 …… 5
４．発掘調査の記録 …… 5
第４節　基本土層 …… 6
第２章　今宮遺跡を廻る環境 …… 8
第１節　地理的・地形的環境 …… 8
１．地理的環境 …… 9
２．地形的環境 …… 9
第２節　歴史的環境 …… 9
１．旧石器時代 …… 9
２．縄文時代 …… 9
３．弥生時代 …… 10
４．古墳時代 …… 10
５．奈良・平安時代 …… 13
６．中近世以降 …… 13
第３章　発見された遺構と遺物 …… 15
第１節　古墳時代以降の遺構と遺物 …… 15
１．１面の遺構 …… 15
２．竪穴住居と竪穴状遺構 …… 17
３．掘立柱建物 …… 45
４．古墳 …… 49
５．溝 …… 68
６．溜井 …… 77
７．１面の土坑群 …… 81
８．１面のピット群 …… 82
９．１面遺構外の出土遺物 …… 89
第２節　縄文時代の遺構と遺物 …… 90
１．２面の遺構 …… 90
２．竪穴住居 …… 91
３．陥穴 …… 94
４．２面の土坑群 …… 100
５．２面遺構外の出土遺物 …… 107
第３節　旧石器時代の調査と遺物 …… 109
１．３面の概要 …… 109
２．旧石器時代の調査 …… 112
３．旧石器時代の出土遺物 …… 114
第４章　自然科学分析 …… 116
第１節　自然科学分析の委託 …… 116
第２節　今宮遺跡出土炭化物の
樹種・種実同定 …… 117
第３節　今宮遺跡における放射性炭素年代 …… 118
第５章　まとめ …… 121
第１節　今宮遺跡発掘の成果 …… 121
第２節　旧石器時代調査の成果 …… 122
第３・５章参考文献 …… 124
土坑・ピット一覧 …… 125
遺物観察表 …… 126
未掲載遺物・剥片一覧 …… 136
写真図版
抄録
奥付

挿図目次

第1図　今宮遺跡位置図 …… 1
第2図　今宮遺跡の調査区とグリッド設定図 …… 2
第3図　今宮遺跡試掘トレンチ位置図並びに確認遺構 …… 3
第4図　グリッド設定図 …… 6
第5図　基本土層 …… 7
第6図　今宮遺跡周辺地形・地質図 …… 8
第7図　今宮遺跡周辺の遺跡分布図 …… 10
第8図　遺跡全体図(1面) …… 15
第9図　1面遺構分布図 …… 16
第10図　1号住居 …… 17
第11図　1号住居竈と出土遺物 …… 18
第12図　2号住居と出土遺物 …… 19
第13図　3号住居(1) …… 20
第14図　3号住居(2)と掘り方 …… 21
第15図　3号住居竈 …… 22
第16図　3号住居出土遺物 …… 23
第17図　4号住居と出土遺物 …… 24
第18図　5号住居 …… 25
第19図　5号住居貯蔵穴と掘り方 …… 26
第20図　5号住居出土遺物(1) …… 27
第21図　5号住居出土遺物(2) …… 28
第22図　5号住居出土遺物(3) …… 29
第23図　6号住居と出土遺物 …… 30
第24図　7号住居(竪穴状遺構) …… 31
第25図　7号住居(竪穴状遺構)出土遺物(1) …… 32
第26図　7号住居(竪穴状遺構)出土遺物(2) …… 33
第27図　8号住居 …… 33
第28図　9号住居 …… 34
第29図　10号住居 …… 35
第30図　10号住居掘り方 …… 36
第31図　10号住居竈 …… 37
第32図　10号住居出土遺物(1) …… 38
第33図　10号住居出土遺物(2) …… 39
第34図　10号住居出土遺物(3) …… 40
第35図　10号住居出土遺物(4) …… 41
第36図　10号住居出土遺物(5) …… 42
第37図　11号住居と出土遺物 …… 43
第38図　12号住居と出土遺物 …… 44
第39図　13号住居 …… 44
第40図　1号掘立柱建物 …… 46
第41図　2号掘立柱建物 …… 48
第42図　1号古墳 …… 51・52
第43図　1号古墳石室・前庭掘り方 …… 53
第44図　1号古墳出土遺物 …… 54
第45図　2号古墳と出土遺物 …… 55
第46図　2号古墳石室 …… 56
第47図　3号古墳と出土遺物 …… 57
第48図　4号古墳 …… 58
第49図　4号古墳石室と出土遺物 …… 59
第50図　5号古墳 …… 60
第51図　6号古墳と出土遺物 …… 61
第52図　7号古墳 …… 62
第53図　8号古墳 …… 63
第54図　8号古墳石室(1) …… 64
第55図　8号古墳石室(2)と出土遺物 …… 65
第56図　8号古墳石室掘り方 …… 66
第57図　9号古墳 …… 67
第58図　1号溝 …… 68
第59図　2号溝 …… 69
第60図　3号溝 …… 70
第61図　4号溝全体図(左)・西端部(右) …… 71
第62図　4号溝西半部 …… 72
第63図　4号溝東半部 …… 73
第64図　5号溝 …… 74
第65図　6号溝 …… 75
第66図　7号溝 …… 76
第67図　1号溜井(1) …… 78
第68図　1号溜井(2) …… 79
第69図　2号溜井と出土遺物 …… 80
第70図　1面の土坑群(1) …… 81
第71図　1面の土坑群(2)と3号土坑出土遺物 …… 82
第72図　1面のピット(1) …… 83
第73図　1面のピット(2) …… 84
第74図　1面のピット(3) …… 85
第75図　1面のピット(4) …… 86
第76図　1面のピット(5) …… 87
第77図　1面のピット(6) …… 88
第78図　1面遺構外の出土遺物 …… 89
第79図　調査区と2面遺構分布図 …… 90
第80図　14号住居 …… 92
第81図　14号住居出土遺物 …… 93
第82図　15号住居(1) …… 95
第83図　15号住居(2)と出土遺物 …… 96
第84図　1号隅穴 …… 97
第85図　2号隅穴 …… 99
第86図　3号隅穴と出土遺物 …… 100
第87図　1・18号土坑と出土遺物 …… 101
第88図　19・20・22・23号土坑と出土遺物 …… 102
第89図　24・25・26・27号土坑と出土遺物 …… 103
第90図　28・29・30・31号土坑と出土遺物 …… 104
第91図　32・33号土坑と出土遺物 …… 105
第92図　34号土坑と出土遺物 …… 106
第93図　2面遺構外の出土遺物(1) …… 107
第94図　2面遺構外の出土遺物(2) …… 108
第95図　調査区・西部確認調査グリッド配置図とトレンチ断面図(1) 109
第96図　中西部確認調査グリッド配置図とトレンチ断面図(2) …… 110
第97図　中東部・東部確認調査グリッド配置図とトレンチ断面図(3) 111
第98図　T・U46グリッド・X44グリッド遺物出土位置図と
トレンチ断面図(4) …… 112
第99図　K24～L25グリッド遺物出土位置図とトレンチ断面図(5) 113
第100図　旧石器出土遺物 …… 114
第101図　暦年較正年代グラフ …… 120
第102図　Ⅱ期後半の石器群 …… 123

表　目　次

表1　周辺遺跡一覧 …… 11
表2　樹種同定および種実同定結果 …… 117
表3　放射性炭素年代測定結果(δ13C補正値) …… 119
表4　放射性炭素年代測定結果(δ13C未補正値、
暦年較正用14C年代、較正年代) …… 120
表5　1面土坑一覧 …… 125
表6　1面ピット一覧 …… 125
表7　2面土坑一覧 …… 126
表8　1面遺物観察表(古墳時代以降) …… 126
表9　2面遺物観察表(縄文時代) …… 131
表10　未掲載遺物一覧(土師器・須恵器等) …… 136
表11　未掲載遺物一覧(土器・陶磁器) …… 137
表12　未掲載遺物一覧(縄文土器) …… 138
表13　出土剥片一覧 …… 139

写真目次

〔1面〕

口絵　1　調査区中北部
　　2　8号古墳主体部

PL. 1　1　調査区全景
　　2　調査区全景

PL. 2　1　調査区全景
　　2　調査区全景

PL. 3　1　1号居全景
　　2　1号住居竈全景
　　3　2号住居全景
　　4　2号住居上層断面(A)
　　5　3号住居遺物出土状況
　　6　3号住居焼土付近遺物出土状況
　　7　3号住居竈全景
　　8　3号住居竈掘り方全景

PL. 4　1　3号住居床下土坑
　　2　3号住居掘り方全景
　　3　4号住居全景
　　4　5号住居貯蔵穴・ピット全景
　　5　5号住居貯蔵穴遺物出土状況
　　6　5号住居貯蔵穴遺物出土状況
　　7　5号住居貯蔵穴遺物出土状況
　　8　5号住居北壁土層断面(A)

PL. 5　1　6号住居全景土層断面(A)
　　2　7号住居(竪穴状遺構)全景
　　3　7号住居(竪穴状遺構)全景
　　4　7号住居(竪穴状遺構)全景
　　5　8号住居全景
　　6　8号住居掘り方全景
　　7　10号住居全景
　　8　10号住居遺物出土状況

PL. 6　1　10号住居貯蔵穴付近遺物出土状況
　　2　10号住居遺物出土状況
　　3　10号住居竈遺物出土状況
　　4　10号住居遺物出土状況
　　5　10号住居竈全景遺物出土状況
　　6　10号住居竈解体状況
　　7　10号住居竈掘り方全景
　　8　10号住居掘り方全景

PL. 7　1　11号住居全景
　　2　11号住居全景
　　3　12・13号住居全景
　　4　12・13号住居全景
　　5　1号掘立柱建物全景
　　6　2号掘立柱建物全景
　　7　1号古墳周堀
　　8　1号古墳周堀東内遺物出土状況

PL. 8　1　1号古墳主体部と前庭部全景
　　2　1号古墳石室と前庭の掘り方全景
　　3　1号古墳主体部全景
　　4　1号古墳石室と前庭の掘り方全景
　　5　1号古墳主体部と前庭部全景
　　6　1号古墳石室と前庭の掘り方全景
　　7　2号古墳主体部床下
　　8　2号古墳周溝内遺物出土状況

PL. 9　1　2号古墳全景
　　2　2号古墳主体部
　　3　2号古墳主体部全景
　　4　2号古墳主体部

PL. 10　1　2号古墳石室奥壁
　　2　2号古墳石室左壁
　　3　2号古墳全景
　　4　2号古墳主体部掘り方
　　5　3号古墳全景

PL. 11　1　3号古墳上層断面(A)
　　2　3号古墳全景
　　3　4号古墳全景
　　4　4号古墳上層断面(B)
　　5　4号古墳主体部付近上層断面(B)
　　6　4号古墳上層断面(A)
　　7　5号古墳全景
　　8　5号古墳周溝西側上層断面(B)

PL. 12　1　6号古墳全景
　　2　6号古墳東側周堀層断面(A)
　　3　7号古墳全景
　　4　7号古墳上層断面(A)
　　5　8号古墳全景

PL. 13　1　8号古墳全景
　　2　8号古墳主体部閉塞部取り外し後
　　3　8号古墳主体部閉塞部取り外し後
　　4　8号古墳主体部閉塞部取り外し後
　　5　8号古墳主体部
　　6　8号古墳主体部
　　7　8号古墳主体部礫床除去後
　　8　8号古墳石室右壁全体

PL. 14　1　8号古墳石室左壁羨道
　　2　8号古墳主体部掘り方全景
　　3　9号古墳・9号住居上層断面(A)全景
　　4　9号古墳・9号住居上層断面(B)全景
　　5　1号溝全景
　　6　1号溝上層断面(C)
　　7　2号溝全景
　　8　2号溝全景

PL. 15　1　3号溝上層断面(A)
　　2　3号溝全景
　　3　4号溝調査風景
　　4　4号溝中央西部分
　　5　5号溝西部分
　　6　5号溝東部分
　　7　6号溝全景

PL. 16　1　7号溝全景
　　2　7号溝全景
　　3　1号溜井全景
　　4　1号溜井上層断面(B)
　　5　2号溜井全景
　　6　2号溜井掘削痕
　　7　2号土坑全景
　　8　3号土坑全景
　　9　4号土坑全景

PL. 17　1　5号土坑全景
　　2　6号土坑全景
　　3　7号土坑全景
　　4　8号土坑全景
　　5　9号土坑全景
　　6　10号土坑全景
　　7　11号土坑全景
　　8　12号土坑全景
　　9　13号土坑上層断面(A)
　　10　14号土坑上層断面(A)
　　11　15号土坑全景
　　12　16号土坑全景
　　13　17号土坑全景
　　14　21号土坑全景
　　15　1号ピット全景

PL. 18　1　6号ピット全景
　　2　8号ピット全景

3　12号ピット全景
4　16号ピット全景
5　20号ピット全景
6　24号ピット全景
7　25号ピット全景（２号掘立柱建物）
8　27号ピット全景（２号掘立柱建物）
9　33号ピット全景
10　50号ピット上層断面
11　72・73号ピット全景
12　88号ピット全景
13　104・105(奥)号ピット全景
14　115号ピット全景
15　129号ピット上層断面

PL. 19　１・２・３号住居出上遺物
PL. 20　４号住居・５号住居（１)出上遺物
PL. 21　５号住居(２)・６号住居・７号住居(１)出上遺物
PL. 22　７号住居(２)・10号住居(１)出上遺物
PL. 23　10号住居(２)出上遺物
PL. 24　10号住居(３)出上遺物
PL. 25　10号住居(４)・11号住居・12号住居、１号古墳出上遺物
PL. 26　２～４・８号古墳、２号溜井、１面遺構外出上遺物

［２面］

PL. 27　1　14号住居全景
2　14号住居上層断面(A)
3　14号住居全景遺物出上状況
4　14号住居遺物出上状況
5　14号住居遺物出上状況
6　14号住居遺物出上状況
7　14号住居付近遺物出上状況
8　15号住居全景

PL. 28　1　15号住居炉全景
2　15号住居遺物出上状況
3　15号住居遺物出上状況
4　15号住居遺物出上状況
5　１号階穴全景
6　１号階穴全景
7　２号階穴逆茂木検出状況
8　２号階穴掘削状況

PL. 29　1　３号階穴全景
2　３号階穴底面の逆茂木部分上層断面
3　１号上坑全景
4　18号上坑全景遺物出上状況
5　19号上坑全景遺物出上状況
6　20号上坑全景
7　22号上坑全景
8　23号上坑全景遺物出上状況
9　24号上坑全景
10　25号上坑遺物出上状況

PL. 30　1　26号上坑全景
2　26号上坑遺物出上状況
3　27号上坑全景
4　28号上坑全景遺物出上状況
5　29号上坑全景
6　30号上坑全景遺物出上状況
7　31号上坑全景
8　32号上坑全景
9　32号上坑全景遺物出上状況
10　33号上坑遺物出上状況
11　33号上坑遺物出上状況
12　33号上坑遺物出上状況
13　33号上坑全景完掘
14　34号上坑遺物出上状況
15　34号上坑全景

PL. 31　14・15号住居、３号階穴出上遺物
PL. 32　18・19・22・25～28・32号上坑出上遺物
PL. 33　30・33・34号土坑、２面遺構外(１)出上遺物
PL. 34　２面遺構外(２)出上遺物
PL. 35　２面遺構外(３)出上遺物

［３面］

PL. 36　1　旧石器試掘段階全景
2　L24試掘トレンチ遺物出上状況
3　L24試掘トレンチ遺物(３)出上状況
4　L24試掘トレンチ遺物(５)出上状況
5　L24試掘トレンチ遺物(２)出上状況

PL. 37　1　L24試掘トレンチ遺物出上状況
2　L24試掘トレンチ上層断面、遺物出上状況
3　T46試掘トレンチ礫出上状況
4　T46試掘トレンチ礫出上状況
5　X44試掘トレンチ遺物出上状況
6　K25試掘トレンチ遺物出上状況
7　G8試掘トレンチ全景
8　P14試掘トレンチ全景

PL. 38　３面旧石器出上遺物

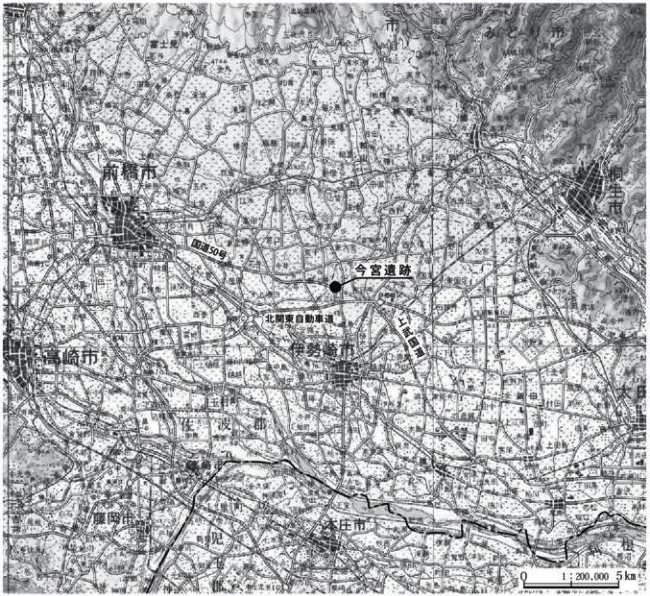
第１章　今宮遺跡の発掘調査とその経過

第１節　調査に至る経過

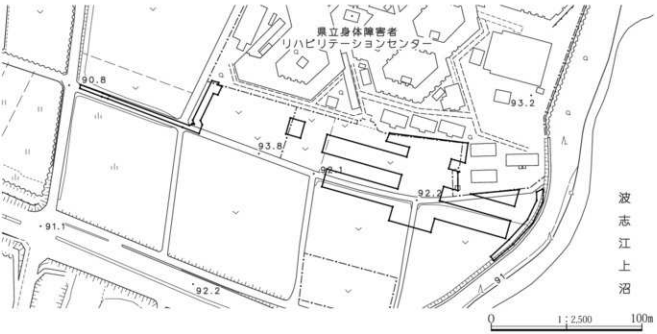
１．群馬県立障害者リハビリテーションセンターと新棟建設計画

群馬県立障害者リハビリテーションセンター(以下「リハビリセンター」とする)は、伊勢崎市波志江町に設置される、身体障害者更生援護施設である。

リハビリセンターは昭和50(1975)年、「身体障害者福祉法」(昭和24年法律第283号)に基づく、「群馬県立身体障害者リハビリテーションセンターの設置及び管理に関する条例」(昭和49年条例第52号)により、群馬県が設立した施設で、昭和50年に就労支援部、昭和51年に生活支援部、昭和53年に自立支援部が開設されている。以後、リハビリセンターは施設を拡充しながら推移し、平成23(2011)年にはリハビリセンター設置条例の一部を改正して、平成18(2006)年施行の「障害者自立支援法」(平成17年法律第123号)に対応する事業施設となり、平成25(2013)年からは「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」(平成17年法律第123号)に対



第１図　今宮遺跡位置図(国土地理院20万分の１地勢図「宇都宮」平成23年６月１日発行を使用)



第２図　今宮遺跡の調査区とグリッド設定図
「この地図の作成にあたっては、伊勢崎市長の承認を得て、同市発行の2,500分の１伊勢崎市現況図を複製したものである」

応する施設として拡充されている。

この間、群馬県保健福祉部障害政策課(以下「障害政策課」)は、平成11年度に、リハビリセンターを再編整備するための基本構想の策定、及び再編整備用地取得業務を行う「リハビリテーションセンター再編整備事業」を起こし、また、平成21年度には、群馬県は「群馬県障害福祉施設あり方検討委員会」を設置して、県立リハビリセンターの再編を検討している。平成22年３月には、後者の委員会の検討の一つとして、自立支援部と生活支援部のうち重度障害の利用者に対する医療的ケアやリハビリの訓練の機能を充実させるため、同センター南側の隣接地を中心とした区域に、新棟建設の必要を群馬県に報告している。なお、この報告には、用地に係わるものとして、新棟建設に伴い取得される隣接県有地(約5,000㎡)に包蔵されている埋蔵文化財の発掘調査を、平成25年度(整備第１期)に予定することが記載されている。

〔参考文献〕
群馬県健康福祉部障害政策課(2013)『群馬県立障害者リハビリテーションセンター再編整備基本計画』
群馬県保健福祉部(1999)『～元気県「ぐんま」～　事業概要　平成11年度』、p116
群馬県立障害者リハビリテーションセンター〈http://park18.wakwak.com/-reha_2678/index.htm〉 2016年4月12日参照
第一法規出版(1993)「群馬県立身体障害者リハビリテーションセンターの設置及び管理に関する条例」『群馬県小六法』、p1163

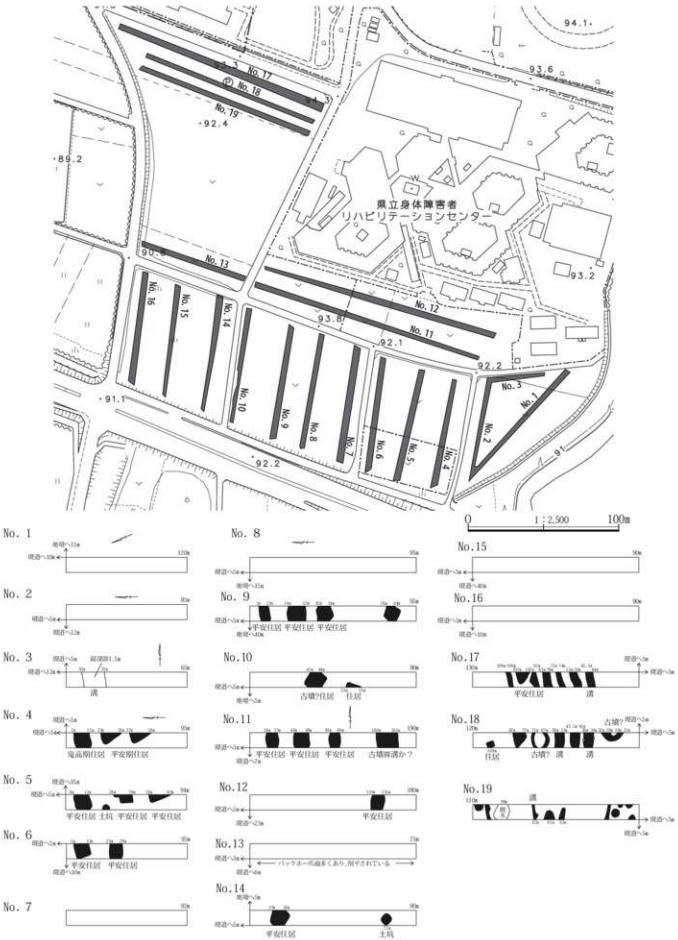
２．試掘調査

上述のように、平成11年度に障害政策課は、リハビリセンター再編整備事業を起こし、その一環として当該事業予定地内埋蔵文化財の有無を群馬県教育委員会文化財保護課(以下「保護課」)に問い合わせた。これに対し保護課は、当該事業地が、周辺に遺跡が分布していることから、事業地の埋蔵文化財包蔵の有無を確認するため、平成11(1999)年８月３・４・11日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、事業予定地の７区画の土地に対して、合せて19本の試掘トレンチを設定し、バックホーを用いてこれを掘削し、遺構の有無を確認する方法で実施した。トレンチの掘削深度は地表下30～50㎝程を測った。

その結果、№４～６・９～12・14・17トレンチで古墳時代以降の竪穴住居、№５・14トレンチで土坑、№11・18トレンチで古墳の周溝と見られる溝、№17～19トレンチで溝の遺存を確認した。また、№13トレンチは削平されて遺構は確認できず、№１～３・７・８・15・16トレンチでは、遺構は確認されなかった。

以上の所見により、保護課は障害政策課に対し、「古墳～平安時代の竪穴建物跡・溝跡・土坑跡等を発見し」、工事に先立ち「埋蔵文化財の発掘調査・記録保存措置が必要となる旨」の通知を行っている。



第３図　今宮遺跡試掘トレンチ位置図並びに確認遺構

「この地図の作成にあたっては、伊勢崎市長の承認を得て、同市発行の2,500分の１伊勢崎市現況図を複製したものである」

３．発掘調査に至る経過

平成25年度に至り、施設新築事業が具体化した。この時点で本遺跡は、古墳・奈良・平安時代と近代の遺跡であるとして、伊勢崎市の遺跡台帳に、今宮遺跡（ＩＳ002）として登録されていた。

平成25(2013)年５月16日に、群馬県健康福祉部健康福祉課(以下「健康福祉課」)からリハビリセンター建設工事(新規取得地部分)に係わる埋蔵文化財の取り扱いについて事業照会があり、同月17日に保護課より改めて発掘調査が必要であることが回答された。また、同年10月７日に障害政策課よりリハビリセンター建設工事に係わる現存施設部分の埋蔵文化財取り扱いについて事業照会があり、同月15日に保護課は、工事立会が必要である旨を回答している。

平成26年７月25日、障害政策課よりリハビリセンター建設工事及びその他開発行為に関して、新規取得地部分の埋蔵文化財の取り扱いについて事業照会が行われ、保護課より、同月29日に、新規取得地のＬ型箇所及び水道敷設部分は工事立会が必要であり、他の開発行為に対しては、発掘調査が必要であると回答を行った。

その後、平成26年７月31日、障害政策課より保護課に対し、本遺跡に対する発掘調査の依頼があり、保護課は調査主体として公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(以下「事業団」とする)を選定し、同年８月４日、事業団に対して実施計画案等の提出を指示した。事業団は同月８日に保護課にこれらを提出したが、同月20日、障害政策課より事業団へ調査委託の依頼があり、同月25日に協議を行った後、同26日に障害政策課と事業団による調査委託契約が締結され、事業団による発掘調査が行われることが決したのである。

〔参考文献〕
伊勢崎市教育委員会文化財保護課(2012)『伊勢崎市遺跡分布地図―市内遺跡詳細分布調査報告書―』

第２節　発掘調査の経過

１．本調査の経過

事業団による発掘調査は、平成26(2014)年10月から12月にかけて実施した。

古墳時代以降の遺構の調査を10月から12月にかけて実施し、途中11月からは、下位面にある縄文時代及び旧石器時代の、確認調査あるいは発掘調査を実施した。

以下に調査経過の一部を抜粋、記載する。

【平成26年10月】

１日　調査担当着任。発掘資材搬入。調査区棟除草、伐採作業。文化財保護課津島氏作業開始に伴う指示で来跡。

３日　調査区北西部より表土掘削、遺構確認開始。

６日　台風18号により調査中止。障害者リハビリセンター大澤副所長打合せ、伊勢崎市教育委員会井浦・横沢氏視察のため来跡。

７日　１号古墳周堀掘削。(古墳調査着手)

８日　古墳時代の竪穴住居掘削開始。

14日　台風19号による降雨あるも表土掘削継続。排水作業。

15日　１号溜井調査着手。(溜井調査着手)

16日　調査区東部調査開始。

17日　溝掘削開始。

20日　表土掘削完了。１・２・４号古墳土層断面実測より遺構記録作成開始。

21日　陥穴調査開始。

23日　遺構平面実測開始。

24日　６・７号住居、２号溝調査開始。(竪穴住居調査着手)

28日　２・８号古墳主体部調査着手。陥穴・土坑・ピット掘削開始。

【11月】

４日　障害者リハビリセンター小菅所長打合せのため来跡。遺物、デジタル写真基礎整理開始。

５日　障害政策課金井氏視察等のため来跡。

６日　空中写真撮影。旧石器調査(トレンチ掘削)開始。

17日　旧石器実測、写真撮影開始。

18日　縄文土器出土地点調査開始(J16グリッド付近)。
19日　２号溜井工具痕撮影等により溜井調査終了。旧石器トレンチ(L25グリッド)拡張作業開始。
21日　１号古墳主体部実測。
22日　縄文時代の竪穴住居(14号住居)遺構確認。
25日　西側道路部分と道路拡幅部の調査範囲設定。
27日　西側道路部分調査・記録・埋戻し終了、遺構出土遺物無し。
28日　調査区西部(サツマイモ畑跡)表土掘削、遺構確認、掘削、遺構記録開始。
【12月】
１日　サツマイモ畑跡、旧石器調査、縄文時代土坑掘削開始。
４日　旧石器トレンチ掘削と併行して埋戻し開始。
５日　サツマイモ畑跡、旧石器礫取上げ。
16日　古墳時代以降竪穴住居調査終了。
18日　８号古墳写真撮影により古墳調査終了。埋戻し開始。
19日　縄文時代遺構確認終了。
22日　旧石器調査、縄文時代竪穴住居調査、基礎整理終了。
24日　34号土坑の写真撮影、遺物取上げにより調査終了。埋戻し作業終了。
25日　撤収作業開始。
26日　現地調査終了。

２．立会調査

平成26年７月29日の保護課からの障害政策課に対する回答に基づき、平成27年９月16日、保護課による水道敷設部分への工事立会が実施された。立会部分の掘削は前日の９月15日に行われており、立会は９月16日の１日で完了している。立会調査では旧石器１点を得ている。

第３節　発掘調査の方法

１．調査区の設定

本遺跡の調査区は、構造物建設予定区域のみを調査対象としており、その対象区域は大小５区画よりなる。しかしながら、これらの区画に区呼称を付すことはせず、調査区全体を１区として扱った。なお、第２節に記した西側道路部分は、西端部の区画に当たる。

２．簡易グリッドの設定

本遺跡においては、５ｍ方眼で平面直角座標世界測地系第Ⅸ系X=10110m、Y=-57570mを基点として、簡易グリッドを設定した。グリッドの呼称は、南北方向には基点をＡとして北に向かって５ｍ毎にＡ～Ｚと記号を付し、東西方向には基点を１として、西に向かって５ｍ毎に１～63と番号を附した。また、グリッド番号は、方眼の南東隅の交点の記号、南北記号・東西番号の順に、Ａ１、Ｚ45のように表記する。

なお、遺構図内の国家座標位置の表記は、Ｘ、Ｙ座標の下３桁をＸ座標－Ｙ座標で示す。

３．発掘調査の方法

表土は土木機械(バックホー)を用いて掘削、除去し、その後、人力にて遺構確認面を精査して、古墳時代以降の遺構確認を行い、遺構掘削を行った。また、縄文、旧石器時代の遺構・遺物の確認は、トレンチあるいはグリッドの設定、掘削により行い、遺構確認された箇所については、確認部分を拡張して調査する、いわゆるトレンチ拡張法により、遺構あるいは遺構包含層の掘削を行った。

全ての遺構は適宜下記の記録を取りながら、遺構掘削を行い、また、遺物包含層と併せて遺物を取り取り上げた。

４．発掘調査の記録

本調査に伴い、図面・写真及び調査所見を記録した。

図面は各遺構の平面図と断面図を作成した。平面図は電子平板によるデジタル測量を委託し、個別遺構は1/10～1/40の個別平面図の紙出力を作成した。断面図も同様に平面図に対応する縮尺で測量委託し、土層記録を調査担当者が注記した。なお、断面実測図は、デジタルトレースを委託して、デジタル化した。

土層の色調は個人差の補正を目途として、土色帳（凡例９）を極力使用した。

遺構の記録写真は航空写真を除き、35mm版デジタルカメラとモノクロフィルムを用いて撮影した。デジタル写真はRAWデータで記録した。モノクロフィルムは120タイプを利用し、６×７サイズで記録した。

出土遺物は、一部出土状態を図化、記録し、全ての出土遺物について出土位置、取り上げ日等を記した札等を付して取り上げた。

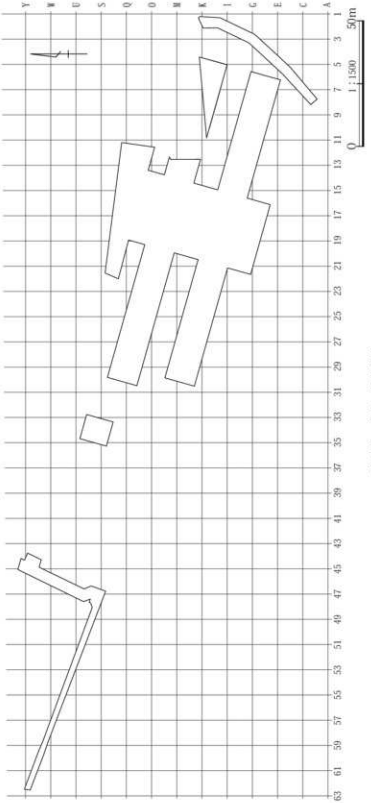
第４節　基本土層

本遺跡では谷地形が形成される調査区西端部を除いて、その層位、層厚は近似している。

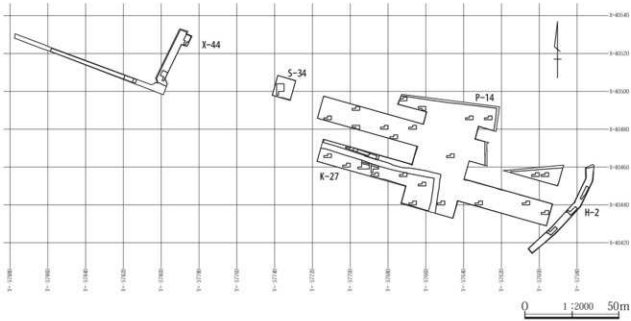
その基本土層は、およそ以下のようになる。

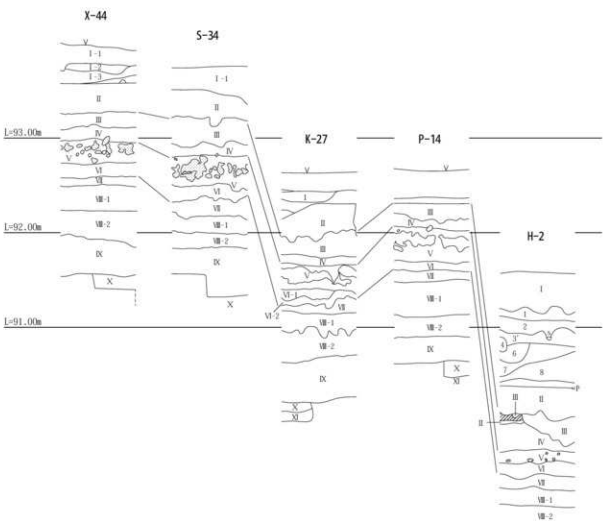
Ⅰ　表土（現耕作土）
Ⅱ　ローム漸移層
Ⅲ　ソフトローム層
Ⅳ　ハードローム層
Ⅴ　浅間板鼻褐色軽石層群(As-BP層群、約2.3-2.7万年前)
Ⅵ　明黄褐色土
Ⅶ　黄褐色土(姶良丹沢火山灰（ＡＴ、約３万年前)
Ⅷ-１　暗色帯
Ⅷ-２　暗色帯
Ⅸ　黄褐色硬質粘性土
Ⅹ　榛名八崎軽石層(Hr-HP、約５万年前)
Ⅺ　青灰白色粘土層

本遺跡の基盤層は、第２章第１節に記すように、赤城火山の新期成層火山形成期に形成された扇状地形成層であり、その上に上述のように火山テフラが積り、ローム層が形成される。その上に更新世の土壌が堆積したものと思慮される。しかし堆積土は、後世の耕作等で削平され、ローム漸移層以下の土壌が自然堆積層として残されているに過ぎない。



第４図　グリッド設定図

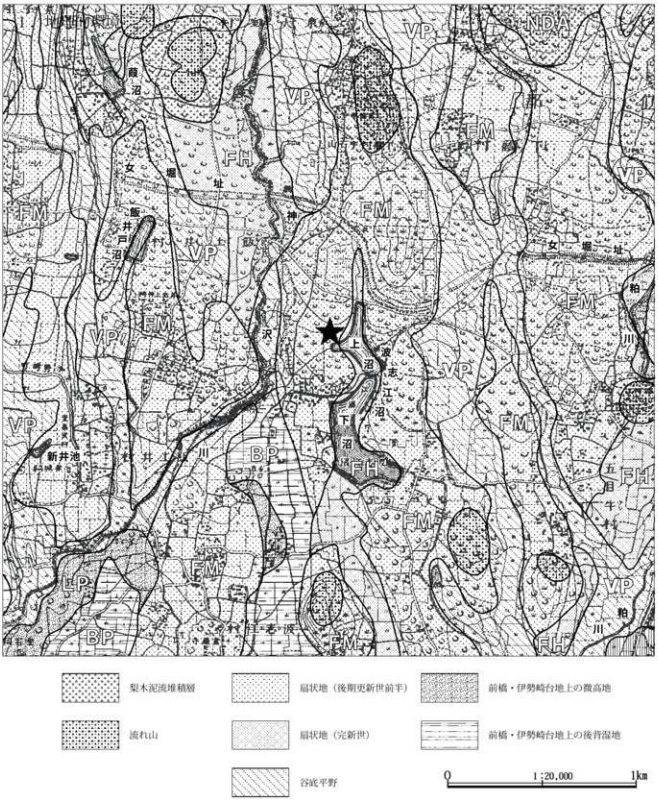

X-44
S-34
P-14
K-27
H-2
0
1:2000
50m


X-44
S-34
K-27
P-14
H-2
L=93.00m
L=92.00m
L=91.00m

第５図　基本土層

第２章　今宮遺跡を廻る環境

第１節　地理的・地形的環境



第６図　今宮遺跡周辺地形・地質図(陸軍迅速図「伊勢崎」「大胡」に群馬県史通史編１付図２（1990）を加味して加筆)

本遺跡は群馬県中南部、同県伊勢崎市波志江町に位置する。遺跡地は、群馬県庁(前橋市)の東南東方12km、伊勢崎市役所の北方5.8kmに在り、前橋市と伊勢崎市との市境が北西方向に近い位置にある。

本遺跡は、関東平野の西北部の北端に接する赤城山の南麓端部にある。地形は南側に緩傾斜するが、その勾配率はおよそ0.9%と平坦に近い。後述のように、遺跡地付近は幾重にも重なる扇状地形が広がるが、これをほぼ南方向に流下する中小河川が開析し、微高地部と低地部が交互に連なる地形が形成されている。この中で本遺跡の西側に神沢川、東側に利根川支流の粕川や、粕川水系に属する桂川、西桂川が、南あるいは南西方向に流下して、扇状地形を開削する。本遺跡は、これらの小河川によって形成された谷地形に挟まれた微高地上に立地しているのである。

本遺跡周辺は農村地帯で、田畑が広がり、近世以来の集落が点在するが、本遺跡の北側に群馬県立障害者リハビリテーションセンター、北西0.5km付近に城南工場団地が営まれ、周辺の国道、県道沿いには店舗の出店や研究施設等の設置も見られる。

また、本遺跡周辺は主要道路の通過地点であり、本遺跡の南に隣接するように、埼玉県深谷市と群馬県前橋市田口町をつなぐ、一般国道17号の広域バイパスである「上武道路」が東南東―西北西方向に走り、本遺跡の南2.4kmには本県の高崎市と茨城県ひたちなか市をつなぐ高速自動車道「北関東自動車道」が略東西方向に走向して、同高速道路に付属する波志江パーキングやスマートインターチェンジが設置されている。そして、本遺跡の北側1.3kmには群馬県前橋市と茨城県水戸市をつなぐ一般国道50号が、ほぼ東西方向に走向している。

２．地形的環境

本遺跡の北方にそびえる赤城山は、今から約40～50万年前に、足尾山地の南西部と関東平野の接する付近に造山した、更新世の成層火山である。赤城火山の形成は、古期成層火山形成期(40、50 ～ 13万年前)、新期成層火山形成期(13～4.5万年前)、本遺跡の約20km地点にある中央火口丘の形成期(4.5～2.5万年前)の３時期に分けられているが、第６図に図示した範囲では、古期成層火山形成期の時期の約20～30万年前に赤城火山の山体崩壊による岩屑なだれである梨木泥流(NDA)と流れ山、新期成層火山形成期以降に形成された荒砥川扇状地や粕川扇状地(FM・FH)、中小河川が開析した谷底低地(VP)が見られる。

本遺跡は、後期更新世の扇状地(FM)上に立地し、その東側を開析地に形成された完新世の扇状地(FH)、西側を利根川支流の荒砥川水系に属する神沢川で開析された谷底平野(VP)に挟まれている。また、第６図左下(南西)には、2.4万年前に形成された浅間火山起源の前橋泥流の微高地(LP)と、これを中小河川が開析した後背湿地(BP)がある。

第２節　歴史的環境

本遺跡付近は扇状地形にある。この扇状地を開析する中小河川によって形成された低地部には、古墳時代以降の水田等の生産址の分布が見られ、それ以外の微高地部には旧石器時代の包蔵地や、縄文時代以降の時代の集落、古墳群、城館址等の遺跡、道構の分布が見られた。

１．旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、第７図に示した範囲でも散見されるが、本遺跡北側に近接する牛伏遺跡(35、下触牛伏遺跡)では環状ユニットが確認されている。この他前橋市0326遺跡(14、飯土井中央遺跡)、中宿遺跡(61)からAs-BP前後の時期の石器が、石山遺跡(49)からAs-YP上位層で多量の石槍が出土している。

２．縄文時代

縄文時代の遺跡は微高地部に広く分布しており、第７図に示した範囲でも早期から後期にかけての集落が分布している。このうち、早期の集落や出土物が、中屋敷址(32)、前橋0817遺跡(33)で撚糸文系土器を伴う集落が確認され、中屋敷址(32)で押型文土器が出土している。前期の遺構遺物は、前橋市0327遺跡で三戸式土器、条痕文土器、(16、飯土井二本松遺跡)、五目牛南組遺跡(100)・五目牛清水田遺跡(102)で花積下層期の集落、前橋市0318遺跡(４)、前橋市0327・0367遺跡(16・17、荒砥二之堰遺跡)で諸磯ｂ式期の集落が確認されている。

また、中期、加曽利Ｅ式の埋甕が前橋0327遺跡(16、

第７図　今宮遺跡周辺の遺跡分布図(陸軍迅速図「伊勢崎」「大胡」に加筆)

飯土井上組遺跡)で出土した他、柳田遺跡(88、今井柳田遺跡)では同時期の集落が、また、中期から後期にかけての敷石住居が、前橋市0327・0367遺跡(16・17、荒砥二之堰遺跡)で中期の加曽利Ｅ式や後期の称名寺式、堀之内式の柄鏡形住居、柳田遺跡(88、今井柳田遺跡)では後期の称名寺式・堀之内式のものが確認されている。

３．弥生時代

また、第７図の範囲での弥生時代の遺跡の分布は少ない。記すべき調査事例としては、弥生時代中期後葉の集落が前橋市0370遺跡(22)、また、後期の再葬墓が五目牛南組遺跡(100)で調査されているに過ぎない。

４．古墳時代

古墳時代に入ると、遺跡数は一気に増加する。

古墳は、周辺地域では、小型のものが多く、中期末から７世紀の群集墳が今宮遺跡(１)、前橋市0367遺跡(17、

表１　周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	時期								種別						備考
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	散布地	集落	古墳	生産	城館	その他	
1	今宮遺跡	○	○		○	○	○				○	○	○	○			本遺跡
2	前橋市0271遺跡				○	○	○					○					荒砥荒子遺跡
3	前橋市0804遺跡				○										○		荒砥荒子遺跡、豪族居館
4	前橋市0318遺跡		○			○	○					○					荒砥上ノ坊遺跡
5	前橋市0320遺跡		○		○	○	○	○	○			○					元屋敷遺跡
6	前橋市0264遺跡				○								○				西大室丸山遺跡
7	前橋市0317遺跡				○								○				天神１・２号墳他
8	前橋市0316遺跡				○	○	○					○					天神遺跡
9	前橋市0390遺跡							○						○		○	女堀跡
10	前橋市0328遺跡					○	○		○	○	○	○		○		○	二之宮宮東遺跡
11	あづま遺							○								○	
12	前橋市0323遺跡							○	○			○			○		二之宮環濠遺跡群
13	前橋市0324遺跡				○	○	○							○			宮東遺跡
14	前橋市0325遺跡	○			○	○						○		○			飯土井上組遺跡
15	前橋市0326遺跡	○	○		○	○	○	○	○		○	○					飯土井中央・神明前・中並木遺跡
16	前橋市0327遺跡	○	○		○	○	○		○			○				○	荒砥二之堰・二之堰Ａ，Ｂ・飯土井二本松遺跡
17	前橋市0367遺跡		○		○								○				二之堰古墳群、荒砥二之堰・二之堰Ｃ遺跡
18	前橋市0369遺跡							○							○		赤石城
19	前橋市0366遺跡		○		○	○	○				○	○					二之堰遺跡
20	前橋市0937遺跡										○						
21	前橋市0372遺跡				○		○		○					○			新井大田堰遺跡
22	前橋市0370遺跡		○	○	○	○	○	○	○			○		○			新井大田堰・萩原遺跡
23	愛宕遺跡		○		○	○	○				○						
24	西屋敷遺跡			○	○	○	○				○	○					波志江西屋敷遺跡
25	中野面遺跡		○		○	○	○	○	○		○	○		○		○	波志江中野面遺跡
26	下波志江遺跡				○	○	○				○						
27	神沢川南遺跡		○		○	○	○		○		○	○	○				
28	四屋敷遺跡	○			○	○	○	○	○		○	○					波志江四屋敷遺跡
29	四屋敷址							○	○			○			○		波志江四屋敷遺跡
30	大蔵遺跡				○	○	○				○						
31	中屋敷西遺跡		○	○	○	○	○	○			○	○		○		○	波志江中屋敷西遺跡
32	中屋敷址		○					○	○			○			○		波志江中屋敷遺跡
33	前橋市0817遺跡	○	○		○	○	○					○					吾妻遺跡
34	前橋市0818遺跡				○								○				
35	牛伏遺跡	○			○						○		○				下触牛伏遺跡
36	神田遺跡				○	○	○			○	○		○			○	波志江今宮遺跡
37	波志江沼西古墳群				○								○				
38	宮貝戸上遺跡				○	○	○		○		○		○				
39	宮貝戸下遺跡				○	○	○				○	○					
40	稲荷前遺跡				○	○	○				○						
41	田中田遺跡				○	○	○				○						
42	中屋敷東遺跡			○	○	○	○				○			○			波志江中屋敷東遺跡
43	大沼下遺跡				○	○	○				○	○					大沼下遺跡
44	波志江権現山北遺跡				○	○	○				○						
45	花立遺跡				○	○	○				○						
46	西稲荷遺跡				○	○	○				○						
47	稲荷遺跡				○	○	○				○						
48	前橋市3029遺跡				○								○				荒砥231・235墳、大塚・行人塚古墳
49	石山遺跡・石山古墳群	○	○		○							○	○				
50	石山南遺跡・石山南古墳群	○			○							○	○				
51	庚塚遺跡・庚塚古墳群		○		○							○		○		○	
52	かなくそ遺跡											○					
53	女堀用水遺構							○						○		○	
54	片田古墳群		○		○							○		○			下触片田古墳群
55	中堀遺跡				○	○	○						○				
56	上沼東遺跡		○		○	○	○										
57	牛伏古墳群				○								○				
58	女堀南遺跡		○									○				○	
59	大沼上遺跡				○	○	○	○	○			○	○	○		○	
60	六反田遺跡	○			○	○	○		○			○	○		○	○	
61	中宿遺跡	○			○	○	○					○					波志江中宿遺跡
62	西宿遺跡	○			○	○	○					○	○	○			波志江西宿遺跡
63	伊勢山遺跡			○	○				○			○			○	○	
64	伊勢山古墳群				○								○				

No.	遺跡名	時期								種別						備考
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近代	散布地	集落	古墳	生産	城館	その他	
65	下宿遺跡				○	○	○				○		○				
66	鍛冶原遺跡				○	○	○				○						
67	決中塚遺跡				○	○	○				○		○				
68	台所山遺跡				○						○		○				
69	蟹沼東遺跡		○		○	○	○				○		○				
70	蟹沼東古墳群				○								○				
71	五反田遺跡				○	○	○					○	○				
72	八幡林遺跡	○	○		○	○	○				○	○					
73	堀下八幡遺跡・八幡林古墳群	○	○			○	○				○	○	○				赤堀八幡遺跡
74	東原遺跡						○					○		○			
75	五目牛新田遺跡	○	○		○	○	○					○		○			
76	乙中道古墳群				○								○				
77	地蔵山西遺跡				○	○	○				○		○				
78	地蔵山西古墳群				○								○				
79	地蔵山古墳群・地蔵山遺跡・下道遺跡		○		○	○					○		○				
80	本郷北遺跡		○		○	○	○				○						
81	下寺遺跡		○		○	○	○				○	○	○				
82	本郷東遺跡				○	○	○				○						
83	かふれ遺跡		○		○	○	○				○		○				
84	前橋市0274遺跡				○								○				荒砥245・250号墳
85	見切塚遺跡・見切塚古墳群		○		○						○	○	○				今井見切塚遺跡
86	田向井古墳群				○								○				
87	田向遺跡		○		○	○	○				○	○					
88	柳田遺跡		○	○	○	○	○					○					今井柳田・柳田Ⅱ遺跡
89	赤坂北遺跡		○		○	○	○					○					
90	向井遺跡・向井古墳群				○	○	○					○	○				下触向井遺跡
91	赤坂南遺跡		○		○						○	○					今井赤坂南遺跡
92	南原古墳群・南原遺跡	○	○	○	○						○	○	○				今井南原遺跡
93	下今井遺跡		○		○	○	○					○					
94	桂川台戸遺跡		○		○	○	○				○						
95	稲荷度寺跡・川上遺跡			○	○	○	○				○					○	寺院址
96	農果遺跡		○		○	○	○				○	○					
97	北道上師遺跡・北道遺跡		○		○	○	○				○	○					
98	北道西遺跡		○		○	○	○					○					
99	鵜山遺跡・鵜山古墳群		○		○	○	○				○	○	○				
100	浅間山古墳群・五目牛南組遺跡	○	○		○				○	○	○	○	○			○	
101	鵜山遺跡		○		○				○	○	○	○					五目牛鵜山遺跡
102	五目牛清水田遺跡		○		○	○	○				○	○		○			
103	五目牛東遺跡群				○	○	○					○	○				

二之堰古墳群)、前橋市0817遺跡(33)、牛伏古墳群(57)、蟹沼東古墳群(70)、八幡林古墳群(73)、地蔵山西古墳群(78)、地蔵山古墳群(79)、五目牛南組遺跡(100)等多く分布する。後期古墳が今井見切塚遺跡(85)、洞山古墳群(99)、終末期古墳が今井見切塚遺跡(85)というように広く分布し、中期の豪族居館が前橋市0804遺跡(３、荒砥荒子遺跡)で確認されている。

また古墳時代の集落では、前期の集落としては前橋市0318遺跡(４)、前橋0327遺跡(16)中野面遺跡(25)、西宿遺跡(62)、五目牛清水田遺跡(102)があり、中期の集落としては前橋市0318遺跡(４)、前橋市0326遺跡(15、飯土井中央遺跡 他)、前橋0327遺跡(16)、前橋市0370遺跡(22)、柳田遺跡(88)、後期の集落としては、前橋市0271遺跡(２、荒砥荒子遺跡)、前橋市0318遺跡(４)、前橋市0327・0367遺跡(16・17、荒砥二之堰遺跡)、西屋敷遺跡(24)、岡屋敷遺跡(28)、中畑遺跡(55)、柳田遺跡(88、今井柳田遺跡)等があった。

また生産址としては、前期の水田が前橋市0370遺跡(22)、西屋敷遺跡(24)、神沢川南遺跡(27)、中屋敷西遺跡(31)、中期の水田が中屋敷西遺跡(31)、後期の水田には前橋市0370遺跡(22)、西屋敷遺跡(24)があり、中宿遺跡(61)、五目牛清水田遺跡(102)などでは古墳時代から

古代に至る長期にわたる使用痕跡の認められた遺跡もある。

この他、粘土採掘坑には、前期のものが中宿遺跡(61)、後期のものが岡屋敷遺跡(28)で確認され、土器生産の一端が窺われる。

５．奈良・平安時代

律令期に入ると、その領域において、(道一)國一群一評(または里、郷)の４段階の行政区が設定された。本県の大半は東山道の上野(かうづけ)國に属し、第７図に示した区域は、西寄り(左寄り)の神沢川を境に、おおむねその西側(左側、図北端部は東側も含む)が勢多郡、東側が佐位郡に属した。また郡の下の行政区画は明確ではないが、平安時代の和名類聚抄に照らせば、第７図中の勢多郡域は、深田(ふかだ)郷あるいは深渠(ふかぞ)郷に比定する説があるが、いずれの郷に属したかは定説化していない。一方、佐位郡域においては、その南部(下位)に現在も残る波志江地名により反治(ほじ)郷に属していたことが想定されている。

この時期の集落は微高地部に営まれ、前橋市0318遺跡(４)、前橋市0328遺跡(10、二之宮宮東遺跡)、前橋市0370遺跡(22)、西屋敷遺跡(24)、中野面遺跡(25)、中屋敷西遺跡(31)、大沼上遺跡(59)等で確認されているが、このうち奈良時代の集落としては今宮遺跡(１)、前橋0271遺跡(２)、平安時代の集落としては前橋0271遺跡(２)、前橋市0318遺跡(４)、前橋0327遺跡(16)、前橋0817遺跡(33)、六反田遺跡(60)、柳田遺跡(88、今井柳田遺跡)がある。また低地部においては、As-B下水田など当該期の生産址には今宮遺跡(１)、前橋市0328遺跡(10)、前橋市0370遺跡(22)、六反田遺跡(60)があった。

また、当該期の小鍛冶遺構が前橋市0328遺跡(10)で確認され、水路と大型の竪穴状掘削痕が中屋敷西遺跡(31)で確認されている。

６．中・近世以降

天仁元(1108)年の浅間山の噴火被災を契機に中世に入る。この時期の遺跡として特筆されるのは、佐位郡域火山被災復興のために、藤原秀郷流開名氏が計画、施工した(峰岸1985)という通説の他、或いは、在京の源義国が藤原姓足利家綱らに開削させたという説(須藤聡2010)のある、未完の大型用水「女堀」(９・53)がある。

その後、佐位郡域は、治承・寿永の乱(1180-1185)ののち、その領主が秀郷流淵名氏から中原姓淵名氏に代わり、勢多郡域は、前橋市二之宮町の赤城神社の社領となったものと思われる。またこの時期、女堀の南には東山駅路の後継路である「あづま道」(11)が走行した。

室町時代以降、佐位郡では赤堀氏の勢力が伸張し、古河公方と関東管領の内乱となった永享の乱(1455-1483)以降、利根川左岸の当地域は公方方の領域となり、引き続き赤堀氏の勢力は保たれるが、戦国時代に入ると相模の後北条、甲斐の武田、越後の上杉の争奪の場となる。その後、江戸時代に入ると周辺域は、幕領、旗本領、前橋・館林・伊勢崎藩領がモザイク状に配置する、複雑な支配体制となる。

さて、第７図範囲内にも中世城館(図中線にて堀、城域を表示)とされるものが散見される。このうち城郭は、神沢川の流路を抑える、赤石氏が築城した赤石城(18)のみで、多くは、神沢川南遺跡(27)、岡屋敷遺跡(29)、中屋敷遺跡(32)等の環濠屋敷、前橋市0323遺跡(12、二之宮環濠集落)の環濠屋敷群である。しかしその多くは、近世以降の所産と可能性が高く、明らかに中世の所産と判断されるものは、中屋敷西遺跡(31)内に発掘調査された屋敷遺構など僅かである。

また、中世建物や竪穴建物が、前橋市0318遺跡(５)、前橋市0328遺跡(10)、大沼上遺跡(59)で確認され、近世建物は六反田遺跡(60)や、五目牛南組遺跡(100)で確認される。このうち五目牛南組遺跡の建物は博徒国定忠治の妾宅である。

この他、中世土壙墓が中野面遺跡(25)や中屋敷西遺跡(31)、近世墓が前橋0327遺跡(16)、伊勢山遺跡(63)、近世井戸が前橋市0328遺跡(10)、中野面遺跡(25)、近世・近代畑が前橋市0328遺跡(10)で調査された。

〔参考文献〕
赤堀村教育委員会(1978)『赤堀村　地蔵山の古墳１』
赤堀村教育委員会(1979)『赤堀村地蔵山の古墳２』
赤堀村教育委員会(1980)『五目牛東遺跡群及び赤堀村８号墳発掘調査概報』
赤堀村教育委員会(1980)『五目牛洞山遺跡発掘調査概報』
赤堀村教育委員会(1980)『町内遺跡発掘概報』
赤堀村教育委員会(1982)『今井柳田遺跡発掘調査概報』

赤堀村教育委員会(1983)『鍋山古墳群及び北通鷹巣遺跡発掘調査概報』
赤堀村教育委員会(1986)『中畑遺跡』
赤堀町教育委員会(1987)『下触下寺遺跡及び磯一二所遺跡発掘調査概報』
赤堀町教育委員会(1990)『今井赤坂南遺跡発掘調査概報』
赤堀町教育委員会(1994)『平成６年度　発掘調査概報』
伊勢崎市教育委員会(1977)『大沼下・西福岡遺跡』
伊勢崎市教育委員会(1978)『荒砥前原遺跡　荒砥城跡第一分冊』
伊勢崎市教育委員会(1978)『蟹沼古墳群　宮貝戸下遺跡』
伊勢崎市教育委員会(1980)『宮貝戸古墳群　蟹沼東古墳群』
伊勢崎市教育委員会(2002)『神沢川南遺跡Ⅱ　岡屋敷遺跡Ⅲ　西屋敷遺跡Ⅱ　中野面遺跡Ⅱ』
伊勢崎市教育委員会(2005)『五目牛新田遺跡　五目牛南組Ⅱ遺跡　五目牛清水田Ⅱ遺跡　柳田Ⅱ遺跡』
伊勢崎市教育委員会(2006)『平成17年度　市内遺跡確認調査報告書』
伊勢崎市教育委員会(2007)『大沼上遺跡Ⅱ』
伊勢崎市教育委員会(2012)『岡屋敷遺跡　第4次調査』
群馬県教育委員会(1997)『西大室丸山遺跡』
群馬県教育委員会(2002)『山王遺跡　大道遺跡　阿弥陀井戸道上遺跡　天神遺跡　元屋敷遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1976)『二之宮遺跡群緊急発掘調査概報』
群馬県『群馬県史通史編１　原始古代１』(1990)
群馬県『群馬県内主要地域の地形分類図』(1990)『群馬県史通史編１　原始古代１』、付図２
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1982)『(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団年報1』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1985)『荒砥二之堀遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1990)『堀下八幡遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1991)『飯上井二本松遺跡　下江田前遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1991)『飯上井中央遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1992)『書上本山遺跡　波志江六反田遺跡　波志江天神山遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1992)『五目牛南組遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1993)『五目牛清水田遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1994)『二之宮宮下東遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1994)『二之宮宮東遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1995)『荒砥上ノ坊遺跡Ⅰ』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1995)『飯上井上組遺跡　波志江中峰浮遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1995)『波志江今宮遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1995)『荒砥前原遺跡　赤石城址』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1995)『荒砥上ノ坊遺跡Ⅰ』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1996)『荒砥上ノ坊遺跡Ⅱ』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1997)『荒砥上ノ坊遺跡Ⅲ』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1998)『荒砥上ノ坊遺跡Ⅳ』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1998)『(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団年報17』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1999)『(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団年報18』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2000)『(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団年報19』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2000)『荒砥荒子遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2001)『波志江中野面遺跡(１)－古墳時代以降編』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2001)『波志江中宿遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2002)『波志江西宿遺跡Ⅰ(古墳時代・中近世編)　伊勢山遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2003)『波志江西屋敷遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2004)『萩原遺跡』『新井大田関遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2004)『舞台遺跡(２)　古墳時代編』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2004)『多田山古墳群　今井三騎堂遺跡　今井見切塚遺跡　古墳時代編』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2004)『波志江中屋敷遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2005)『岡屋敷遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2006)『今井三騎堂遺跡　今井見切塚遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2007)『中屋敷東遺跡　田中田遺跡　大沼下遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2007)『波志江中屋敷西遺跡』
県立しろがね学園遺跡調査会(1998)『吾妻遺跡』
須藤聡『新田郡成立試論―女堀・新田堀との関わりを中心に―』(2010)『群馬県大間々扇状地の地域と景観―自然・考古・歴史・地理―』、大間々扇状地研究会、pp87-86
前橋市教育委員会(1980)『富田遺跡群　西大室遺跡群　清里南部遺跡群』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団(1994)『中並木遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団(1998)『新井大田関Ⅱ遺跡　萩原Ⅲ遺跡』
峰岸純夫『女堀開削の背景』(1985)『女堀』、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団、pp101-110

第３章　発見された遺構と遺物

第１節　古墳時代以降の遺構と遺物

１．１面の遺構(第８・９図、PL.１・２)

本遺跡においては、第１面において古墳時代から近世に至る時期の、竪穴住居12軒、竪穴状遺構１基、掘立柱建物２棟、古墳９基、溝７条、溜井２基、土坑17基、ピット113基を確認、調査した。

このうち竪穴住居は、古墳時代後期から平安時代の所産と判断されるもので、６世紀所産のものが５軒(うち前半１軒、後半２軒)、７世紀前半が２軒、８世紀後半１軒、時期不特定のもの４軒であった。

竪穴状遺構は１基で、18世紀後葉頃の所産と見られるものであった。

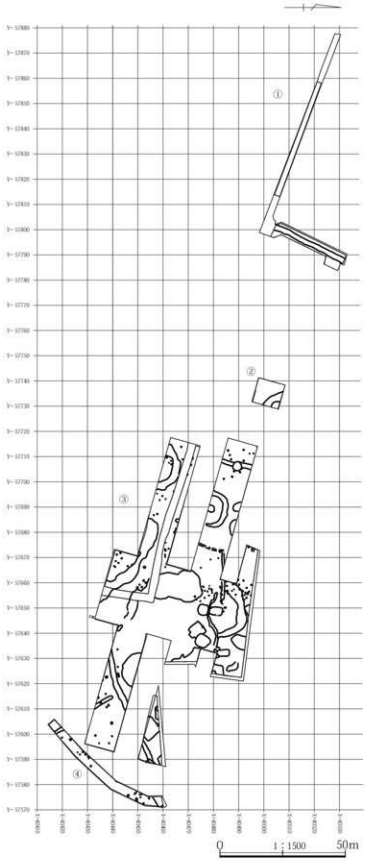
掘立柱建物は２棟共に古代の所産の可能性を有するものであった。しかし、２号掘立柱建物は遺構外所在ピットを取り込むことで、２棟への分離が可能で、この場合１棟は古代、１棟は中世の所産と想定される。

古墳は群集墳である波志江沼西古墳群の一角を占める。これらのうち２基は６世紀後半、２基が７世紀前半と想定されたものの、他の５基の時期は不特定である。

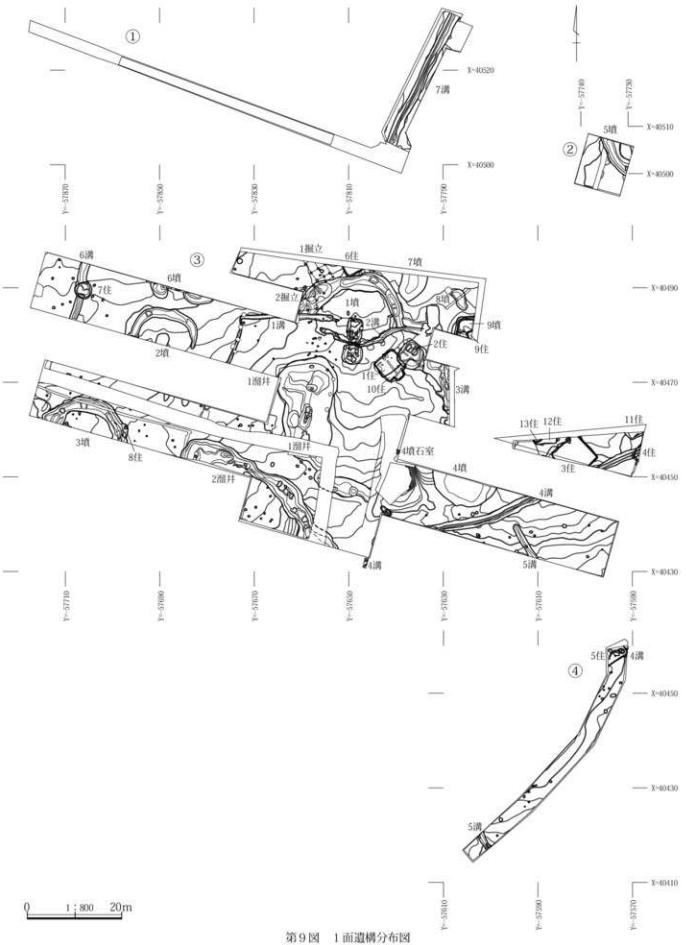
溝は古墳時代以降の所産であるものの、いずれも時期は特定できなかった。なお、４号溝が中世、６号溝は近世所産の可能性を有する。

溜井２基は、共に溝を伴うもので、近世の所産のものであった。

土坑、ピットのうち３号土坑のみが７世紀前半の所産として把握されたものの、他の土坑は古墳時代以降の所産とできるだけで、時期を特定することはできなかった。



第８図　遺跡全体図(１面)


①
②
③
④
7溝
5墳
6墳
7墳
1掘立
6住
2掘立
1墳
1溝
2墳
9墳
2住
9住
1住
10住
3溝
1溝井
3墳
8住
2溝井
4墳石室
4墳
4溝
5溝
13住
12住
11住
3住
4住
5住
X=40520
X=40510
X=40500
X=40490
X=40470
X=40450
X=40430
X=40410
Y=-57740
Y=-57730
Y=-57820
Y=-57810
Y=-57800
Y=-57790
Y=-57780
Y=-57770
Y=-57760
Y=-57750
Y=-57740
Y=-57730
Y=-57720
0
1:800
20m

第９図　１面遺構分布図

２．竪穴住居と竪穴状遺構

①　**１号住居**(第10・11図、PL．３・19)

概要　本住居は、10号住居の覆土中上位に造られた竈付の竪穴住居である。

後述のように、２号住居とも重複して南東隅部分が失われ、西壁中北部は攪乱により失われた箇所があった。

位置　本住居は調査区中北部に在り、M14～N15グリッドに位置する。

重複　本住居は２・10号住居と重複し、２・10号住居より新しい。

規模　長軸：5.26m　短軸：4.06m　深さ：0.14m

竈　幅：0.52m　奥行き：0.77m

左袖　幅：0.25m　長さ：(0.48)m　高さ：－m

右袖　幅：0.3m　長さ：0.49m　高さ：0.09m

燃焼部　幅：035m　奥行：0.58m　深さ：0.16m

周溝　幅：0.1～0.31m　深さ：0.1m以下

埋没状況　にぶい黄褐色土等で埋没する。いわゆる三角堆積等を確認することはできなかった。

構造　〔**竪穴**〕　竪穴は横長台形プランを呈し、主軸方向はN52°Eを向く。

〔**掘り方**〕　本住居は10号住居の覆土中に作られ、掘り方は明確に識別できなかった。ロームブロックを含む黒褐色土等で埋め戻して、床面を造っている。

〔**竈**〕　竈は北東壁東寄りに設けられ、その方位はN30°Wを向く。径0.52×0.72m、深さ0.01mの略楕円形プランを呈する浅い掘り込みを伴う掘り方を有する。

左右に袖が残るが、天井部の構造も含め形成する土壌等の記録を残すことはできなかった。

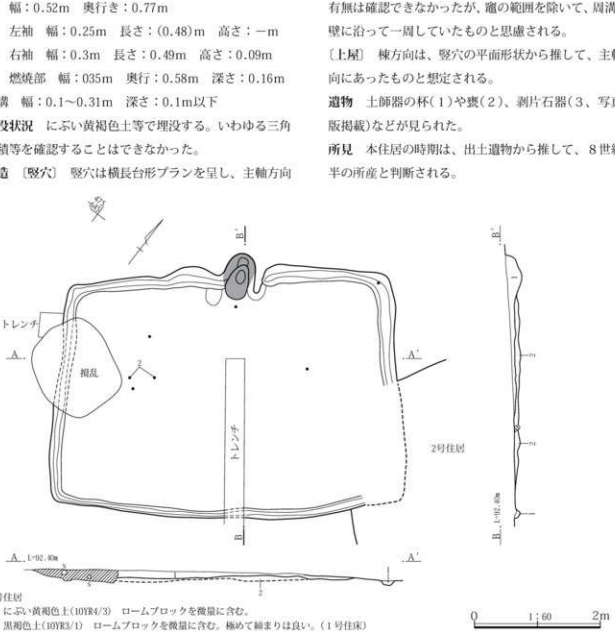
〔**柱穴・貯蔵穴**〕　柱穴、貯蔵穴を確認することはできなかった。

〔**周溝**〕　壊された南東隅付近と西壁中部付近では、その有無は確認できなかったが、竈の範囲を除いて、周溝が、壁に沿って一周していたものと思慮される。

〔**上屋**〕　棟方向は、竪穴の平面形状から推して、主軸方向にあったものと想定される。

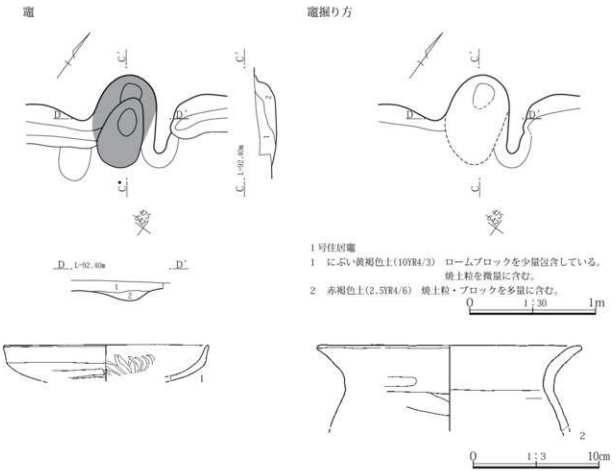
遺物　土師器の杯(１)や甕(２)、剥片石器(３、写真図版掲載)などが見られた。

所見　本住居の時期は、出土遺物から推して、８世紀後半の所産と判断される。



１号住居
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックを微量に含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックを微量に含む。極めて締まりは良い。(１号住床)

第10図　１号住居



第11図　１号住居竈と出土遺物

②　**２号住居**(第12図、PL．３・19)

概要　本住居は竪穴住居として調査された遺構であるが、後述のようにやや崩れた形状を呈するため、住居として使用された確証は得られない。

また、覆土から推して、As-B降下段階(天仁元年、1108)では、クレーター状に遺存していたものと判断される。

位置　本住居は調査区中北部にあり、M13～N14グリッドに位置する。

重複　本住居は西壁寄りで10号住居と重複し、本住居の方が新しい。

規模　長軸：6.12m　短軸：5.61m　深さ：0.75m

埋没状況　中下位はロームを含む暗褐色土等で埋没し、上位はAs-Bを多く含む黒褐色・褐灰色土で埋没する。いわゆる三角堆積は北西辺のみで確認され、暗褐色土を含む褐色土(８)である。

構造　〔**竪穴**〕　竪穴は不整方形様のプランを呈し、主軸方向はＮ57°Ｗを向く。

〔**掘り方**〕　本住居は中北部が0.68m程高くなるように掘り残された掘り方を有し、これをロームブロック等で埋め戻して、床面を造る。

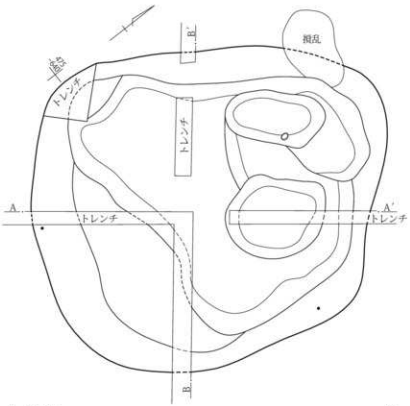
〔**床面**〕　床面は全体に凹凸が見られるが、北隅付近に深さ0.16m以下を測る、比較的大型の土坑状の掘り込みが４基見られる。また南隅近くは中・北側に対して0.1m程低くなっている。

〔**竈・柱穴・貯蔵穴**〕　上述のように北隅付近に浅い土坑状の掘り込みが確認されたものの、竈、柱穴、貯蔵穴等の構造物は確認できなかった。

〔**上屋**〕　本遺構が竪穴住居であるとするならば、その棟方向は、竪穴の平面形状から推して、主軸方向、すなわち西北西－東南東方向にあったものと想定される。

遺物　土師器の杯(１)などが見られた。

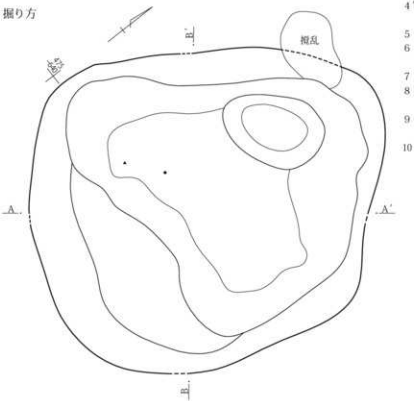
所見　本住居の時期は、出土遺物から推して、６世紀後半の所産と判断される。

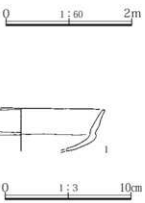


２号住居

1　黒褐色砂質土(10YR3/1)　As-Bを多量に含む。
2　褐灰色砂質土(7.5YR4/1)　As-Bブロックを多量に含む。
3　黒色土(10YR2/1)　ロームブロック・As-Cを微量に含む。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックを少量含む。
4'　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックを少量含む。
　　４層よりもやや暗い。
5　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックを微量に含む。
6　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックを微量に含む。
　　５層よりもやや暗い。
7　褐色土(10YR4/4)　暗褐色土ブロックの溶混を少量含む。
8　褐色土(10YR4/4)　締まりは７層よりもやや弱い。
　　７層よりもわずかに暗い。
9　褐色土(10YR4/6)　ほぼ地山に近いが、地山よりも締まりは弱い。
10　褐色土(10YR5/6)　ロームの二次堆積層中にロームブロックが混入する粘性上。
　　黒色土ブロックを微量に含む。

掘り方





第12図　２号住居と出土遺物

③　**３号住居**(第13～16図、PL.３・４・19)

概要　本住居は竈付の竪穴住居である。

住居北隅部と南部は調査区外に出るため、調査することができなかった。

位置　本住居は調査区北東部にあり、Ｉ６～Ｊ８グリッドに位置する。

重複　本住居は単独であり、他遺構との重複は見られなかった。

規模　長軸：7.25m　短軸：7.1m　深さ：0.51m

竈　幅：1.44m　奥行き：1.44m

左袖　幅：0.84m　長さ：0.81m　高さ：0.18m

右袖　幅：1.04m　長さ：1.39m　高さ：0.18m

燃焼部　幅：0.64m　奥行：2.41m　深さ：0.1m

柱穴１　径：0.59×0.54m　深さ：0.37m

柱穴２　径：0.63×0.52m　深さ：0.63m

柱穴３　径：0.75×0.73m　深さ：0.55m

貯蔵穴　径：0.87×0.83m　深さ：0.86m

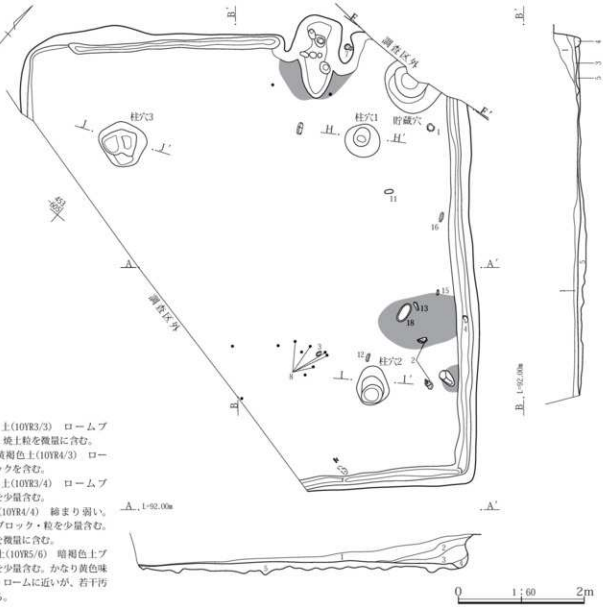
床下土坑　径：1.25×1.0m　深さ：0.88m

周溝　幅：0.11 ～ 0.26m　深さ：0.16m以下

埋没状況　暗褐色土等で埋没する。いわゆる三角堆積はいずれもロームを含むにぶい黄褐色土(２層)あるいは暗褐色土(３層)であった。

構造　〔竪穴〕　竪穴は隅丸方形のプランを呈し、主軸方向はＮ43°Ｗを向く。

〔**掘り方**〕　本住居は、南東半部が北西半部に対して0.08m以下低く掘削された掘り方を有する。掘り方は南



３号住居
1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロック・焼土粒を微量に含む。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックを含む。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックを少量含む。
4　褐色土(10YR4/4)　締まり弱い。ロームブロック・粒を少量含む。焼土粒を微量に含む。
5　黄褐色土(10YR5/6)　暗褐色土ブロックを少量含む。かなり黄色味が強く、ロームに近いが、若干汚れている。

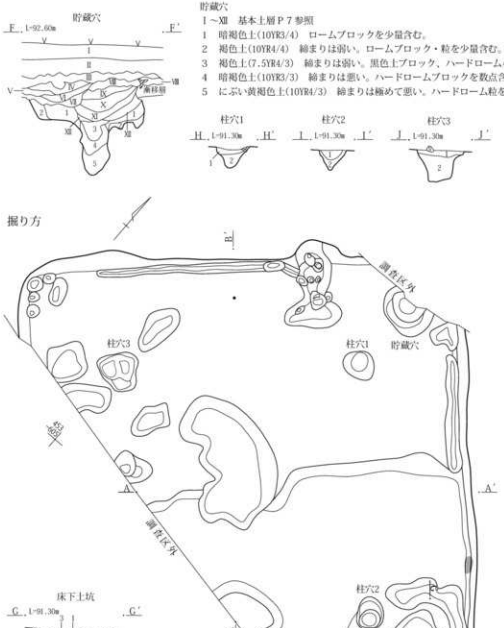
第13図　３号住居(１)

西半部を中心に土坑状の浅い掘り込みが見られたが、住居東側隅部に床下土坑が掘削されていた。この床下土坑は、0.23m以下隔てて、幅0.4m以下、深さ0.1m以下を測る溝が北東・南西側を巡り、0.41～0.66m隔てて、高さ0.06m以下の段差が、西側を弧状に廻る。この段差の北端には、径0.52×0.43m、深さ0.49mを測る、楕円形プランで、最深部が南寄りにあるピットが掘削されている。

床面は、この掘り方を、暗褐色土を含む黄褐色土で埋め戻して造る。

〔竈〕　竈は北西壁やや東寄りに設けられ、その方位はＮ40°Ｗを向く。

壁側に垂直方向に主軸を取る、径1.23×1.1m、深さ0.07m、その南側に壁面と平行に主軸を取る、径1.82×0.99m、深さ0.08mを測る土坑状の掘削を伴う掘り方を有し、これを焼土、炭、ローム等を含む明赤褐色・鈍い



第14図　３号住居（２）と掘り方

赤褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。

燃焼部の左右両側には焼土粒やロームを含むにぶい黄褐色土等で袖が造られるが、天井部の構造は確認できなかった。

〔**柱穴**〕　柱穴は調査区外にある南隅部を除いて、竪穴隅部の対角線上、東・北・西各隅から２ｍ付近に確認された。このうち北側のものを柱穴１、西側のものを柱穴２、南側のものを柱穴３とする。

柱間は、柱穴１・２間は4.09m、柱穴１・３間は3.96mを測る。

〔**貯蔵穴**〕　貯蔵穴は北側隅部手前に掘削される。全容は確認されなかったが、プランは隅丸長方形を呈するものとみられる。また掘削形態は床面から0.3m程掘削し、その中央部に径0.55m、深さ0.8m程の形プランの柱穴状の掘り込みを有する、二重構造のものである。

〔**周溝**〕　調査区外にある北側隅付近と南部を除く調査では、北東壁から南東壁、北西壁に沿って、周溝が確認された。

〔**上屋**〕　棟方向は、特定できなかった。

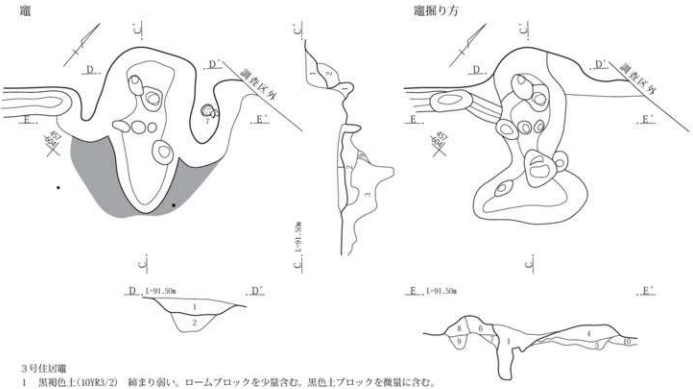
遺物　杯（１～３）・小型甕（６・７）・甕（８・９）等の土師器、杯蓋（４）・高杯（５）等の須恵器、棒状礫（こも編石、10～16・18）、加工礫(17)が出土した。このうち１・２・８・９・15・18は床面から、また５は掘り方からの出土であった。また、掘り方では炭化物や鉄滓の出土も見られた。

所見　本住居の時期は、出土遺物から推して、６世紀後半の所産と判断される。

なお、南側隅部手前にある、床下土坑の存在から推して、本住居は立て直されたものと判断され、床下土坑は古段階の貯蔵穴であったものと思慮される。

また、住居北東壁際の焼土と、南西壁際出土の炭化物から、本住居は焼失家屋であったと判断している。

竈



３号住居竈

1　黒褐色土(10YR3/2)　締まり弱い。ロームブロックを少量含む。黒色土ブロックを微量に含む。

2　明赤褐色土(5YR5/6)　焼土ブロック・粒を多量に含む。ハードロームブロックを少量含む。炭化物を微量に含む。
　　１層よりも締まりは良い。

3　にぶい赤褐色土(5YR5/4)　締まりは悪い。焼土ブロック・粒、ハードロームブロックを少量含む。炭化物粒を微量に含む。

4　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　粘性が強い。締まりは極めて良い。焼土粒、炭化物粒を微量に含む。

5　明黄褐色土(10YR6/6)　締まりはやや良い。ハードロームブロック少量含む。炭化物粒を微量に含む。

6　にぶい赤褐色土(5YR5/4)　焼土ブロック・粒、ハードロームブロックを少量含む。締まりは良いが、5層ほど粘性はない。

7　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　締まりはやや良い。ハードローム粒、焼土粒を微量に含む。

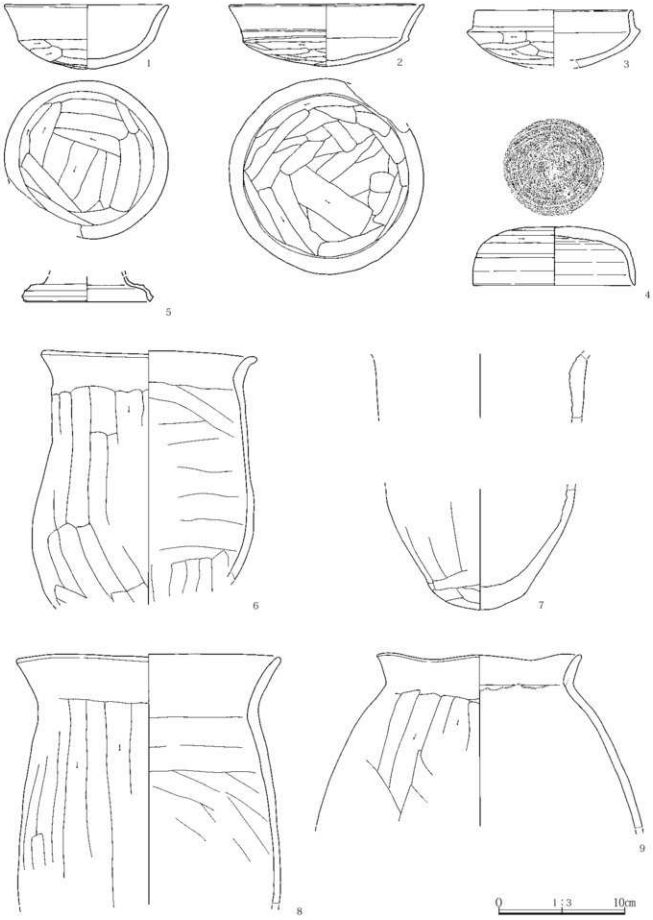
8　にぶい黄褐色土(10YR5/3)　締まりはやや良い。焼土粒・炭化物粒を微量に含む。

9　明黄褐色土(10YR6/6)　締まりは悪い。ほぼソフトローム。若干暗褐色土を含む。

10　明黄褐色土(10YR6/6)　締まりは良い。ほぼソフトローム。若干暗褐色土を含む。

0　1:30　1m

第15図　３号住居竈



第16図　３号住居出土遺物

④　**４号住居**(第17図、PL.４・20)

概要　本住居は竪穴住居である。

本住居の過半は、調査区外にあって、住居西部の一部を調査できたに過ぎず、残存部分も４号溝に上位が壊されていた。

位置　本住居は調査区北東部にあり、Ｉ４～Ｊ５グリッドに位置する。

重複　本住居は、４号溝に切られ、２号陥穴を切っている。

規模　長軸：(3.51)m　短軸：(1.85)m　深さ：0.7m
周溝　幅0.13～0.21m　深さ：0.05m以下

埋没状況　黒褐色土、褐色土等で埋没する。７・８層(黒褐色土、にぶい黄褐色土)がいわゆる三角堆積である。

構造　〔**竪穴**〕　遺存状態から推して、竪穴は隅丸方形あるいは隅丸長方形を呈するものと推量される。軸方向はＮ38°Ｅを向く。

〔**掘り方**〕　本住居に掘り方は確認されなかった。いわゆる、地床である。

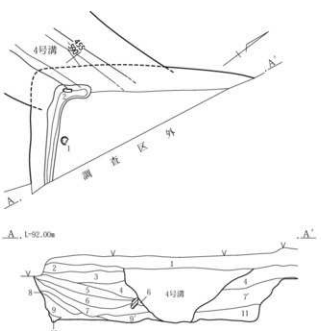
〔**竈・柱穴・貯蔵穴**〕　調査範囲においては、竈、柱穴、貯蔵穴を確認することはなかった。

〔**周溝**〕　西隅部から南南西壁沿いに、周溝の掘削が確認された。

〔**上屋**〕　棟方向は、特定できなかった。

遺物　土師器杯(１)、棒状礫(２、写真図版掲載)等が出土した。なお、２は床面からの出土であった。

所見　本住居の時期は、出土遺物から推して、６世紀の所産と判断される。



４号住居
1　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックを微量に含む。(土地改良時の埋土。)
2　黒褐色砂質土(10YR3/2)　As-Bを多量に含む。
3　褐色土(10YR4/4)　ロームブロック・粒子を少量含む。
4　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ロームブロック・粒子を微量に含む。
5　褐色土(10YR4/4)　ロームブロック・粒子を微量に含む。
6　褐色土(10YR4/4)　黒色土、ロームブロックを微量に含む。
7　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックを微量に含む。
7'　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　７層相当と考えられるが７層よりも黄色味を帯びる。
8　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックを微量に含む。
9　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　黒褐色土の溶滓を薄く含む。
9'　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ロームブロックを微量に含む。
10　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　締まりは悪い。９層よりもわずかに暗い。(周溝覆土)
11　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックを北側に多く含む。

第17図　４号住居と出土遺物

⑤　**５号住居**(第18～22図、PL．４・20・21)

概要　本住居は竪穴住居である。

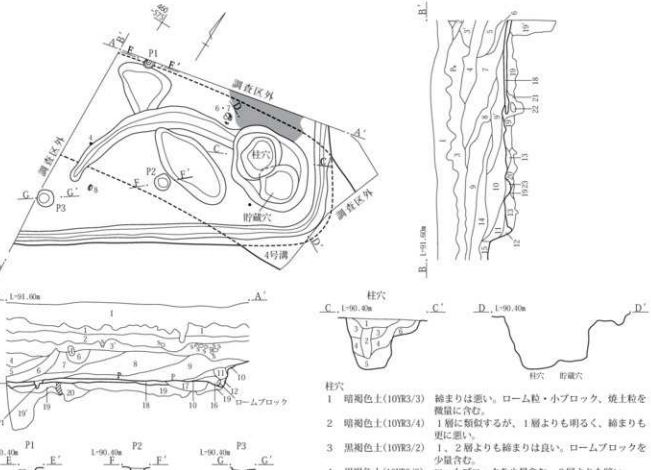
しかし、本住居の過半は調査区外にあるため、南東部を調査できたに過ぎなかった。

位置　本住居は調査区北東隅部にあり、Ｊ１・２グリッドに位置する。

重複　本住居は４号溝と重複するが、４号溝の方が新しい。

規模　長軸：(5.08)m　短軸：(3.08)m　深さ：0.28m

柱穴　径：0.77×0.71m　深さ：0.6m



柱穴

1　暗褐色土(10YR3/3)　締まりは悪い。ローム粒・小ブロック、焼土粒を微量に含む。

2　暗褐色土(10YR3/4)　１層に類似するが、１層よりも明るく、締まりも更に悪い。

3　黒褐色土(10YR3/2)　１、２層よりも締まりは良い。ロームブロックを少量含む。

4　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックを少量含む。３層よりも暗い。

5　褐色土(7.5YR4/3)　締まりは弱い。焼土ブロック・粒を少量含む。

6　黄褐色土(10YR5/6)　締まりは良い。黒褐色土ブロック溶混を薄く含む。

ピット

1　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロック、焼土粒を微量に含む。

2　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックを含む。周辺は貼床で硬く締まっているがピットの覆土は軟質土である。

５号住居

1　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ロームブロック・粒を少量含む。(土地改良の理土)

1　暗褐色土(10YR3/3)　やや砂質。As-Bを若干含む。単一的(旧表土)

2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　砂質。As-Bを多量に含む。

3　黒褐色土(10YR3/1)　砂質。周辺の土に比べかなり黒味が強い。As-Bを含む。

3'　黒褐色土(10YR3/2)　３層に比べてやや明るい。

4　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックを微量に含む。

5　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ロームブロックを少量含む。焼土粒を微量に含む。

6　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロック、焼土粒を微量に含む。

7　褐色土(10YR4/4)　ロームブロック、焼土粒を微量に含む。

8　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロック、焼土粒を微量に含む。

9　褐色土(10YR4/4)　ロームブロック、焼土粒を少量含む。

9'　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックを少量含む。焼土粒を微量に含む。

10　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックを微量に含む。

11　黒褐色土(10YR3/1)　ロームブロックを微量に含む。10層よりも更に黒味が強い。

12　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　締まりは悪い。ローム粒を少量含む。

13　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　締まりは良い。径２～３cmのハードロームブロックを微量に含む。

14　暗褐色土(10YR3/4)　ローム小ブロックを微量に含む。

15　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　暗褐色土を薄く含む。(ローム漸移層)

16　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　僅かにロームブロックを含む軟質土。

17　褐色土(10YR4/4)　径２mmの白色軽石粒、黒褐色土ブロック、ロームブロック、焼土ブロックを少量含む。近接地点に竈の存在の可能性が考えられる。

18　褐色土(10YR4/6)　褐色土にロームブロックや焼土ブロックが混じった大変硬く締まった貼床である。

19　明黄褐色土(10YR6/8)　硬く締まっている。ロームブロックを主とした床面下の掘方覆土。

19'　明黄褐色土(10YR6/8)　硬く締まっている。ロームブロックを主とした床面下の掘方覆土。僅かに褐色砂質土がまじる。

20　黄褐色土(10YR5/6)　ロームブロックが主で、少量のローム漸移層の混土層であり、掘方覆土の締まった土である。

21　暗褐色土(10YR3/4)　ローム粒子と僅かなロームブロック及び焼土粒子を含む軟質土。

22　黄橙色土(10YR7/8)　ロームブロック土。

23　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックを含む。周辺は貼床で締まっているがピットの覆土は軟質土である。

0　1:60　2m

第18図　５号住居

ピット１　径：0.16×(0.14)m　深さ：0.16m
ピット２　径：0.28×0.25m　深さ：0.08m
ピット３　径：0.27×0.73m　深さ：0.09m
貯蔵穴　径：0.7×0.66m　深さ：0.68m
周溝　幅0.16～0.23m　深さ：0.1m以下

埋没状況　おおむね上位層は、As-Bを含む暗褐色・にぶい黄褐色・黒褐色土等で埋没し、下位はロームを含む褐色・暗褐色土等で埋没する。

構造　〔**竪穴**〕　本住居は一部を調査したに過ぎないため明確にはできなかったが、残存部の形状から推して、竪穴の隅丸方形様のプランを呈するものと推量される。また軸方向はN51°Eを向く。

〔**掘り方**〕　本住居は前面に浅い土坑状の掘り込みが散見される掘り方を有し、明記褐色ローム等で埋め戻し、ローム、焼土を含む褐色土で突き固めて貼床を設けている。

〔**床・周溝**〕　床面には凹凸が見られた。

また、確認範囲では壁下に周溝の掘削が見られた。

〔**竈**〕　竈は確認されなかった。

〔**柱穴**〕　住居南東隅から北西方向２m強の位置に、柱穴が掘削されている。この柱穴の南東側には貯蔵穴が接している。

柱の径は、柱痕からは15cm程と想定される。

〔**貯蔵穴**〕　貯蔵穴は、住居南東隅近くにあり、北西側に柱穴が接する。貯蔵穴は、柱穴を包み込む径1.49×1.11m、深さ0.21mを測る、隅丸長方形プランの土坑状の掘り込みの中に掘削される。この掘り込みの南東隅付近に貯蔵穴が掘削され、北西隅付近に柱穴が掘削されている。

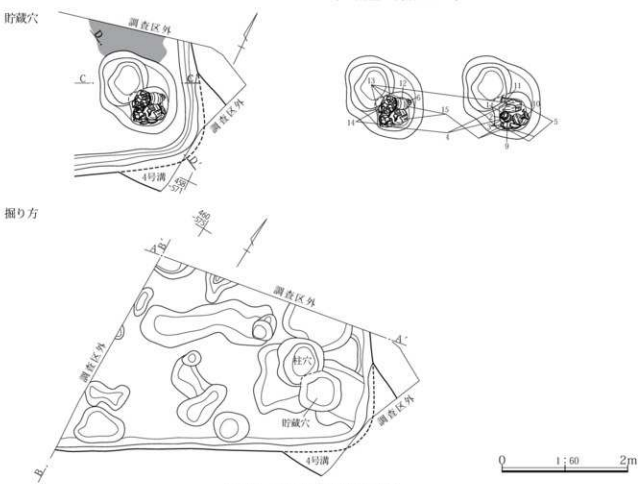
平面形態は隅丸方形を呈し、柱穴様の掘削である。

〔**上屋**〕　棟方向は、特定できなかった。

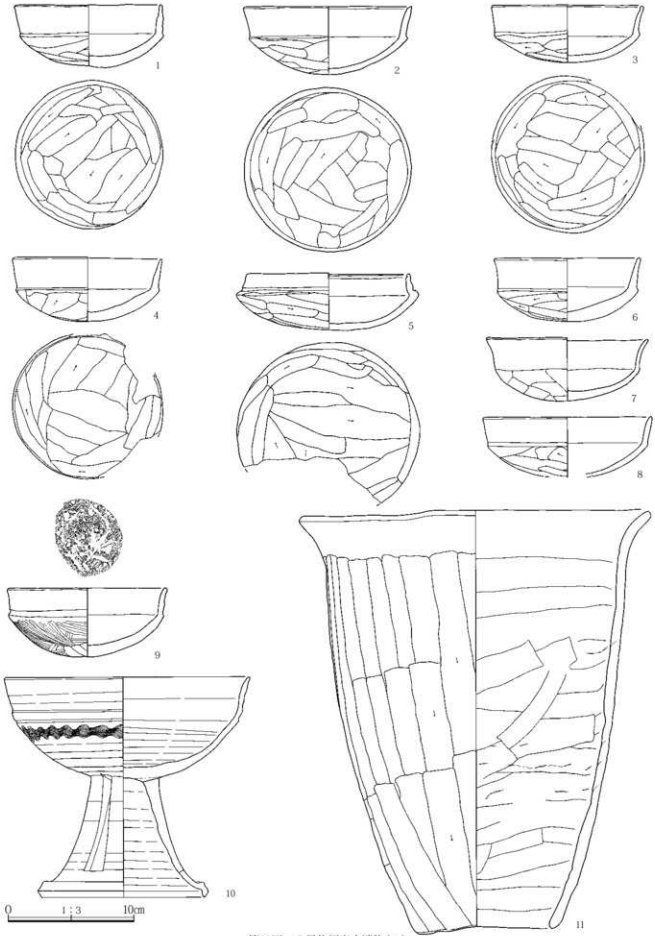
いわゆる三角堆積等は明確には把握できなかった。

遺物　本住居からは多くの遺物が出土した。この中には、杯(１～９)・甑(11)・甕(12～15)等の土師器、高杯(10)等の須恵器が出土した。このうち、８・15は床面からの出土であった。

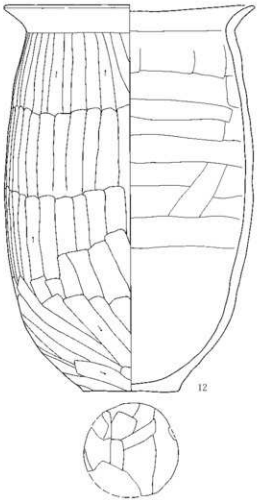
所見　本住居の時期は、出土遺物から推して、６世紀前半の所産と判断される。

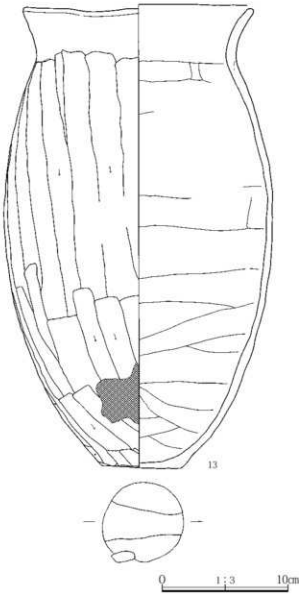


第19図　５号住居貯蔵穴と掘り方

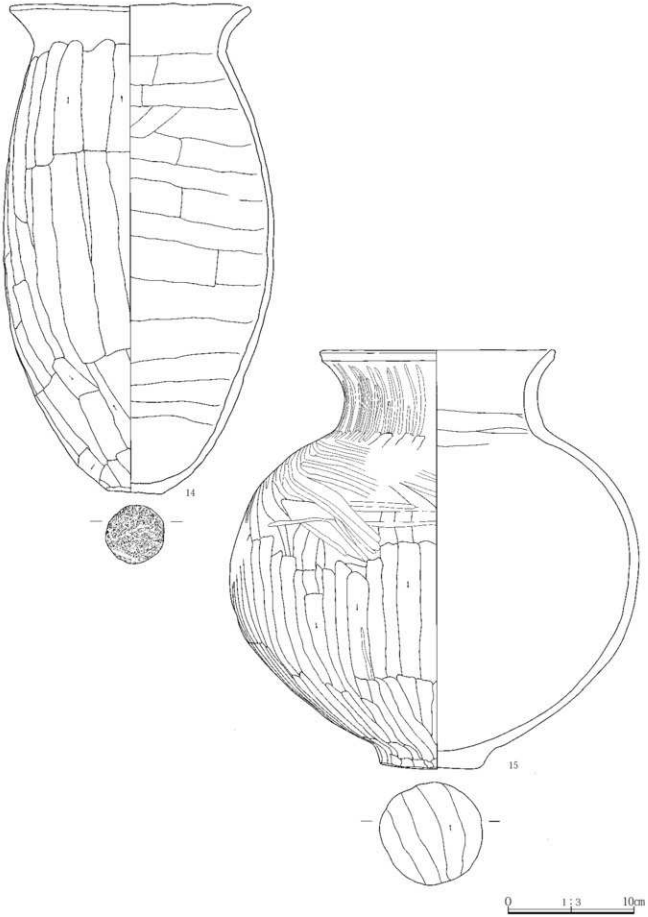


第20図　５号住居出土遺物（１）





第21図　５号住居出土遺物（２）



第22図　５号住居出土遺物（３）

⑥　**６号住居**(第23図、PL.５・21)

概要　本住居は竪穴住居である。

しかし、本住居の過半は調査区外にあるため、南西の一部を調査できたに過ぎなかった。

位置　本住居は調査区中北部北端にあり、Q16･17グリッドに位置する。

重複　本住居は７号古墳と重複するが新旧関係は特定できない。

規模　長軸：3.58m　短軸：2.78m　深さ：0.43m

周溝　幅：0.18～0.41m　深さ：0.2m以下

埋没状況　灰黄褐色・にぶい黄褐色土等で埋没する。

西壁に接して埋没するローム混じりの黒褐色土(３)層が、いわゆる三角堆積である。

また、周溝はソフトローム(４)で埋没する。

構造　〔竪穴〕　本住居は一部を調査したに過ぎなかったため、その形状を明確には確認できなかったが、残存部から推して、竪穴の平面形態は隅丸方形様を呈するものと推量される。

また軸方向はN63°Eを向く。

〔**掘り方**〕　本住居は地床であり、掘り方は確認されなかった。

〔**周溝**〕　確認範囲では壁際に周溝の掘削が見られた。

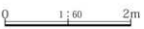
〔**竈・柱穴・貯蔵穴**〕　竈、柱穴、貯蔵穴は確認されなかった。

〔**上屋**〕　棟方向は、特定できなかった。

遺物　土師器は杯(１)・大型杯(２)・小型壺(３)、炭化物が出土した。このうち、１は床面からの出土であった。

所見　本住居の時期は、出土遺物から推して、７世紀前半の所産と判断される。

６号住居
1　灰黄褐色土(10YR4/2)　７号墳周溝の４層よりもやや明るく、若干黄色味を帯びる。(ピットの埋没土)
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　暗褐色土ブロック溶混を僅かに含む。ほぼローム漸移層に類似するがそれよりも締まりは弱い。
3　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックを少量含む。
4　黄褐色土(10YR5/6)　締まりは悪い。ほぼソフトロームの再堆積層。



第23図　６号住居と出土遺物

⑦　**７号住居**(竪穴状遺構)(第24～26図、PL.５・21・22)

概要　本竪穴は竪穴住居として調査したが、竪穴状遺構であり、竪穴住居ではない。また、竪穴状遺構としても、形態的に見て倉庫等の建物とは考えにくい。

位置　本竪穴は調査区西北部にあり、P27～Q28グリッドに位置する。

重複　本竪穴は６号溝と重複し、本竪穴の方が新しい。

規模　長径：3.67m　短径：3.55m　深さ：0.45m

埋没状況　ロームを含む黄褐色・黒褐色・にぶい黄褐色・褐色土と、褐色砂質土で埋没する。

いわゆる三角堆積は確認されなかった。

構造　〔**竪穴**〕　本竪穴のプランは、略楕円形を呈する。

また軸方向はN63°Wを向く。

〔**掘り方**〕　本竪穴の床面は地床であり、掘り方は確認されなかった。

〔**床面**〕　掘削形状は箱形ではなく、凹面状を呈し、床面も凹局面を呈する。

また、南壁際には、北溜に幅0.2m以下、高さ0.02m以下を測る、低い堤状の掘り残しを伴う、径1.33×0.62m、深さ0.11m土坑状の掘削が見られる。

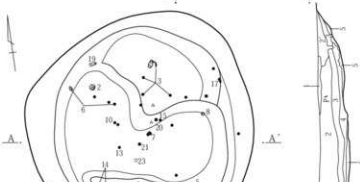
〔**竈・柱穴・貯蔵穴・周溝**〕　竈、柱穴、貯蔵穴、周溝は確認されなかった。

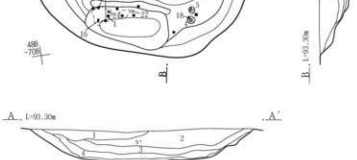
〔**上屋**〕　上屋構造の有無は特定できなかった。また、上屋構造があったとしても、棟方向は竪穴の掘削形態から、およそ北北東ー南南西方向を向くと思慮されるに過ぎない。

遺物　本竪穴からは比較的多くの遺物が出土した。出土遺物には肥前磁器染付の小碗(１)・丸碗(２)・鉢と思われるもの(３)・皿(４)、瀬戸・美濃陶器の腰錆碗(５)・灯火皿(６)、瀬戸・美濃陶器と見られるひょうそく(７)、在地形土器の皿(９～13)・鍋(14)・焙烙(15)、搬入形土器人形(17)、産地不詳の陶器ひょうそく(８)や人形(16)、石製硯(18)、キセル雁首(20)、不明金属製品(21)、寛永通寶(22・23)、鉄滓、打製石斧(19)、棒状礫(24、写真図版掲載)等があった。また、後世の混入と見られる貝殻やガラスの出土も見られた。

所見　本竪穴(竪穴状遺構)の掘削意図を確認することはできなかった。

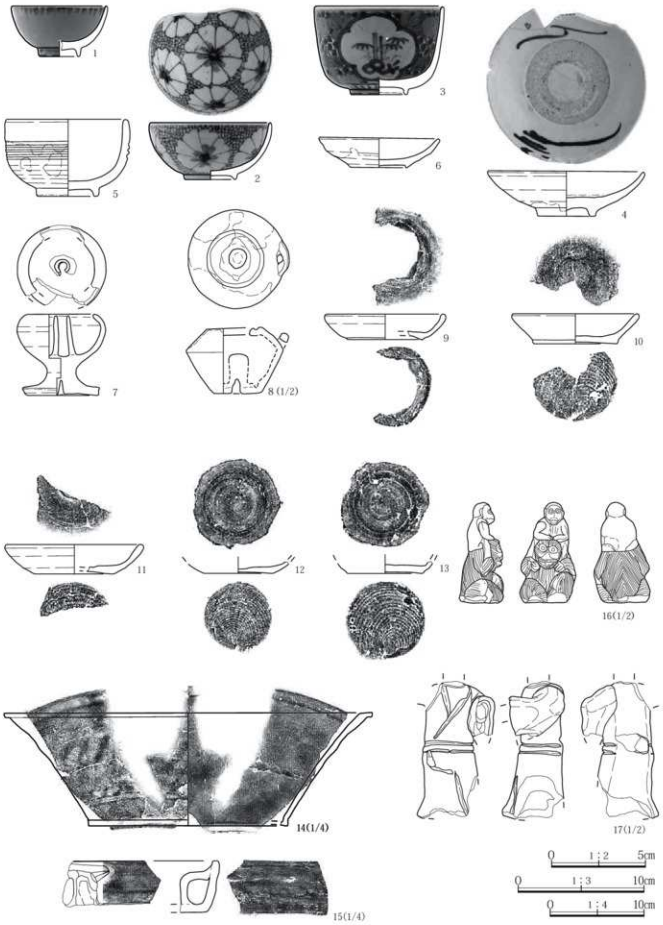
また、本竪穴の時期は、出土遺物から推して、18世紀後葉頃の所産と判断される。



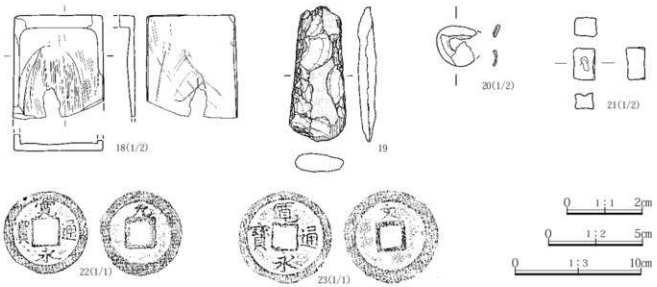


７号住居
1　褐色砂質土(10YR4/6)　ロームブロックを含むサラサラした土。
2　褐色砂質土(10YR4/4)　白色鉱物粒を含むサラサラした土。
2″褐色砂質土(10YR4/4)　２層にロームブロック含む。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒子と少量のローム
　　ブロックを含むサラサラした土。
4　黒褐色土(10YR2/3)　ロームブロックを少量含む。
5　黄褐色土(10YR5/7)　ロームブロックを多く含む汚れた土。

第24図　７号住居(竪穴状遺構)



第25図　７号住居(竪穴状遺構)出土遺物(１)



第26図　７号住居(竪穴状遺構)出土遺物(２)

⑧　８号住居(第27図、PL.５)

概要　本住居は竪穴住居である。住居の過半は３号古墳周堀と重なり、確認できず、また掘り方面を調査できたに過ぎず、また北東寄りを確認、調査できたに過ぎなかった。

位置　本住居は調査区南西部にあり、Ｊ・Ｋ26グリッドに位置する。

重複　本住居は３号古墳と重複するが新旧関係は特定できなかった。

規模　長軸：(3.1)m　短軸：(1.4)m　深さ：－m

床下土坑　径：0.8×0.73m　深さ：0.19m

埋没状況　暗褐色土等で埋没する。いわゆる三角堆積等を確認することはできなかった。

構造　〔竪穴〕　上述のように、本住居は一部を調査できなかったため、全容はつまびらかにできなかったが、竪穴は隅丸方形様のプランを呈するものと思慮される。主軸方向はＮ３°Ｗを向く。

〔掘り方〕　本住居は北東部に床下土坑を伴う掘り方を有し、これを、ロームブロックを含む黒褐色土等で埋め戻して、床面を造っている。

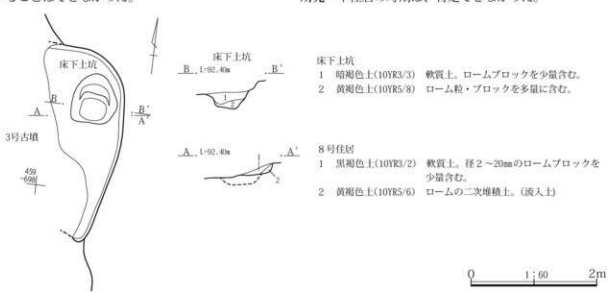
〔竈・柱穴〕　竈、柱穴等は確認できなかった。

〔貯蔵穴〕　貯蔵穴も確認できなかったが、床下土坑にその可能性は考慮される。

〔上屋〕　棟方向や上屋構造は確認できなかった。

遺物　出土遺物は得られなかった。

所見　本住居の時期は、特定できなかった。



第27図　８号住居

⑨　**９号住居**(第28図、PL.14)

概要　本住居は竪穴住居とみられる遺構である。

西隅付近を僅かに調査できたに過ぎない。

位置　本住居は調査区中北部東よりにあり、N・O11グリッドに位置する。

重複　本住居は９号古墳と重複するが、本住居の方が古い。

規模　長軸：(1.65)m　短軸：(1.37)m　深さ：0.43m
周溝　幅：0.12～0.18m　深さ：0.17m以下

埋没状況　本住居の覆土の上位には９号古墳主体部埋土とみられる黒褐色土が堆積し、その下位にロームを僅かに含むにぶい黄褐色土が埋没する。

構造　〔**竪穴**〕　竪穴はその一部を調査できたに過ぎず、残存範囲から推して、プランは隅丸方形様を呈するものと思慮される。軸方向はN63°Eを向く。

〔**掘り方**〕　本住居は浅い掘り方を有し、これをロームを含む明黄褐色土で埋め戻して床面を造る。

〔**周溝**〕　確認範囲における壁際には、断続的に周溝が確認された。

〔**炉・竈・柱穴・貯蔵穴**〕　調査範囲において、炉あるいは竈、柱穴、貯蔵穴等の構造物を確認することはできなかった。

〔**上屋**〕　棟方向を想定することはできなかった。

遺物　本住居からの出土遺物は得られなかった。

所見　本住居の時期は、特定できなかった。

９号住居
1　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　やや砂質。締まりは悪い。As-Bを多量に含む。ロームブロック・粒を微量に含む。(現耕作土)
2　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　締まりは弱い。ロームブロックを薄く含む。
3　黒褐色土とローム混合土　(上地改良時の埋土)。部分的にその割合は変化するので、その具合によって色調は異なる。
4　黒褐色土(10YR3/1)　締まりは弱い。ローム小ブロックを微量に含む。(９号墳主体部の埋土か)
5　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　僅かに１層よりも明るい。締まりは弱い。黒褐色土ブロックの溶滓を極僅かに含む。ロームブロックをほとんど含まない。
6　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ロームブロックを極僅かに含む。黒褐色土ブロックの溶滓はほとんど含まない。
7　明黄褐色土(10YR6/6)　締まりは良い。ロームブロックを少量含む。

0　1:60　2m

第28図　９号住居

⑩　**10号住居**(第29～36図、PL.５・６・22～25)

概要　本住居は竈付の竪穴住居である。

後述のように、南南西側に張り出しを有する。なお、この張り出しは、当初からの施工であるか、拡張によるものかを特定することはできなかった。

位置　本住居は調査区中北部にあり、M14～N15グリッドに位置する。

重複　本住居は24号土坑を壊して構築され、また、本住居の覆土上位を掘削して、１号住居が造られている。

規模　長軸：6.21m　短軸：5.27m　深さ：0.67m

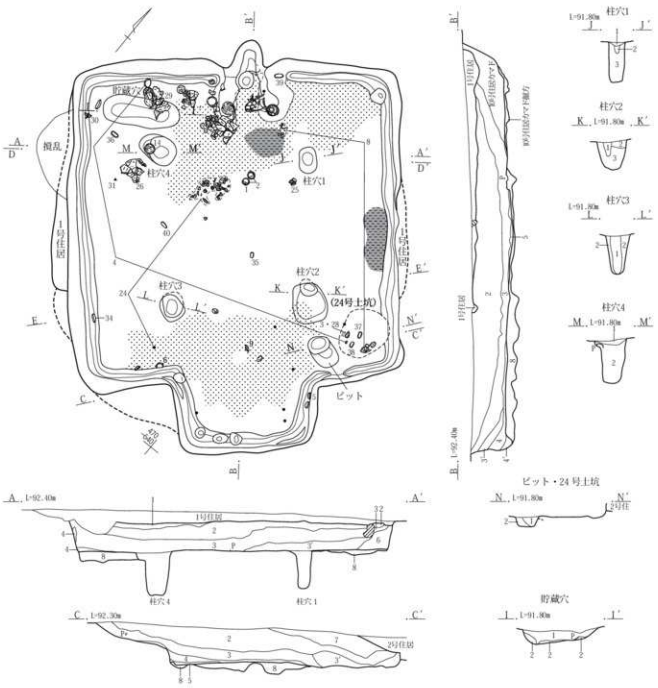
竈　幅：1.30m　奥行き：1.31m
　左袖　幅：0.31m　長さ：1.07m　高さ：0.29m
　右袖　幅：0.58m　長さ：0.99m　高さ：0.41m
　燃焼部　幅：0.32m　奥行：0.89m　深さ：0.02m

柱穴１　径：0.42×0.27m　深さ：0.63m
柱穴２　径：0.71×0.54m　深さ：0.54m
柱穴３　径：0.43×0.35m　深さ：0.67m
柱穴４　径：0.60×0.43m　深さ：0.72m
ピット　径：0.53×0.37m　深さ：0.22m
貯蔵穴　径：1.22×0.46m　深さ：0.21m
周溝　幅：0.17～0.3m　深さ：0.15m以下

埋没状況　ローム、ローム漸移層土を黄褐色・黒褐色土で埋没する。

また、いわゆる三角堆積層は、ローム等含む黄褐色土(３・４層)、明黄褐色ローム(６層)で構成される。

構造　〔**竪穴**〕　竪穴のプランは隅丸方形を呈し、竈とは反対側の南東側の壁面中部に、隅丸長方形プランの張り出し部が設けられる。



10号住居
1　暗褐色土(10YR3/4)　砂質。軟質上。径５～20mmのロームブロックを微量に含む。
2　黄褐色土(10YR5/6)　径５mmの白色軽石粒を少量含む。ロームブロック・粒を微量に含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　白色鉱物粒を少量含む。ローム及びローム漸移層ブロックが斑に入る。
3'　黄褐色土(10YR5/6)　白色軽石粒(径５mm As-C散点)と径２cmのロームブロックを少量含む。
4　黄褐色土(10YR5/8)　軟質上。ロームの流れ込みによる二次堆積土。
4'　明黄褐色土(10YR6/8)　軟質上。ロームブロックを微量に含む壁溝覆土。
5　明黄褐色土(10YR6/8)　やや硬い。ロームブロックが斑状に入る。
6　明黄褐色土(10YR6/8)　ロームの二次堆積層。
7　黄褐色土(10YR5/8)　やや砂質上。径１mmの白色鉱物粒とローム漸移層ブロックを少量含む。竈内にも堆積しており赤褐色の焼土ブロックを含む。
8　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ロームブロックと黒褐色土が混じっている。貼床部分は堅く締まっている。床下(掘り方覆土)

貯蔵穴
1　暗褐色土(10YR3/3)　軟質上。褐色砂質土ブロックを含む。他に径２～30mmのロームブロックを少量含む。
2　黄褐色土(10YR5/6)　壁のローム層が流れ込んだ二次堆積層。

0　1:60　2m

第29図　10号住居

柱穴１
1　暗褐色土(10YR3/4)　軟質土。ロームブロックを少量含む。
2　褐色土(10YR4/6)　軟質土。ローム二次堆積に１層が根により入り込んだ層。
3　黄褐色土(10YR5/8)　汚れたローム層の二次堆積土。

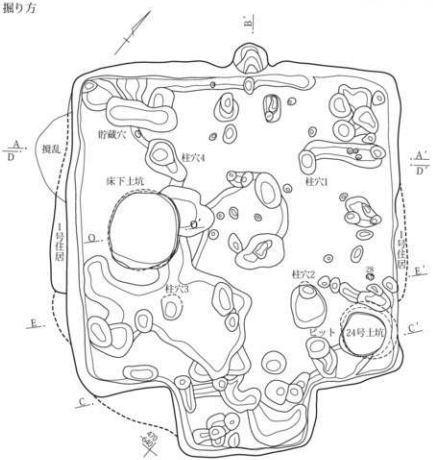
柱穴２
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　柱痕。締まりは悪い。ほぼ単一的。
2　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　締まり弱い。ロームブロック、黒褐色ブロックを少量含む。
3　灰黄褐色土(10YR4/2)　軟質土。締まりはやや良い。灰を含む。ロームブロックを微量に含む。

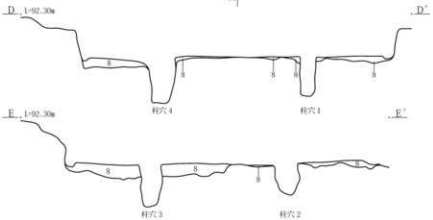
柱穴３
1　黒褐色土(10YR2/2)　軟質土。ロームブロックを含む。
2　明黄褐色土(10YR6/8)　ロームブロック層。

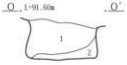
柱穴４
1　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　柱痕。締まりは極めて悪い。ロームブロックを微量に含む。
2　黄褐色土(10YR6/6)　締まりはやや良い。ほとんどがロームブロック・粒である。黄褐色土はほとんど含まれない。

ピット
1　暗褐色土(10YR3/4)　軟質土。ロームブロックを少量含む。
2　黄褐色土(10YR5/8)　汚れたローム層の二次堆積土。

掘り方



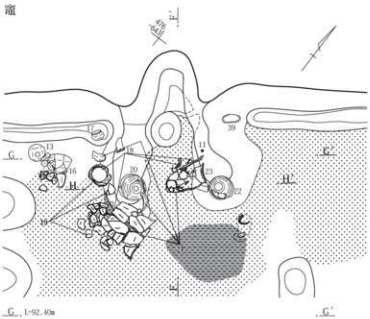


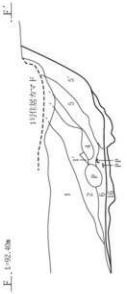


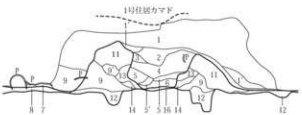
床下土坑
1　明黄褐色土(10YR6/8)　軟質土。汚れたローム粒を主とし、径10～50㎜のロームブロックを少量含む。
2　褐色土(10YR4/6)　軟質土。汚れたローム粒に黒褐色土と径20～30㎜の明黄褐色ロームブロックを少量含む。

0　1:60　2m

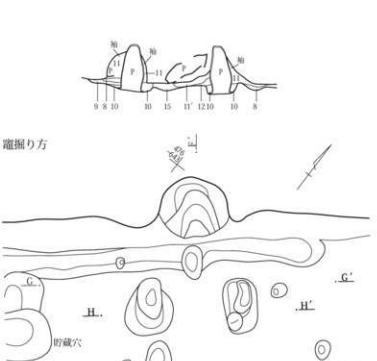
第30図　10号住居掘り方







竈掘り方



第31図　10号住居竈

10号住居竈

1　黒褐色土(10YR2/3)　白色鉱物粒を少量含む。ローム及びローム漸移層ブロックが斑に入る。

1'　黄褐色土(10YR5/6)　白色軽石粒(径５mmのAs-C数点)と径２mmのロームブロック、焼土粒を少量含む。

2　黄褐色土(10YR5/8)　やや砂質土。径１mmの白色鉱物粒、ローム漸移層ブロックを少量含む。竈内にも堆積しており赤褐色の焼土ブロックを含む。

3　褐色土(10YR4/4)　軟質土。全体に焼土粒を含む。まれに焼土ブロックが入る。

4　明黄褐色土(10YR6/6)　焼土粒が僅かに入る。竈構築材の崩れたブロック土の堆積と考えられる。

5　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　軟質土。径３mmの焼土ブロックと焼土粒を多量に含む。竈構築材が崩れ再堆積した土と考えられる。

5'　黄褐色土(10YR5/8)　焼土は入るが少ない。４層と５層の間に挟まれた構築材の崩れ土。

6　褐灰色土(10YR4/1)　灰層を主とし、径３mmの焼土ブロックを少量含む土。

7　明黄褐色土(10YR6/8)　軟質土。ロームブロックが多く、褐色土が僅かに混じる。壁からの流入土の再堆積層か。

8　暗褐色土(10YR3/3)　径１～２mmのローム粒を少量含む。

9　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロック・粒を含む。

9'　赤褐色土(2.5YR4/8)　９層が袖の中まで焼けている。

10　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ローム粒を含む。

11　褐色土(10YR4/4)　径２～５mmのロームブロックが少量ではあるが全体に含まれている。全体が僅かに被熱を受けている。

11'　褐色土(10YR4/4)　径２～５mmのロームブロックが少量ではあるが全体に含まれている。全体が強く被熱を受けている。竈の一部が崩れ落ちている。

12　褐灰色土(10YR4/1)　灰が多く焼土ブロックが僅かに入る。

13　暗赤褐色土(2.5YR3/6)　焼土ブロックを少量含む。竈の構築材が崩れ再堆積した可能性がある。

14　褐灰色土(10YR4/1)　灰が多く焼土ブロックが僅かに入る。

15　明黄褐色土(10YR6/8)　地山であるハードロームがやや被熱を受けている。堅く締まっている。

16　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ロームブロックと黒褐色土が混じっている。貼床部分は堅く締まっている。床下(掘り方覆土)

0　1:30　1m

主軸方向はN37°Wを向く。

〔掘り方・床〕　本住居は、住居南西部に大型の略円形プランの土坑が掘削され、浅い掘り込みが散見される掘り方を有する。

この掘り方を、ロームと黒褐色土を混入するにぶい黄褐色土で埋め戻して床面を造る。なお、床面は竈周辺と、その北東に続く北隅付近、および南東の張り出しの接合部付近に硬化面が形成され、締まっている。

〔周溝〕　竈付近を除いて、壁際に周溝が一周する。なお、掘り方面においては、竈部分にも周溝の掘削が見られた。

〔竈〕　竈は北西壁中央部に設けられ、燃焼部は北西側が少し入って設置される。その主軸はN32°Wを向く。

竈は掘り方を有し、これを明黄褐色ロームで埋め戻して燃焼面を造る。

燃焼部の左右に袖が残るが、袖は手前側に土師器甕を倒置して袖材とし、ロームを若干含む褐色土、あるいはロームと黒褐色土の混土で袖を造る。袖は一部に焼土化が見られる。

天井部の構造は確認できなかった。

煙道は燃焼部奥壁に、比高差0.07m程高い位置から、奥側に幅0.22m、奥行き0.48mの範囲奥側に掘削される。

〔柱穴〕　柱穴は柱穴１(北)・柱穴２(東)・柱穴３(南)・柱穴４(西)の４基の主柱穴が掘削され、柱穴２の東南東、後述する貯蔵穴の南西に近接してピットが掘削されている。ピットはその配置から、補助柱であったものと判断される。柱穴はいずれも隅丸長方形のプランを呈するが、その規格は一定ではない。また、柱の設置位置は、柱穴２は北西に偏っており、柱穴４は北東に寄っている。

梁、桁は柱間の比較からは特定できなかったが、張り出し理設位置から推して、北東－南西方向に梁、北西－南東方向が桁であったものとして報告する。梁間は、柱穴１・４間は2.34m、柱穴２・３間は2.2m、平均2.27mを測り、桁間は、柱穴１・２間は2.06m、柱穴３・４間は2.46m、平均2.26mを測る。

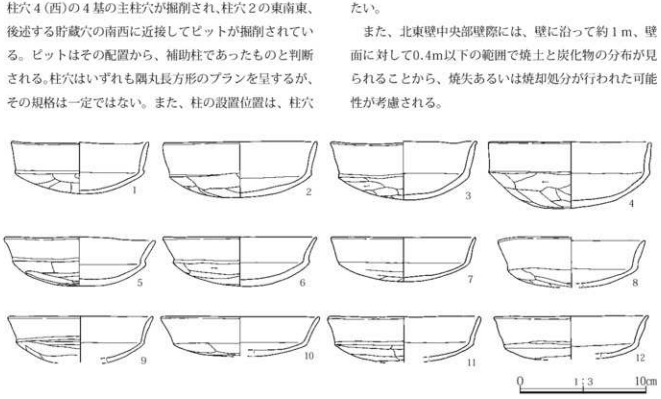
〔貯蔵穴〕　貯蔵穴は西側隅部に、掘削される。プランは略楕円形で、箱状に掘削される。

〔上屋〕　棟方向は、張り出しの設置から推して、北西－南東方向に設置されていたものと想定される。

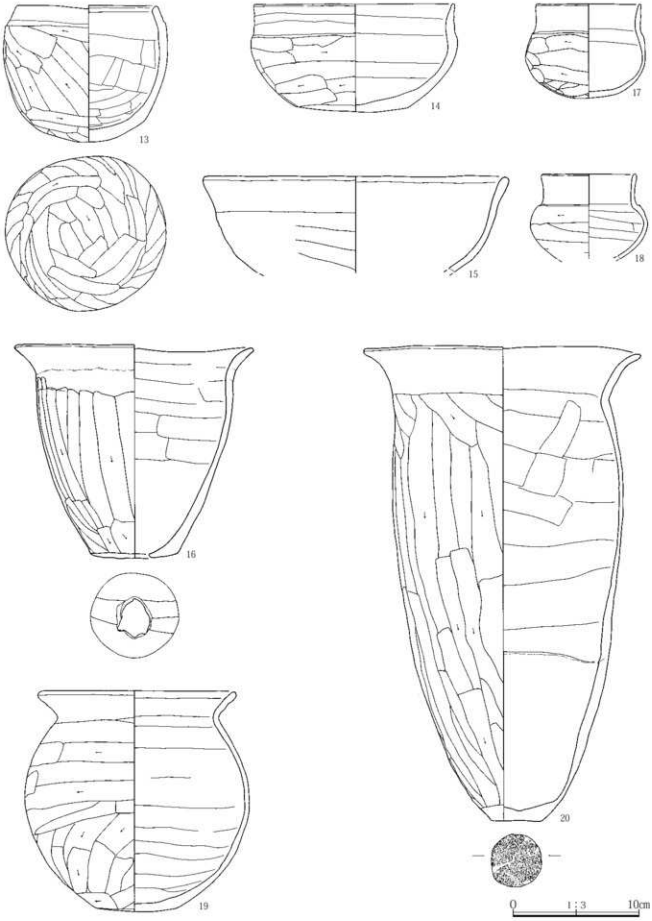
遺物　本住居からは、土師器片を中心に比較的多くの遺物が出土した。この中には杯(１～12)・鉢(13～15)・有孔鉢(16)・小型短頸壺(17・18)・小型甕(19)・甕(20～30)等の土師器、石製玉(31)、石核(32、写真図版掲載)、棒状礫(こも編石、33～40、写真図版掲載)などがあった。また、これらのうち１・２・13・14・17・18・19・23・25は床面、20～22は竈、７は竈袖、29は貯蔵穴、37・38は土坑、11・16・24・26・32・39は住居掘り方、15は床下土坑からの出土であった。

所見　出土遺物は６世紀前半から７世紀前半期所産のものが見られたが、本住居は７世紀前半の所産として捉えたい。

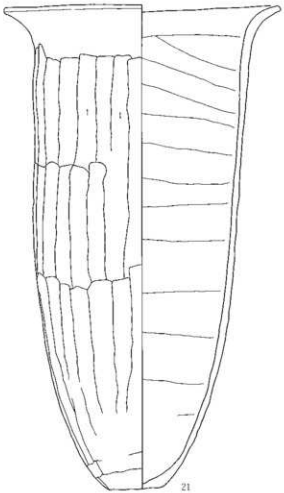
また、北東壁中央部壁際には、壁に沿って約１m、壁面に対して0.4m以下の範囲で焼土と炭化物の分布が見られることから、焼失あるいは焼却処分が行われた可能性が考慮される。

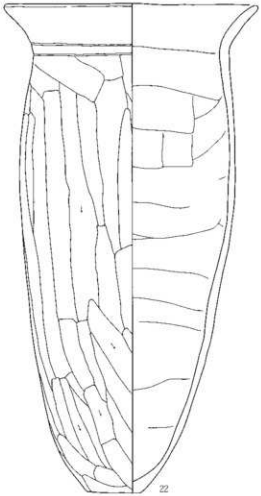


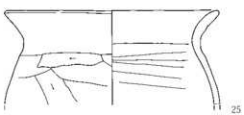
第32図　10号住居出土遺物(１)

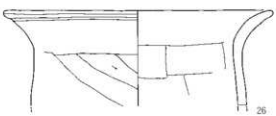


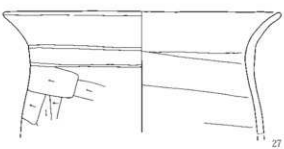
第33図　10号住居出土遺物（２）



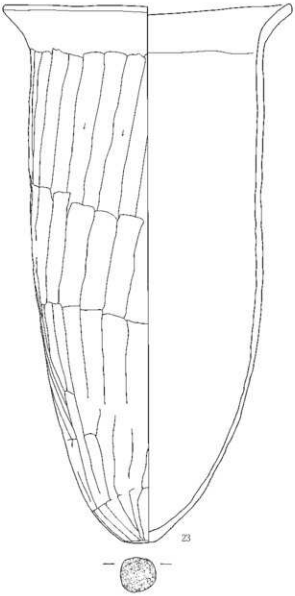


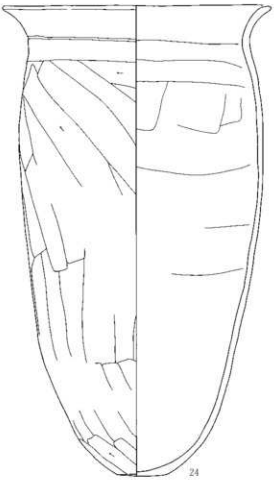


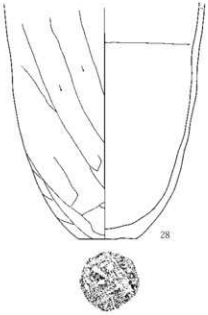




第34図　10号住居出土遺物（３）

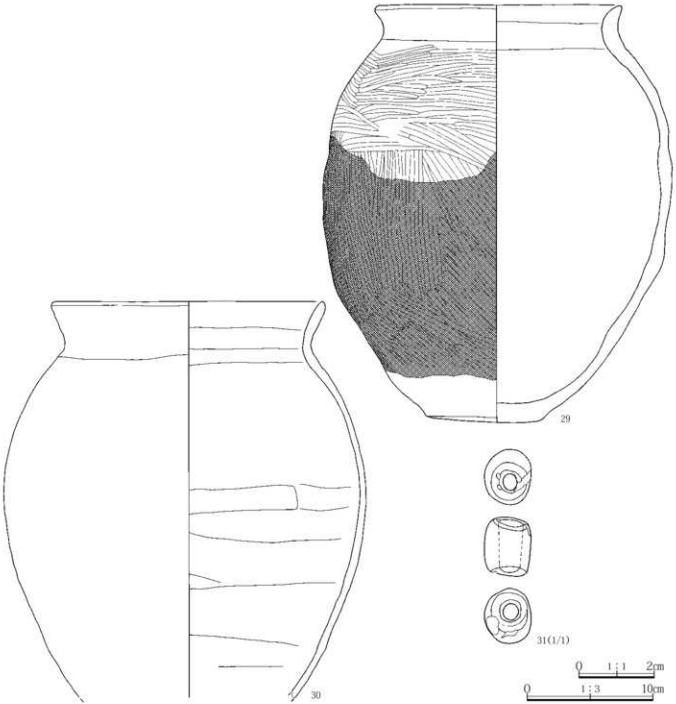






0　1:3　10cm

第35図　10号住居出土遺物（４）



第36図　10号住居出土遺物（５）

⑪　**11号住居**（第37図、PL.７・25）

概要　本住居は竪穴住居とみられる遺構である。

南部を僅かに調査できたに過ぎない。

位置　本住居は調査区北東部北端にあり、Ｊ４・５グリッドに位置する。

重複　本住居は単独であり、他遺構との重複は見られなかった。

規模　長さ：(3.15)m　幅：(1.77)m　深さ：0.69m

埋没状況　黒色土を含む明黄褐色土等で埋没する。

いわゆる三角堆積層は、ロームに近い明黄褐色ローム漸移層土（８層）からなる。

構造　〔竪穴〕　竪穴はその一部を調査できたに過ぎないため明瞭ではないが、そのプランは隅丸方形様を呈するものと思慮される。

軸方向はＮ60°Ｅを向く。

〔**掘り方**〕　本住居はいわゆる地床であり、掘り方は確認

されなかった。

〔周溝〕　南南東壁の残存範囲の中程、壁際に、短く周溝と思われる掘り込みが確認された。

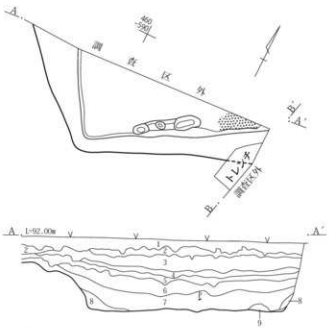
〔炉・竈・柱穴・貯蔵穴〕　調査範囲において、炉あるいは竈、柱穴、貯蔵穴等の構造物は確認されなかった。

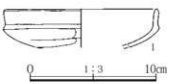
〔上屋〕　棟方向を想定することはできなかった。

遺物　本住居からの出土遺物は少なく、土師器杯（１）が出土した。

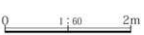
また、南東側壁沿いに径0.62×0.29m以上の範囲で、高さ0.1mに青灰色粘土とにぶい褐色土が半ばずつ入る、竈構築材の可能性を有する混土が置かれていた。

所見　本住居の時期は、出土遺物から推して、６世紀の所産と判断される。





11号住居
1　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　As-Bを多量に含む。(旧表土)
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　1層に類似するが、1層よりもやや暗い。
3　にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3)　As-Bを多量に含む。
4　にぶい褐色土(7.5YR5/3)　As-Bの灰をブロック状に含む。純層に近いが、純層ではない。
5　黒褐色土(10YR3/1)　As-Cを微量に含む。
6　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　黒褐色土ブロック溶混を少量含む。
7　にぶい黄褐色土(10YR6/4)　ローム漸移層に近いがそれよりも締まりは弱い。
8　明黄褐色土(10YR6/6)　7層よりも更にロームに近い。
9　にぶい褐色土(7.5YR6/3)　青灰色の粘土(八崎パミスの下の粘土)を含む。



第37図　11号住居と出土遺物

⑫　12号住居（第38図、PL.７・25）

概要　本住居は竪穴住居とみられる遺構である。

南壁沿い１m程の範囲を調査できたに過ぎない。

位置　本住居は調査区北東部北端にあり、J８・９グリッドに位置する。

重複　本住居は13号住居と重複するが、本住居の方が新しい。

規模　長さ：(5.21)m　幅：(1.11)m　深さ：0.43m

埋没状況　にぶい黄褐色土等で埋没する。

いわゆる三角堆積層は、特定されなかった。

構造　〔竪穴〕　竪穴はその一部を調査できたに過ぎないため明瞭ではないが、プランは隅丸方形様を呈するものと推量される。

軸方向はN85°Eを向く。

〔掘り方〕　本住居は少なくとも東西西側に浅い掘り込みを有する掘り方を有する。

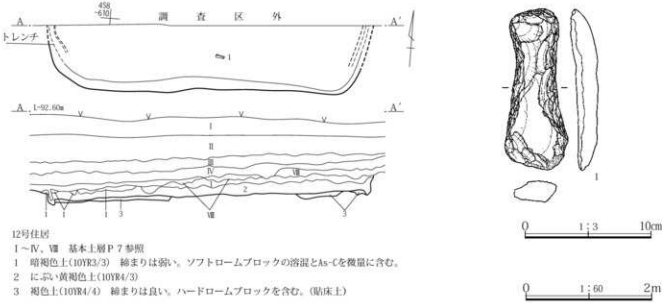
〔周溝〕　南南東壁の残存範囲の中程、壁際に、短く周溝と思われる掘り込みが東西両壁面沿いにあることが、断面観察で確認された。

〔炉・竈・柱穴・貯蔵穴〕　調査範囲において、炉あるいは竈、柱穴、貯蔵穴等の構造物は確認されなかった。

〔上屋〕　棟方向を想定することはできなかった。

遺物　本住居は僅かに打製石斧（１）が出土したに過ぎない。

所見　本住居の時期は特定できなかった。



12号住居
Ⅰ～Ⅳ、Ⅷ　基本土層Ｐ７参照
1　暗褐色土(10YR3/3)　締まりは弱い。ソフトロームブロックの溶混とAs-Cを微量に含む。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)
3　褐色土(10YR4/4)　締まりは良い。ハードロームブロックを含む。(貼床土)

第38図　12号住居と出土遺物

⑬　**13号住居**(第39図、PL.７)

概要　本住居は12号住居の調査途中で確認、調査された遺構であり、竪穴住居とみられるものである。

本住居は南西隅部付近の一部を調査したに過ぎない。

位置　本住居は調査区北東部北端にあり、Ｊ８・９グリッドに位置する。

重複　本住居は12号住居と重複するが、本住居の方が古い。

規模　長さ：(1.73)m　幅：(0.88)m　深さ：0.25m

埋没状況　にぶい黄褐色土等で埋没する。

いわゆる三角堆積層は、にぶい黄褐色土(２層)である。

構造　〔**竪穴**〕　竪穴はその一部を調査できたに過ぎないため明らかにできなかったが、プランは隅丸方形様を呈するものと推量される。

軸方向はN61°Ｅを向く。

〔**掘り方**〕　本住居は明確な掘り方は持たない。いわゆる地床に近い状態に掘削した後、黒色土やロームを含む褐色土で貼り床を敷く。

〔**周溝**〕　確認範囲の壁際には周溝の掘削が確認される。

〔**炉・竈・柱穴・貯蔵穴**〕　調査範囲において、炉あるいは竈、柱穴、貯蔵穴等の構造物は確認されなかった。

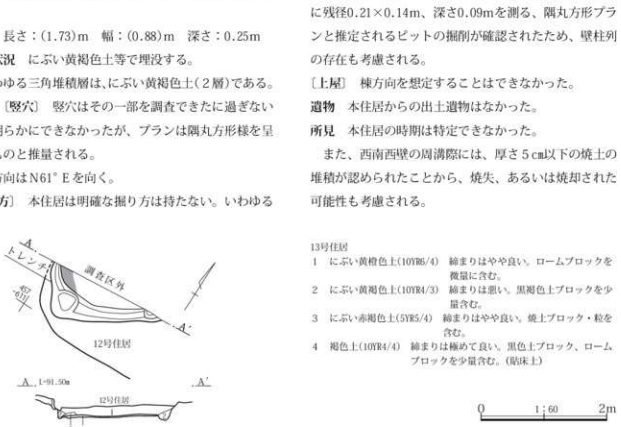
しかし、南西隅部に径0.43×0.42m、深さ0.09mを測る隅丸方形プランのピット、南南東壁の確認範囲の東端に残径0.21×0.14m、深さ0.09mを測る、隅丸方形プランと推定されるピットの掘削が確認されたため、壁柱列の存在も考慮される。

〔**上屋**〕　棟方向を想定することはできなかった。

遺物　本住居からの出土遺物はなかった。

所見　本住居の時期は特定できなかった。

また、西南西壁の周溝際には、厚さ５cm以下の焼土の堆積が認められたことから、焼失、あるいは焼却された可能性も考慮される。



13号住居
1　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　締まりはやや良い。ロームブロックを微量に含む。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　締まりは悪い。黒褐色土ブロックを少量含む。
3　にぶい赤褐色土(5YR5/4)　締まりはやや良い。焼土ブロック・粒を含む。
4　褐色土(10YR4/4)　締まりは極めて良い。黒色土ブロック、ロームブロックを少量含む。(貼床土)

第39図　13号住居

３．掘立柱建物

①　**１号掘立柱建物**（第40図、PL.７）

概要　本建物は、主軸（棟方向）を略北西―南東方向に取る、南東側に下屋を伴う、梁間２間、桁間２間以上の総柱の掘立柱建物である。

建物の北側は調査区外にあるため、全容をつまびらかにできなかった。また、調査区内に確認された柱穴は26・28・29・76・77・78・79・80・81号ピットの９基であり、南西隅部の柱穴は１号古墳の周溝に重複して、確認することはできなかった。

位置　本建物は調査区区中北部にあり、Q17～R18グリッドに位置する。

重複　本建物は、南西側で１号古墳と重複し本建物のほうが新しい。

なお、南西に２号掘立柱建物が近接してある。

覆土　本建物の柱穴はローム等を含む黄褐色・褐色・暗褐色土等で埋められ、柱痕跡はにぶい黄褐色土や褐色土で埋没する。

規模　残存範囲：6.2×3.2m

P26　径：0.43×0.39m　深さ：0.45m　柱根径：0.16m
P28　径：0.31×0.30m　深さ：0.45m
P29　径：0.31×0.27m　深さ：0.32m
P76　径：0.43×0.36m　深さ：0.39m
P77　径：0.47×0.46m　深さ：0.45m　柱痕径：0.16m
P78　径：0.33×0.30m　深さ：0.16m
P79　径：0.43×0.37m　深さ：0.50m
P80　径：0.38×(0.38)m　深さ：0.44m　柱痕径：0.26m
P81　径：0.38×0.32m　深さ：0.38m　柱痕径：0.32m

構造　上述のように、本建物は北側が調査区外にあって確認できないため、全容は確認できないが、残存部は２×２間以上を測り、南側妻には下屋が付くことが分かる。棟方向はN35°Eを向く。

〔**柱穴の配置**〕　本建物の柱の配列の外周は、棟方向に長い長方形を呈する。略北西―南東に走行する３列の柱穴群からなる総柱の建物である。

なお、南西側のものは確認できなかったが、南側妻側柱から1.1m程の位置で、妻に対して平行に、下屋に伴う柱穴が掘削されていた。

〔**柱穴の形態及び規模**〕　柱穴のプランは、主柱はP26・76・78が楕円形、P77が隅丸方形、他は隅丸長方形を呈し、下屋に伴うP28は隅丸台形、P29は楕円形を呈する。また、掘削形態はいずれも井筒形で、P26・29・77は平底を呈し、78は尖形様、他の柱穴は丸底状を呈する。このうち、北東列のP79・80には静的荷重による塑性変形が見られ、P76・77・81もその可能性が見られた。

また、これらの塑性変形部のプランは、P79は隅丸長方形に近い楕円形、P76・77・80・81は隅丸正方形を呈し、その深さはP79が0.21m、P80が0.15mを測った。

〔**柱間**〕　本建物の柱間は、以下のように測った。

（桁間）

P26－P76：2.2m　　P76－P77：2.04m
P81－P78：2.08m　　P80－P79：2.03 m

（梁間）

P76－P81：1.74m　　P80－P81：1.77m
P77－P78：1.72m　　P78－P79：1.45m

（下屋柱間）

P28－P29：1.82m

桁間は2.03～2.2mを測り、その平均は2.09mを測る。梁間も1.45～1.77mと幅があり、その平均は1.67mを測る。

〔**上屋**〕　棟方向は、略北西－南東を向く総柱の掘立柱建物であり、高床式の建物であった可能性を有する。

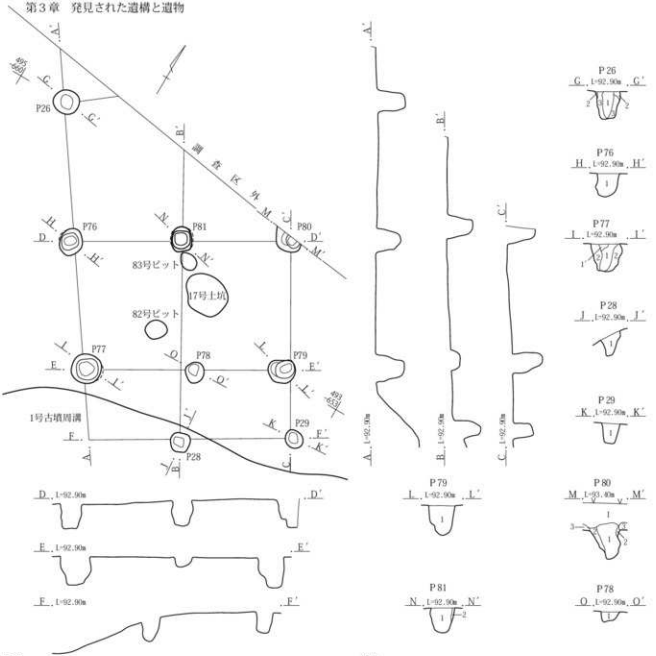
柱の径は土層断面や柱穴底面の塑性変形から、0.16～0.33mを測り、その形態は各柱状で、しっかりした構造の建物であったことが想定される。

また、下屋の存在から入口は南東側（妻側）に有ったものと想定される。

遺物　本建物からの出土遺物は得られなかった。

所見　本建物の時期は特定できなかったが、柱穴の規模や配置から推して古代の所産と想定される。

なお、本建物は倉庫と推定されるが、想定されるものも含め、柱穴底面の塑性変形の発生から推して、収納物は入口に近い位置に置かれていたものと推定される。



P26
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　やや砂質。上位にはやや黒褐色土に白色鉱物粒が入った土層がわずかに混じる。
2　黄褐色土(10YR5/6)　ロームブロックを含む。
3　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックとローム粒子を含む。

P28
1　暗褐色土(10YR3/4)　大小のロームブロックを含む。白色鉱物粒を少量含む。

P29・76
1　褐色土(10YR4/4)　やや砂質である。軟質上。径３～４mmの白色軽石(As-Cと思われる)を含む。As-B粒が少量入る。斑状に径５～30mmのロームブロックが入る。

P77
1　褐色土(10YR4/4)　やや砂質である。軟質上。径３～４mmの白色軽石(As-Cと思われる)を含む。As-B粒が少量入る。斑状に径５～30mmのロームブロックが入る。柱根。
1′　褐色土(10YR4/4)　径２mmのロームブロック粒がやや多く入る。
2　褐色土(10YR4/6)　ロームブロックが50%を占める混土層。

P78
1　褐色土(10YR4/4)　白色鉱物粒を含む黒色土ブロックが混入している。

P79
1　褐色土(10YR4/4)　やや砂質である。軟質上。斑状に径５～30mmのロームブロックが入る。径３～４mmの白色軽石(As-Cと思われる)・径２mmの赤褐色粒を含む。As-B粒が少量入る。

P80
I　黒褐色土(10YR3/2)　表土。やや砂質。締まりは悪い。As-Bを含む。
1　褐色土(10YR4/4)　やや砂質である。軟質上。径３～４mmの白色軽石(As-Cと思われる)を含む。斑状に径５～30mmのロームブロックを含む。As-B粒を少量含む。径２mmの赤褐色粒を微量に含む。
2　褐色土(10YR4/4)　やや砂質である。軟質上。径３～４mmの白色軽石(As-Cと思われる)を含む。斑状に径５～30mmのロームブロックを含む。As-B粒を少量含む。径２mmの赤褐色粒を微量に含む。ローム粒とロームブロックが多くなる。
3　ローム漸移層。

P81
1　褐色土(10YR4/4)　やや砂質である。軟質上。径３～４mmの白色軽石(As-Cと思われる)を含む。斑状に径５～30mmのロームブロックを含む。As-B粒が少量入る。
2　明黄褐色土(10YR6/8)　ローム漸移層二次堆積上。

第40図　１号掘立柱建物

0　1:60　2m

② **２号掘立柱建物**(第41図、PL.７)

概要　本建物は、主軸(棟方向)を略東西方向に取る掘立柱建物であるが、西側が調査区外に出るため、全容を把握することはできなかった。

また、本建物は総柱の建物として調査されているが、中央列の柱穴の径が南北両側列の柱穴に比して半分以下と小さく、そしてその掘削位置が若干西に寄るため、中央列の柱穴は床を支える束柱、あるいは本建物とは別の遺構である可能性も考慮される。

位置　本建物は調査区中北部にあり、O18～Q19グリッドに位置する。

重複　本建物は、南東側で１号古墳と重複し、本建物のほうが新しい。

なお、北東に１号掘立柱建物が近接してある。

覆土　本建物の柱穴は、黄橙色・にぶい黄褐色・褐色砂質土、ロームを含む暗褐色･黒褐色土で埋められている。

規模　残存範囲：4.9×4.8m

(北列)	P25	径：0.45×0.39m	深さ：0.62m
	P27	径：0.49×0.37m	深さ：0.64m
	P114	径：0.47×0.41m	深さ：0.58m
(中列)	P96	径：0.23×0.20m	深さ：0.14m
	P112	径：0.16×0.15m	深さ：0.11m
(南列)	P31	径：0.42×0.39m	深さ：0.53m
	P110	径：0.44×0.39m	深さ：0.51m
	P111	径：0.49×0.34m	深さ：0.41m
(関連)	P113	径：0.19×0.17m	深さ：0.23m

構造　上述のように、本建物は西側が調査区外に出ていたため、全容は確認できなかったが、残存規模は、中央列を主柱穴に加えた場合は２×２間、加えない場合は２×１間以上である。主軸の方向は(棟方向)はN85°Wを向く。

〔柱穴の配置〕　本建物の柱の配列は、南北に並ぶ略東西方向３列の柱穴列からなる。しかし、中央列の柱穴は、東側第１列のものは南北列より0.33m、第２列のものは0.32m西に寄った位置にある。

〔柱穴の形態及び規模〕　柱穴のプランは、P25・27が楕円形、P96・110～112が円形、P114が隅丸台形を呈する。掘削形態はいずれも井筒形で、P27・96・114が丸底状を呈し、P110は尖底、他は平底状を呈する。また、P110の底面には0.22×0.22m、深さ８cm、P114の底面には0.15×0.13cm、深さ３cmを測る塑性変形が見られる。P25・31の底面形態も、柱の当たり痕を反映しているものと思慮され、その径は、P25は0.16×0.14m、P31は0.14×0.12mを測る。

柱穴の径は0.15～0.49m、平均0.362mを測る。深さは0.11～0.64m、平均0.443mを測る。しかし、中央列のP96とP112は、他の柱穴に比べ規模が小さく、その径は0.15～0.23m、平均0.185mを測り、深さは0.11～0.14m、平均0.125mを測るのに対し、南北列の柱穴は径0.34～0.49m、平均0.421m、深さは径0.41～0.64m、平均0.548m径においては２倍強、深さは４倍強と大きな規模の違いがある。

〔柱間〕　本建物の柱間は以下の通り。

(桁間)

P110－P31：2.01m　P31－P111：1.90m
P112－P96：1.96m
P27－P114：1.89m　P114－P25：1.94m

(梁間)

P110－P112：2.63m　P112－P27：2.26m
P31－P96：2.46m　P96－P114：2.49m
P110－P27：4.84m　P31－P114：4.89m
P111－P25：4.84m
(P112－P113：3.81m)

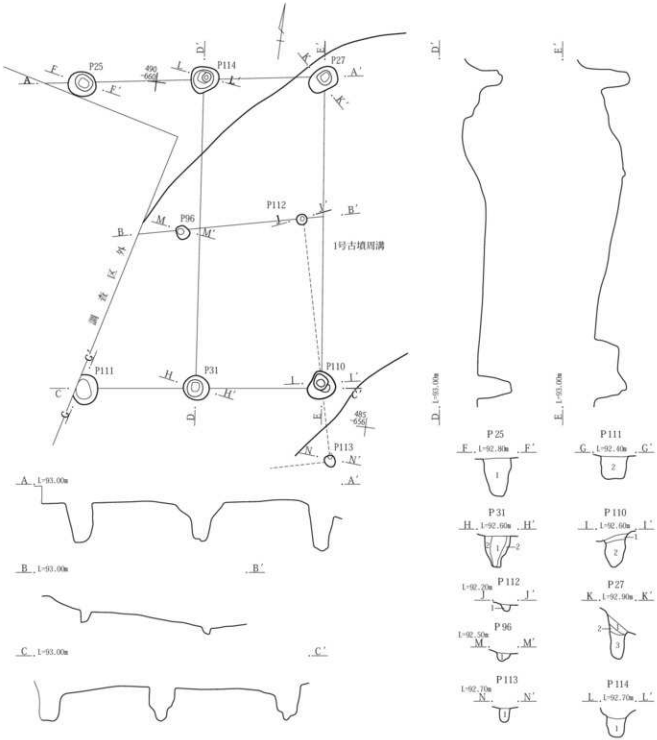
桁間は1.89～2.01m、平均は1.94mを測る。また梁間は中央列を加味したものでは2.26～2.63mで、平均は2.46mを測り、中央列が別遺構とした場合は、南北両列の梁間は4.84～4.89m、平均4.857mを測る。

〔上屋〕　柱は、柱穴底面の塑性変形の形状から推して、角柱を用いたものと思慮される。また柱材の径は、柱穴底面の塑性変形の測定値(0.12～0.22m、平均0.16m)から推して、0.16±0.04m(５寸±１寸)程であったものと推定される。

棟方向はN81°Eを向く。

遺物　本建物のピット25からは土師器甕片１点が出土したに過ぎない。

所見　本建物は、３列の柱穴列からなる総柱の建物として調査されたが、上述のように中央列の柱穴は、南北列の柱穴に対して、規模並びに掘削深度が浅く、その掘削位置も西側に若干寄り、またその走行も南北列に対して４°ほど反時計回りに傾いているため、中央列と南北列



P25
1　暗褐色土(10YR3/3)　褐色砂質土ブロックが斑に入る。砂質土(As-B)軽石粒、径２～３mmの白色鉱物(As-Cと思われる)が少量入る。
P27
1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子と径１cm未満のロームブロックを少量含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックを含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　黄褐色土ブロックを含む。ロームブロックを少量含む。
P31
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　やや砂質。上位にはやや黒褐色土に白色鉱物粒が入った土層が僅かに混じる。
2　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックとローム粒を含む。
P96
1　黄橙色土(10YR7/8)　ロームの二次堆積土。

P110・111
1　黄褐色土(10YR5/8)　ローム漸移層が黒褐色土を僅かに含む。二次堆積したと考えられる。
2　暗褐色土(10YR3/4)　軟質土。ロームとローム漸移層ブロックを少量含む。
P112
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　軟質土。ロームとローム漸移層ブロックを少量含む。
P114
1　暗褐色土(10YR3/3)　軟質土。ローム漸移層とロームブロックを少量含む。
P113（関連）
1　黄褐色土(10YR5/8)　軟質土。ローム漸移層を主とし、黒褐色ブロックを少量含む。

0　1:60　2m

第41図　２号掘立柱建物

は別遺構の可能性を有する。この場合南北列の建物は、棟柱を有しないいわゆる梁間一間型の建物ということになる。また中央列の建物は、南に傾いて掘削されているため樹木痕の可能性を有するＰ113を南東隅の柱穴とすれば、やはり梁間一間型の建物であった可能性を有する。

本建物の時期は特定できなかったが、柱穴の径は、南北列のものは古代的であるが、中央列のものは中世的であり、梁間一間型の建物である場合は中世の所産である。

４．古墳

①　１号古墳（第42～44図、PL．７・８・25）

概要　本古墳は、略南方向に開口部を持つ、横穴室石室を伴うと想定される円墳である。

全体に削平されて遺存状態は不良であり、石室も壊され、特に南側は周堀底面まで削平されている。また周堀西の一部は、調査区外に出て確認できなかった。

位置　本古墳は調査区中北部にあり、M14～Ｐ19グリッドに位置する。

重複　本古墳は、７号古墳と重複するが、本古墳の方が古い。また、１・２号掘立柱建物、１・２号溝、22・30・97・125～127ピットと重複するが、いずれに対しても本古墳の方が古い。

覆土　〔封土〕　ロームを含む黄褐色土。

〔周堀覆土〕　上位は暗褐色・黒褐色砂質土、下位はロームを含む黄褐色・明黄褐色土等で埋没する。

規模　〔全体規模〕　南北：残長19.7m

東西：残長22.5m

〔周堀〕　幅：4.02m　深さ：0.58m

〔墳丘〕　南北：残長10.9m　東西：残長17.3m

〔前庭〕　南北：4.30m　東西：4.36m

〔石室〕　全長：5.64m　全幅：3.40m

構造　〔墳丘〕　削平され、封土は殆ど遺存せず、最下部で明黄褐色土と黄褐色土が積まれていることが確認できたに過ぎない。残高は0.05mを測る。

〔周堀〕　上述のように全容は把握できなかったが、周堀は東－北－西を巡ることは確認された。

〔前庭〕　石室の開口部前に前庭が設けられる。しかし、前庭の東西両側は攪乱が入り、荒れているため全容は把握されなかったが、全体としては左右両側の確認面より0.3m以内に掘り込まれた状態で確認されている。

〔主体部〕　主体部は著しく破壊され、掘り方付近を確認したに過ぎない。

主軸方向はＮ８°Ｅを向く。

掘り方の平面形は北半が隅丸長方形、南半が楕円形のプランを呈し、南北5.8m、東西3.3m、掘削深度は0.6m程を測る。掘り方底面の中央北側から北壁に及ぶ東西1.35m、南北2.6mの範囲に、小礫の分布が見られた。また、北端部の主体部北端から0.3mと0.7mの範囲に、略東西方向に並ぶ２列の石列が確認されたが、このうち南側の石列の最も西寄りの幅0.2mを測る石列と、その東側にある幅0.26mを測る石列は顎止石の可能性を有する。

遺物　本古墳からは比較的多くの杯（１～５）や甕等の土師器や、少量の鏃（６）や甕片等の須恵器片などが出土した。このうち２～５は周堀から、１は石室部掘り方、６は同覆土中から出土した。この他、石室から鉄滓が出土し、一方、後世流入したガラス片も出土した。

また、近世以降の陶磁器類も混入している。

所見　出土遺物は８世紀前半の所産で、後世の混入と判断されるため、本古墳の時期は特定できなかった。

②　２号古墳（第45・46図、PL．８～10・26）

概要　本古墳は、略南方向に開口部を持つと想定される、横穴室石室を伴う円墳である。

古墳の南半部が調査区外にあるため、全容はつまびらかにできなかった。また、上位が削平され、遺存状態は良好ではなかった。

位置　本古墳は調査区中西部にあり、N23～Ｐ26グリッドに位置する。

重複　本古墳は、他遺構との重複は見られなかった。

覆土　〔封土〕　特定できなかった。

〔周堀覆土〕　黒色・褐色土、ロームで埋没する。

規模　〔全体規模〕　南北：(4.04)m　東西：7.17m

〔周堀〕　幅：2.42m　深さ：0.26m

〔墳丘〕　南北：(2.79)m　東西：5.7m　残高：－m

〔石室〕　残長：0.78m

（玄室）　長さ：(0.78)m　幅：0.7m　残高：0.56m

構造　〔墳丘〕　削平され封土は遺存しなかった。

〔周堀〕　周堀は、北半が確認できたに過ぎず、全容はつまびらかでない。また東側で0.45m以上途切れるが、これを除く北・西側に周堀が廻っている。

〔前庭〕　調査範囲外にあるため、有無を確認することはできなかった。

〔主体部〕　横穴室石室であり、主軸方向はＮ４°Ｅを向く。

東西2.6m、南北残長2.64m、深さ0.6mを測る、北端が弧状に突出する隅丸方形様のプランを呈する掘り方を有し、石室は、東西2.22m、南北残長3.47mの範囲で、0.02m程窪む。

玄室は上位が削平され、南側が調査区外に出るため、玄室奥側部分の検出にとどめた。調査範囲では、奥壁は幅0.4m程の二つの礫が弧状に配置され、左右両側壁は弱い胴張を呈する。西側は２段目の礫が確認される割石の乱石積みである。底面には小円礫が敷き詰められる。

遺物　本古墳では、少量の土師器・須恵器片が出土したが、周堀から土師器の杯（１）・甕（２）が出土した。また、石室から馬歯片の出土も見られた。

また、近世以降の陶磁器類の混入もあった。

所見　出土遺物は６世紀後半という時期を示すが遺構から推して７世紀の所産であり、７世紀後半での追善供養の可能性が考慮される。

③　**３号古墳**（第47図、PL.10・11・26）

概要　本古墳は円墳である。

過半が調査区外にあるため、北側の一部が遺存するに過ぎず、上位が削平され、遺存状態は不良であった。

位置　本古墳は調査区中西部南端部にあり、Ｊ26～Ｌ30グリッドに位置する。

重複　本古墳は、８号住居と重複するが、新旧関係は出土遺物では判断できなかった。

覆土　〔封土〕　遺存しなかった。

〔周堀覆土〕　黒・褐色土、ローム等で埋没する。最上層にAs-Bが混入する。

規模　〔全体規模〕　南北：(7.2)m　東西：(18.8)m

〔周堀〕　幅：3.0m　深さ：0.58m

〔墳丘〕　径：推定13.4m

構造　〔墳丘〕　削平され封土は遺存しない。

〔周堀〕　確認範囲では途切れていない。また、底面の西部、北部西寄り、及び東部で0.14～0.31m程掘り窪みがある。特に東部のものは２段に落ちている。

〔前庭・主体部〕　南側調査区外に想定される。

遺物　周堀等から少量の土師器杯（１・２）・甕片と、須恵器甕片１点が出土した。

所見　本古墳の時期は特定できないが、出土遺物は６世紀後半を示すが、遺構等から７世紀代の所産の可能性が考えられる。

④　**４号古墳**（第48・49図、PL.11・26）

概要　本古墳は、南側に開口部を有する横穴式石室を伴う、円墳とみられる古墳である。

本古墳は石室の右側羨門付近と前庭の一部、及び東側の周堀の一部が依存できたに過ぎず、全容は詳かにできなかった。

位置　本古墳は調査区東南部西寄りにあり、Ｇ10～Ｉ13グリッドに位置する。

重複　本古墳は、他遺構との重複はなかった。

覆土　〔封土〕　東部下位には削り出しのロームが確認されたのみで、封土の所見は得られなかった。

〔周堀覆土〕　褐色・暗褐色・黒褐色土、ローム等で埋没する。上位層にはAs-Bが混入する。

規模　〔全体規模〕　南北：(11.84)m
東西：(21.7)m

〔周堀〕　幅：13.91m　深さ：0.47m

〔墳丘〕　東西：推定8.6m　残高：－m

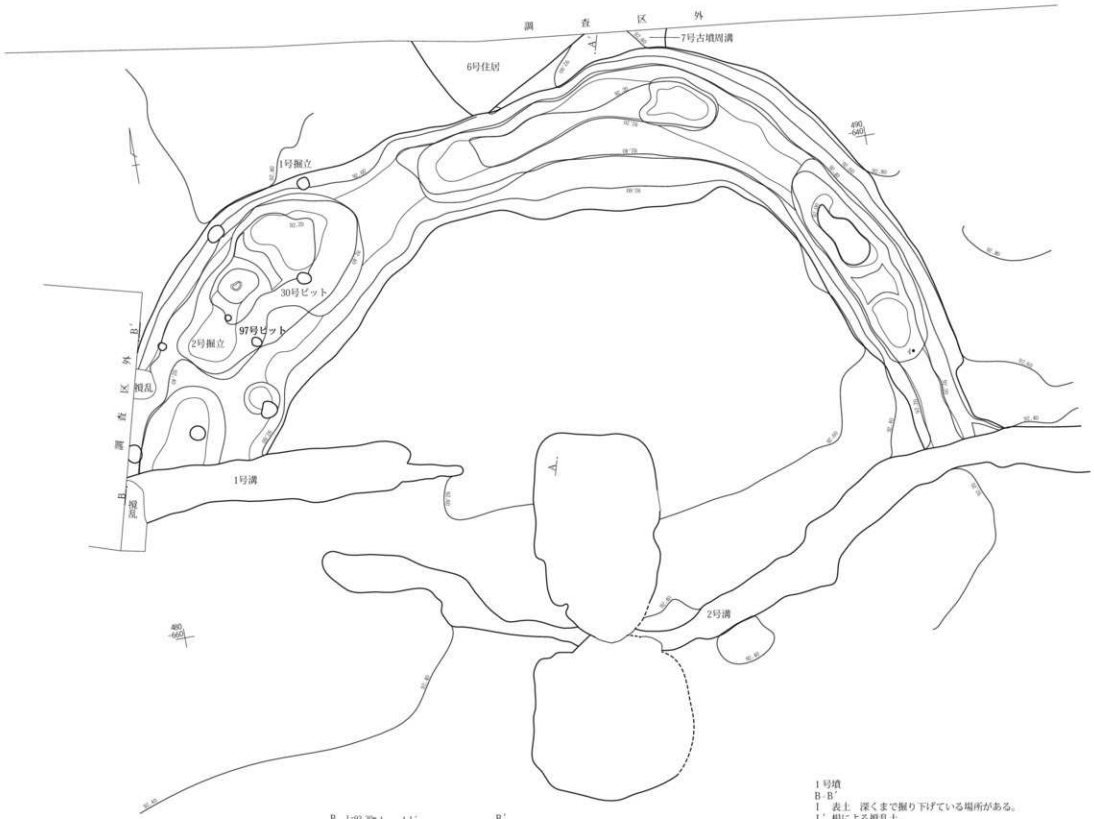
〔前庭〕　南北：(1.46)m　東西：(8.0)m

〔羨道〕　南北：残長1.09m　東西：－m

構造　〔墳丘〕　基底のローム層を除き、封土は削平され、確認することはできなかった。なお、周堀の形状から推して、本古墳の墳丘は、円墳であったものと想定される。

〔周堀〕　周堀は、東部の一部が確認されたに過ぎなかった。この周堀は、幅員がかなり広いため、あるいは肩部が崩落した可能性が考えられる。

〔前庭〕　後述の羨門前に、前庭が確認されたが、前庭の西半、南部の過半は攪乱により失われ、北東部は調査区外に出るため、確認範囲は限定的であった。なお、確認範囲の底面には小礫が敷かれ、羨門東側の右袖垣（石積）、及びA－A′の断面の東寄りの西側下位より東側上位へ弧状に積み上げられる石積みの状況から推して、右袖垣か

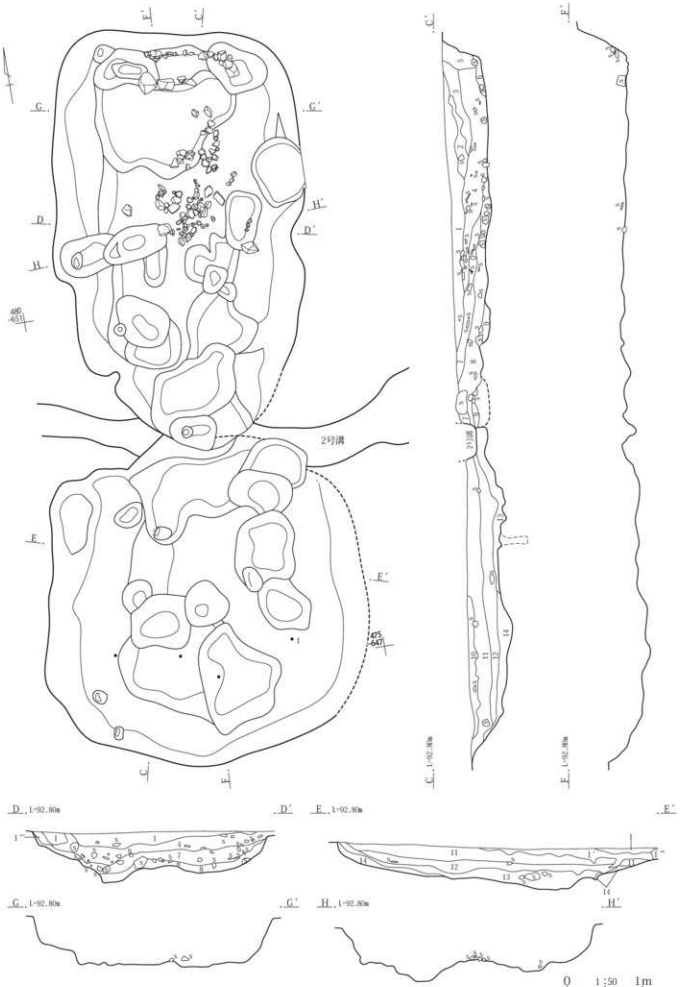


第42図　1号古墳

1号墳
A-A'
1　暗褐色砂質土(10YR3/3) As-B粒、径2～20mmの黄白色As-C粒を微量に含む。
2　黒褐色砂質土(10YR2/3) 径2～5cm黄褐色土ブロックを少量含む。径2～20mm黄白色As-C粒を微量に含む。
3　黄褐色土(10YR5/6) 径1～2mmの白色軽石粒とローム小粒を微量に含む。
4　明黄褐色土(10YR6/8) 漸深面付近は若干暗い。ロームブロック十、下位は軟質のローム層が堆積している。

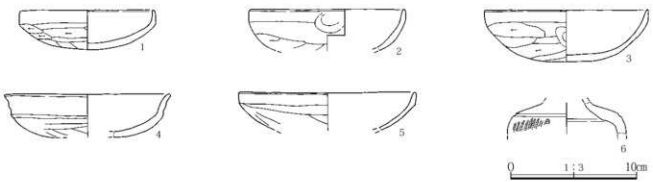
0　1:100　2m

1号墳
B-B'
1　表土　深くまで掘り下げている場所がある。
1'　根による撹乱土。
1　褐色砂質土（10YR4/4）As-B粒を含む。
2　黒褐色土（10YR2/2）　径5～20mmのロームブロックと、径2mm以下の白色軽石粒を微量に含む。
3　黄褐色土（10YR5/8）　ローム漸移層。
4　明黄褐色土（10YR6/8）ローム層。
4'　明黄褐色土　ロームブロック土。二次体積土。



第43図　1号古墳石室・前庭掘方

１号墳石室・前庭部
1　明黄褐色土(10YR6/6)　径５㎜のロームブロックを多量に含む。(土地改良時の客土)
1′黒褐色土(10YR3/2)　一層に類似するが、上位からの影響をうけて、上が不安定な堆積状況を呈す。(土地改良時の客土)
1″明黄褐色土(10YR6/8)　ロームブロック土を多量に含む。(土地改良時の客土)
1　黒褐色砂質土(10YR3/1)　As-B粒、ロームブロック、黒色土ブロックが斑状に入る。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　径２～20㎜のロームブロックを含む。角礫やや丸みをもつ。
3　黒色砂質土(10YR2/1)　As-B粒、ロームブロック、褐色土を含む。
4　黄褐色土(10YR5/6)　径２㎝のロームブロックとローム粒、５～10㎝大の角礫、円礫を含む。
5　褐色土(10YR4/5)　ロームの二次堆積土。
6　褐色土(10YR4/4)　ローム粒・ブロックを含む。
7　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　７～８㎝の円礫、角礫を多量に含む。
8　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　７～８㎝の円礫、角礫を少量含む。ロームブロックを微量に含む。
9　明黄褐色土(10YR6/8)　ローム層。
10　黒色砂質土(10YR2/1)　径１㎜以下のAs-Bを含む。As-Cと思われる径１～２㎜の白色軽石を微量に含む。サラサラ土。
11　褐色土(10YR4/6)　径１㎜以下As-B粒と径１～２㎜のAs-C白色鉱物粒を含む。
12　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　軟質土。砂状のAs-Bとローム粒子、径３～20㎜のロームブロックを少量含む。
13　黒褐色土(10YR2/3)　軟質土。径２～40㎜のロームブロックを斑状に少量含む。
14　明黄褐色土(10YR7/6)　ローム層の２次堆積物。部分的に固いロームブロックを含む。



第44図　１号古墳出土遺物

ら右翼垣にかけての石積みの設置が想定される。また、左側は確認できなかったが、右側と同様の構造を成していたものと推定される。

なお、後世、石室構築石材を前庭へ掻き出していることが確認された。

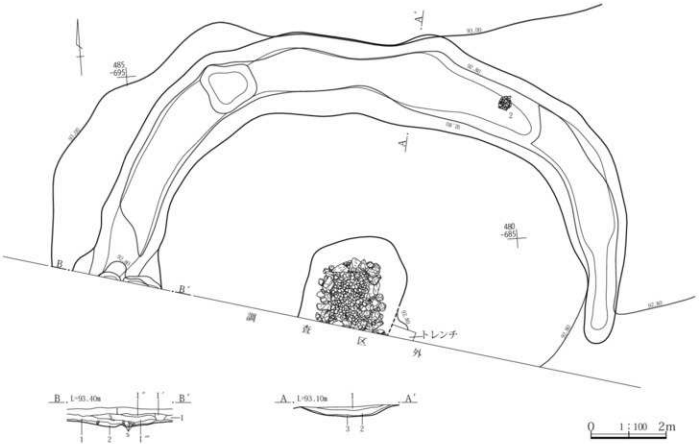
〔**主体部**〕　主体部は横穴室石室であり、南側に開口する。

玄室は、攪乱により破壊されており、確認することはできなかった。

羨道は、右側面の積み石が僅かな範囲で確認できたに過ぎなかった。また、羨門の東には、幅0.57m、奥行き0.33m、高さ0.65mを測る割石が立てられている。羨道は軸線をおよそＮ０°に取り、側壁は根石の上に２段の輝石安山岩が積まれ、その残高はおよそ0.5mを測る。

遺物　本古墳からは、少量の土師器、須恵器片が出土した。このうち、前庭部からは土師器杯(１)、須恵器長頸壺(３)と長頸壺の可能性を持つ須恵器片(４)、前庭部に相当する位置の攪乱からは長頸壺と見られる須恵器片(２)が出土した。

所見　本古墳の時期は特定できなかった。また、出土遺物から推して、７世紀後半に追善供養が行われた可能性が考慮される。



２号墳Ａ－Ａ'

1　黒色土(10YR2/1)　As-Bの砂質土中に斑状に褐色の砂質土を含む。As-Cと思われる径２～５mmの白色軽石を微量に含む。

2　褐色土(10YR4/6)　ローム層に１層の黒色土を微量に含む。

3　黄褐色土(10YR5/8)　粘性あり。ロームの二次堆積土。

２号墳Ｂ－Ｂ'

Ⅰ　表土層

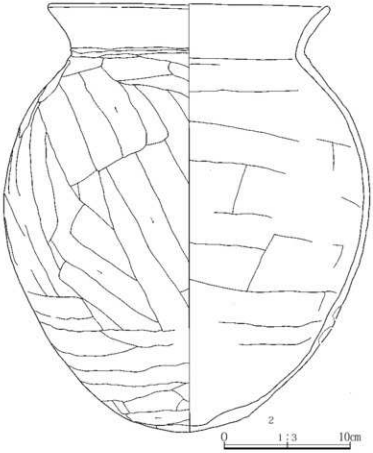
Ⅰ'　暗褐色土　撹乱層。上層からの掘り込み土？

Ⅰ''　褐色土　撹乱層。ロームブロックを含む。

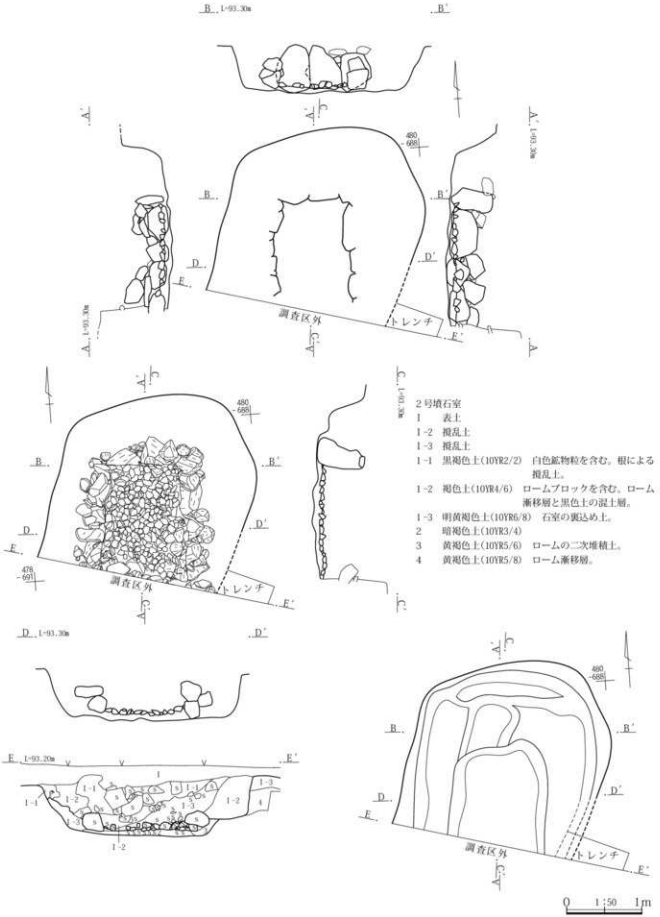
Ⅰ'''　黒褐色土(10YR2/3)　撹乱層。褐色砂質土ブロックを含む。上位からの圧力がかかっており、不安定な堆積状況を呈す。古墳周堀復土。

1　黒色土(10YR2/1)　褐色砂質土とAs-B軽石粒に角礫を含む。

2　褐色土(10YR4/6)　軟質土。ローム漸移層。



第45図　２号古墳と出土遺物



２号墳石室

1　表土

1-2　撹乱土

1-3　撹乱土

1-1　黒褐色土(10YR2/2)　白色鉱物粒を含む。根による撹乱土。

1-2　褐色土(10YR4/6)　ロームブロックを含む。ローム漸移層と黒色土の混土層。

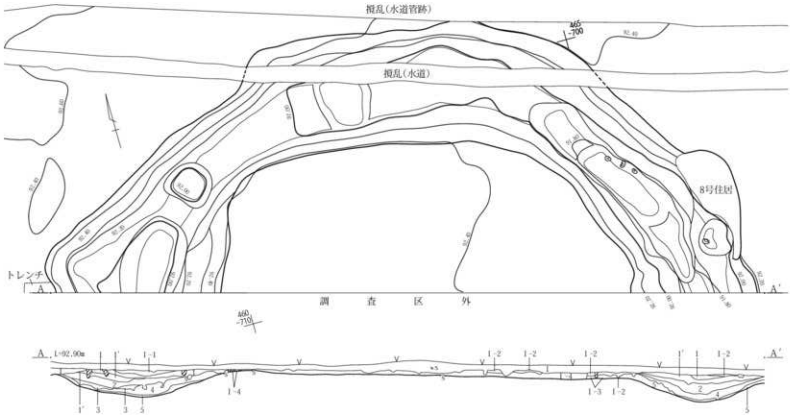
1-3　明黄褐色土(10YR6/8)　石室の裏込め土。

2　暗褐色土(10YR3/4)

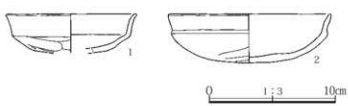
3　黄褐色土(10YR5/6)　ロームの二次堆積土。

4　黄褐色土(10YR5/8)　ローム漸移層。

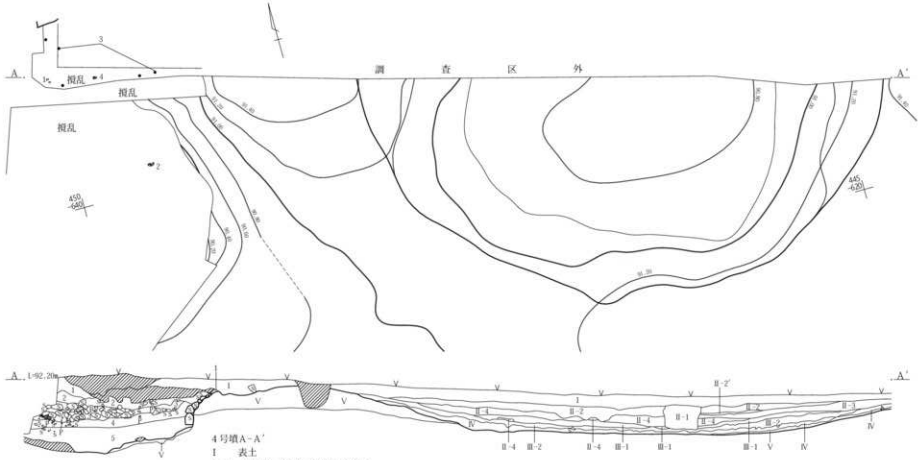
第46図　２号古墳石室



3号墳
1　表土（現地表）
1-2　土地改良時の客土
1-3　土地改良時の客土
1-4　撹乱土　上層からの掘り込み内に堆積した土。
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　軟質土。ローム粒子とAs-B粒を微量に含む。
1'　黒褐色土(10YR3/2)　軟質土。As-B火山灰の小ブロックを含む。ローム粒、As-B・粒を微量に含む。
2　黒褐色土(10YR2/2)　軟質土。ローム粒子を含む。径2mmAs-C粒・ロームブロックを少量含む。
3　褐色土(10YR4/4)　ローム粒子を含む。
4　黄褐色土(10YR5/8)　ローム粒子とロームブロック、白色鉱物粒を少量含む。
5　明黄褐色土(10YR6/8)　ロームが流れ込んで堆積したと考えられる。



第47図　3号古墳と出土遺物



4号墳A－A'

Ⅰ　表土

Ⅱ－1　撹乱土。(新しく掘られた穴)

Ⅱ－2　褐色土(10YR4/6)　軟質土。ロームブロックを含む。径5～10cmの角礫を少量含む。

Ⅱ－2'　褐色土(10YR4/6)　軟質土。ロームブロックを含む。径5～10cmの角礫を少量含む。砂質土を微量に含む。

Ⅱ－3　褐色土(10YR4/4)　軟質土。As-B粒と黄褐色ローム粒を微量に含む。

Ⅱ－4　暗褐色土(10YR3/3)　軟質土。As-B粒、黄褐色ロームブロックを含む。白色鉱物粒を微量に含む。

Ⅲ－1　黒褐色土(10YR3/2)　白色鉱物粒、径1mm以下の黄橙色ローム粒を少量含む。上位にAs-B粒微量に含む。

Ⅲ－2　褐色土(10YR4/6)　軟質土。黒褐色土・ローム粒・黄橙色粒を含む。

Ⅳ　明黄褐色土(10YR6/8)　黒褐色土と白色鉱物粒を含む。ロームの二次堆積層。

Ⅴ　明黄褐色土(10YR7/6)　ローム層。

1　黄褐色土(10YR5/6)　径5mmのロームブロックを微量に含む。崩れた石室構築石材が混入する。

2　にぶい褐色土(10YR4/3)　径2cmの褐色土ブロックとローム粒を少量含む。崩れた石室構築石材が混入する。

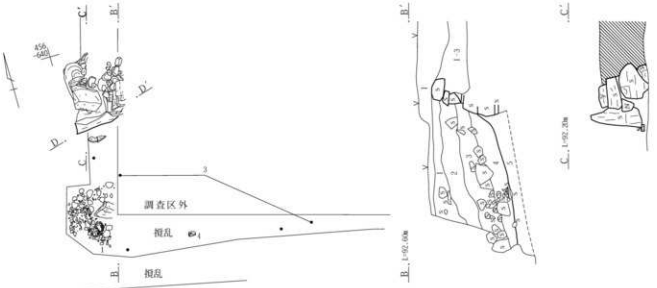
3　暗褐色土(10YR2/3)　径2cmの褐色土ブロックとローム粒を少量含む。崩れた石室構築石材が多く混入する。

4　黒色土(10YR2/1)　径2cmの褐色土ブロックを斑点上に少量含む。崩れた石室構築石材が混入する。

5　黄褐色土(10YR5/8)　軟質土。前庭部に掻き出され堆積した石材下層のロームを含む。

撹乱

第48図　4号古墳



4号墳B－B'

1　表土

I－3　石室部分は広く、深く掘削を受けた後、ロームブロック混じりの土で埋められており、石室の羨門付近の一部のみが確認できた。

1　黄褐色土(10YR5/6)　径５mmのロームブロックを微量に含む。崩れた石室構築石材が混入する。

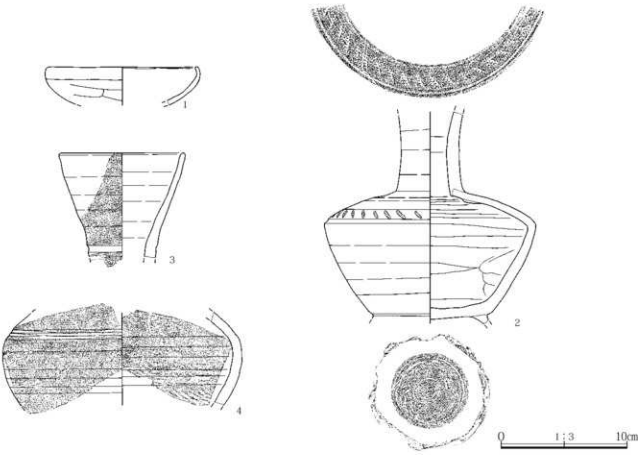
2　にぶい褐色土(10YR4/3)　径２cmの褐色土ブロック・ローム粒を少量含む。崩れた石室構築石材が混入する。

3　暗褐色土(10YR3/3)　径２cmの褐色土ブロックとローム粒を少量含む。崩れた石室構築石材が多く混入する。

4　黒色土(10YR2/1)　径２cmの褐色土ブロックを斑点状に少量含む。崩れた石室構築石材が混入する。

5　黄褐色土(10YR5/8)　軟質上。前庭部に掻き出され堆積した石材下層のロームを含む。

0　1:50　1m



第49図　4号古墳石室と出土遺物

⑤　**５号古墳**(第50図、PL.11)

概要　本古墳は、円墳である。

しかし、遺存状態が悪く、周堀の一部を調査できたに過ぎなかった。

位置　本古墳は調査区中西部西北隅部にあり、R32～T34グリッドに位置する。

重複　本古墳は、他遺構との重複はなかった

覆土　〔**封土**〕　基底部に明黄褐色二次堆積ロームが認められたが、封土は殆ど失われ、把握できなかった。

〔**周堀覆土**〕　黒色・褐色土、黄褐色ローム等で埋没し、上位に堆積するにぶい黄褐色・黒褐色等にAs-Bを含むため、中世以降まで周堀の痕跡が確認されていたことが分かる。

規模　〔**全体規模**〕　南北：残長6.28m

東西：残長7.4m

〔**周堀**〕　幅：(3.38)m　深さ：0.59m

〔**墳丘**〕　南北：残長2.9m　東西：残長2.98m

構造　〔**墳丘**〕　削平され封土は遺存しなかった。

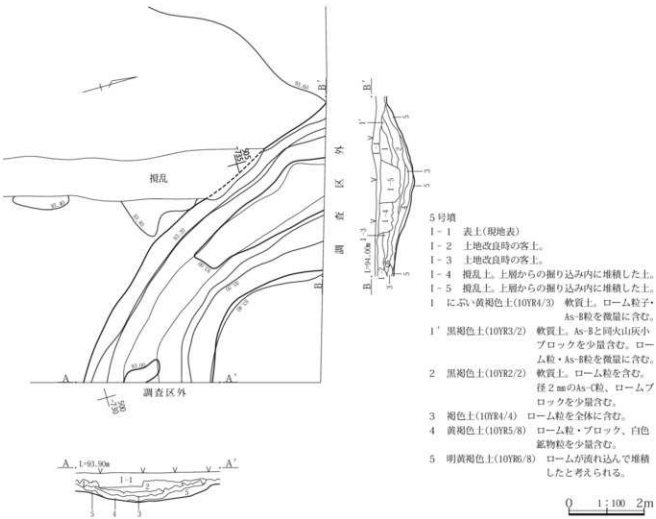
〔**周堀**〕　周堀は南西部の一角を調査できたに過ぎなかった。

周堀の掘削形態は箱堀状を呈し、南西部で幅員が１m程(2.6m)減少する。

〔**前庭・主体部**〕　前庭は確認されなかった。また、主体部は北東側調査区外にあるものと想定され、確認できなかった。

遺物　本古墳からは少量の土師器片が出土した。

所見　本古墳の時期を特定することはできなかった。



第50図　５号古墳

⑥　**６号古墳**(第51図、PL.12)

概要　本古墳は、確認範囲の遺構の状態から推して、円墳と想定される古墳であり、周堀の南端付近を調査できたに過ぎなかった。

また、本古墳の大部分は北側調査区外にあり、上位が削平されているため、全容はつまびらかにできなかった。

位置　本古墳は調査区中西部北寄りにあり、P22～Q25グリッドに位置する。

重複　本古墳は、他遺構との重複はなかった。

覆土　〔**封土**〕　基底部に黄褐色土等の遺存が見られたのみである。

〔**周堀覆土**〕　黒褐色・褐色土、ローム等で埋没する。上位のにぶい黄褐色・黒褐色土にAs-Bを含まれるため、周堀の痕跡が中世以降まで残されていたことが窺われる。

規模　〔**全体規模**〕　南北：残長4.75m

東西：残長12.11m

〔**東側周堀**〕　幅：6.46m　深さ：0.51m

〔**西側周堀**〕　幅：3.58m　深さ：0.59m

構造　〔**墳丘**〕　削平により封土は遺存しなかった。

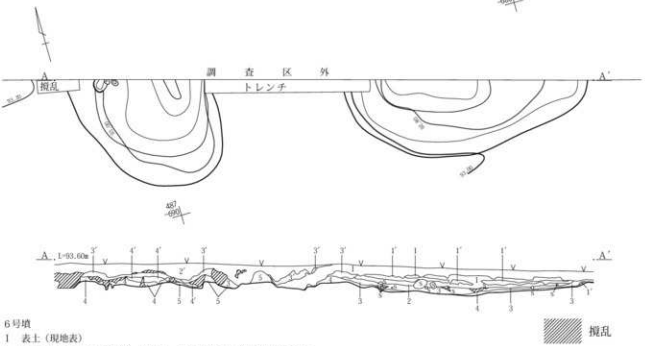
〔**周堀**〕　3.35m隔てて、東西両側に周堀の南端部が遺る。

〔**前庭**〕　上述の周堀と周堀の空隙部分から推して、前庭部が存在した可能性が考慮される。

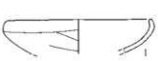
〔**主体部**〕　主体部は北側調査区外にあるため、確認できなかった。

遺物　本古墳からは少量の土師器杯(１)・甕片が出土している。

所見　本古墳の時期は特定できなかった。また、出土遺物から推して、７世紀後半の追善供養の可能性が考慮される。



６号墳
1　表土（現地表）
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　軟質土。ローム粒・As-B粒を微量に含む。
1'　黒褐色土(10YR3/2)　軟質土。As-B軽石と同火山灰の小ブロックを少量含む。ローム粒子・As-B粒を微量に含む。
2　黒褐色土(10YR2/2)　軟質土。ローム粒を含む。径２㎜As-C粒・ロームブロックを少量含む。
2'　表土(撹乱土)
3　褐色土(10YR4/4)　ローム粒を全体に含む。
3'　褐灰色土(10YR4/1)　攪乱土。ロームブロック、黒色土、石を含む。
4　黄褐色土(10YR5/8)　ローム粒・ブロック、白色鉱物粒を少量含む。
4'　黒褐色土(10YR2/2)　攪乱土。ロームブロック、石を含む。
5　明黄褐色土(10YR6/8)　ロームが流れ込んで堆積したと考えられる。



第51図　６号古墳と出土遺物

⑦　**７号古墳**（第52図、PL.12）

概要　本古墳は、確認範囲の遺構の遺存状態から推して、円墳と想定される古墳である。

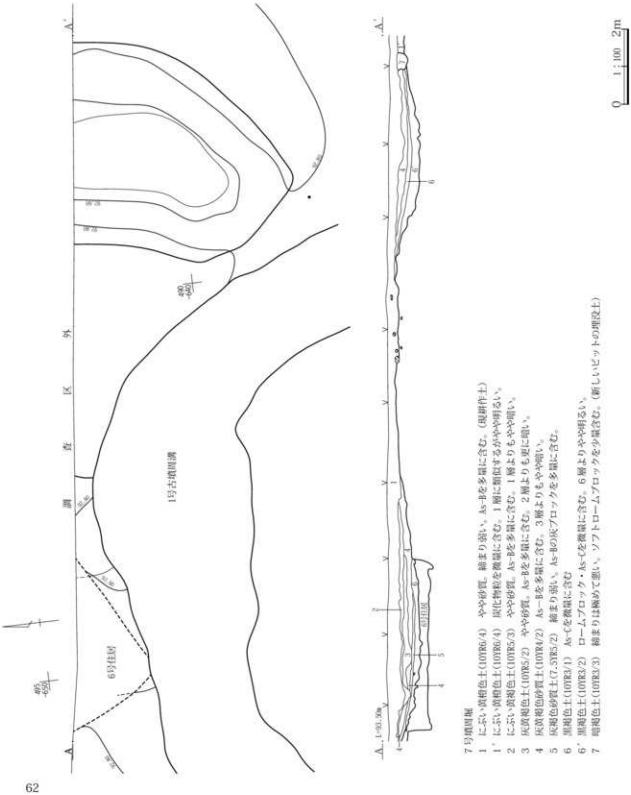
本古墳は周堀の南端部が確認できたに過ぎず、また上位が削平されていたため、全容をつまびらかにすることはできなかった。

位置　本古墳は調査区中北端部にあり、Ｐ13～Ｑ15グリッドに位置する。

重複　本古墳は、６号住居、１号古墳と重複するが、６号住居に対して本古墳の方が新しく、１号古墳に対して本古墳の方が新しい。

覆土〔**封土**〕　確認できなかった。

〔**周堀覆土**〕　黒褐色土と若干のロームで埋没し、上位はAs-Bを含む灰黄褐色・灰褐色土が堆積し、中世段階まで



7 号墳周堀
1　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　やや砂質、締まり強い、As-Bを多量に含む。(現耕作土)
1'　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　固化物粒を微量に含む。1層に類似するがやや明るい。
2　にぶい黄橙色土(10YR5/3)　やや砂質、As-Bを多量に含む。1層よりもやや暗い。
3　灰黄褐色土(10YR5/2)　やや砂質、As-Bを多量に含む。2層よりも更に暗い。
4　灰黄褐色砂質土(10YR4/2)　As-Bを多量に含む。3層よりもやや暗い。
5　灰褐色砂質土(7.5YR5/2)　締まり強い、As-B小炭ブロックを多量に含む。
6　黒褐色土(10YR3/1)　As-Cを微量に含む
6'　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロック・As-Cを微量に含む。6層よりやや明るい。
7　暗褐色土(10YR3/3)　締まりは極めて悪い、ソフトロームブロックを少量含む。(新しいピットの埋没土)

第52図　７号古墳

周堀の痕跡が残されていたものと思慮される。

規模　〔全体規模〕　南北：残長5.8m

東西：残長17.31m

〔東側周堀〕　幅：6.46m　深さ：0.45m

〔西側周堀〕　幅：5.28m　深さ：0.31m

構造　〔墳丘〕　墳丘は削平され、確認することはできなかった。

〔周堀〕　周堀はその南端部が確認できたに過ぎず、全容は把握されない。また、東西両周堀は6.2m以下の間隔を以て隔てられる。掘削形態は箱堀状を呈する。

〔前庭〕　東西の周堀の空隙部分から推して、前庭部が存在した可能性がある。

〔主体部〕　主体部は調査区外にあると想定される。

遺物　出土遺物は得られなかった。

所見　本古墳の時期は特定できないが、重複する6号住居の時期から、おおむね7世紀前半の所産と想定される。

⑧　8号古墳(第53～56図、PL.12～14・26)

概要　本古墳は、略南方向に開口部を持つ、両袖形横穴室石室を伴う円墳である。

古墳の南東側が調査区外にあり、また削平により遺存状態が不良であったため、周堀の北東の一部と石室、及び前庭の一部を調査できたに過ぎなかった。

位置　本古墳は、調査区中北部やや東寄りにあり、O11～P14グリッドに位置する。

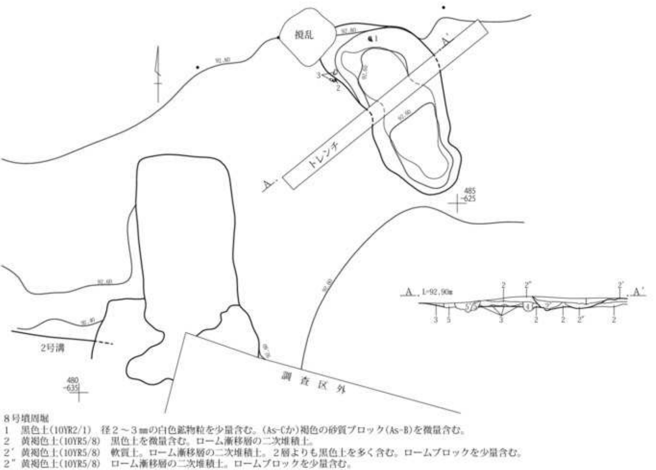
重複　本古墳は、9号住居、1・7・9号古墳、2号溝と重複し、2号溝よりは古いが、1・7・9号古墳、9号住居との新旧関係は特定できなかった。

覆土　〔封土〕　確認できなかった。

〔周堀覆土〕　およそ黄褐色・黒褐色土で埋没すると思われる。

規模　〔全体規模〕　南北：残長9.52m

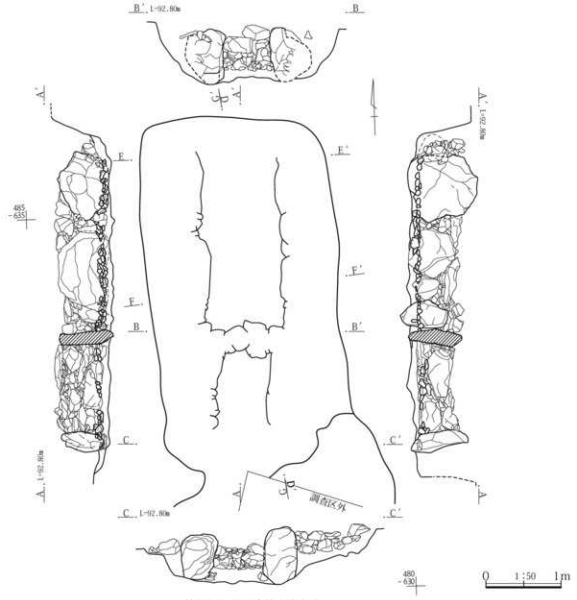
東西：残長8.65m



8号墳周堀
1　黒色土(10YR2/1)　径2～3㎜の白色鉱物粒を少量含む。(As-Cか)褐色の砂質ブロック(As-B)を微量含む。
2　黄褐色土(10YR5/8)　黒色土を微量含む。ローム漸移層の二次堆積土。
2′黄褐色土(10YR5/8)　軟質土。ローム漸移層の二次堆積土。2層よりも黒色土を多く含む。ロームブロックを少量含む。
2″黄褐色土(10YR5/8)　ローム漸移層の二次堆積土。ロームブロックを少量含む。
3　明黄褐色土(10YR6/8)ローム漸移層。
4　黄褐色土(10YR5/6)　軟質土。径5～10㎜のロームブロックを少量含む。
5　黄褐色土(10YR5/6)　ロームブロックを多量に含む。上からの掘り込みで新しい土と思われる撹乱土。
5′暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックを多量に含む。上からの掘り込みで新しい土と思われる撹乱土。

0　1：100　2m

第53図　8号古墳



第54図　８号古墳石室（１）

〔周堀〕 幅：2.31m　深さ：0.3m

〔墳丘〕 径：残存7.32m　残高：－m

〔前庭〕 南北：(1.5)m　東西：(8.85)m

〔石室〕 全長：4.04m

〔主体部〕 主体部は両袖形の横穴室式石室。

（玄室） 長さ：2.28m　幅：0.96m　残高：1.08m

（羨道） 長さ：1.54m　幅：0.72m　残高：1.24m

構造　〔墳丘〕 墳丘は削平され、封土は遺存しなかった。

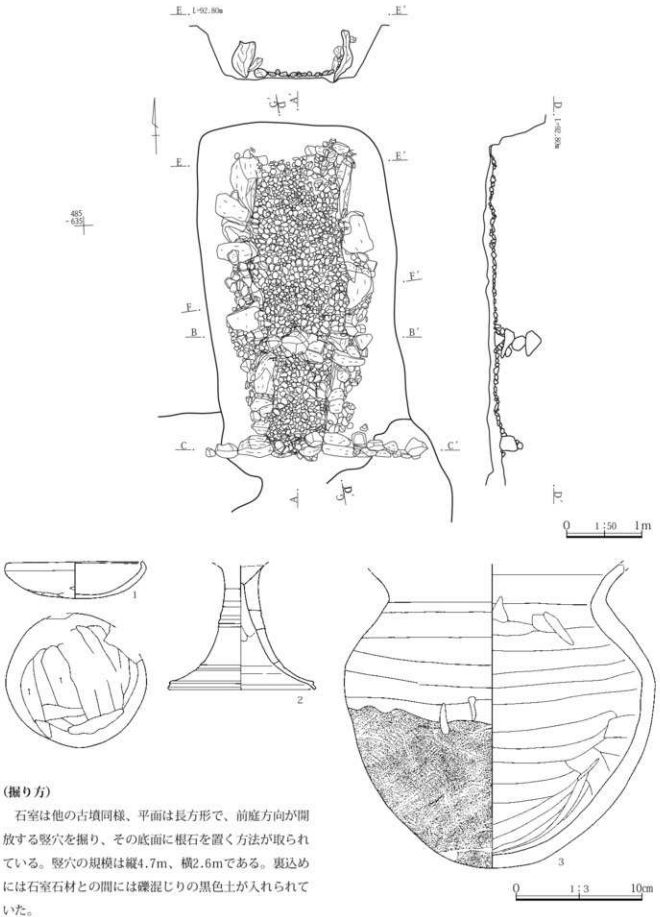
〔周堀〕 周堀は北東部の一部を確認したに過ぎず、全容はつまびらかにできなかった。また、周堀の掘削形態は箱堀状を呈す。

〔前庭〕 石室の開口部前に設けられる。左に0.92m、右1.4mの範囲で袖垣が見られる。

玄室は奥壁を欠く。左右両側壁のラインは、やや膨らみを有するものの直線であり、玄室の平面形は縦長に近い。側壁の石材の配置を見ると、根石に比較的大型の礫を据えている。左壁は横幅１m前後の礫を据え、間隙に小礫を詰め込み、礫の上端が水平になるよう調整している。右壁は、一番奥壁寄りに縦0.85m、横0.2mの礫が置かれ、羨道寄りには二石やや小振りの礫が配されている。羨道は、開口部と玄室入り口に板状の礫を立て、それぞれ羨門、玄門を意識した構造をとっている。

羨道左右の側壁は大小の礫を積み上げ、企画性のとぼしい状況にあった。

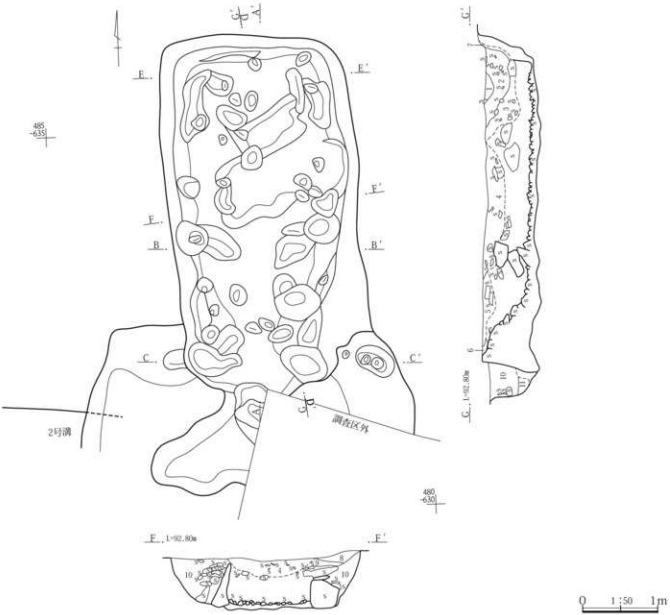
羨門には左に幅0.48m、奥行き0.28m、高さ0.6m、右に幅0.46m、奥行き0.1m、高さ0.76mを測り、前面を整えた羨門を意識した用石が建つ。底面には小礫が敷かれる。



（掘り方）

石室は他の古墳同様、平面は長方形で、前庭方向が開放する竪穴を掘り、その底面に根石を置く方法が取られている。竪穴の規模は縦4.7m、横2.6mである。裏込めには石室石材との間には礫混じりの黒色土が入れられていた。

第55図　８号古墳石室（２）と出土遺物



８号墳主体部

1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　10cm前後の崩れた角礫を少量含む。石室構築材を含む。

2　黄褐色土(10YR5/6)　径１mm以下のローム粒・白色鉱物粒・径10cm前後の崩れた角礫を少量含む。白色粘土ブロックを微量に含む。

3　黄褐色土(10YR5/6)　５～20cm大の角礫を少量含む。径２～10cmのロームブロック・白色粘土ブロックを微量に含む。

4　黄褐色土(10YR5/6)　礫を多量に含む。円礫、角礫を含む。石室の壁構築石も崩れて混入している。

5　暗褐色土(10YR3/4)　やや角のとれた７～８cm大の角礫を多量に含む。径２～10mmのロームブロック、溝道部の閉塞部分に入れられた礫を含む。

6　暗褐色土(10YR3/4)　径１cm以下のロームブロックを多量に含む。大きなロームブロックも含む。

7　明黄褐色土(10YR6/8)　ロームの二次堆積土。

8　褐色土(10YR4/4)　ローム粒と白色鉱物粒を含む。

9　明黄褐色土(10YR6/8)　ロームブロックを多量に含む。二次堆積土。

10　黒色土(10YR2/1)　径１mm以下のAs-B粒を含む。斑状の褐色砂質ブロックと１～２mmのローム粒を全体に微量含む。前庭部覆土。

11　黄褐色土(10YR5/8)　ロームブロック・粒を多量に含む。前庭部覆土。

第56図　８号古墳石室掘り方

遺物　土師器片と少量の須恵器片が出土したが、このうち周堀からは土師器杯(１)、須恵器高杯(２)・広口壺(３)の出土が見られた。近現代の土器類の混入も見られた。

所見　本古墳の時期は、出土遺物から推して７世紀前半期であり、７世紀後半期に追善供養が行われた可能性が考慮される。

⑨　**９号古墳**(第57図、PL.14)

概要　本古墳は、墳丘の位置で須恵器片が出土したことから、方墳と認識され、調査された。

周堀の北西隅部が調査されたに過ぎなかった。また、上位が削平されていた。

位置　本古墳は調査区中東部北寄りにあり、N11～O12グリッドに位置する。

重複　本古墳は９号住居、８号古墳と重複するが、９号住居よりは新しく、８号古墳との新旧関係は特定できなかった。

覆土　〔**封土**〕　墳丘は確認されず、最下部ににぶい黄橙色・黒褐色土とロームが入る。

〔**周堀覆土**〕　明黄褐色土で埋没する。

規模　〔**全体規模**〕　南北：残長4.8m

東西：残長4.44m

〔**周堀**〕　幅：1.02m　深さ：0.52m

〔**墳丘**〕　南北：(3.88)m　東西：(3.38)m

残高：－m

構造　〔**墳丘**〕　削平され封土は遺存しなかった。

〔**周堀**〕　周堀は北西隅部のみが遺存しているため、全容はつまびらかでない。主軸方向はＮ１°Ｅを向く。

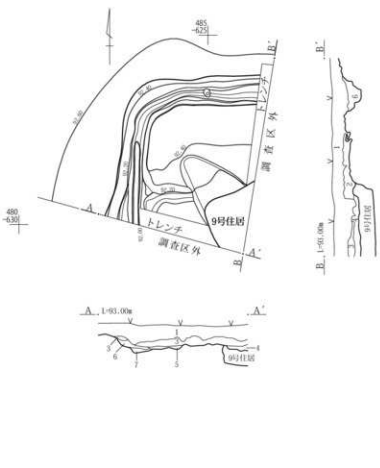
掘削形態は壁が開く。

〔**前庭・主体部**〕　前庭・主体部は南東あるいは南南東方向の調査区に想定されるものの、確認することはできできなかった。

遺物　調査担当より須恵器片の出土が報告されているが、現段階でこの須恵器片を特定できない。

所見　本古墳の時期は、特定できなかった。

なお、周堀覆土にAs-Bの流入が記録されている。



９号墳

1　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　やや砂質。しまりは悪い。As-Bを多量に含む。ロームブロック・粒を微量に含む。(現耕作土)

2　にぶい黄橙色土(10YR6/4)　しまりは弱い。ロームブロックを薄く含む。

3　黒褐色土とローム混合土(土地改良時の埋土)。部分的にその割合は変化するので、その具合によって色調は異なる。

4　黒褐色土(10YR3/1)　しまりは弱い。ローム小ブロックを微量に含む。(9号墳主体部の埋土か)

5　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　わずかに1層よりも明るい。しまりは弱い。黒褐色土ブロックの溶混を極わずかに含む。ロームブロックをほとんど含まない。

6　明黄褐色土(10YR6/6)　ローム漸移層に近いが、それよりもややしまりは弱い。As-Bをほとんど含まない。

7　明黄褐色土(10YR6/6)　暗褐色土を微量に含む。ほぼソフトロームの再堆積層。

0　1:100　2m

第57図　９号古墳

５．溝

①　１号溝（第58図、PL.14）

概要　本溝は鈎形に走向する中小規模の溝遺構である。

また、北部は中程で調査区が途切れ、南端は調査区外に出るため全容を確認することはできなかった。

位置　１号溝は調査区中西部北寄りにあり、M22～O17グリッドに位置する。

規模　長さ：(30.70)m　幅：1.42m　深さ：0.24m

重複　本溝は108・109・113号ピットと重複するが、いずれも新旧関係は特定できなかった。

覆土　褐色土とロームを少量含むにぶい黄褐色土等で埋没する。

構造　本溝は鈎状に走行する。本溝は北部と西部に分けられるが、その溝幅は、北部に対して西部のそれは６割ほどと狭くなる。

北部は直線的で、東端はN84°Wを向き、西端でN90°Wを成す。そして、その西端から南に折れてN５°Wの走向を測り、逆時計回りに弧状に走向して調査区外に抜けるが、南端の走向はN23°Wを測る。

本溝の掘削形態は、箱堀状を呈し、平底である。また、北部東端0.73mは、その西側に対して幅員が1/3～1/2程に減じ、底面も0.04～0.11m程高くなっている。底面は北西の屈曲部が最も高く、東側及び南側に傾斜する。東に向う傾斜の勾配率は0.58％、南に向かう傾斜の勾配率は3.06％を測る。

遺物　出土遺物は、少量の土師器片と近現代の陶磁器片１点を得たに過ぎなかった。

所見　本溝の掘削意図は確認されなかった。

また、その時期も特定できなかった。

1号溝
1　表土
1'　黄褐色土（圃場整備）　ローム粒、ロームブロックを含む客土。
1　褐色土(10YR4/6)　軟質土。白色鉱物粒を微量に含む。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　軟質土。径２～４cmのロームブロックを微量に含む。
3　２層に類似する。根による撹乱。
4　明黄褐色土(10YR6/8)　軟質。ロームの二次堆積土。

0　1:50　1m
0　1:100　5m

第58図　１号溝

② **２号溝**(第59図、PL.14)

概要　本溝は突出部を有する中小規模の溝遺構である。

また、東側が調査区外に出るため、全容を把握することはできなかった。

位置　本溝は調査区中北部にあり、O13～18グリッドに位置する。

規模　長さ：21.80m　幅：1.36m　深さ：0.47m

重複　本溝は１・８号古墳と重複するが、いずれに対しても、本溝の方が新しい。

覆土　ロームを含むにぶい黄褐色・明黄褐色土等で埋没する。

構造　本溝の走行は、3.8m程の振幅で大きく蛇行する。東端はN78°W、中東部でN62°E、中西部でN73°W、西端でN64°Wに走向を取る。

本溝の掘削形態は、箱堀状を呈し、底面の基本形態は、平底であるが、西部の底面にはやや凹凸が見られる。また底面の比高は西高東低で、勾配は1.67％を測る。

遺物　本溝からは少量の土師器片を出土したに過ぎなかった。

所見　本溝の掘削意図は確認されなかったが、底面の形状から水路であった可能性を有する。

また、その時期も特定できなかった。

２号溝
1　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　ローム粒を多量に含む。径２～10mmのロームブロック微量に包含している。
1′にぶい黄褐色土(10YR5/4)　締まりあり。ローム粒子を多量に含む。１層よりにロームブロックを少量包含している。
1″暗褐色軟質土(10YR4/3)
2　褐色砂質土(10YR4/4)　ロームブロック少量含む。
2′明黄褐色土(10YR6/8)　軟質土。ロームブロックを含む。
2″明黄褐色土(10YR7/6)　ロームの二次堆積である。
2‴黄橙色土(10YR7/8)　ロームの二次堆積である。
3　明黄褐色土(10YR6/6)　軟質土。ローム粒子を多量に含む。１号墳周堀覆土であり、これを切っている。
4　明黄褐色土(10YR7/6)　ローム漸移層である。

③ **３号溝**(第60図、PL.15)

概要　本溝は中型あるいは大型の溝遺構である。

また、調査できた範囲は僅かであり、北側と東側は調査区外に出ていて、全容は確認できなかった。

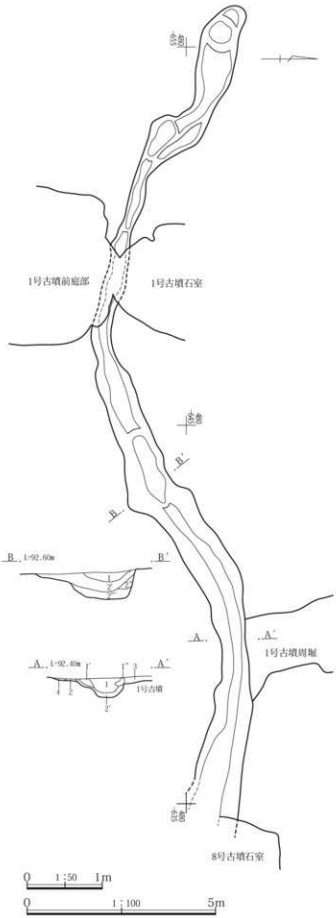
位置　本溝は調査区中西部東寄りにあり、K12～M13グリッドに位置する。

規模　長さ：13.25m　幅：5.05m　深さ：0.57m

重複　本溝は、他遺構との重複は見られなかった。

覆土　黒褐色・褐色・明黄褐色土とローム等で埋没するが、上位にAs-Bやロームを含む暗褐色土が入る。

構造　本溝は全体としては略南北方向に走向し、南端部

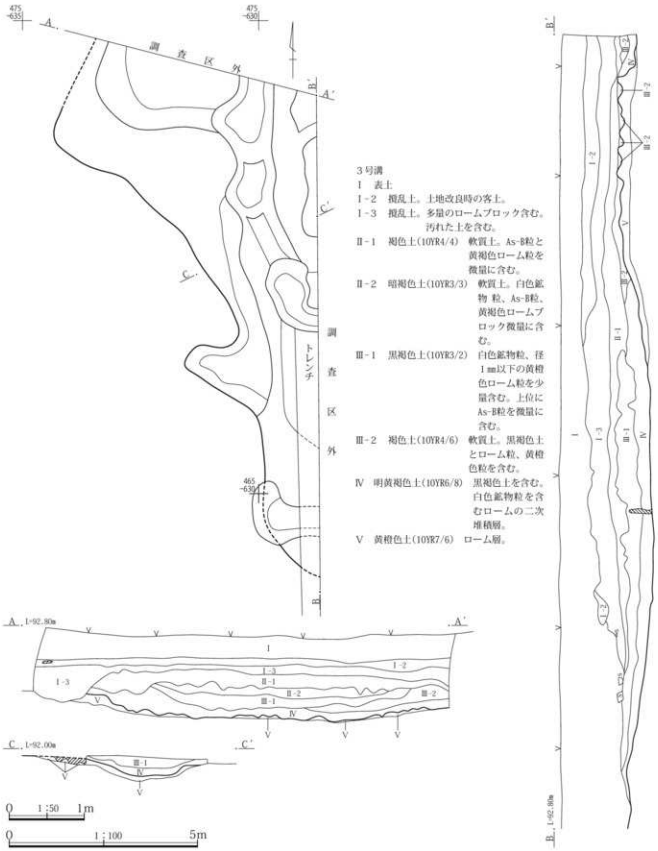


第59図　２号溝

で東側に折れる鈎状の走行を呈する。

その走行は細かく見れば、極緩やかに蛇行している。その走向は全体的にはＮ３°Ｗを向き、南端で反時計回りに傾いて、南東あるいは東側に調査区外に抜ける。

本溝の掘削形態は、箱堀状を呈し、平底であるが、底面には凹凸が見られるが、南北での高低差はなく、勾配



第60図　３号溝

率は測定できない。また、溝肩のラインも蛇行する。

遺物　出土遺物は、少量の土師器片と近現代の土器片１点を得たに過ぎなかった。

所見　本溝の掘削意図は確認されなかったが、底面の凹凸及び肩部ラインの形状、そして、本溝が南北の近接する調査区に現れないことから推して、本溝は溝の屈曲部（水衝部）に当たる可能性を有し、その想定される形状から、自然流路、あるいは自然流路を整えた水路の可能性が考慮される。

なお、本溝の掘削、使用時期も特定できなかった。

④　４号溝（第61～63図、PL.15）

概要　本溝は中型あるいは大型の溝遺構である。

また、東西両側と東寄りの15mの区間は、調査区外に出ていて、全容を確認することはできなかった。

位置　本溝は調査区南東部にあり、E17～K２グリッドに位置する。

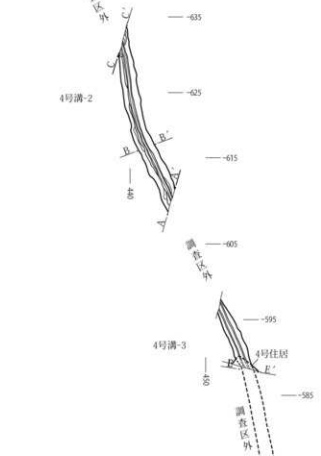
規模　長さ：(63.80)m　幅：2.55m　深さ：0.93m

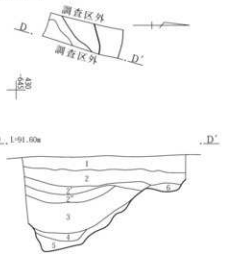
重複　本溝は、４号住居と重複するが、本溝の方が新しい。

なお、５号溝は本溝の南に垂直方向に走っている。

覆土　黒褐色・暗褐色・にぶい黄褐色・黄褐色土とローム等で埋没する。

４号溝全体図





４号溝Ｄ－Ｄ′

1　表土

2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロック、As-B砂質軽石粒を含む。土地改良で動いている。

2′　黒褐色土(10YR3/2)　砂質土。軟質土。ローム粒、As-B軽石粒とロームブロックの小さいものを含む。

2″　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　軟質土。ロームブロック、As-B砂質軽石粒、径２～３cmのロームブロックを含む。土地改良で動いている。

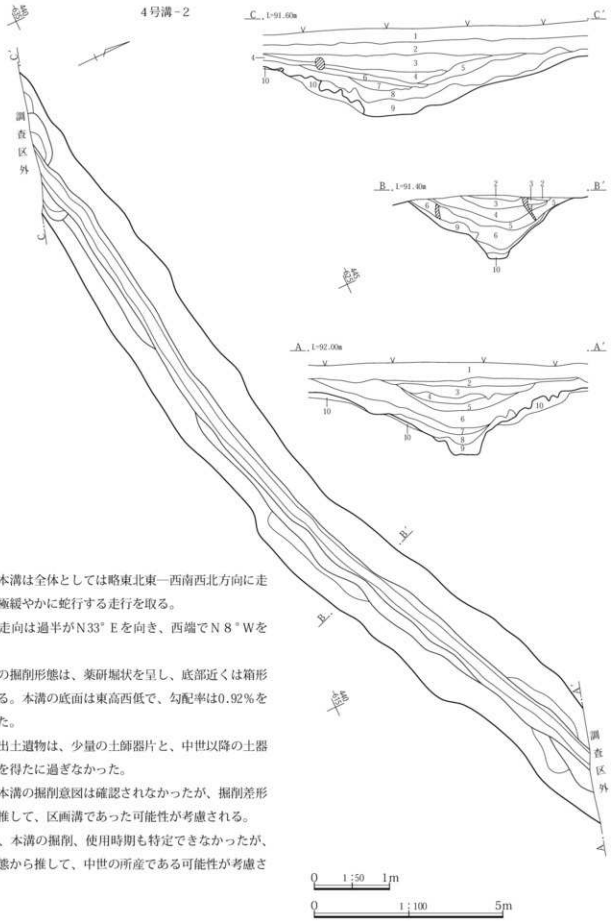
3　黒褐色土(10YR3/1)　砂質。軟質土。ローム漸移層ブロックを含む。また、径２mm程の白色軽石粒(As-Cft)を少量含む。

4　暗褐色土(10YR3/3)　ローム漸移層ブロックが斑状に入る砂質土。

5　暗褐色土(10YR3/4)　軟質土。ローム層、ローム漸移層の二次堆積層である。流れ込んだ土と考えられる。

6　明黄褐色土(10YR6/8)　ローム漸移層。

第61図　４号溝全体図(左)・西端部(右)



構造　本溝は全体としては略東北東―西南西北方向に走向し、極緩やかに蛇行する走行を取る。

その走向は過半がＮ33°Ｅを向き、西端でＮ８°Ｗを向く。

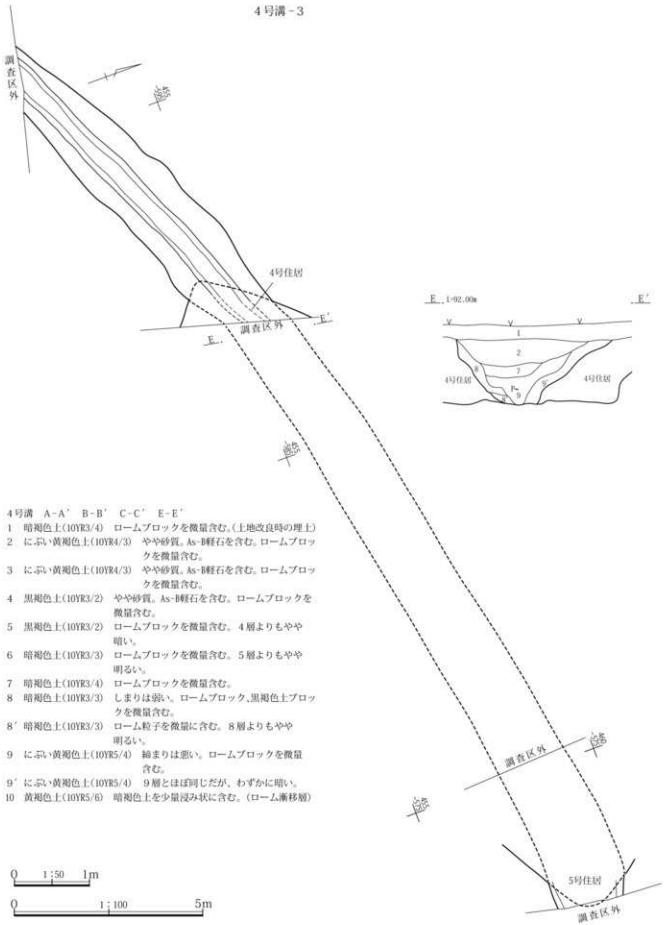
本溝の掘削形態は、薬研堀状を呈し、底部近くは箱形を呈する。本溝の底面は東高西低で、勾配率は0.92％を測定した。

遺物　出土遺物は、少量の土師器片と、中世以降の土器片１点を得たに過ぎなかった。

所見　本溝の掘削意図は確認されなかったが、掘削差形態から推して、区画溝であった可能性が考慮される。

なお、本溝の掘削、使用時期も特定できなかったが、掘削形態から推して、中世の所産である可能性が考慮される。

第62図　４号溝西半部



4号溝　A-A'　B-B'　C-C'　E-E'

1　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックを微量含む。(上地改良時の埋土)
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　やや砂質。As-B軽石を含む。ロームブロックを微量含む。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　やや砂質。As-B軽石を含む。ロームブロックを微量含む。
4　黒褐色土(10YR3/2)　やや砂質。As-B軽石を含む。ロームブロックを微量含む。
5　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックを微量含む。４層よりもやや暗い。
6　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックを微量含む。５層よりもやや明るい。
7　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックを微量含む。
8　暗褐色土(10YR3/3)　しまりは弱い。ロームブロック,黒褐色土ブロックを微量含む。
8'　暗褐色土(10YR3/3)　ローム粒子を微量に含む。８層よりもやや明るい。
9　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　締まりは悪い。ロームブロックを微量含む。
9'　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　９層とほぼ同じだが、わずかに暗い。
10　黄褐色土(10YR5/6)　暗褐色土を少量浸み状に含む。(ローム漸移層)

第63図　４号溝東半部

⑤　**５号溝**(第64図、PL.15)

概要　本溝は中型の溝遺構である。

また、南側は調査外に出ていて、全容を確認することはできなかった。

位置　本溝は調査区南東部南端にあり、Ｂ７～Ｆ10グリッドに位置する。

規模　長さ：(26.80)m　幅：1.48m　深さ：0.37m

重複　本溝は、16号ピットと重複するが、本溝の方が古い。

なお、本溝の北端から2.2m隔てて４号溝が垂直方向に走行している。

覆土　ロームあるいは黒褐色土を含む褐色土で埋没し、上位にロームと若干のAs-Bを含む黒褐色土が堆積する。

構造　本溝は直線的に走行する。

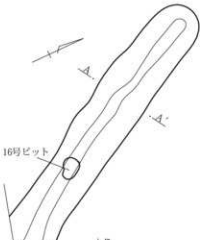
その走向はＮ26°Ｗを向く。

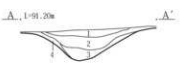
本溝の掘削形態は、薬研堀状を呈し、底面は丸底状を呈する。本溝の底面は北高南低で、勾配率は4.12%を測った。

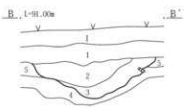
遺物　本溝からは少量の土師器片を出土したに過ぎなかった。

所見　本溝の掘削意図は確認されなかった。

また、その時期も特定することはできなかった。







５号溝

1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックを極わずかに含む.(現耕作土)

1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　やや砂質。As-Bを含む。ロームブロックを極わずかに含む。１層よりもやや明るい。

2　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロック、As-Bを微量に含む。

3　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックを少量含む。

4　褐色土(7.5YR4/3)　黒褐色土の溶混を薄く含む。(ローム漸移層、地山)

5　黒褐色土(7.5YR2/3)　ロームブロック、As-C軽石を少量含む。

0　1:50　1m

0　1:100　5m

第64図　５号溝

⑥　**６号溝**(第65図、PL.15)

概要　本溝は大型の溝遺構である。

また、南北両側が調査区外に出ていて、全容を確認することはできなかった。

位置　本溝は調査区中西部北西寄りに位置し、Q27～R28グリッドに位置する。

規模　長さ：(12.30)m　幅：2.00m　深さ：0.20m

重複　本溝は、７号住居、94号ピットと重複するが、本溝は７号住居より古く、94号ピットとの新旧関係は特定できなかった。

覆土　黒褐色・にぶい黄褐色・黄褐色土とローム等で埋没する。

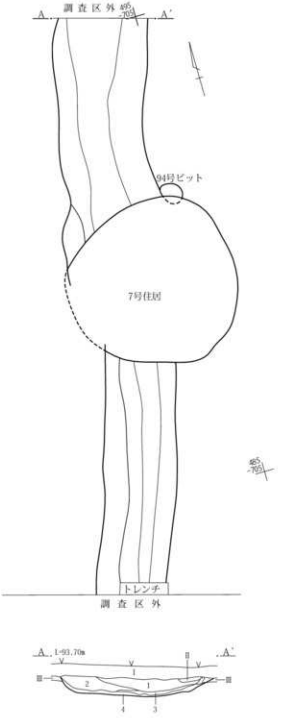
構造　本溝は全体としては略南北方向に走向し、極緩やかに蛇行する、比較的直線的な走行を取る。
その走向は全体としてN17°Eを向く。

本溝の掘削形態は、箱堀状を呈する。本溝の底面は北高南低で、勾配率は1.56％を測定した。

遺物　出土遺物は、近世の在地系皿片１点を得たに過ぎなかった。

所見　本溝の掘削意図は確認されなかった。

なお、本溝の時期も特定できなかったが、出土遺物から推して、近世の所産である可能性も考慮される。



６号溝
1　暗褐色土(10YR3/3)　ハードロームブロックを微量に含む。(現耕作土)
Ⅱ　暗褐色土(10YR3/3)　黒褐色土ブロックを微量に含む。１層よりもわずかに暗い。(畝間)
Ⅲ　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　黒褐色土を薄く染み状に含む。(ソフトローム漸移層)
1　黒褐色土(10YR2/2)　ロームブロックを薄く染み状に含む。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロック溶混を少量含む。黒褐色土を薄く染み状に含む。
3　黄褐色土(10YR5/6)　黒褐色土を薄く染み状に含む。
4　黄褐色土(10YR5/8)　黒褐色土の染みをほとんどきまない。

0　1:50　1m
0　1:80　2m

第65図　６号溝

⑦　**７号溝**(第66図、PL.16)

概要　本溝は大型の溝遺構である。

また、南北両側が調査区外に出ていて、全容は確認できなかった。

位置　本溝は調査区西部にあり、Ｓ44～Ｙ46グリッドに位置する。

規模　長さ：30.50m　幅：2.35m　深さ：0.62m

重複　本溝は、他の遺構との重複は見られなかった。

覆土　黒褐色・黄褐色・明黄褐色土、ローム、にぶい黄褐色砂質土で埋没する。

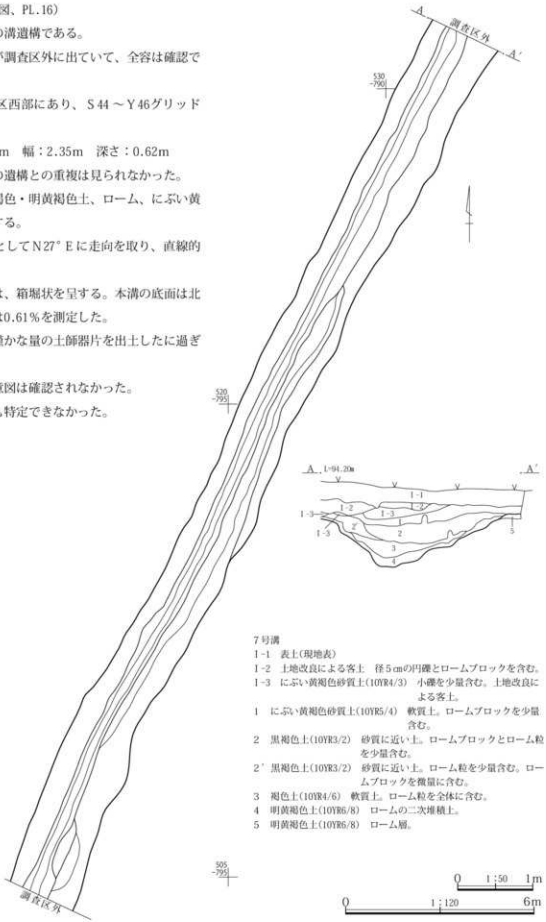
構造　本溝は全体としてＮ27°Ｅに走向を取り、直線的に走向する。

本溝の掘削形態は、箱堀状を呈する。本溝の底面は北高南低で、勾配率は0.61％を測定した。

遺物　本溝からは僅かな量の土師器片を出土したに過ぎなかった。

所見　本溝の掘削意図は確認されなかった。

また、その時期も特定できなかった。



第66図　７号溝

６．溜井

①　１号溜井(第67図、PL.16)

概要　本溜井は、溜井本体と排水溝からなる、水利遺構である。

本溜井は途中水道管敷設により区切られ、東端溝部は削平されて失われているため、全容を確認することはできなかった。

位置　本溜井は調査区中部やや南西寄りにある。G16～N20グリッドに位置する。

なお、南西25m程の位置に２号溜井が近接してある。

規模　全長：42.2m

〔**溜井**〕　長さ：22.31m　幅：11.0m　深さ：１m

〔**接続部分**〕　長さ：3.8m　幅：1.94m
深さ：0.44m

〔**溝部**〕　長さ：12.62m　(含21坑)長さ：18.6m
幅：3.96m　深さ：0.6m

〔**21号土坑**〕　長さ：2.77m　幅：1.29m
深さ：0.73m

重複　本溜井は130号ピットと重複するが、新旧関係は特定できなかった。

覆土　As-B軽石の２次堆積層である暗褐色砂質土、黒褐色土と黄褐色ロームで埋没する。

構造　〔**溜井**〕　本溜井は略隅丸長方形に近い瓢箪形のプランを呈し、掘削形態は箱形を呈するものである。底面には深さ0.1m以下の窪みがあり、若干の凹凸が見られる。なお、溜井部の主軸方位はN11°Eを向く。

〔**接続部**〕　溜井の南西部が開口して溝に接続するが、この接続部分で西側が1.4m狭まり、底面は10cm程高く、堰状の掘り残しとして形成されている。この個所の軸線はN42°Wを向く。

〔**溝**〕　溝の走行は蛇行しており、東側が削平により失われているが、その延長線上にある21号土坑は本溝底面の流水の痕跡であると判断される。溝の走向は全体としてN72°Wを向く。

溝の掘削形態は箱堀状を呈するが、西寄りは9.5×3.6mの範囲で土坑状を成し、東部は溝上で幅員が2/3程減ずる。底面には深さ0.11～0.15m以下を測る２か所の窪みがあり、この他に21号土坑が残る。21号土坑の底面は舟底形を呈する。

遺物　出土遺物は、灰釉陶器片、国産施釉陶器片、国産焼締陶器片各１点と少量の土師器片、鉄片１点が出土したに過ぎなかった。

所見　本溜井は農業用水を確保し、田畠に給水する目的で造られたものと判断される。また温度調整を兼ねていた可能性が考慮される。

また、その時期は明らかにできなかったが、出土遺物から近世の可能性が考慮される。

②　２号溜井(第68図、PL.16・26)

概要　本溜井は、溜井本体と排水溝からなる、水利遺構である。

本溜井は溜井部の南部と、溝部の南側が調査区外に出るため、全容を確認することはできなかった。

位置　本溜井は調査区中部やや南西寄りにある。E17～J24グリッドに位置する。

北東25m程の位置に１号溜井が近接する。

規模　全長：39.9m

〔**溜井**〕　長さ：14.04m　幅：(4.98)m　深さ：１m

〔**接続部分**〕　長さ：7.64m
(西部：5.32m、東部：2.32m)
幅　西部：(3.86)m　東部：1.92m
深さ　西部：0.53m　東部：0.39m

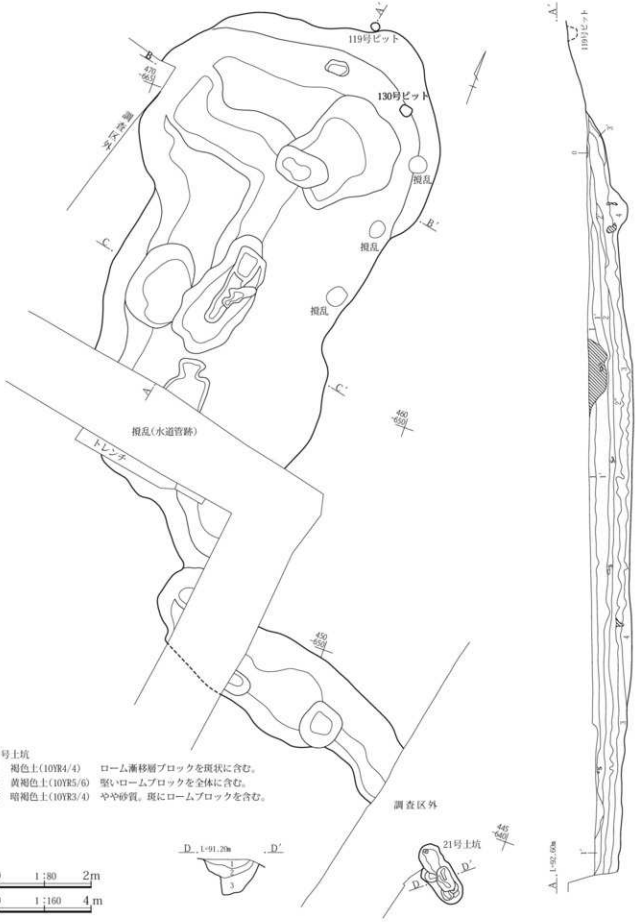
〔**溝部**〕　長さ：21.32m　中・西部幅：5.0m
東部幅：(7.0)m　深さ：0.65m

重複　本溜井は他遺構との重複は見られなかった。

覆土　As-Bを軽石の混入する暗褐色・黒褐色砂質土、As-B軽石とロームの入る黒褐色土で埋没する。

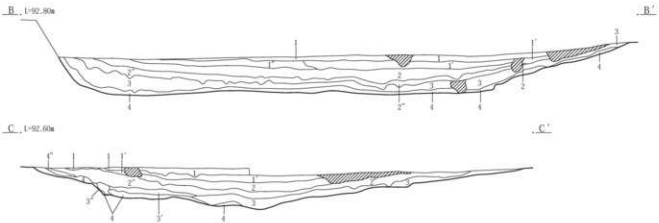
構造　〔**溜井**〕　本溜井は隅丸長方形のプランを呈し、掘削形態は箱形を呈する。底面には深さ0.1m以下の窪みが散見される。なお、溜井部の主軸方位はN75°Wを向く。溜井の東部は開口し、接続部を介して溝に接続する

〔**接続部**〕　溝と溜井の接続部分は、溜井、溝双方に対して幅員は狭まり、底面も高められて堰の機能を有する。接続部は東西に分かれ、西部は溜井に連続し、東部は接続部西部と溝に対して幅員は狭まる。底面は溜井底面に対して接続部西部は0.18m程高く、東に向かって高くなり、東西の接続部では0.1mの比高差を以て西部の方が



21号土坑
1　褐色土(10YR4/4)　　ローム漸移層ブロックを斑状に含む。
2　黄褐色土(10YR5/6)　堅いロームブロックを全体に含む。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ややボ質。斑にロームブロックを含む。

第67図　1号溜井(1)



１号溜井

0　ロームブロック土の二次堆積

1　暗褐色砂質土(10YR3/4)　径１mmのAs-B粒の２次堆積土である。径１～３cmの砂質褐色ブロック土を斑点に含む。径１～２mmの白色As-C粒を微量に含む。サラサラしている。

1′暗褐色砂質土(10YR3/3)　径１mmのAs-B粒の２次堆積土である。径１mm以下の白色鉱物粒を少量含む。径１～３cmの砂質褐色ブロック土が斑点に入る。

1″暗褐色砂質土(10YR3/3)　径１mmのAs-B粒の２次堆積土である。径１mm以下の白色鉱物粒を少量含む。径１～３cmの砂質褐色ブロック土を斑点に含む。

2　黒褐色砂質土(10YR2/3)　径１mmのAs-B粒の２次堆積土である。径１mm以下の白色鉱物粒を少量含む。径１～３cmの砂質褐色ブロック土を斑点に含む。

2′黒褐色砂質土(10YR3/2)　径１mmのAs-B粒の２次堆積土である。径２～10cmのAs-Bアッシュのブロックを少量含む。

2″黒褐色砂質土(10YR3/2)　径１mmのAs-B粒の２次堆積土である。径２～10cmのAs-Bアッシュのブロックを少量含む。所々にロームブロックが少量入る。

3　黒褐色砂質土(10YR2/3)　少量の径１mmのAs-B粒２次堆積土である。下位にはロームブロックが少量入る。

3′黒褐色砂質土(10YR2/3)　少量の径１mmのAs-B粒２次堆積土である。下位にはロームブロックが少量入る。

3″黒褐色砂質土(10YR2/3)　やや軟質土。少量の径１mmのAs-B粒２次堆積土である。下位にはロームブロックを少量含む。

4　黄褐色土(10YR5/8)　やや軟質土。汚れたローム層である。

4″明黄褐色土(10YR6/8)　ロームブロックが硬く締まっている。径１～５mmの灰黄色軽石を少量含む。

0　1:80　2m

第68図　１号溜井(２)

高い。また、溝に対して接続部東部は0.05m高い。接続部は屈曲し、西部の軸線はN84°Wを向き、東部の軸性はN65°Wを向く。

〔溝〕　溝の走行は、調査範囲では時計回りに弧状を呈する。その幅員は接続部際から15m付近で広まる。また、底面は接続部から東に向かって徐々に低くなり、その勾配率は6.33%を測る。その走向は西端部ではN65°Wを向き、調査区内東部ではN19°Wを向く。

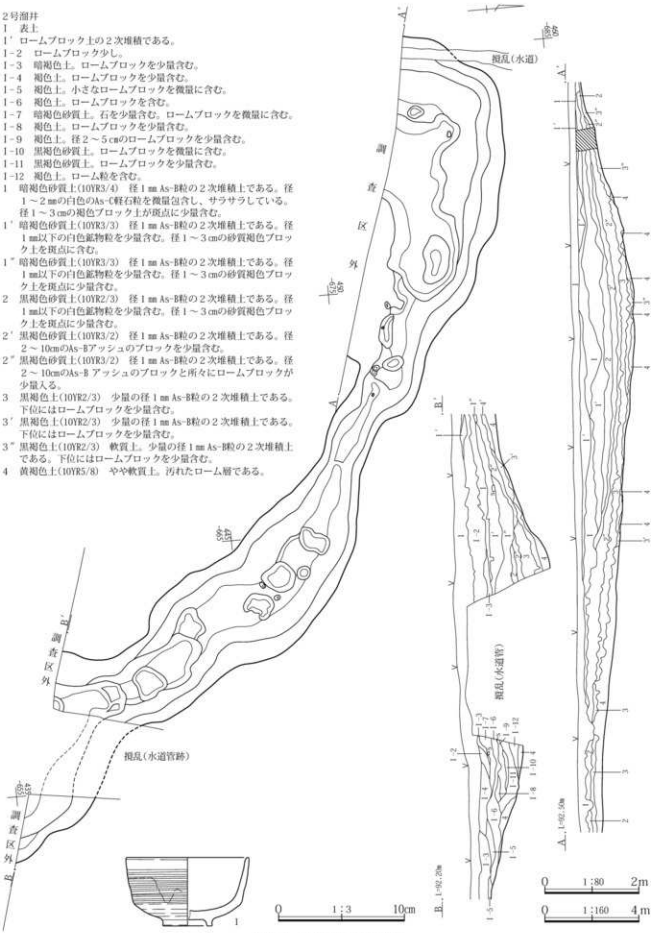
溝の掘削形態は箱堀状を呈するが、底面は、西半部では凹凸が見られ、東半部では階段状に下がる。

遺物　出土遺物は、少量の土師器片と、瀬戸・美濃陶器腰錆碗(１)が出土した。

所見　本溜井も農業用水を確保し、田畠に給水する目的で造られたものと判断される。また温度調整を兼ねていた可能性も考慮される。

また、その時期は明確にできないが、出土遺物から推して、18世紀後半頃の所産の可能性が考慮される。

２号溜井
1　表土
1'　ロームブロック上の２次堆積である。
1-2　ロームブロック少し。
1-3　暗褐色土。ロームブロックを少量含む。
1-4　褐色土。ロームブロックを少量含む。
1-5　褐色土。小さなロームブロックを微量に含む。
1-6　褐色土。ロームブロックを含む。
1-7　暗褐色砂質土。石を少量含む。ロームブロックを微量に含む。
1-8　褐色土。ロームブロックを少量含む。
1-9　褐色土。径２～５cmのロームブロックを少量含む。
1-10　黒褐色砂質土。ロームブロックを微量に含む。
1-11　黒褐色砂質土。ロームブロックを少量含む。
1-12　褐色土。ローム粒を含む。
1　暗褐色砂質土(10YR3/4)　径１mm As-B粒の２次堆積土である。径１～２mmの白色のAs-C軽石粒を微量包含し、サラサラしている。径１～３cmの褐色ブロック土が斑点に少量含む。
1'　暗褐色砂質土(10YR3/3)　径１mm As-B粒の２次堆積土である。径１mm以下の白色鉱物粒を少量含む。径１～３cmの砂質褐色ブロック土を斑点に含む。
1"　暗褐色砂質土(10YR3/3)　径１mm As-B粒の２次堆積土である。径１mm以下の白色鉱物粒を少量含む。径１～３cmの砂質褐色ブロック土を斑点に少量含む。
2　黒褐色砂質土(10YR2/3)　径１mm As-B粒の２次堆積土である。径１mm以下の白色鉱物粒を少量含む。径１～３cmの砂質褐色ブロック土を斑点に少量含む。
2'　黒褐色砂質土(10YR3/2)　径１mm As-B粒の２次堆積土である。径２～10cmのAs-Bアッシュのブロックを少量含む。
2"　黒褐色砂質土(10YR3/2)　径１mm As-B粒の２次堆積土である。径２～10cmのAs-Bアッシュのブロックと所々にロームブロックが少量入る。
3　黒褐色土(10YR2/3)　少量の径１mm As-B粒の２次堆積土である。下位にはロームブロックを少量含む。
3'　黒褐色土(10YR2/3)　少量の径１mm As-B粒の２次堆積土である。下位にはロームブロックを少量含む。
3"　黒褐色土(10YR2/3)　軟質土。少量の径１mm As-B粒の２次堆積土である。下位にはロームブロックを少量含む。
4　黄褐色土(10YR5/8)　やや軟質土。汚れたローム層である。



第69図　２号溜井と出土遺物

７．１面の土坑群(第70・71図、PL.16・17)

概要　本遺跡１面では、２～17号土坑及び21号土坑の17基の土坑を確認、調査した。このうち21号土坑は位置と形態から１号溜井に伴うものと判断して、１号溜井の項に記載し、本項からは除去した。

位置　表５に所在グリッドを記した。

規模・主軸方位　表５に記した。

重複　これらの土坑のうち、８号土坑と18号ピット、17号土坑と１号掘立柱建物と重複する。このうち８号土坑は18号ピットに切られるが、17号土坑と１号掘立柱建物との新旧は特定できなかった。

覆土　各土坑の断面図を参照されたい。

構造　土坑のプランは、10号土坑は円形、２・９・12号土坑は隅丸方形、８号土坑は不整形であり、他の11基の土坑は楕円形のプランを呈していた。

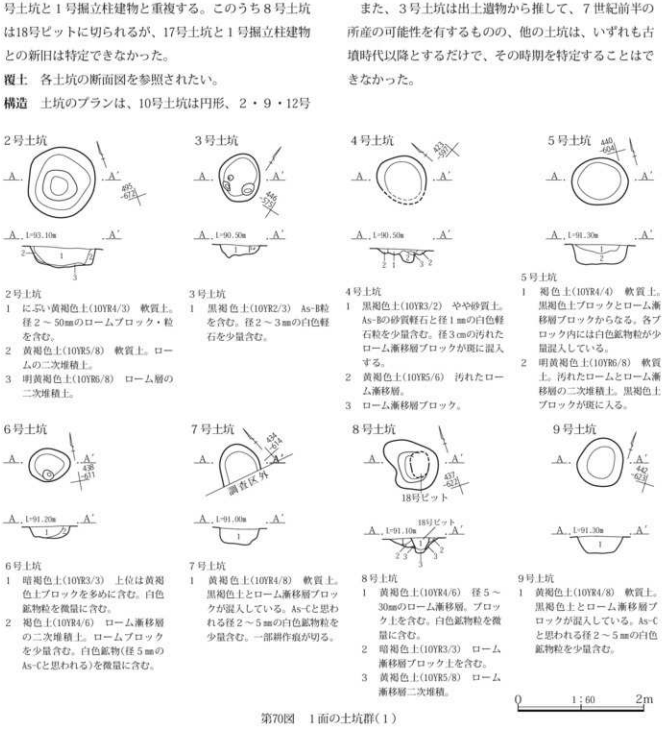
また掘削底面は13号土坑が丸底、８・15号土坑が尖底を呈する以外は平底を呈する。

その規格は径0.41～1.47m、平均0.78m(標準偏差0.32)、深さは0.13～0.54m、平均0.29m(標準偏差0.13)であった。

遺物　３号土坑から土師器杯(１)が出土している。

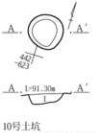
所見　いずれの土坑の掘削意図も特定できなかった。

また、３号土坑は出土遺物から推して、７世紀前半の所産の可能性を有するものの、他の土坑は、いずれも古墳時代以降とするだけで、その時期を特定することはできなかった。



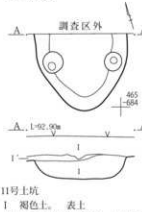
第70図　１面の土坑群(１)

10号土坑



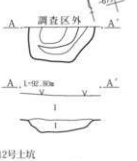
10号土坑
1　暗褐色土(10YR3/4)　上位は径２～５㎜の白色鉱物粒、As-Cと思われる軽石を含む黒色土が混ざる。下位はローム ブロックを含むローム漸移層の二次堆積層である。

11号土坑



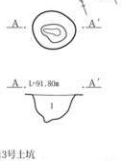
11号土坑
1　褐色土。　表土
1'　黄褐色土(10YR5/8)　上位からの圧力をうけて汚れている。
1　褐色土(10YR4/4)　径２～５㎝のローム ブロックを含む。径２㎜の白色鉱物粒を微量に含む。

12号土坑



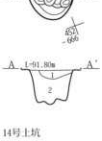
12号土坑
1　褐色土。　表土
1　褐色土(10YR4/4)　径２～５㎝のローム ブロックを含む。径２㎜の白色鉱物粒を微量に含む。

13号土坑



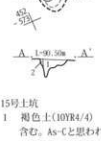
13号土坑
1　褐色土(10YR4/6)　軟質土。上位はやや黒っぽい。ローム漸移層の二次堆積土に、ローム ブロックが混入している。

14号土坑



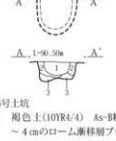
14号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　白色鉱物粒の入った黒褐色砂質土ブロックとローム ブロックが混在する。
2　黄褐色土(10YR4/8)　締まりのある土。ローム ブロック少量含む。

15号土坑



15号土坑
1　褐色土(10YR4/4)　As-B粒を含む。As-Cと思われる径５㎜の白色軽石を少量含む。ローム漸移層ブロックを微量に含む。

16号土坑



16号土坑
1　褐色土(10YR4/4)　As-B粒、径２～４㎝のローム漸移層ブロックを含む。
2　黄褐色土(10YR5/8)　ローム漸移層ブロックが主であり、褐色土を少量含む。
3　黄橙色土(10YR7/8)　硬い。ローム ブロック上。

17号土坑

17号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　締まりのある土。ローム ブロックを斑に少量含む。径１～５㎜の白色鉱物粒(As-C軽石)を微量に含む。

第71図　１面の土坑群(２)と３号土坑出土遺物

８．１面のピット群(第72～77図、PL.17・18)

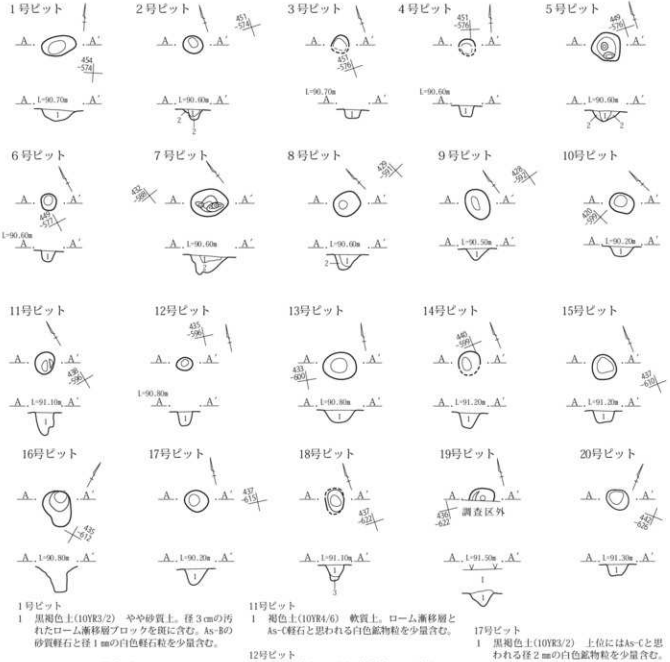
概要　本遺跡１面では、１～24・30・32～75・82～95・97～109・113・115～130号ピットの113基のピットを確認、調査した。

位置　表６に所在グリッドを記した。

規模・主軸方位　表６に記した。

重複　これらのピットのうち、16号ピットと５号溝、18号ピットと８号土坑、22・30・97号ピットと１号古墳、55～58・61号ピットと３号古墳、72号ピットと73号ピット、94号ピットと７号住居及び６号溝、104号ピットと105号ピット、108・109号ピットと１号溝、113号ピットと１号古墳及び１号溝、124～127号ピットと１号古墳、130号ピットと１号湧井とが重複する。

このうちピット同士の重複するものでは、72号ピット、104号ピットが新しい、また、他遺構との重複にあっては、７号住居は重複するピットより新しく、１・３号古墳と５号溝、８号土坑は重複するピットに対して古い。その他のピットの新旧関係は特定できなかった。



1号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)　やや砂質上。径３cmの汚れたローム漸移層ブロックを斑に含む。As-Bの砂質軽石と径１mmの白色軽石粒を少量含む。

２・４・６・８・９号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)　やや砂質上。As-Bの砂質軽石と径１mmの白色軽石粒を少量含む。径３cmの汚れたローム漸移層ブロックを斑に含む。
2　黄褐色土(10YR5/6)　汚れたローム漸移層。

３・５号ピット
1　黄褐色土(10YR5/6)　軟質上。ローム漸移層の二次堆積。一部に黒色土ブロックが混入する。
2　黄褐色土(10YR5/6)　汚れたローム漸移層。

７号ピット
1　暗褐色土(10YR3/3)　ローム漸移層ブロックとAs-Bの軽石粒を含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　軟質上。ローム漸移ブロックを含む。ロームブロックを少量含む。

10号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)　やや砂質上。ローム漸移ブロックを含む。As-Bの砂質軽石と径１mmの白色軽石粒を少量含む。径３cmの汚れたローム漸移層ブロックを斑に含む。

11号ピット
1　褐色土(10YR4/6)　軟質上。ローム漸移層とAs-Cの軽石と思われる白色鉱物粒を少量含む。

12号ピット
1　暗褐色土(10YR3/4)　軟質上。As-B粒とAs-Cと思われる白色鉱物粒とロームブロックを含む。

13号ピット
1　明黄褐色土(10YR6/8)　軟質上。ローム漸移層とローム粒を含む。

14号ピット
1　明黄褐色土(10YR6/8)　ローム漸移層ブロックと径２mmのAs-Cと思われる白色鉱物粒を少量含む。

15号ピット
1　褐色土(10YR4/6)　ローム漸移層のブロック上と黒色土ブロック少量を含む。As-Cと思われる白色鉱物粒を微量に含む。

16号ピット
覆土はAs-Cの軽石粒と思われる径２mmの白色鉱物がある褐色土である。

17号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)　上位にはAs-Cと思われる径２mmの白色鉱物粒を少量含む。全体にローム漸移層ブロック土が斑に入る。

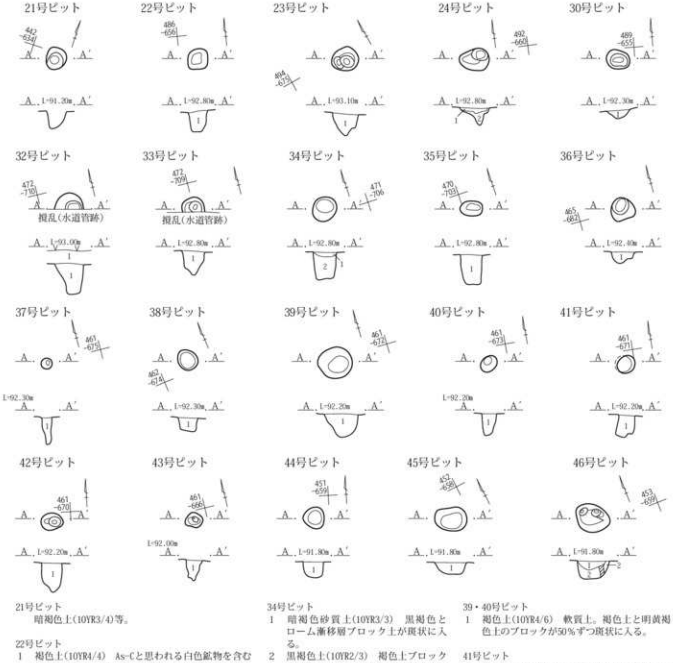
18号ピット
1　暗褐色土(10YR3/3)　径５mm前後のローム漸移層ブロック土を含む。
2　黄褐色土(10YR5/8)　ローム漸移層、二次堆積。

19号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)　表土。やや砂質。締まりは悪い。As-Bを含む。
1　暗褐色土(10YR3/4)　砂質。軟質上。径２～３cmのブロック状のローム漸移層を微量に含む。

20号ピット
1　暗褐色土(10YR4/4)　ローム漸移層をブロック状に含む二次堆積土である。

0　1:60　2m

第72図　１面のピット(１)



21号ピット
暗褐色土(10YR3/4)等。

22号ピット
1　褐色土(10YR4/4)　As-Cと思われる白色鉱物を含む黒褐色土ブロックとロームブロックを含む混土層。

23号ピット
1　褐色土(10YR4/4)　黒褐色砂質土ブロックとローム漸移層ブロック上の混土である。上位に僅かに白色鉱物粒が入る。

24号ピット
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　As-B軽石粒を含む砂質土であり、径２cmのローム漸移層ブロック土を微量に含む。
2　黄褐色土(10YR5/6)　１層に類似するがローム漸移層のブロックを多量に含む。

30号ピット
1　黄橙色土(10YR7/8)　ロームの二次堆積土。

32・33号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)　表土。やや砂質。締まりは悪い。As-Bを含む。
1　黒褐色土(10YR2/3)　径５cmの砂質の白色鉱物粒を少量含む褐色土ブロックを含む。

34号ピット
1　暗褐色砂質土(10YR3/3)　黒褐色とローム漸移層ブロック土が斑状に入る。
2　黒褐色土(10YR2/3)　褐色土ブロックを含む。径５cmの砂質の白色鉱物粒を少量含む。

35号ピット
1　暗褐色土(10YR3/4)　やや砂質。軟質。

36号ピット
1　褐色土(10YR4/6)　軟質上。褐色土と明黄褐色土のブロックが50％ずつ斑状に入る。

37号ピット
1　暗褐色土(10YR3/4)　軟質上。ロームブロックが斑に入る。

38号ピット
1　暗褐色砂質土(10YR3/3)　黒褐色とローム漸移層ブロック土が斑状に入る。

39・40号ピット
1　褐色土(10YR4/6)　軟質上。褐色土と明黄褐色土のブロックが50％ずつ斑状に入る。

41号ピット
1　暗褐色土(10YR3/3)　白色鉱物粒を含む。ロームブロックを斑に少量含む。

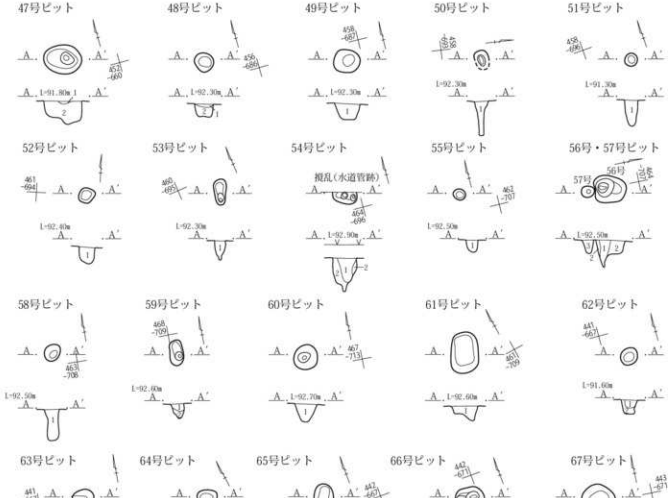
42・43号ピット
1　褐色土(10YR4/6)　白色鉱物粒を含んだ黒色の砂質土を斑状に少量含む。

44・45号ピット
1　暗褐色土(10YR3/4)　黒褐色土とローム漸移層上のブロックの混合層。径２～３mmのAs-Cと思われる白色鉱物粒が少量混じる。

46号ピット
1　暗褐色土(10YR3/4)　軟質上。ローム漸移層ブロックが混入する。白色鉱物粒を少量含む。
2　明黄褐色土(10YR6/8)　ローム漸移層とローム層の二次堆積層。

0　1:60　2m

第73図　１面のピット(２)



47・48号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)　白色鉱物粒を含む。
2　黄褐色土(10YR5/8)　軟質上。径２～５cmの黒褐色土ブロックを含む。白色鉱物粒を少量含む。

49・50号ピット
1　褐色土(10YR4/4)　ロームブロック粒と径１～３mmの白色鉱物の軽石(As-C)とローム漸移層ブロックを少量含む。

51号ピット
1　黄褐色土(10YR5/6)　白色鉱物粒を少量含む。ローム漸移層の二次堆積土。

52号ピット
1　褐色土(10YR4/4)　軟質上。径２cm前後のロームブロックを少量含む。

53号ピット
1　褐色土(10YR4/4)　やや砂質。ローム漸移層とローム層のブロックが混入している。

54号ピット
1　黒褐色土(10YR2/2)　ローム粒と白色軽石を含む混土層。
2　黄褐色土(10YR5/6)　ローム漸移層。二次堆積土。

55号ピット
1　褐色土(10YR4/6)　ローム漸移層の二次堆積土でありロームブロックを混入している。白色鉱物粒を微量に含む。

56・57号ピット
1　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックの小粒が混入している。根が多く入る。
2　褐色土(10YR4/6)　ローム漸移層の二次堆積土、ロームブロックの小粒を少量含む。
3　褐色土(10YR4/4)　ローム漸移層ブロックが多量に混入している。黄褐色の軽石粒を少量含む。

58号ピット
1　褐色土(10YR4/4)　やや砂質である。軟質上。径５～10mmのロームブロックを全体に少量含む。根が多く入る。

59号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)　径5mm前後のAs-C軽石が混じる。ローム漸移層ブロックを少量含む。
2　褐色土(10YR4/6)　ローム漸移層ブロックを多量に含む。

60号ピット
1　褐色土(10YR4/4)　ローム漸移層ブロック土を含む。As-Cと思われる白色軽石粒を微量に含む。

61号ピット
1　褐色土(10YR4/4)　やや砂質。ローム漸移層ブロック土を含む。

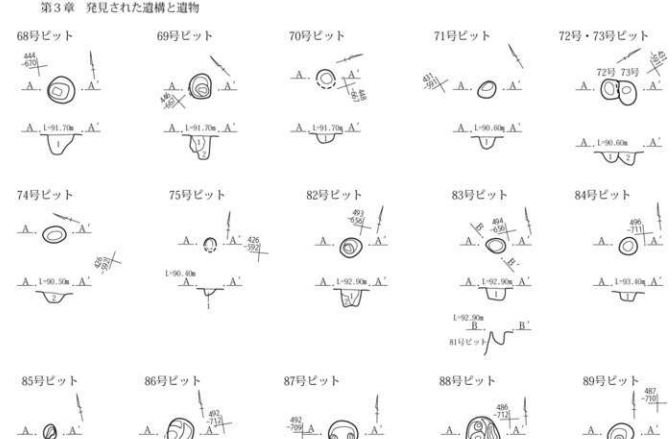
62・63・64号ピット
1　黒褐色土(10YR2/2)　やや砂質。ロームブロックを少量含む。白色鉱物粒を微量に含む。
2　褐色土(10YR4/6)　ローム漸移層とロームブロックを含む汚れた上。

65号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)　黒褐色土内には白色鉱物粒が含まれている。褐色土ブロックが斑に入る。
2　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックを少量含む。

66・67号ピット
1　褐色土(10YR4/6)　軟質上。黒褐色土とローム漸移層ブロック土が斑状に入る。
2　黄褐色土(10YR5/6)　ロームブロックを多く含み、汚れている。

0　1:60　2m

第74図　１面のピット(３)



68号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)　黒褐色土内には白色鉱物粒が含まれている。褐色土ブロックが斑に入る。

69号ピット
1　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックの小粒が混入している。根が多く入る。
2　褐色土(10YR4/6)　ローム漸移層の二次堆積土、ロームブロックの小粒を少量含む。

70号ピット
1　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックを少量含む。

71号ピット
1　黒褐色土(10YR2/2)。径２～３mmのAs−C粒、ローム漸移層粒と径２～10mmのロームブロックを微量に含む。

72・73・74号ピット
1　褐色土(10YR4/4)　軟質土。As-B粒を少量含む。径２～10mmのロームブロックを微量に含む。73号ピットを切っている。
2　褐色土(10YR4/6)　軟質土。As-B軽石、ロームブロック、漸移層ブロックを含む。As−C軽石と思われる白色鉱物粒を微量に含む。

75号ピット
1　褐色土(10YR4/4)　軟質土。As-B粒を含む。

82・83号ピット
1　褐色土(10YR4/4)　やや砂質である。軟質土。径３～４mmの白色軽石(As-Cと思われる)、径５～30mmのロームブロックを斑状に含む。As-B粒が少量入る。
2　明黄褐色土(10YR6/8)　ローム漸移層。二次堆積土。

84号ピット
1　褐色土(10YR4/4)　軟質土。黒褐色土とロームブロックが混入している。径２mmの白色軽石を少量含む。

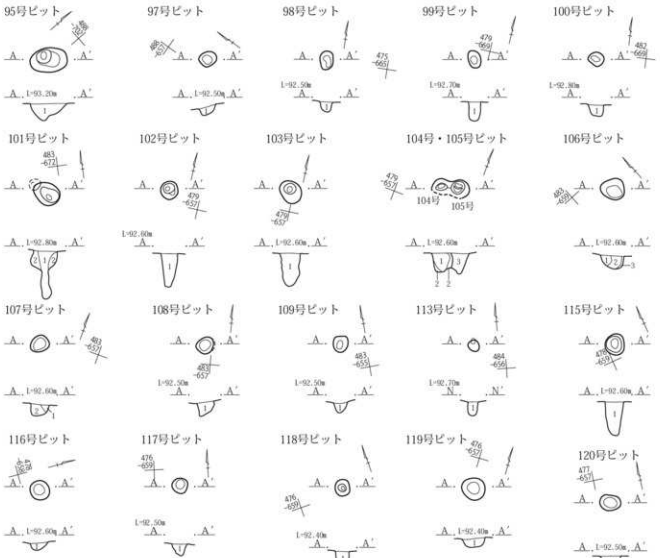
85号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム漸移層ブロックを多く含む。

86号ピット
1　褐色土(10YR4/6)　黒褐色土、ロームブロックを多量に含む乱れた土層である。

87・88・89・92・95号ピット
1　褐色土(10YR4/4)　As-Cが２層あり、やや多い。
2　褐色土(10YR4/6)　軟質土。白色鉱物粒(As-C軽石)を少量含む。黒褐色土とローム漸移層ブロック土の混土層。

0　1:60　2m

第75図　１面のピット(４)



90号ピット
1　褐色土(10YR4/6)　軟質土。下部にはロームブロックを含む。白色鉱物粒(As-C軽石)を少量含む。黒褐色土とローム漸移層ブロック土の混土層。

91・93号ピット
1　褐色土(10YR4/6)　軟質土。ロームブロックが入る。白色鉱物粒(As-C軽石)を少量含む。黒褐色土とローム漸移層ブロック土の混土層。

94号ピット
1　褐色土(10YR4/6)　ロームブロックを少量含む。As-B軽石粒を微量に含む。
2　明黄褐色土(10YR6/8)　ローム漸移層。二次堆積土。

97号ピット
1　黄橙色土(10YR7/8)　ロームの二次堆積土。

99号ピット
1　褐色土(10YR4/4)　上位には径２㎜の白色鉱物粒を少量含む。黒褐色土ブロックが混入している。

100号ピット
1　褐色土(10YR4/4)　上位には径２㎜の白色鉱物粒を少量含む。黒褐色土ブロックが混入している。やや多くの根が入る。

98・101号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)　径１～２㎜の白色鉱物粒を含む。黒褐色にローム漸移層ブロックを少量含む。
2　黄褐色土(10YR5/8)　径１～２㎜の白色鉱物粒を含む。黒褐色にローム漸移層ブロックを少量含む。

102号ピット
1　暗褐色土(10YR3/4)　軟質土。上位には僅かにローム漸移層ブロックが混入している。

103号ピット
1　黒褐色土(10YR2/2)　軟質土。褐色土ブロックを斑に少量含む。白色鉱物粒を微量に含む。

104・105号ピット
1　黒褐色土(10YR2/2)　軟質土。ローム漸移層ブロックを少量含む。
2　黄褐色土(10YR5/8)　軟質土。ローム漸移層の二次堆積土。
3　暗褐色土(10YR4/4)　軟質土。ローム漸移層ブロックを少量含む。

106号ピット
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　軟質土。ロームブロックを少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/1)　軟質土。径２～10㎜のロームブロックと褐色土ブロックが斑に入る。
3　褐色土(10YR4/6)　ローム漸移層の流入土。

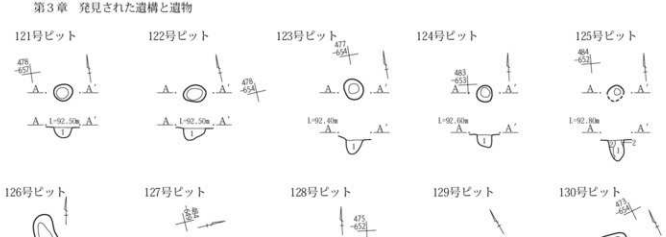
107号ピット
1　上からの撹乱によりピットの一部が壊れている。
2　褐色土(10YR4/4)　軟質土。ローム漸移層ブロックと黒褐色土ブロックが斑に入る。

108・109号ピット
1　暗褐色土(10YR3/4)　軟質土。褐色土とロームブロックが斑状に入る。

113号ピット
1　黄褐色土(10YR5/8)　軟質土。ローム漸移層を主とし、黒褐色ブロックを少量含む。

115号ピット
1　暗褐色土(10YR3/4)　軟質土。褐色土を主とするが少量の黒色土が斑に混入する。ロームブロックを少量含む。

第76図　１面のピット(５)



116号ピット
1　褐色土(10YR4/4)　軟質上。ローム漸移層ブロックを少量含む。

117号ピット
1　褐色土(10YR4/4)　ローム漸移層ブロックと径５㎜のロームブロックを少量含む。

118号ピット
1　黒褐色土(10YR2/2)　軟質上。ローム漸移層ブロックと径２～３㎜のロームブロックを少量含む。

119号ピット
1　褐色土(10YR3/3)　軟質上。ローム漸移層ブロック大小混じり混入している。

120号ピット
1　暗褐色土(10YR3/3)　軟質上。ローム漸移層ブロックが混入する。

121・122号ピット
1　褐色土(10YR3/3)　軟質上。大小のローム漸移層ブロックが混入している。

123号ピット
1　暗褐色土(10YR3/4)　軟質上。褐色土を主とするが少量の黒色土が斑に混入する。ロームブロックも少量含む。

124号ピット
1　暗褐色土(10YR3/4)　締まった上。ローム漸移層ブロック、黒色土ブロックが斑に混入する。

125号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)　ローム漸移層の小ブロックを含む。
2　黄褐色土(10YR5/6)　ロームブロックと黒色土ブロックを少量含む。

126号ピット
1　黄褐色土(10YR5/6)　軟質上。ローム漸移層にロームブロックと黒色土ブロックが混じっている。
2　黒褐色土(10YR2/2)　軟質上。ローム漸移層、黒色土ブロック上が少量混じりあう。
3　黄褐色土(10YR5/8)　軟質上。ローム漸移層の二次堆積土と考えられる。

127号ピット
1　暗褐色土(10YR3/4)　軟質上。径２～３㎜のローム漸移層ブロックを少量含む。
2　黄褐色土(10YR5/8)　軟質上。ローム漸移層の二次堆積土と考えられる。

128号ピット
1　暗褐色土(10YR3/4)　白色鉱物粒を含んだ黒色土ブロックとローム漸移層ブロックが混入している。

129号ピット
1　黄褐色土(10YR5/6)　ローム漸移層に黒色土ブロックが混じっている。

130号ピット
1　黄褐色土(10YR5/6)　軟質上。白色鉱物粒を含んだロームブロックとローム漸移層ブロックが混じっている。
2　明黄褐色土(10YR6/8)　ローム漸移層。二次堆積土。

0　1:60　2m

第77図　１面のピット(６)

覆土　各土坑ピットの埋土は断面図を参照されたい。

なお、柱痕が認められたものは２・５・７・８・54・56・62・65・69・82・87・94・101・104・106・125・130号ピットであった。

構造　ピットのプランは、２・３・４・６・15・23・34・37・39・44・51・57・60・62・68・75・82・84・87・92・100・102・109・113・115・116・117・118・119・123・124・127・128・129号ピットが円形、１・７・８・　9・10・11・12・13・14・16・17・18・20・21・24・30・35・36・38・40・41・42・43・45・46・47・49・50・53・55・58・59・63・64・65・66・67・69・71・73・74・83・85・94・95・97・98・99・101・103・106・107・108・120・121・122・126号ピットが楕円形、61・86・89・91・93号ピットが隅丸長方形、５・22・48・52・56・72・88・90・125・130号ピットが隅丸方形を呈する。

掘削形態は１・９・18・24・30・36・39・61・66・67・74・88・89・91・93・95・97・122号ピットが土坑状、他は柱穴状を呈しており、底面の形状は３・４・10・12・14・15・16・20・22・32・34・35・38・41・45・46・48・49・50・58・60・62・65・68・69・74・82・83・84・86・89・99・102・107・119・126・129号ピッ

トが平底、７・９・19・21・23・33・42・43・53・54・56・61・75・91・92・93・97・98・100・108・115・117・118・124・127・128・130号ピットが尖底を呈する以外は、いずれのピットの底面も丸底であった。

その規格は径0.17～0.81m、平均0.34m（標準偏差0.12）、深さは0.12～0.82m、平均0.29m（標準偏差0.12）であった。

また、２・５・54・56・62・69・82・87・94・101・104・106・125・130号ピットは柱痕から柱の径が想定できたが、その想定値は、0.07～0.28mで、平均0.15m（標準偏差0.05）であった。

遺物　104号ピットからは土師器甕片１点が出土している。

所見　19・23・33・37・50・51・53・75・109・113・117号ピットは杭の可能性を有するが、113号ピットは斜めに入ることから樹木の根の痕跡である可能性がある。また、土坑状のものの掘削意図も特定できなかった。他のピットは柱穴と想定される。

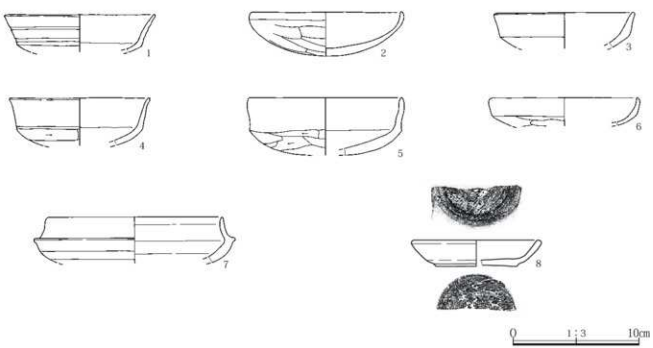
また、その時期は、いずれも古墳時代以降とするだけで、特定することはできなかった。

９．１面遺構外の出土遺物（第78図、PL.26）

１面の遺構外の出土遺物は、土師器、須恵器、土器、陶磁器類があったが、その量は多くはなかった。

このうち図示したものは、古墳時代後期のものを中心とした、土師器杯（１～６）、須恵器杯身（７）があり、近世の在地形土器皿（８）があった。

その他、土師器の杯・椀105片、624g、甕172片、2,013g、その他２点、13g、須恵器の杯・椀２片、25g、甕14片、643g、中世の在地系の鉢・鍋１点、74g、近世の国産施釉陶器３点、92g、在地形焙烙・鍋３点、85g、近現代の陶磁器１点、38g、土器類１点、８g、時期不明の土器類２点、24g、不明土器類１片、１g、その他２片、33gがあった。



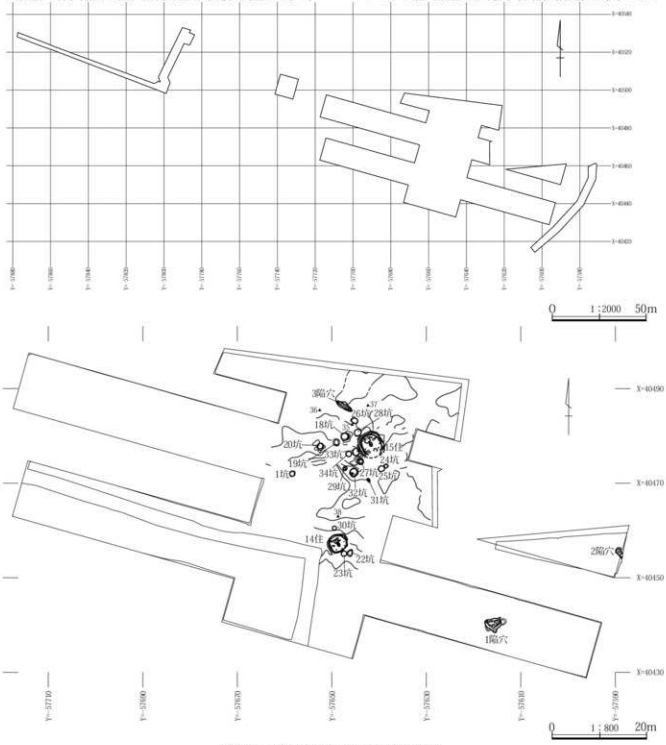
第78図　１面遺構外の出土遺物

第２節　縄文時代の遺構と遺物

１．２面の遺構（第79図）

本遺跡の２面においては、縄文時代の遺構の調査を行い、出土遺物を得た。第２面で確認、調査した遺構は竪穴住居２軒、陥穴３基、土坑17基を確認、調査した。時期不特定の遺構も少なくないが、本遺跡の縄文時代の遺構は前期を中心とした時期の所産と認識される。

このうち竪穴住居は、縄文時代前期諸磯ｂ式期のもの



第79図　調査区（上）と２面遺構分布図（下）

が２軒であった。

陥穴の時期は特定できなかったが、イノシシ用２基、シカ用１基があった。

土坑は、縄文時代前期の諸磯ｂ式土器が出土した土坑が８基、浮島式土器が出土した土坑２基があった。

２．竪穴住居

①　14号住居（第80・81図、PL.27・31）

概要　本住居は炉付の竪穴住居である。

位置　本住居は調査区中部やや南寄りにあり、Ｊ16・17グリッドに位置する。

重複　本住居に他遺構との重複は認められない。

規模　長径：4.14m　短径：3.93m　深さ：0.09m

炉　長径：1.08m　短径：0.9m　深さ：0.09m

Ｐ１　径：0.64×0.45m　深さ：0.23m

Ｐ２　径：0.13×0.12m　深さ：0.08m

Ｐ３　径：0.20×0.17m　深さ：0.13m

Ｐ４　径：0.31×0.27m　深さ：0.15m

Ｐ５　径：0.23×0.23m　深さ：0.14m

Ｐ６　径：0.29×0.26m　深さ：0.07m

Ｐ７　径：0.36×0.24m　深さ：0.06m

Ｐ８　径：0.20×0.18m　深さ：0.03m

Ｐ９　径：0.22×0.21m　深さ：0.07m

Ｐ10　径：0.32×0.29m　深さ：0.03m

Ｐ11　径：0.29×0.21m　深さ：0.22m

Ｐ12　径：0.15×0.13m　深さ：0.16m

Ｐ13　径：0.15×0.11m　深さ：0.08m

周溝　幅：0.10～0.27m　深さ：0.06m以下

埋没状況　暗褐色土、黄褐色土、ローム等で埋没する。

また、いわゆる三角堆積層は、褐色土、ローム等（４～６層）で構成される。

構造　〔**竪穴**〕　西辺がやや直線的な略楕円形のプランを呈する。

主軸方向はＮ74°Ｗを向く。

〔**掘り方・床**〕　本住居は多少掘り込まれる個所はあるものの、その床面はいわゆる「地床」である。

〔**周溝**〕　南西部で一部途切れるものの、壁際に周溝がほぼ一周する。

〔**炉**〕　炉は地床炉で、住居中心より北西寄りに設けられている。

主軸をＮ66°Ｗに向ける、隅丸長方形プランの浅い土坑状の掘り込みを掘削し、これに、ロームを多く、炭化物を少量含む黒褐色土で埋め戻して、堅く締めて炉床としているものと思慮される。

〔**柱穴**〕　柱穴とみられる掘り込みは、13基あった。いずれも掘り込みは浅く、底面に窪みは散見されたものの、柱の荷重による塑性変形と特定されるものは確認されなかった。また。そのプランは、いずれも略楕円形を呈する。

これらのピットのうちＰ６を除くピットは２組の柱穴列として把握される。このうち１組目は、Ｐ２・３・５・８・９・12・13である。これらは径0.12～0.2mの小型のもので、Ｐ９・12間は少し空いているが、これ以外の柱間は0.76～1.22m、平均0.97mであり、Ｐ９・12間は1.76mを測り、この平均値のおよそ２倍となる。従ってＰ９・12間には検出できなかった柱穴があったものと想定される。

２組目はＰ１・４・７・10・11で、１組に比して規格の大きなピット群で、炉を囲繞するようにある。柱間は、北側のＰ８・10は開き気味であるが、0.58～1.45m、平均1.008mを測る。なお、隣接するＰ６・７は、建て替えによる可能性が考慮される。

〔**貯蔵穴**〕　貯蔵穴は特定できなかった。

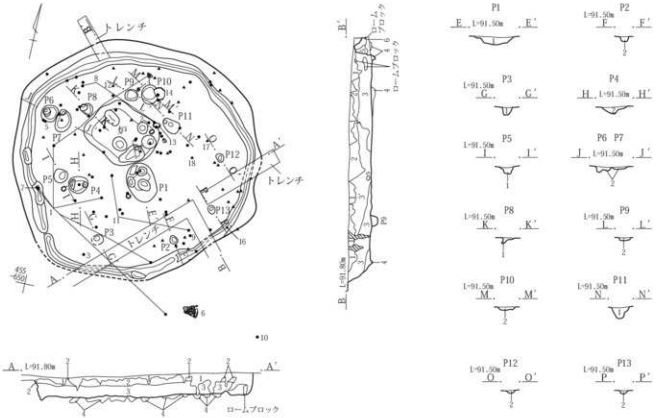
〔**上屋**〕　竪穴の形状、炉の位置及び形状等から推して、棟方向は、おおむね北西－南東方向に設置されていたものと想定される。

建物は上記１組目のピット群を主柱穴として建築されたものと、推定される。その柱と梁・桁の構造はラーメン構造と想定されるが、ピット底面に明確な荷重による変形が認められないこと、ピットの形状が小型で掘り込みも浅いことから推して、建物荷重は屋根を通して外周部に分散する構造、ある種の壁建ち構造であったものと推量される。

遺物　本住居からは、縄文土器深鉢（１～11）、石鏃（12・15、写真図版掲載）、スクレイパー（16、写真図版掲載）、二次加工ある剥片（17・18、写真図版掲載）、凹石（13）、多孔石（14）が出土した。

所見　本住居の時期は、出土遺物から推して、縄文時代前期、諸磯ｂ式期の所産と判断される。

②．15号住居（第82・83図、PL.27・28・31）

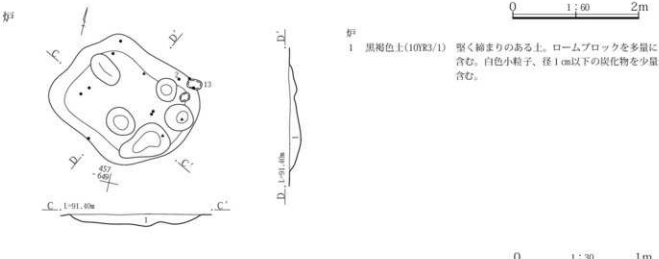


14号住居

1　暗褐色土(10YR3/3)　締まりはやや悪い。白色小粒子を微量に含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　締まりは良い。ロームブロックの溶混を微量に含む。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　締まりは良い。ロームブロックの溶混を少量含む。
3'　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　締まりは極めて良い。ロームブロックの溶混を少量含む。３層よりもやや暗く締まりも強い。下面が床面。
4　褐色土(10YR4/4)　締まりは良い。６層に類似するが、６層よりもやや暗い。
5　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　締まりは良い。ロームブロックの溶混を含む。３層よりも僅かに明るい。
6　褐色土(10YR4/4)　締まりは良い。ほぼロームに近いが暗褐色土を少量含む。床下の上。

ピット

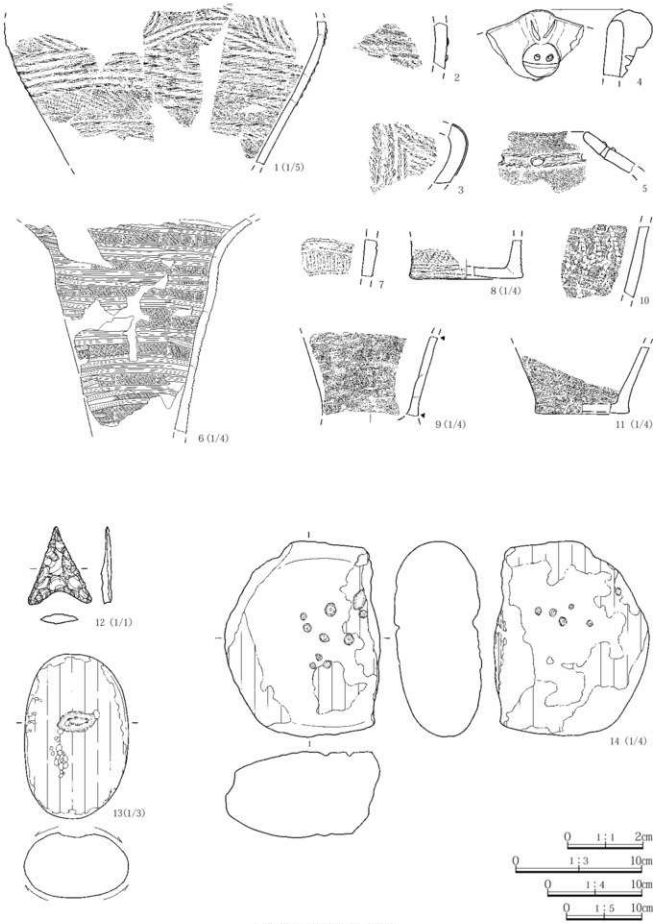
1　褐色土(10YR4/4)　締まりがある。ローム溶混及び黒褐色土の溶混が入る。
2　黄褐色土(10YR5/8)　締まりがある。ロームの溶混と白色鉱物粒を含む。



炉

1　黒褐色土(10YR3/1)　堅く締まりのある土。ロームブロックを多量に含む。白色小粒子、径１cm以下の炭化物を少量含む。

第80図　14号住居



第81図　14号住居出土遺物

概要　本住居は炉付の竪穴住居である。

南西部が後世の遺構との重複により失われている。

位置　本住居は調査区中北部にあり、N14～O15グリッドに位置する。

重複　本住居は後世の２・10号住居と重複し、これらに切られている。

規模　長径：(5.72)m　短径：5.03m　深さ：0.37m
(内側)長径：(5.12)m　短径：3.99m
炉(Ｐ１)　長径：1.05m　短径：0.73m
深さ：0.25m
Ｐ２　径：0.41×0.34m　深さ：0.11m
Ｐ３　径：0.39×0.39m　深さ：0.11m
Ｐ４　径：0.34×0.34m　深さ：0.05m
Ｐ５　径：0.21×0.18m　深さ：0.05m
Ｐ６　径：0.16×0.14m　深さ：0.14m
Ｐ７　径：0.16×0.13m　深さ：0.27m
Ｐ８　径：0.15×0.14m　深さ：0.17m
Ｐ９　径：0.14×0.14m　深さ：0.14m
Ｐ10　径：0.43×0.36m　深さ：0.35m
Ｐ11　径：0.33×0.26m　深さ：0.32m
Ｐ12　径：0.26×0.23m　深さ：0.22m
Ｐ13　径：0.21×0.19m　深さ：0.21m
Ｐ14　径：0.14×0.14m　深さ：0.14m
Ｐ15　径：0.15×0.15m　深さ：0.18m
Ｐ16　径：0.16×0.16m　深さ：0.07m
周溝(内)　幅：0.11～0.25m　深さ：0.08m以下
周溝(外)　幅：0.08～0.22m　深さ：0.06m以下

埋没状況　暗褐色土とローム等で埋没する。また、いわゆる三角堆積層は、ロームを含む褐色土(３層)である。

構造　〔竪穴〕　本住居のプランは、隅部が鈍角な隅丸長方形を呈する。

主軸方向はN33°Wを向く。

〔掘り方・床〕　本住居の床面はいわゆる「地床」である。

〔周溝〕　壁際(外側)と、その0.2～0.35m内側に掘削れた２条の周溝がある。内外の周溝共に、ピット状の掘り込みで接続する箇所が見られる。

また、南西部が失われているため確認できないが、残存部部では内側の周溝は一周し、外側の周溝は南東寄りで0.8m途絶えている。

〔炉〕　炉は地床炉で、住居中心より僅かに北西寄りに設けられる。

主軸をN16°Eに向ける、楕円形プランの浅い土坑状の掘り込みを掘削し、これをロームと黒褐色土の入る褐色土、その上にロームと黒褐色土と少量の炭化物を含む黄褐色土で埋め戻して、堅く締めて炉床としているものと思慮される。

〔柱穴〕　柱穴とみられる掘り込みは、15基あった。いずれも掘り込み浅い。また。そのプランは、略楕円形を呈するものが多い。

これらのうちＰ２・３、Ｐ７・８、Ｐ11・12は近接してあり、建て替えによるものと見られるが、ピットの規格もばらつきがあるため、建て替え前、建て替え後への仕分けはできなかった。

〔貯蔵穴〕　貯蔵穴は北西部にある、土坑を比定した。この土坑は楕円形のプランを呈し、底面は甕単形のプランを呈する。

〔上屋〕　竪穴の形状、炉の位置及び形状等から推して、棟方向は、おおむね北西－南東方向に設置されていたものと想定される。

遺物　本住居からは、縄文土器深鉢(１～７)、スクレイパー(10、写真図版掲載)、石錐(８)、多孔石(９・11・12、写真図版掲載)が出土した。

所見　本住居からは縄文時代前期の土器が出土しているが、その時期は、深鉢(７)が前期浮島Ⅲ式のものであるものの、深鉢(１～６)の時期である前期諸磯ｂ式期に属するものと判断される。

３．陥穴

①　１号陥穴(第84図、PL.28)

概要　本遺構は狩猟用陥穴である。

下位壁面に40本程の杭が乱杭状に打設されていたものと想定される。

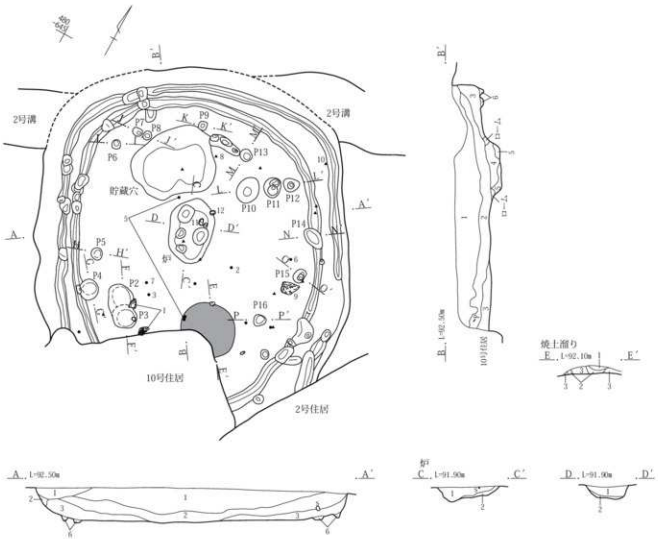
位置　調査区東南部にあり、Ｆ９～G10グリッドに位置する。

規模　長軸：3.57m　短軸：3.16m
深さ：1.8m

重複　同時期の他遺構との重複はなかった。

覆土　黒褐色・暗褐色・褐色土、ローム等の土壌で埋没していた。

構造　本陥穴は壁面上位が崩落していたため、不整形な



15号住居

1　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　締まりは悪い。ロームブロックと暗褐色土の混土層。(新しい撹乱)
1　暗褐色土(10YR3/4)　締まりはやや弱い。にぶい黄褐色土ブロックの溶混を少量含む。白色粒・焼土粒を微量に含む。中央より端の方が明るい。
2　暗褐色土(10YR3/3)　締まりは良い。にぶい黄褐色土ブロックの溶混を少量含む。ハードロームを微量に含む。中央より端の方が明るいが１層よりは暗い。
3　褐色土(10YR4/6)　締まりは良い。ロームブロックを少量含む。２層よりもかなり明るい。
4　黒褐色土(10YR3/2)　２層よりもさらに締まりは強い。２層より黒味が強い。ハードロームブロックを微量に含む。
5　暗褐色土(10YR3/4)　粘性あり。締まり弱い。ロームを少量含む。
6　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　締まりはやや弱い。極薄く浸み状に暗褐色土を含む。

炉1

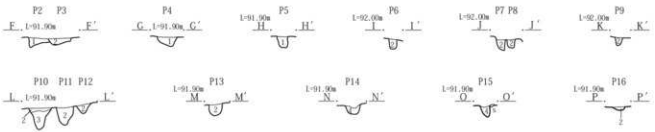
1　黄褐色土(10YR5/6)　軟質土。ブロック状の暗褐色土を少量含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　軟質土。黄褐色土ブロックと白色鉱物粒を少量含む。

焼土溜まり

1　明黄褐色土(10YR6/8)　締まりのある土。ロームブロックを多量に含む。白色鉱物粒・炭化物粒を少量含む。
2　明黄褐色土(10YR6/8)　堅く締まっている土。ロームブロック・黒色土ブロック、径２㎜の白色鉱物粒を少量含む。焼土ブロック微量に含む。
3　明黄褐色土(10YR6/8)　締まっている土。ロームブロック・黒色土ブロック・焼土ブロック少量含む。

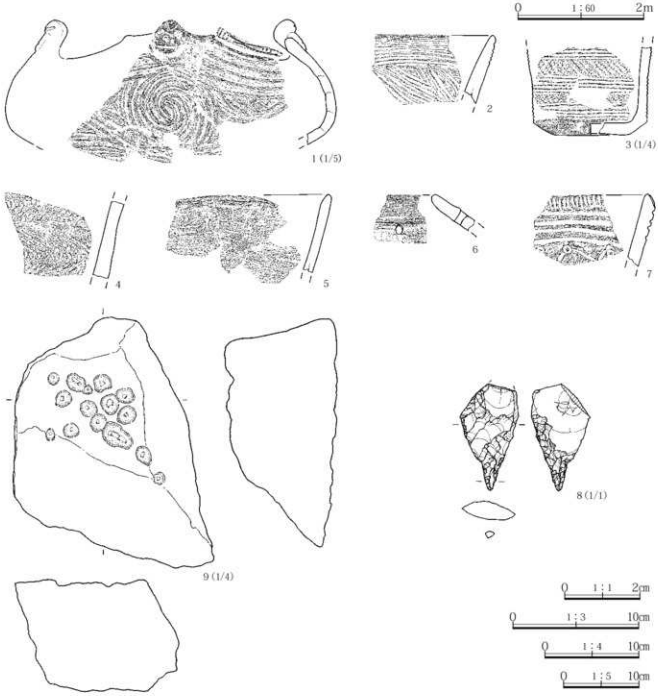
0　1:60　2m

第82図　15号住居(１)

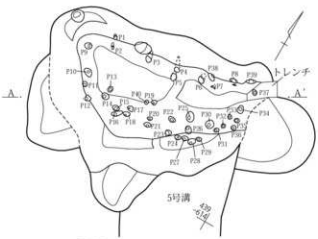


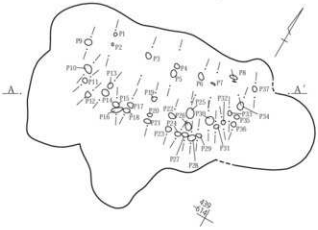
15号住居ピット

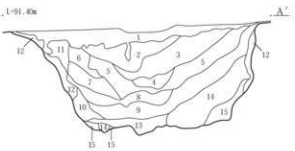
1　黄褐色土(10YR5/6)　軟質土。ブロック状の暗褐色土を少量含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　軟質土。黄褐色土ブロックと白色鉱物粒を少量含む。
3　褐色土(10YR4/4)　ロームブロックを少量含む。
4　黄褐色土(10YR5/8)　締まりがある。ロームブロックと黒色土ブロックが斑状に入っている。細かな炭化物少量含む。白色鉱物粒子を含む。



第83図　15号住居(２)と出土遺物

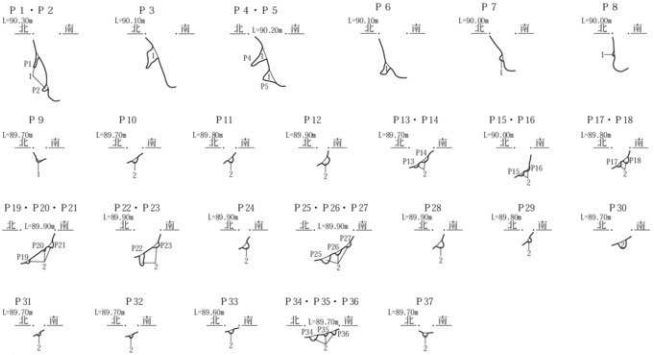






１号陥穴

1　暗褐色土(10YR3/3)　黄褐色土ブロック溶混を少量含む。
2　褐色土(10YR4/4)　ローム小ブロック・粒を微量に含む。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　ロームブロックを微量に含む。２層よりも暗い。
4　にぶい赤褐色土(5YR4/3)　焼土を全体に含み、赤味を帯びる。
5　褐色土(10YR4/4)　ハードロームブロックを微量に含む。
6　黒褐色土(10YR3/2)　ロームブロックを微量に含む。
7　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックの溶混を少量含む。
8　黒褐色土(10YR3/2)　６層に類似するが、部分的に６層よりも黒味が強いところ有り。
9　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　５層に類似するが、５層よりもやや明るい。
10　褐色土(10YR4/4)　ハードロームブロックを微量に含む。
11　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　やや締まりは弱い。
12　黄褐色土(10YR5/6)　ほぼ単一的。ソフトロームに近い。
13　暗褐色土(10YR3/4)　やや締まりは弱い。
14　褐色土(10YR4/4)　暗褐色土ブロックの溶混を少量含む。
15　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　やや締まりは弱い。



ピット

1　褐色土(10YR4/4)　締まりは悪い。ロームの再堆積層。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　締まりは悪い。ほぼロームの再堆積層。１層よりも粘性が強い。

0　1:60　2m

第84図　１号陥穴

プランを示していたが、本来は縦長の隅丸台形様のプランを呈していたものと思慮される。

掘削形態は船形を呈し、底面の形態は平底を呈し、主軸方向はN71°Eを向く。

壁面下位を中心に40基の小杭が開けられていた。これらの小杭は形態から杭あるいは樹木の根の痕跡の可能性が考えられたが、後述のように底面形態が尖底のものは８基に過ぎないものの、底面に確認されたピット13を除いて壁面の下位の比較的限定した範囲に確認されていたことから、根の痕跡ではなく、杭の打設痕の可能性が高いものと判断されるものである。

これらの小杭の径は、0.02～0.19m、平均0.091m、深さは0.03～0.3m、平均0.08mを測る。また、そのプランは、ピット32が円形、ピット４・６・16・18・20・21・22・23・24・29・37は片側縁が扁平なものが多い略楕円形、ピット８・39がラグビーボール形、ピット７が三日月形、ピット３・10・12・17・40・19・34が隅丸三角形、ピット36が隅丸方形、ピット28・30が隅丸長方形を呈し、他の15基は楕円形を呈した。底面の形態は平底がピット１・６・27の３基、尖底がピット２・３・４・５・７・19・20・25の８基礎、記録の残せなかったピット38～40を除く他の26基は丸底であった。

杭の打設の方向は水平方向がピット７、垂直方向がピット９・22・26・30・32・34・35・36・37・39・40の11基、その他25基が垂直方向であったが、壁面に対しての打設方向は、斜め方向がピット１・３・６・９・21・22・26・30・32・34・35・36の12基、記録の残せなかったピット38～40を除く他の25基は垂直方向である。

なお、掘削位置の高度は89.41～89.96m、平均89.607m(標準偏差0.112)であった。

遺物　本陥穴からの出土遺物は得られなかった。

所見　本陥穴は、狩猟用の陥穴であり、そのプランから推して、イノシシ用のものと思慮される。

また、その細かい時期は特定できなかった。

②　**２号陥穴**(第85図、PL.28)

概要　本遺構は狩猟用の陥穴である。

また、本陥穴は底面に杭４本が打設されていたと判断される陥穴である。

東部が調査区外に出ており、全容は把握することはできなかった。

位置　調査区東端部にあり、Ｉ・Ｊ４グリッドに位置している。

規模　長軸：(2.26)m　短軸：1.4m

深さ：1.4m

〔ピット１〕　径：0.16×0.13m　深さ：0.40m

〔ピット２〕　径：0.15×0.14m　深さ：0.28m

〔ピット３〕　径：0.19×0.18m　深さ：0.39m

〔ピット４〕　径：0.15×0.14m　深さ：0.20m

重複　同時期の他遺構との重複はなかった。

覆土　褐色・黄褐色土、ローム等で埋没する。

構造　本陥穴は西側の壁面が崩落していたため、調査時点で分銅形のやや不整形なプランを呈するものであったが、本来は隅丸長方形のプランの坑として掘削されていたものと思慮される。

掘削形態は箱形を呈しており、底面形態は平底であり、主軸方向はN39°Wを向いている。

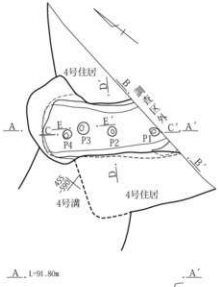
また、長軸方向の中心線に沿うように、４基の杭の打設痕と思慮される小杭が確認された。小孔の径は0.13～0.19m、平均0.155m、深さ0.2～0.4m、平均0.318mを測った。小孔のプランはピット１が隅丸台形、ピット２～４は楕円形を呈しており、掘削形態はいずれも逆円錐台形様を呈しており、底面の形態は、ピット１・４が丸底、ピット２・３が尖底を呈していた。

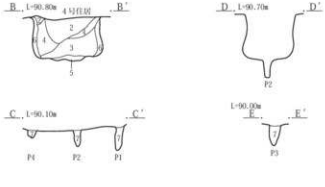
遺物　出土遺物は得られなかった。

所見　本陥穴は、狩猟用の陥穴であり、そのプランから推して、イノシシ用のものと思慮される。

また、その時期は縄文時代であるが、細かい時期を特定することはできなかった。

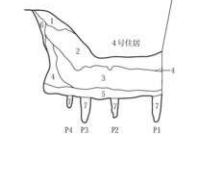
③　**３号陥穴**(第86図、PL.29・31)





２号陥穴

1　黄褐色土(10YR5/6)　締まりはやや良い。漸移層ブロックの溶混を含む。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　締まりは極めて良い。漸移層ブロックの溶混を少量含む。
3　褐色土(10YR4/4)　締まりは良い。ロームブロックの溶混を含む。
4　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　締まりは弱い。ロームブロックと暗褐色土の混合土でロームの方がややを多い。
5　灰黄褐色土(10YR4/2)　締まりは４層よりも悪い。ロームブロックを少量含む。全体的に４層より暗い。
6　黄褐色土(10YR5/6)　締まりはやや良い。暗褐色土を少量含む。
7　暗褐色土(10YR3/3)　やや粘性有り。締まりは極めて悪い。



0　1:60　2m

第85図　２号陥穴

概要　本遺構は狩猟用陥穴である。

底面に杭９本が打設されていたものと判断される。

南北両肩に崩落の痕跡が見られる。

位置　調査区北中部にあり、Ｐ16グリッドに位置する。

規模　長軸：3.78m　短軸：0.14～0.28m

深さ：1.43m

〔ピット１〕　径：0.14×0.13m　深さ：0.07m

〔ピット２〕　径：0.08×0.06m　深さ：0.11m

〔ピット３〕　径：0.07×0.05m　深さ：0.11m

〔ピット４〕　径：0.07×0.05m　深さ：0.08m

〔ピット５〕　径：0.07×0.06m　深さ：0.08m

〔ピット６〕　径：0.07×0.06m　深さ：0.21m

〔ピット７〕　径：0.08×0.08m　深さ：0.16m

〔ピット８〕　径：0.08×0.07m　深さ：0.19m

〔ピット９〕　径：0.14×0.12m　深さ：0.29m

重複　同時期の他遺構との重複はなかった。

覆土　褐色・明黄褐色土、黄橙色ロームで埋没する。

構造　本陥穴は南北両側壁面土位が崩落していたため、豆鞘状のプランを示していたが、本来は両端の丸い短冊形プランを呈していたものと思慮される。掘削形態は薬研堀状を呈し、底面の形態は平底を呈し、主軸方向はN 57°Wを向く。

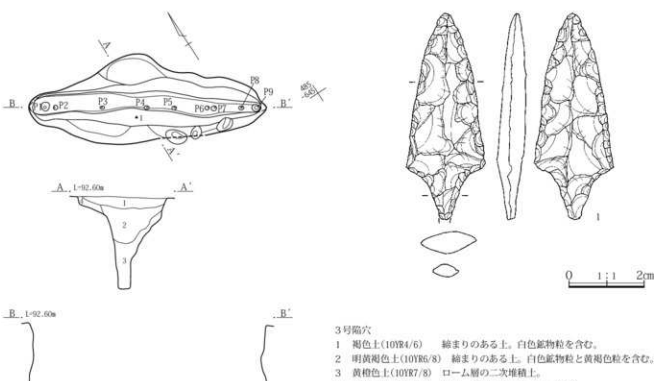
長軸方向、東西両側の中心をつなぐ線に沿うように、９基の杭の打設痕と思慮される小穴が穿たれている。小孔の配列は中央部では西壁に沿ってある。小孔の径は0.05～0.14m、平均0.082m、深さ0.07～0.22m、平均0.072mである。小孔のプランはいずれも略楕円形を呈すし、底面の形態は、ピット１・５・６は丸底、他のピットは尖底である。

遺物　有茎尖頭器（１）が出土している。

所見　本陥穴は、狩猟用の陥穴であり、そのプランから推して、シカ用のものと思慮される。

また、その時期は縄文時代であるが、細かい時期を特定することはできなかった。

４．２面の土坑群（第87～92図、PL.29・30・32・33）



３号陥穴
1　褐色土(10YR4/6)　締まりのある土。白色鉱物粒を含む。
2　明黄褐色土(10YR6/8)　締まりのある土。白色鉱物粒と黄褐色粒を含む。
3　黄橙色土(10YR7/8)　ローム層の二次堆積土。
4　黄橙色土(10YR7/8)　地山。締まりがある。ローム層。

第86図　３号陥穴と出土遺物

概要　２面では、１・18～20・22～34号土坑の17基の土坑を確認、調査した。

位置　２面の土坑はいずれも調査区中部に所在する。このうち、22・23・30号土坑は南寄りに位置し、他の土坑は北寄りに位置する。

なお、表７に所在グリッドを記した。

規模・主軸方位　表７に記した。

重複　これらの土坑は、いずれも同時期の他の遺構との重複は見られなかった。

覆土　各土坑の断面図を参照されたい。

構造　土坑のプランは、19・25・29・33・34号土坑は円形、１・22・24・26・27・28・31号土坑は楕円形、18・20・23・30・32号土坑は隅丸方形を呈する。

また掘削底面は１・18・19・20・24・25・27・29・31・34号土坑が袋状、22・23・26・28・32・33号土坑が缶状を呈し、31号土坑は樹木の根の可能性を有する。なお、底面形態は、いずれも平底を呈する。

その規格は、径は0.55～1.96m、平均1.21m(標準偏差0.68)、深さは0.29～1.37m、平均0.68m(標準偏差0.27)を測った。

遺物　遺物は、18号土坑からは深鉢片(１)と石皿(２)、19号土坑からは深鉢片(１～５)や石錐(６)、凹石(７)、22号土坑からは深鉢片(１)、25号土坑からは深鉢片(１～３)、26号土坑からは凹石(１・２)と二次加工ある剥片(３)、27号土坑からは深鉢片(１)、28号土坑からは深鉢片(１)とスクレイパー(２)、30号土坑からは深鉢片とスクレイパー(１)、32号土坑からは深鉢片(１)と多孔石(２)、スクレイパー(３)、石核(４)、33号土坑からは深鉢片(１)と磨石(２)、石皿(３)、二次加工のある剥片(４)、34号土坑からは深鉢(１～４)と石鏃(５・６)や石鏃の未成品(７)、有茎尖頭器(８)、石核(９)、及びオニグルミの炭化物が７点出土した。

所見　34号土坑はオニグルミが出土したことから、貯蔵穴であった可能性が想定される。しかし、他の土坑に関しては、いずれもその掘削意図を特定することはできなかった。

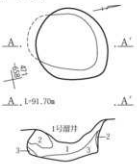
また、その時期は、出土遺物から推して、18・19・27・28・29・30・32・33・34号土坑は諸磯ｂ式期、22号

土坑は浮島式期、25号土坑は諸磯ｂ式あるいは浮島式期の所産と想定される。なお、他の土坑は縄文時代と推定されるものの、細かい時期は特定できなかった。

５．２面遺構外の出土遺物(第93・94図、PL.33～35)

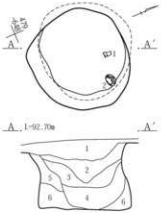
１面で出土したもののうち、２面に属すると判断され

1号土坑

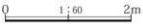


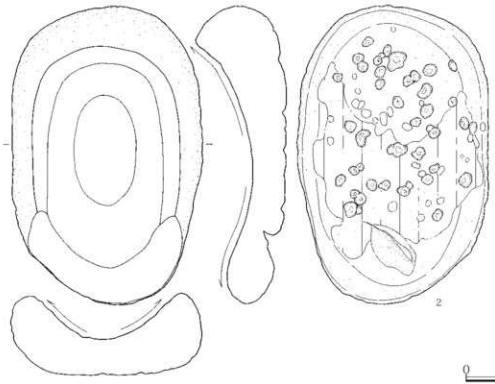
1号土坑
1　黄褐色土(10YR5/4)　締まりのあるロームの二次堆積土。やや汚れている。径１～５㎜の黄褐色軽石を少量含む。
2　明黄褐色土(10YR6/8)　ロームブロックの硬く締まった土。径１～５㎜の黄褐色軽石を少量含む。
3　黄褐色土(10YR5/4)　やや粘性あり。軟質。締まりのあるロームの二次堆積土。やや汚れている。径１～５㎜の黄褐色軽石を少量含む。

18号土坑



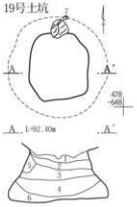
18号土坑
1　褐色土(10YR4/4)　ローム漸移層に類似する。
2　暗褐色土(10YR3/4)　径２㎜の白色鉱物粒と赤褐色土粒を少量含む。
3　黄褐色土(10YR5/6)　径２㎜の白色鉱物粒と赤褐色土粒を少量含む。
4　黄褐色土(10YR5/8)　ロームブロックと径２㎜の白色鉱物粒を少量含む。
5　明黄褐色土(10YR6/8)　ロームブロックを少量含む。ローム漸移層の２次堆積土。
6　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックを少量含む。

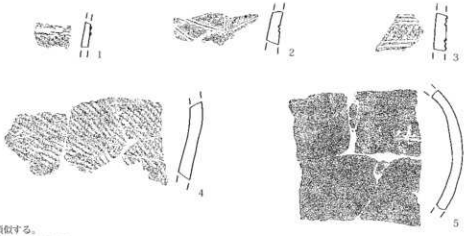




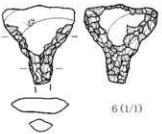
第87図　１・18号土坑と出土遺物

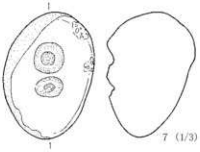
19号土坑



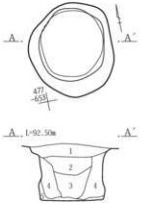


19号土坑
1　褐色土(10YR4/4)　ローム漸移層に類似する。
2　暗褐色土(10YR3/4)　径２㎜の白色鉱物粒と赤褐色土粒を少量含む。
3　黄褐色土(10YR5/6)　径２㎜の白色鉱物粒と赤褐色土粒を少量含む。
4　黄褐色土(10YR5/8)　ロームブロックと径２㎜の白色鉱物粒を少量含む。
5　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックを少量含む。
6　暗褐色土(10YR3/4)　ロームブロックを少量含む。



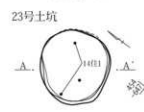


20号土坑

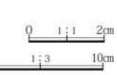


20号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　締まりのある土。白色鉱物粒を含んだ褐色土と黒色土ブロックが斑状に混入する。
2　黒褐色土(10YR2/2)　締まりのある土。白色鉱物粒、黄褐色土粒を含む。褐色土ブロック少量と黒色土が斑に入る。
3　暗褐色土(10YR3/4)　白色鉱物粒、黄褐色土粒、褐色土ブロックを含む。
4　黒色土(10YR2/1)　白色鉱物粒、黄褐色土粒を含む、褐色土ブロック少量が斑に入る。
5　黄褐色土(10YR4/6)　ローム層の二次堆積土。

22号土坑



22号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　締まりはやや悪い。白色小粒を微量に含む。
2　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　締まりは良い。ロームブロックの溶混を含む。
3　褐色土(10YR4/4)　締まりは良い。ほぼロームに近いが暗褐色土を少量含む。床下の土。



0　1:1　2cm

0　1:3　10cm

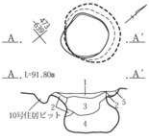
23号土坑

23号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　締まりは非常に良い。ローム粒、炭化物粒を微量に含む。

0　1:60　2m

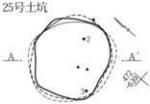
第88図　19・20・22・23号土坑と出土遺物

24号土坑

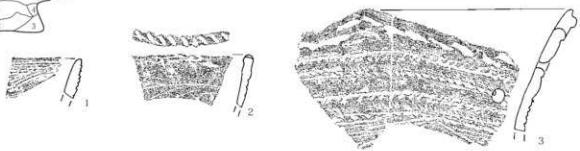


24号土坑
1　暗褐色土(10YR3/4)　軟質土。ロームブロック・粒を含む。焼土粒を少量含む。
2　褐色土(10YR4/6)　ローム漸移層とロームブロックからなる理土か。
3　褐色土(10YR4/6)　軟質土。ローム漸移層とロームブロックからなる理土か。ロームブロックが少ない。
4　褐色土(10YR4/4)　軟質土。ローム漸移層とロームブロックからなる理土か。ロームブロックが少ない。
5　10号住居壁溝内覆土。

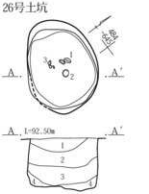
25号土坑



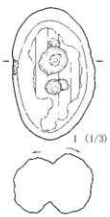
25号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)　締まりあり。褐色土ブロックとローム粒を全体に含む。炭化物を含む。径２～３cmのロームブロックを少量含む。
2　褐色土(10YR4/6)　ロームの二次堆積土。褐色土ブロックが全体に少量含まれている。
3　暗褐色土(10YR3/4)　ロームの二次堆積土。
4　黄褐色土(10YR6/8)　締まりがある。ロームブロックを主とした再堆積のロームブロック。



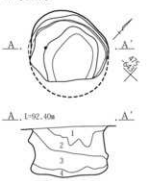
26号土坑



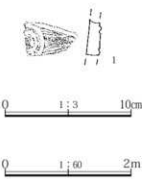
26号土坑
1　明黄褐色土(10YR6/6)　軟質土。径１～２mmの白色鉱物粒がまばらに全体に入る。
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　白色鉱物粒が混じるロームの二次堆積土。褐色土ブロックが斑に入る。炭化物を少量含む。
3　褐色土(10YR4/4)　２層よりも暗い。白色鉱物粒を含むロームの二次堆積土に褐色土ブロックが斑に入る。炭化物が少量入る。
4　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘質土。ロームブロックを含む。



27号土坑

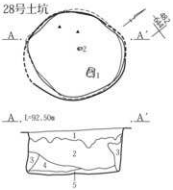


27号土坑
1　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　締まりは弱い。暗褐色土ブロック溶混及びロームブロック溶混を少量含む。
2　褐色土(10YR4/4)　締まりは極めて良い。ロームブロック溶混を少量含む。炭化物粒を微量に含む。
3　暗褐色土(10YR3/3)　締まりは極めて良い。ロームブロック・粒、炭化物粒を微量に含む。
4　にぶい黄褐色土(10YR5/4)　締まりはやや良い。ハードロームブロックを少量含む。径１cmの炭化物片を含む。



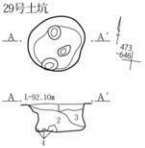
第89図　24・25・26・27号土坑と出土遺物

28号土坑



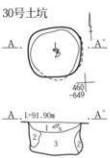
28号土坑
1　褐色土(10YR4/6)　締まりのある上。白色鉱物粒を含む。
2　暗褐色土(10YR3/4)　締まりのある上。径５～20mmのロームブロックと径１～２mmの炭化物を少量含む。
3　明黄褐色土(10YR6/8)　ローム層の二次堆積土。
4　黄橙色土(10YR7/8)　軟質上。ローム層。
5　黄褐色土(10YR5/6)　ローム漸移層。地山。

29号土坑

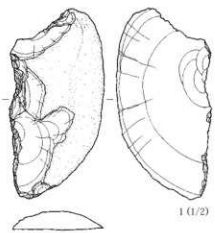


29号土坑
1　褐色土(10YR4/6)　径２～３cmのロームブロックと白色鉱物粒を少量含む。
2　黒褐色土(10YR2/2)　締まりのある上。径３～５cmの褐色土ブロックが斑に全体と白色鉱物粒を少量含む。
3　暗褐色土(10YR3/4)　軟質上。ロームブロック・粒、白色鉱物粒を少量含む。
4　明黄褐色土(10YR6/8)　軟質である。ロームの流入土で２層土ブロックの入った二次堆積土。

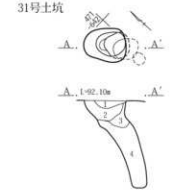
30号土坑



30号土坑
1　黄褐色土(10YR5/8)　黒褐色ブロックを微量に含む。
2　明黄褐色土(10YR6/8)　ロームの二次堆積層。黒褐色ブロックを微量に含む。
3　黒褐色土(10YR2/3)　締まりのある上。径３cmの褐色土ブロックを含む。



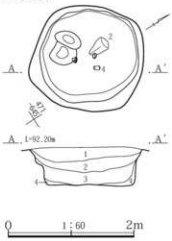
31号土坑



31号土坑
1　暗褐色土(10YR3/4)　軟質上。径２～３cmの褐色土ブロックが斑に入る。ローム粒と白色鉱物粒を少量含む。
2　黒褐色土(10YR3/2)　１層に類似するがやや暗い。黒色土ブロックを少量含む。
3　褐色土(10YR4/4)　軟質上。径２～３cmの褐色土ブロック、ローム粒を含む。
4　黒褐色土(10YR2/3)　軟質上。褐色土粒を多量に含む。径２～３cmの褐色土ブロックを少量含む。

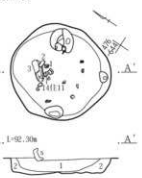
第90図　28・29・30・31号土坑と出土遺物

32号土坑

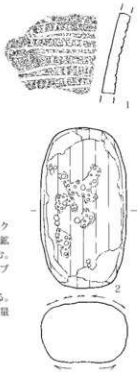


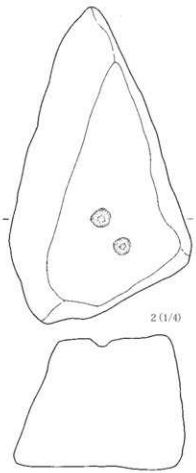
32号土坑
1　褐色土(10YR4/6)
径２～３cmのロームブロックと白色鉱物粒を少量含む。
2　黒褐色土(10YR2/2)
締まりのある土。径３～５cmの褐色土ブロックを斑に全体と白色鉱物粒を少量含む。
3　暗褐色土(10YR3/4)
軟質土。ロームブロック・粒、白色鉱物粒を少量含む。
4　黄褐色土(10YR5/8)
僅かに粘性土。軟質。ロームの流れ込みによる二次堆積。

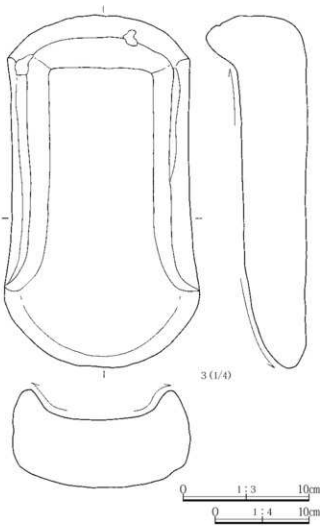
33号土坑



33号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)　ロームブロックを含む。白色鉱物粒を少量含む。所々に堅いブロックが入る。
2　黄褐色土(10YR5/6)　やや粘性がある。暗褐色土を少量含む。

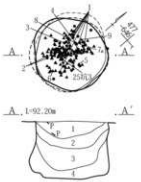






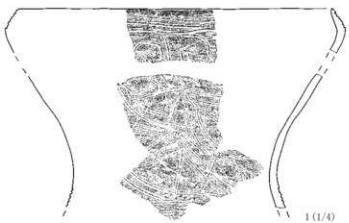
第91図　32・33号土坑と出土遺物

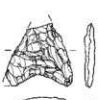
34号土坑

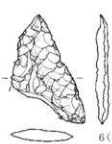


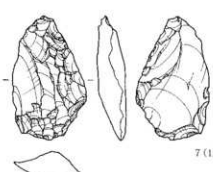
34号土坑

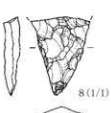
1　褐色土(10YR4/4)　締まりのある土。ロームブロック焼土粒、炭化物粒を少量含む。縄文前期の土器片と石器のチップが出土する。
2　黄褐色土(10YR5/6)　ロームブロックを少量含む。炭化物を微量に含む。
3　明黄褐色土(10YR6/8)　締まりは弱い。ロームブロックとローム粒からなる。炭化物粒を微量に含む。
4　明黄褐色土(10YR6/8)　粘性が強い。締まりは弱い。ロームブロックとローム粒からなる。炭化物粒を微量含む。











0　1:60　2m

0　1:1　2cm

0　1:3　10cm

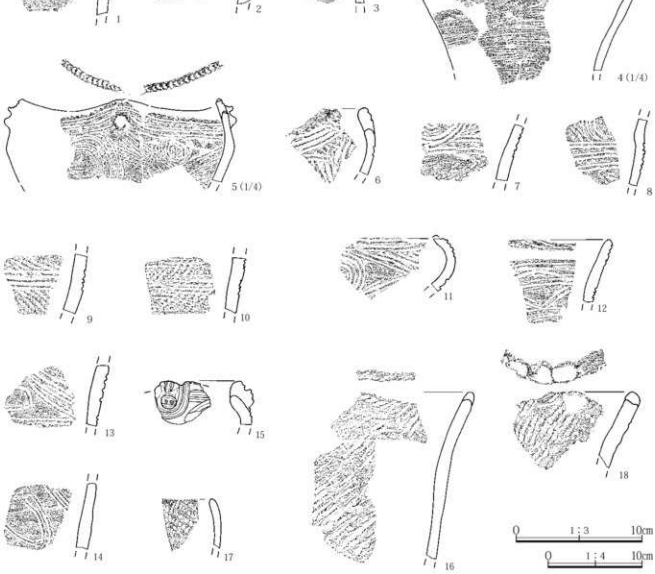
0　1:4　10cm

第92図　34号土坑と出土遺物

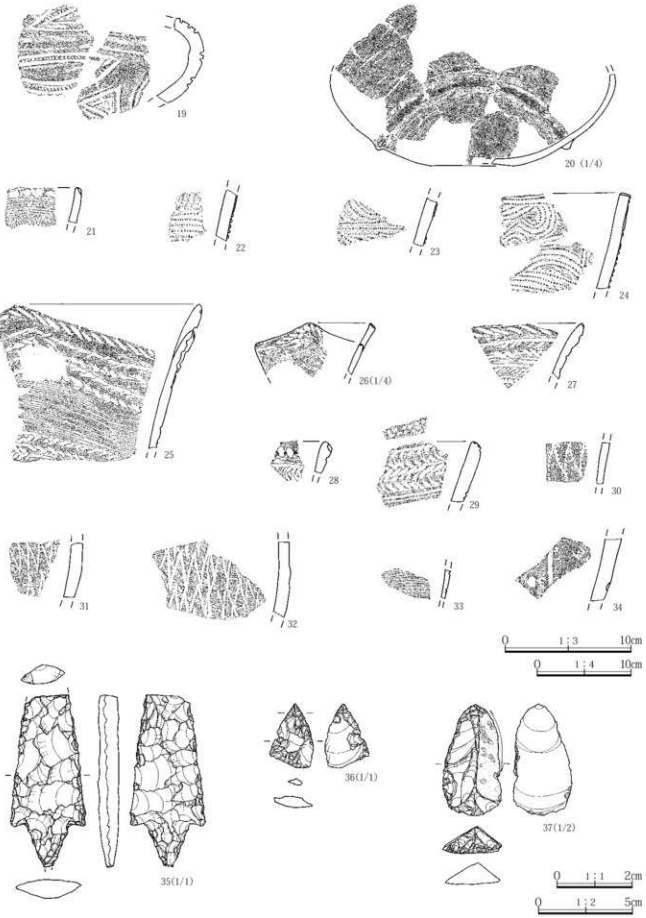
る遺物と、２面の遺構外の出土遺物を合わせて報告する。

本報告書に掲載した遺物には、縄文時代前期の諸磯ｂ式（１～20）、諸磯ｃ式(21～24)、浮島Ⅱ式(25～29)、浮島式(30～33)、興津式(33)、後期の堀之内１式(34)の縄文土器深鉢片、有茎尖頭器(35)、尖頭状石器(36)、エンドスクレイパー(37)、スクレイパー(40～42)、石錐(39)、打製石斧(43・44)、二次加工ある剥片(46～53)、石核(38・45)、凹石(54)、棒状礫(55)等の石器がある。

この他、前期諸磯ｂ式361片(5,418ｇ)、諸磯ｃ式９片(127ｇ)、浮島式13片(184ｇ)、興津式２片(10ｇ)、中期加曽利Ｅ３式１片(28ｇ)、後期、称名寺Ⅱ式２片(126ｇ)を数えた縄文土器片、黒色頁岩74点(1,434.1ｇ)、珪質頁岩１点(１ｇ)、頁岩１点(8.6ｇ)、黒色安山岩50点(628.9ｇ)、細粒輝石安山岩７点(60.6ｇ)、粗粒輝石安山岩１点(0.1ｇ)、変質玄武岩２点(31.8ｇ)、チャート119点(128.7ｇ)、ホルンフェルス１点(29.9ｇ)を数えた剥片等の出土があった。



第93図　２面遺構外の出土遺物(１)



第94図　２面遺構外の出土遺物（２）

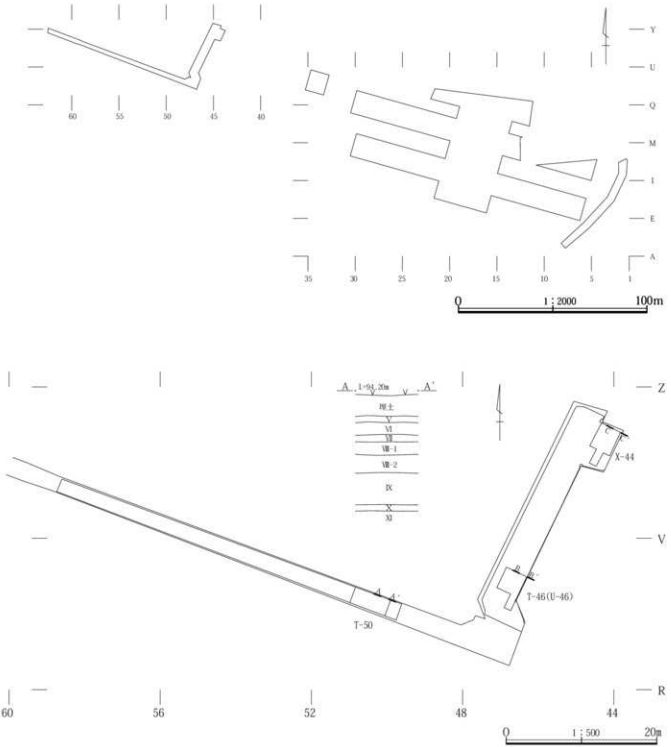
第３節　旧石器時代の調査と遺物

１．３面の概要

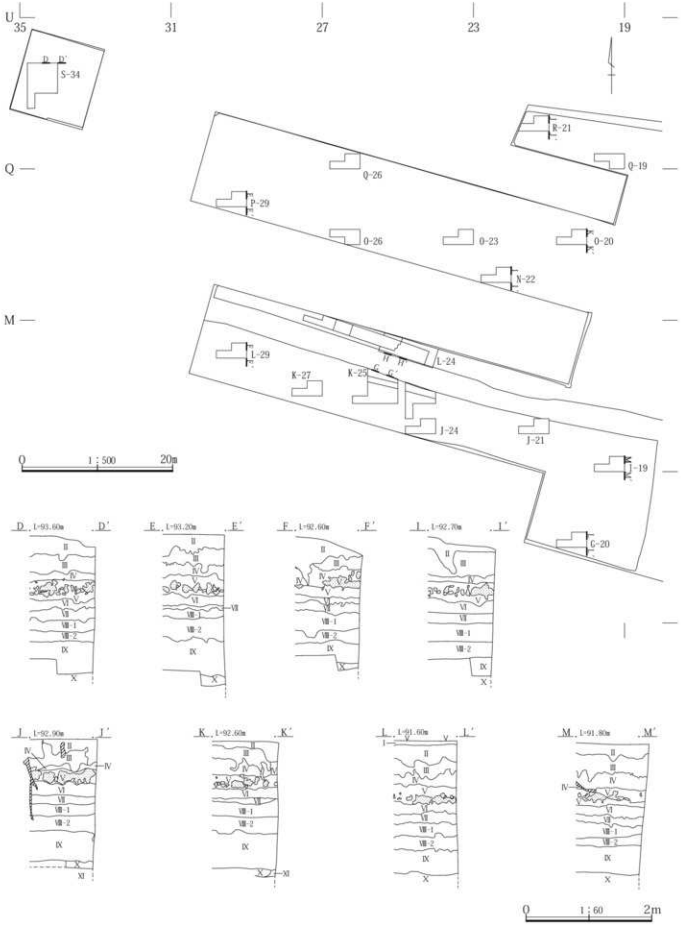
本遺跡の３面においては、旧石器時代の遺物遺存の確認調査を行い、出土遺物を得た。

第３面では、中央部南寄りの区域を中心に、As-BP包含層付近から、若干の石器、礫が出土した。

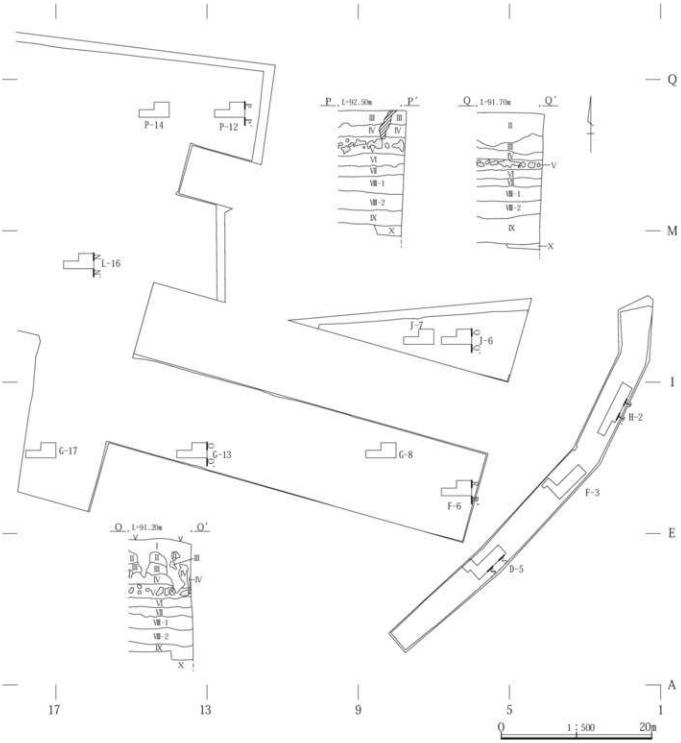
また、同層から出土した炭化物を年代測定にかけたと

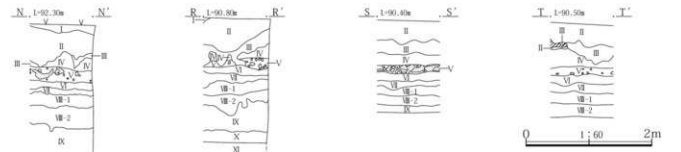


第95図　調査区（上）・西部確認調査グリッド配置図（下）とトレンチ断面図（１）

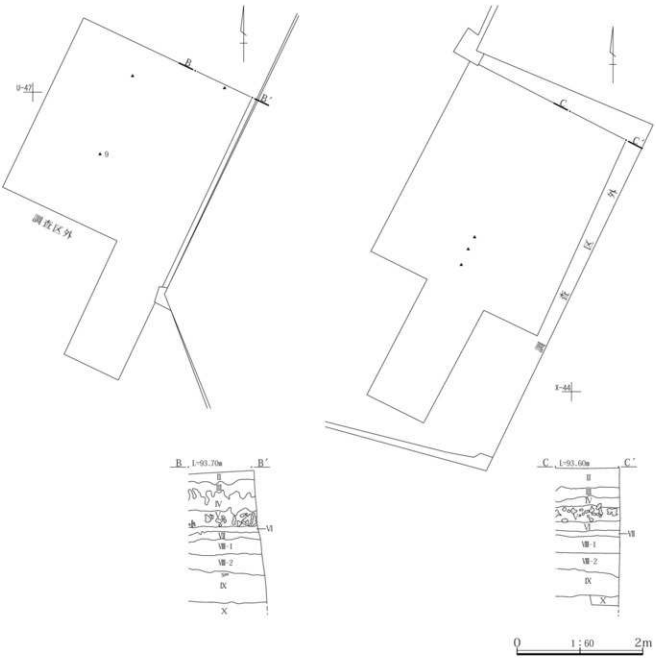


第96図　中西部確認調査グリッド配置図とトレンチ断面図（２）





第97図　中東部・東部確認調査グリッド配置図とトレンチ断面図(３)



第98図　T・U46グリッド(左)・X44グリッド(右)遺物出土位置図とトレンチ断面図(４)

ころ、B.P.22600±80年、あるいはB.P.26180±110年という成績を得た。

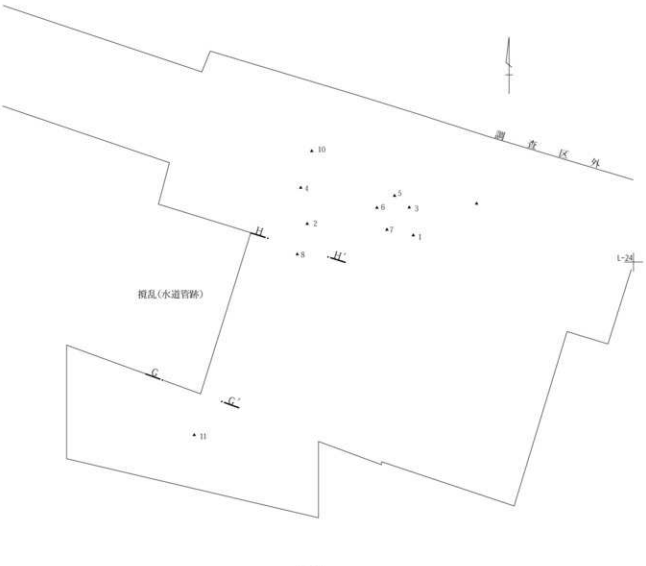
２．旧石器時代の調査(第95～99図、PL.36・37)

確認調査　旧石器の調査は、先ず初めに、東端部及び西部は調査区に沿い、他の区域はグリッド包含に沿うグリッドを設定して、遺物の有無を確認する確認調査を実施した。

グリッドは、東端部は長さ５m、幅1.5m、西部の東寄りは幅３m、長さ３～3.5m、西部は幅２m、長さ５m、他の区域は縦横２mの区画を基本としてグリッドを設定し、基盤層となる青灰褐色粘土層まで人力で掘り下げて、遺物の有無を確認した。

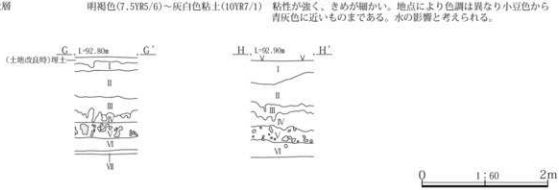
なお、遺物(石器、礫)出土地点においては、任意で平面的に拡張した箇所もあった。

調査成果　その結果、中央部南寄りを中心に遺物の出土を見たが、出土位置を記録できたものでは、K25グリッドで１点、L24・25グリッドで９点、T46グリッドで３点、X44グリッドで３点の石器あるいは礫の出土を確認した。



旧石器トレンチ

Ⅰ	表土	黒褐色土(10YR3/2)　やや砂質。締まりは悪い。As-Bを含む。
Ⅱ	ローム漸移層	にぶい黄褐色土(10YR4/3)　締まりは弱い。ロームブロックを含む。
Ⅲ	ソフトロームAs-YP(1.3～1.5)	黄褐色土(10YR5/6)　締まりは弱い。ハードロームのソフト化したもの。
Ⅳ	As-Okp白糸パミスを含む(1.9)	明黄褐色土(10YR6/6)　非常に堅く締まっている。茶褐色粒子及び白色粒子を僅かに含む
Ⅴ	As-BP(2.3)	明黄褐色土(10YR6/8)　締まりは良い。BPをブロック状に含む。遺物出土地点では多くの炭化物を含む。
Ⅵ	As-WP(2.5)	明黄褐色土(10YR6/6)　締まりは良い。WPは地点によってパッチ状に見られる部分があるが不明瞭である。
Ⅶ	AT相当(3.0)	黄褐色土(10YR5/6)　締まりはやや弱い。光に当てるとキラキラと反射する粒子が多く見られる。
Ⅷ－１	暗色帯上部	暗褐色土(10YR3/4)　粘性がある。やや締まりは弱い。Ⅷ－２層よりやや黒味が強い。
Ⅷ－２	暗色帯下部	褐色土(10YR4/4)　粘性がややある。やや締まりは良い。Ⅷ－１層よりやや明るい。
Ⅸ	粘性硬質褐色土	黄褐色土(10YR5/6)　やや粘性がある。非常に締まりは良く硬質。
Ⅹ	Hr-HP (4.3)	灰白色軽石層(10YR8/2)　径１～２cm程度と、かなり粒子は粗い。
Ⅺ	青灰褐色粘土層	明褐色(7.5YR5/6)～灰白色粘土(10YR7/1)　粘性が強く、きめが細かい。地点により色調は異なり小豆色から青灰色に近いものまである。水の影響と考えられる。



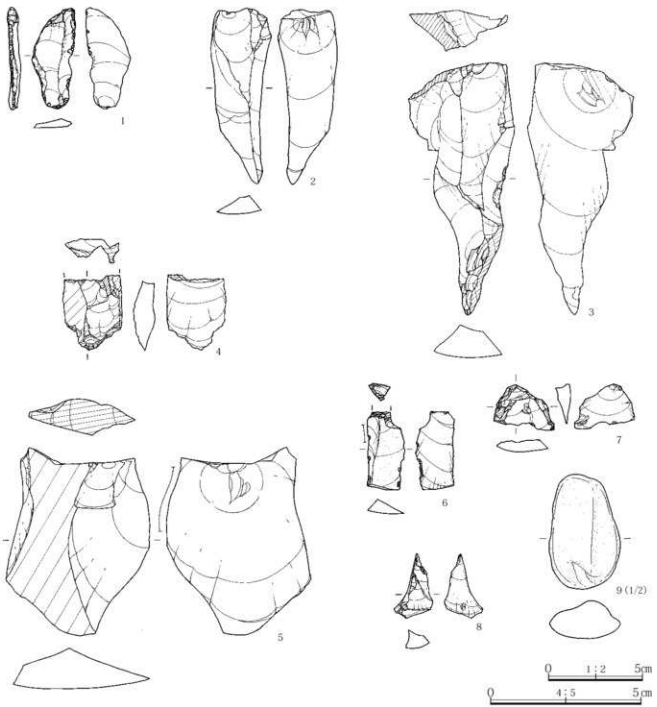
第99図　Ｋ24～Ｌ25グリッド遺物出土位置図とトレンチ断面図（５）

３．旧石器時代の出土遺物(第100図、PL.38)

石器と認定できた資料は全部で11点あった。以下、主要な石器について記載する。

ナイフ形石器(１)　黒曜石製。小形の石刃を素材とする。打面調整痕が認められ、背面剥離痕は主要剥離面と同一の方向を示す。素材石刃の打面側を基部とし、左側縁の先端付近に素材石刃を断ちきるような二次加工が認められる。その他ほぼ全周に微細な剥離痕が観察される。特に右側縁の微細剥離痕は比較的散漫であり使用痕の可能性もある。

二次加工ある剥片(３・４)　３は珪質頁岩製。縦長剥片を素材とし打面を大きく残す。背面の下方に、稜形成の作業面調整とも判断される剥離痕が認められる。右側縁の中央に散発的な二次加工が認められる。５(微細剥離



第100図　旧石器出土遺物

痕ある剥片）と同一母岩である可能性が高い。４は黒曜石製。石刃あるいは縦長剥片を素材とする。上側縁は折断面であるが、散発的な二次加工痕が認められる。先端部に急角度の二次加工が集中し、エンドスクレイパーとして器種分類される可能性もある。

微細剥離痕ある剥片（５・６）　５は珪質頁岩製。３（二次加工ある剥片）と同一母岩である可能性が高い。主要剥離面側の左側縁上部に連続的な微細剥離痕が認められる。６は黒曜石製。小形縦長剥片を素材とし上部が欠損する。背面側の左側縁上部と主要剥離面側の左側縁下部に連続的な微細剥離痕が認められる。背面と下側縁には自然面あるいは節理面の可能性がある面が認められる。自然面である場合は角礫を利用していることになる。

石刃（２）　黒色頁岩製。打面は単剥離面であり大きく残る。背面の先行剥離痕は、主要剥離面の剥離方向とおおよそ同じ方向を示す。

剥片（７・８）　７は黒曜石製。上側縁の打面部付近の剥離痕は全て背面側からの剥離方向を示し、その形態の特徴から石刃核等の打面調整剥片の可能性が高い。８は黒曜石製。打面部が点状に僅かに残る。

原石（９）　チャート製の小形円礫。遺跡地の約２㎞東には大間々扇状地が広がっている。その扇状地礫層には、旧渡良瀬川によって足尾山地から運ばれてきたチャート礫が多数含まれる。大間々扇状地内では、ローム層中にチャート製の微小円礫が介在することが確認されている。本遺跡地は地理的には大間々扇状地からは外れ赤城山南麓地域に相当し、ローム中にチャート礫が含まれることは想定しがたい。よって本資料は、人の手を介したものの可能性が想定され原石とした。

その他、図示していないが、黒色頁岩製の微細剥片１点(10)、チャート製の微細剥片１点(11)が出土した。

第４章　自然科学分析

第１節　自然科学分析の委託

１．自然科学分析資料

本遺跡からは、炭化物、貝殻等何点かの自然遺物が出土していた。このうち、想定される帰属時期が明らかに埋蔵文化財の調査対象となるもののうち、科学分析が可能な遺存状況を呈すると判断された炭化物５件について、樹種同定を行い、また、旧石器時代に帰属する炭化物について、放射性炭素Ｃ^{14}年代測定を実施した。

科学分析に付した資料は、旧石器時代のAs-BP混入層(標準Ⅴ層)から出土した炭化物２件(資料番号18・19)、縄文時代前期の34号土坑から出土した炭化物２件(資料番号20・25)、そして古墳時代後期の３号住居から出土した炭化物１件(資料番号２)である。

２．自然科学分析の目的

①　旧石器時代の炭化物

遺物が出土したAs-BP混入層(標準Ⅴ層)から出土した旧石器時代の炭化物２件は、当時の植生の検討の参考とするため樹種同定を行い、加えて出土遺物の年代観を検討する上での参考データを得るため、放射性炭素年代測定に付することとした。

②　縄文時代の炭化物

縄文時代前期の34号土坑からは比較的多くの炭化物が出土した。これらの樹種の特定により、土坑の使用方法や掘削目的の検討に資すると考え、比較的残存状態の良好であった炭化物２件を、樹種同定に付した。

③　古墳時代後期の炭化物

古墳時代後期の３号住居は、所謂焼失家屋と判断している。往時の竪穴住居の処分に焼却を用いるケースが見られることから、出土した炭化物に対しては建築材の可能性が考慮された。従ってその樹種同定を行うことで、建築材の検討に資するものと考え、これを実施した。

３．自然科学分析の委託

当事業団でも樹種の同定は行うことがあるが、炭化物の遺存状態は当事業団で行うには適当な状態ではなかったため、樹種同定は当事業団で実施するのではなく、委託することが適当と判断した。

また、放射性炭素年代測定は当事業団では行えないため、委託した。尚、この際、年代推定の精度を上げるため、加速器分析法(ＡＳＭ法)を用いることとした。

４．委託の成果

委託の報告書は、本章、第２・３節に掲載したが、その概要について以下に記す。

①　樹種同定成果

樹種同定に付した５件のうち、旧石器時代の資料18は樹種を同定することはできなかった。

この他は、旧石器時代の資料19はモミ属と同定され、年代測定と併せて、群馬・栃木県の同時代の既存資料と整合する内容となった。また当時の遺跡周辺の植生が、針葉樹であったことが窺われる結果となった。

縄文時代前期の資料20・25はオニグルミの核と同定された。これにより、これらの炭化物を出土した34号土坑には貯蔵穴の可能性が考慮されることとなった。

古墳時代後期の３号住居から出土した資料２はクヌギ節(クヌギとほぼ判定された)と同定された。古墳時代の竪穴住居の建築材は広葉樹を使用するケースが多く、本同定結果もこれに整合する。

②　年代測定

旧石器時代の資料18は26180±110 BP、暦年較正年代(1σ)は、30693 ～ 30372cal BP、資料19は22600±80 BP、暦年較正年代(1σ)は27120 ～ 26773cal BPという年代が与えられた。

資料19の年代観は、既存資料との整合性が認められ、資料18はやや古いという所見が得られた。

第２節　今宮遺跡出土炭化物の樹種・種実同定

はじめに

今宮遺跡は群馬県伊勢崎市に所在する。本分析調査では、旧石器時代の堆積層、６世紀後半の住居跡および縄文時代前期の土坑から出土した炭化物を対象として、樹種・種実同定を実施する。

１．試料

試料は、旧石器時代のⅤ層から出土した炭化物２点(試料18,19)、６世紀後半の住居跡から出土した炭化物(試料２)、縄文時代前期(諸磯ｂ式期)の土坑から出土した炭化物２点(試料20,24)の合計5点である。炭化物のうち、19と２の２点は炭化材であり、樹種同定を実施する。また、20と24の２点は炭化した種実の破片であり、種実同定を実施する。18は、肉眼では由来不明のため、樹種同定と併せて実体顕微鏡による観察を行い、由来を確認する。

なお、これらのうち18と19については、同一試料の放射性炭素年代測定が実施されている(別稿年代測定報告参照)。これらの試料が出土したⅤ層には、As-BP（浅間板鼻褐色軽石)が含まれ、関連する測定例に対して、19はおおむね整合的、18は古い値を示した。

２．分析方法

(１)樹種同定

試料を自然乾燥させた後、木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の３断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)、Wheelerほか(1998)、Richterほか(2006)を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

(２)種実同定

現生標本や石川(1994)、中山ほか(2000)、鈴木ほか(2012)等の図鑑類を参考に種類(分類群)や部位を同定する。

３．結果

樹種同定および種実同定結果を表１に示す。炭化材は、19が針葉樹のモミ属、2が広葉樹のコナラ属コナラ亜属クヌギ節に同定された。なお、18は、植物組織の痕跡が所々に見られるが、明瞭な組織が観察できないため、由来も含めて種類不明である。一方、炭化種実は、広葉樹のオニグルミに同定された。同定された各分類群の解剖学的特徴・形態的特徴等を記す。

＜炭化材＞

・モミ属(*Abies*)　マツ科

軸方向組織は仮道管のみで構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成される。柔細胞壁は粗く、垂直壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はスギ型で１分野に１～４個。放射組織は単列、１～20細胞高。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節(*Quercus* subgen. *Quercus sect.* Cerris)　ブナ科

環孔材で、孔圏部は１-２列、孔圏外で急激に径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１-20細胞高のものと複合放射組織とがある。

＜炭化種実＞

・オニグルミ(*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura)　クルミ科クルミ属

２点とも核の破片である。いずれも１cm角程度の破片で、それぞれ２片あり、接合する。全体像は不明であるが、核は木質で硬く緻密で、表面には縦方向に溝状の浅い彫紋が走る。内面は平滑で、子葉が入る窪みの一部が残る。

表２　樹種同定および種実同定結果

番号	区	出土位置・遺構	層位	取点No.	状態	種類
18	1	L24・25旧石器Sec	Ⅴ層		炭化物	不明
19	1	L-24旧石器Sec	Ⅴ層		炭化材	モミ属
2	1	３号住址跡		No.17	炭化材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
20	1	34号土坑	1面	No.103	炭化種実	オニグルミ(核)
24	1	34号土坑	1面	No.157	炭化種実	オニグルミ(核)

４．考察

旧石器時代のⅤ層から出土した炭化物のうち、18は組織構造などが観察できない。植物組織の痕跡が認められることから、何らかの植物遺体が炭化したものと考えられるが、由来は不明である。一方、炭化材19は針葉樹のモミ属に同定された。群馬県内の既往調査成果では、見立溜井遺跡(赤城村)の2.0-2.2万年前とされるローム層出土炭化材がヒノキ属類似種、トウヒ属類似種、種類不明の広葉樹に同定されている。また、八剣遺跡(栃木県壬生町)の約2.5万年前とされる炭化物集中部の炭化材がバラモミ節を含むトウヒ属やカラマツ属またはトウヒ属に同定されている(伊東・山田,2012)。モミ属の中には、トウヒ属と共に生育する種類も含まれており、今回の結果は既存の結果とも矛盾しない。

６世紀後半の３号住居跡から出土した炭化材は、広葉樹のクヌギ節に同定された。クヌギ節にはクヌギとアベマキの２種があるが、クヌギが現在の関東平野に広く分布しているのに対し、アベマキは西日本を中心に分布し、関東地方には分布していない。この状況から、今回のクヌギ節は、クヌギの可能性がある。クヌギは、二次林や河畔林に生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度が高い。遺跡周辺に生育し、強度も高いクヌギ節を建築部材等に利用した可能性がある。

縄文時代前期(諸磯ｂ式期)の34号土坑から出土した炭化種実は、２点ともオニグルミの核であった。いずれも破片で、接合関係は認められないが、同遺構から出土していることから、元は同一個体の可能性もある。オニグルミは、河畔等に生育する落葉高木であり、核内部の子葉が生食可能で栄養価も高いことから、古くから重要な植物質食料として利用されてきた種類である。土坑内から出土し、炭化していることから、内部の子葉を食料として利用した後の核が火を受けて炭化した状況が考えられる。

文献

林昭三,1991,日本産木材　顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
石川茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑.石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.
伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.
伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
中山至大・井之口希秀・南谷忠志,2000,日本植物種子図鑑(2010年改訂版).東北大学出版会,678p.
Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）,2006,針葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部久・内海泰弘(日本語版監修)　,海青社,70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（2004）IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.
島地謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.
鈴木庸夫・高橋冬・安延尚文,2012,ネイチャーウォッチングガイドブック 草本の種子と果実―形態や大きさが一目でわかる植物の種子と果実632種―.誠文堂新光社,272p.
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）,1998,広葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩(日本語版監修)　,海青社,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（1989）IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

第３節　今宮遺跡における放射性炭素年代（AMS 測定）

１．測定対象試料

今宮遺跡は、群馬県伊勢崎市波志江町(北緯36°21′47″、東経139°11′29″)に所在し、赤城火山の新期成層火山形成期(13～4.5万年前)に形成された扇状地上の微高地部に立地する。測定対象試料は、Ⅴ層から出土した木炭2点である(表１)。Ⅴ層にはAs-BP（浅間板鼻褐色軽石)がブロック状に含まれる。なお、同一試料について樹種同定が実施されている(別稿樹種同定報告参照)。

２．測定の意義

Ⅴ層の実年代を把握する。

３．化学処理工程

(１)　メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。

（２）　酸-アルカリ-酸(AAA：Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常１mol/ℓ（１M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから１Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が１Mに達した時には「AAA」、１M未満の場合は「AaA」と表１に記載する。

（３）　試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO_2)を発生させる。

（４）　真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（５）　精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。

（６）　グラファイトを内径１mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

４．測定方法

加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、^{14}Cの計数、^{13}C濃度(^{13}C/^{12}C)、^{14}C濃度(^{14}C/^{12}C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOxⅡ)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

５．算出方法

（１）　δ^{13}Cは、試料炭素の^{13}C濃度(^{13}C/^{12}C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表１)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

（２）　^{14}C年代(Libby Age：yrBP)は、過去の大気中^{14}C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。^{14}C年代はδ^{13}Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表２に示した。^{14}C年代と誤差は、下１桁を丸めて10年単位で表示される。また、^{14}C年代の語さ(±１シグマ)は、資料の^{14}C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2％であることを意味する。

（３）　pMC (percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C濃度の割合である。pMCが小さい(^{14}Cが少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上(^{14}Cの量が標準現代炭素と同等以上)の場合Modernとする。この値もδ^{13}Cによって補正する必要があるため、補正した値を表１に、補正していない値を参考値として表２に示した。

（４）　暦年較正年代とは、年代が既知の試料の^{14}C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の^{14}C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、１標準偏差(１σ＝68.2％)あるいは２標準偏差(２σ＝95.4％)で表示される。グラフの縦軸が^{14}C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ^{13}C補正を行い、下１桁を丸めない^{14}C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース(Reimer et al. 2013)を用い、OxCalv4.2較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、^{14}C年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

表３　放射性炭素年代測定結果(δ^{13}C補正値)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ^{13}C (‰) (AMS)	δ^{13}C (‰)補正あり Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA－160385	18	K24・25 グリッド Ⅴ層	木炭	AAA	-22.24 ±0.41	26,180 ±110	3.84 ±0.05
IAAA－160386	19	L24 グリッド Ⅴ層	木炭	AaA	-23.32 ±0.51	22,600 ±80	6.00 ±0.06

［参考値］

表４　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C未補正値、暦年較正用 ^{14}C年代、較正年代）

測定番号	δ^{13}C補正なし		暦年較正用（yrBP）	１σ 暦年代範囲	２σ暦年代範囲
	AgE（yrBP）	pMC（%）			
IAAA －160385	26,130 ±110	3.87 ±0.05	26,176 ±106	30693calBP －30372calBP（68.2%）	30850calBP －30170calBP（95.4%）
IAAA －160386	22,570 ±80	6.02 ±0.06	22,602 ±78	27120calBP －26773calBP（68.2%）	27226calBP －26597calBP（95.4%）

［参考値］

６．測定結果

測定結果を表１、２に示す。

試料の^{14}C年代は、18が26180±110yrBP、19が22600±80yrBPである。暦年較正年代（１σ）は、18が30693～30372cal BP、19が27120～26773cal BPの範囲で示される。

下岡による年代測定事例集成を参照すると、浅間板鼻褐色軽石に関する^{14}C年代値として、主に20000yrBP前後と23000yrBP前後の値が見られる（下岡2010）。今回測定された試料19は、23000yrBP前後の事例に近い年代値を示した。試料18は、既報告例よりも古い。浅間板鼻褐色軽石は、複数の異なる噴火に由来するテフラで構成されると考えられていることから（早田2010等）、年代値の評価には、このテフラ群を構成するテフラの年代に関する事例のさらなる蓄積を要すると見られる。なお、『新編火山灰アトラス（第２刷）』（町田・新井2011）では、浅間板鼻褐色軽石の年代を20000～25000年前としている。

試料の炭素含有率はいずれも60％を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。ただし、試料19については、試料が細片であるため、アルカリ処理を低い濃度にとどめたことから、試料18に比べて汚染の除去が十分でない可能性もある。

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates. *Radiocarbon* 51（1），337-360

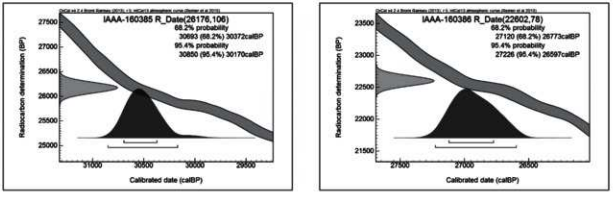
町田洋，新井房夫 2011 新編火山灰アトラス［日本列島とその周辺］（第2刷），東京大学出版会

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP. *Radiocarbon* 55（4），1869-1887

下岡順直 2010 北関東地方の指標テフラに関する年代測定の現状と課題－ルミネッセンス法を中心に－，岩宿フォーラム2010シンポジウム「北関東地方の石器文化の特色」予稿集，岩宿博物館・岩宿フォーラム実行委員会，21-26

早田勉 2010 北関東地方西部の旧石器文化編年に関係するテフラ研究の情勢，岩宿フォーラム2010シンポジウム「北関東地方の石器文化の特色」予稿集，岩宿博物館・岩宿フォーラム実行委員会，15-20

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data. *Radiocarbon* 19（3），355-363



第101図　暦年較正年代グラフ

第５章　まとめ

第１節　今宮遺跡発掘の成果

１．遺構、遺物の概要

本遺跡においては、第１面(古墳時代から近世)、第２面(縄文時代)、第３面(旧石器時代)の３面の調査を実施した。

第１面においては、竪穴住居12軒、竪穴状遺構１基、掘立柱建物２棟、古墳９基、溝７条、溜井２基、土坑17基、ピット113基を調査し、土師器、須恵器、土器、陶磁器、石製品等の出土遺物を得た。第１面は時間差が広く、また、時期を特定できなかった遺構も少なくなかった。こうした中、古墳時代後期の遺構は竪穴住居が５軒、古墳８基、土坑１基、奈良時代の遺構は竪穴住居１軒、また古代の遺構は掘立柱建物１～２棟、中世の遺構は掘立柱建物０～２棟、溝１条、江戸時代の遺構は竪穴状遺構１基、溝１条、溜井２基が識別された。また古墳のうち８号古墳は石室の状態から終末期古墳と認識される。

第２面においては竪穴住居２軒、陥穴３基、土坑17基を調査し、縄文土器、石器等の出土を得た。このうち時期を特定できた遺構には、諸磯ｂ式期の竪穴住居２軒、土坑８基があり、浮島式期の土坑２基も確認された。なお、出土した縄文土器は、前期の諸磯ｂ・ｃ式、浮島式、興津式、中期の加曽利Ｅ式、後期の称名寺式の土器があったが、量的に最も多かったものは諸磯ｂ式土器であった。

第３面においては、量は多くなかったが石器、礫が出土した。これらの遺物はAs-BP（浅間板鼻褐色軽石）を含む標準Ⅴ層より出土している。また同層からは炭化物の出土を見たが、放射性炭素年代測定により、暦年較正年代で、30693 ～ 30372cal BP、及び27120 ～ 26773cal BPという時期が与えられた。

２．本遺跡の評価

①　旧石器時代

旧石器時代の遺物包含層はAs-BP（浅間板鼻褐色軽石）を含む標準Ⅴ層であった。旧石器時代の石器の所見については本章第２節に述べる。

②　縄文時代

本遺跡では前期諸磯ｂ式期の竪穴住居２軒を確認した。本遺跡周囲の遺跡で明確に当該期の住居と判断されたものはないが、リハビリセンターを挟んで北側に位置する下触牛伏遺跡で、諸磯ｂ～ｃ式期の住居が確認されており、あるいは、諸磯ｂ式期の集落が、リハビリセンター付近に営まれていた可能性が考慮される。また、陥穴は下触牛伏遺跡や、これに西接する吾妻遺跡でも確認されている。これらの時期は不特定であるが、縄文時代のある時期に、狩猟場として使われた可能性が窺われる。

③　古墳時代

古墳時代後期には北側の下触牛伏遺跡と共に集落の営みが認識される。また、古墳群は、本遺跡北側の下触牛伏遺跡、吾妻遺跡、本遺跡に南接する波志江今宮遺跡の調査事例と共に、波志江沼西古墳群(別称、宮貝戸古墳群)の一部を成すものである。波志江沼西古墳群は５世紀後半から７世紀前半期の群集墳と認識されているが、本遺跡の古墳群は、時期の想定できた範囲では６世紀後期から７世紀前半の終末期古墳に属する時期のものと推定される。

④　古代

奈良時代の竪穴住居は本遺跡の他、南接する波志江今宮遺跡で１例が確認されている。その確認事例は僅かであるが、周辺域において、奈良時代に小規模な集落が営まれていた可能性が考慮される。

⑤　中近世

中世においては、居住域と共に、区画溝が確認されたことから、集落、あるいは屋敷遺構の存在が窺われる。また、近世には溝も確認されているが、溜井が注目される。本遺跡に東接する波志江沼が谷地形を堰き止めて作られた貯水施設であるように、遺跡地周辺には溜池が散見される。これは扇状地形のため、水利に苦慮したことを窺わせるものである。本遺跡の溜井の規模は小さいものであるが、雨水を溜め、水温を上げて農業用水を確保したことを窺わせるものである。

第２節　旧石器時代調査の成果

今宮遺跡は波志江沼西岸に位置する。本遺跡で出土した旧石器時代遺物の点数は少ないものの、Ｌ24グリッドを中心に散漫な分布を呈する石器集中部が検出されている。本項ではこの石器集中部から検出された石器を中心に、編年的位置付け等について検討したい。

（１）編年的位置づけ

本遺跡でのローム層中から出土した石器の総点数は11点と僅かである。そのうち、Ｌ24グリッドを中心に９点の石器が検出されている。これらの石器はいずれも本遺跡のⅣ層下部、即ち姶良Tn火山灰(以下、町田・新井 1976、ATと表記)から浅間板鼻褐色軽石群(新井　1962、町田・新井　1992、2003、以下、As-BP Groupと表記)にかけての層準を中心に出土している。

この集中部から検出された石器には、信州系と推定される黒曜石が特徴的に認められる。特に、黒曜石製のナイフ形石器は石刃を素材として、素材を切断するように二側縁加工を施したもので、最大長は３cm前後とやや小形を呈する。また、黒曜石製の二次加工のある剥片には末端部に急角度の調整が施されることで、掻器状の形態を呈するものも認められる。加えて、微細剥離痕あるる剥片には、背面構成の礫面から、素材に黒曜石製の角礫が用いられていたことが伺えるものもある。

群馬県内において、これらの石器と類似する資料は、堀越甲真木B地点遺跡(藤坂　2002)、多胡蛇黒遺跡第２文化層(群馬県埋蔵文化財調査事業団　1993)、和田山天神前遺跡(同左　1999)、亀泉坂上遺跡第２文化層(同左　2010)、波志江六反田遺跡(同左　1992)などが挙げられる(図102)。

これらの遺跡においても本遺跡と同様に、ATの上下を出土層位として、黒曜石製の石刃や、それを素材とした二次加工ナイフ形石器、掻器が検出されている。

これらの石器群は群馬編年５期(小菅・大工原・麻生 2004)のうち、Ⅱ期後半に位置付けられる。本期は石刃を素材とした小形の黒曜石製ナイフ形石器や掻器が特徴的に認められる。また、持ち込まれる黒曜石の素材が、背面構成から角礫であることが推定される傾向にもある。そのため、本遺跡で検出された石器もこの時期に相当するものであると判断される。

なお、この時期は前時期と比較して極端に遺跡数が減少することが知られている(小菅・大工原・麻生 前掲)。そのため、本遺跡でこの時期の石器群が新たに見つかったことそれ自体が、まず一定の価値があると言えるだろう。

（２）本遺跡の利用形態について

本遺跡の出土点数は極少であるのに加え、遺物の分布も散漫である。石器の組成についても、石核や砕片といった石器製作に関連するようなものは含まれないのに対し、ナイフ形石器や掻器といった機能的な石器は少ないながらも検出されている。この傾向は、上記で言及した和田山天神前遺跡や多胡蛇黒遺跡第２文化層、波志江六反田遺跡についても同様である。

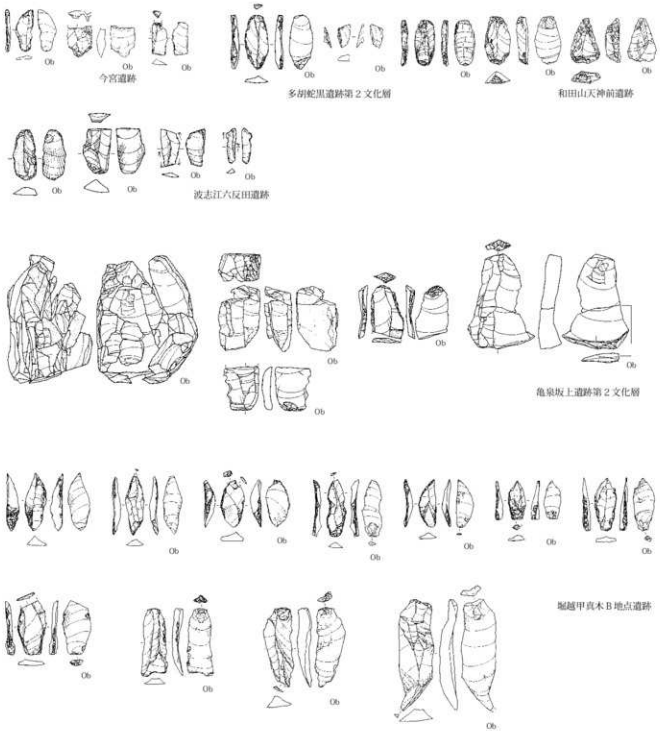
これとは対照的に、堀越甲真木B地点遺跡や亀泉坂上遺跡第２文化層においては、多量の石器が検出されており、石器製作の痕跡が認められる。

当該期における人類集団の居住形態としては、信州の黒曜石原産地から南関東地方までを広域に移動しながら、特定機能をもつ場をベースキャンプの周囲にもつ「広域循環放射型」であったと考えられている(角張　1992)。赤城山南麓には広瀬川に合流する小河川群の湧水地点と、そこから開析された低地が認められる。この湧水地点の中には当該期にも存在していたものがあると考えられる。そのため、本地域では、信州から南関東地方を往還する集団が、その一環として湧水地点に拠点を設定して、狩猟採集を目的とした一時的な見張り場を設けていたと想定される。

その場合、各場で異なる機能が働いていたことが、遺跡間での遺物点数の差異に反映される要因と考えられる。そして、ベースキャンプとなるような拠点は、堀越甲真木B地点遺跡や亀泉坂上遺跡に設けられたのに対し、狩猟などの特定機能を目的とした場は、今宮遺跡などに設けられたと推定できる。

引用文献

角張淳一 1992「武蔵野台地Ⅵ層石器群の分析－Ⅵ層石器群の解体と新しい地域性の生成－」『國學院大學考古学資料館紀要』pp1-61
群馬県埋蔵文化財調査事業団　1992『書上本山遺跡　波志江六反田遺跡　波志江天神山遺跡』
1993『多胡蛇黒遺跡　古墳・奈良・平安時代の集落跡の調査』



第102図　Ⅱ期後半の石器群(S=1/3)

1999『和田山天神前遺跡』
2010『上武道路・旧石器時代遺跡群(2)』
小菅将夫　大工原豊　麻生敏隆 編　2004「群馬の旧石器」みやま文庫
沒田市　2015『八崎日影山遺跡・分郷八崎上浅ヶ原遺跡』
藤坂和延　2002「堀越甲真木B 地点遺跡」『第8 回　石器文化研究交流会
－発表要旨－」pp46-50　石器文化研究会
町田洋　新井房夫　1976「広域に分布する火山灰－姶良Tn 火山灰の発見と
その意義－」『科学』46　PP339-347　岩波書店
1992『火山灰アトラス－日本列島とその周辺』　東京
大学 出版会
2003『新編　火山灰アトラス－日本列島とその周辺』
東京大学出版会

第３・５章参考文献

【第３・５章参考文献】

尾崎喜左雄(1954)「横穴室石室編年の一考察」、『史学会報』、pp1-20、群馬大学史学會
加部二生(1999)「横案室石室の前庭について」、『国立歴史民俗博物館研究報告』第82集、pp1-46
加部二生(原案)(2001)「凡例」、『群馬県内の横穴室石室Ⅳ(補遺片)』、群馬県古墳時代研究会
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1986)『下触牛伏遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1992)『神保下條遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1995)『今宮遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1988)『田端上平遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2009)『原古墳』
県立しろがね学園遺跡調査会(1998)『吾妻遺跡』
土生田純之(1992)『３　横穴系の埋葬施設』、『古墳時代の研究』第７巻、pp111-128、雄山閣出版

表5　1面土坑一覧　　寸法内の(　)は推定値

番号	グリッド	形状	主軸方位	長さ×幅×深さ(cm)					備考
2	R21	隅丸方形	N-65°-E	113	×	108	×	43	
3	R2	楕円形	N-33°-W	75	×	65	×	29	
4	C6	楕円形	N-2°-W	84	×	73	×	13	
5	F7	楕円形	N-79°-W	91	×	74	×	32	
6	F9	楕円形	N-86°-W	66	×	53	×	27	
7	E9	楕円形か	N-60°-W	62	×	(56)	×	28	
8	F11	不整形	N-65°-W	94	×	74	×	23	18pit（新）
9	G11	隅丸方形	N-17°-W	79	×	73	×	23	
10	G11	円形	N-82°-W	56	×	54	×	13	
11	K23～L24	楕円形か	N-73°-W	147	×	122	×	38	
12	K22・K23	隅丸方形か	N-73°-W	104	×	56	×	23	
13	H18・I18	楕円形	N-90°	79	×	56	×	43	
14	I20	楕円形	N-20°-E	87	×	71	×	54	
15	I1	楕円形	N-43°-E	47	×	41	×	28	
16	H1	楕円形	N-76°-E	123	×	65	×	22	
17	R18	楕円形	N-85°-W	72	×	60	×	17	1掘立
21	G15	楕円形	N-52°-W	277	×	129	×	73	

表6　1面ピット一覧

番号	グリッド	主軸方位	形状	長さ×短軸×深さ(cm)					備考
1	I1	N-71°-E	楕円形	55	×	32	×	19	
2	I1・I2	N-7°-W	円形	31	×	31	×	18	
3	I2	N-45°-E	円形	28	×	27	×	15	
4	I2	N-9°-W	円形	28	×	26	×	17	
5	H2	N-19°-E	隅丸方形	44	×	44	×	21	
6	H2	N-29°-E	円形	26	×	24	×	20	
7	E4	N-50°-W	楕円形	60	×	44	×	38	
8	D5	N-46°-W	楕円形	42	×	36	×	26	
9	D5	N-14°-E	楕円形	50	×	35	×	18	
10	B6	N-34°-W	楕円形	41	×	31	×	19	
11	F6	N-45°-E	楕円形	36	×	30	×	36	
12	E6	N-88°-W	楕円形	25	×	21	×	25	
13	E6	N-81°-W	楕円形	53	×	43	×	20	
14	F6	N-56°-E	楕円形	40	×	(37)	×	28	
15	F9	N-0°	円形	40	×	40	×	21	
16	F9	N-42°-W	楕円形	56	×	43	×	35	5溝(古)
17	F10	N-71°-W	楕円形	36	×	33	×	27	
18	F11	N-45°-W	楕円形	(42)	×	(28)	×	24	8土坑(古)
19	F11	N-65°-W	楕円形か	39	×	(20)	×	22	
20	G12	N-76°-W	楕円形	38	×	32	×	17	
21	G13	N-42°-W	楕円形	37	×	35	×	31	
22	P18	N-5°-E	隅丸方形	33	×	32	×	34	1古墳(古)
23	Q21	N-85°-W	円形	43	×	38	×	37	
24	Q19	N-82°-W	楕円形	48	×	34	×	29	
25	P19	N-86°-W	楕円形	45	×	39	×	62	2掘立
26	Q19・R19	N-0°	円形	43	×	39	×	45	1掘立
27	Q18	N-56°-E	楕円形	49	×	37	×	64	1古墳(古)、2掘立
28	Q17	N-0°	円形	31	×	30	×	45	1古墳(古)、1掘立
29	Q17	N-84°-E	楕円形	31	×	27	×	32	1掘立
30	P18	N-67°-W	楕円形	38	×	31	×	20	1古墳(古)
31	P18	N-0°	円形	42	×	39	×	53	1古墳(古)、2掘立
32	M28	N-77°-W	円形か	45	×	(26)	×	50	
33	M28	N-77°-W	円形か	33	×	(23)	×	39	
34	M28	N-60°-E	円形	42	×	37	×	43	
35	L27	N-70°-W	楕円形	36	×	23	×	48	
36	K23・L23	N-54°-W	楕円形	39	×	37	×	21	
37	K22	N-0°	円形	19	×	18	×	45	
38	K21	N-13°-W	楕円形	36	×	31	×	24	
39	K21	N-70°-W	円形	55	×	49	×	38	
40	K21	N-60°-E	楕円形	29	×	23	×	65	
41	K21	N-55°-E	楕円形	33	×	25	×	34	
42	K21	N-74°-W	楕円形	36	×	28	×	46	
43	K20	N-45°-W	楕円形	27	×	21	×	37	
44	I18	N-0°	円形	34	×	33	×	24	
45	I18	N-64°-W	楕円形	51	×	39	×	20	
46	I18・I19	N-48°-W	楕円形	37	×	45	×	48	
47	I19	N-74°-W	楕円形	61	×	47	×	37	
48	J24	N-26°-W	隅丸方形	32	×	29	×	23	
49	J24	N-69°-W	楕円形	41	×	37	×	26	
50	J25	N-80°-E	楕円形	33	×	23	×	55	
51	J26	N-19°-W	円形	21	×	20	×	42	
52	K25	N-30°-E	隅丸方形	23	×	23	×	32	
53	J25	N-27°-E	楕円形	42	×	21	×	39	
54	K26	N-74°-W	楕円形か	38	×	(19)	×	32	
55	K28	N-49°-W	楕円形	21	×	18	×	18	3古墳(古)
56	K28	N-4°-E	隅丸方形	50	×	45	×	47	3古墳(古)
57	K28	N-4°-E	円形	22	×	19	×	23	3古墳(古)
58	K28	N-54°-E	楕円形	29	×	23	×	51	3古墳(古)
59	L28	N-7°-E	楕円形	41	×	22	×	26	
60	L29	N-13°-E	円形	40	×	38	×	33	
61	K28	N-31°-E	隅丸長方形	67	×	44	×	16	3古墳(古)
62	G20	N-0°	円形	29	×	27	×	16	
63	G20	N-88°-E	楕円形	34	×	25	×	33	
64	G20	N-62°-W	楕円形	33	×	29	×	23	
65	G20	N-19°-E	楕円形	41	×	32	×	23	
66	G21	N-79°-W	楕円形	46	×	33	×	26	
67	G21	N-44°-W	楕円形	51	×	47	×	31	
68	G20	N-34°-E	円形	43	×	42	×	33	
69	H20	N-43°-E	楕円形	39	×	33	×	38	
70	H20	N-79°-E	円形か	(32)	×	30	×	15	
71	E5	N-56°-W	楕円形	33	×	24	×	18	
72	E5	N-58°-W	隅丸方形	30	×	30	×	15	73pit（古）
73	E5	N-66°-W	楕円形	37	×	28	×	19	72pit（新）
74	D5	N-27°-W	楕円形	37	×	27	×	19	
75	D5	N-0°	円形	22	×	20	×	12	
76	Q18	N-11°-W	楕円形	43	×	36	×	39	1掘立
77	Q18	N-0°	円形	47	×	46	×	45	1掘立
78	Q18	N-0°	円形	33	×	30	×	16	1掘立
79	Q17	N-59°-E	楕円形	43	×	37	×	50	1掘立
80	Q17・Q18	N-59°-E	隅丸方形か	38	×	(38)	×	44	1掘立
81	Q18	N-31°-W	楕円形	38	×	32	×	38	1掘立
82	Q18	N-0°	円形	34	×	31	×	29	
83	Q18	N-79°-W	楕円形	31	×	23	×	18	
84	R29	N-67°-E	円形	29	×	28	×	14	
85	Q29	N-16°-E	楕円形	26	×	20	×	21	
86	Q29	N-11°-E	隅丸長方形	49	×	40	×	30	
87	Q28	N-51°-E	円形	47	×	46	×	34	
88	P29	N-22°-E	隅丸方形	56	×	52	×	29	
89	P29	N-39°-E	隅丸長方形	42	×	36	×	22	
90	P28	N-81°-W	隅丸方形	42	×	40	×	35	
91	P27	N-31°-E	隅丸長方形	51	×	42	×	34	
92	Q27	N-70°-W	円形	42	×	41	×	33	
93	Q27	N-79°-E	隅丸長方形	57	×	41	×	22	
94	S28	N-50°-W	楕円形	50	×	41	×	26	6溝、7住居(新)
95	P27	N-33°-E	楕円形	60	×	39	×	28	
96	P18	N-0°	円形	23	×	20	×	14	1古墳(古)、2掘立
97	P18	N-70°-W	楕円形	27	×	22	×	15	1古墳(古)
98	M20・N20	N-6°-W	楕円形	31	×	22	×	19	
99	N20	N-15°-W	楕円形	27	×	21	×	31	
100	O20	N-82°-E	円形	24	×	21	×	19	
101	O21	N-52°-W	楕円形	44	×	34	×	82	掘削不足
102	N18	N-21°-W	円形	29	×	27	×	56	
103	N18	N-40°-W	楕円形	39	×	31	×	53	

土坑・ピット一覧

番号	グリッド	主軸方位	形状	長さ	×	短軸	×	深さ(cm)	備考
104	N18	N-20°-W	円形か	32	×	(19)	×	31	105pit(古)
105	N18	N-20°-W	円形か	28	×	(29)	×	26	104pit(新)
106	O18	N-27°-W	楕円形	39	×	34	×	23	
107	O18	N-39°-E	楕円形	28	×	24	×	19	
108	O18	N-28°-E	楕円形	28	×	22	×	21	1溝
109	O18	N-11°-E	円形	23	×	23	×	16	1溝
110	P18	N-0°	円形	44	×	39	×	51	1古墳(古)・2掘立
111	P19・Q19	N-18°-E	円形か	49	×	34	×	41	2掘立
112	P18	N-0°	円形	16	×	15	×	11	1古墳(古)・2掘立
113	O18	N-0°	円形	19	×	17	×	23	1古墳(古)・1溝
114	P18・Q18	N-57°-E	隅丸台形	47	×	41	×	58	2掘立
115	N18	N-25°-E	円形	34	×	29	×	53	

番号	グリッド	主軸方位	形状	長さ	×	短軸	×	深さ(cm)	備考
116	N18	N-49°-E	円形	33	×	31	×	14	
117	N18	N-74°-W	円形	24	×	24	×	21	
118	N18	N-9°-E	円形	26	×	23	×	35	
119	N18	N-60°-W	円形	38	×	34	×	19	
120	N18	N-77°-W	楕円形	34	×	26	×	16	
121	N18	N-80°-W	楕円形	30	×	27	×	16	
122	N17・N18	N-69°-W	楕円形	35	×	27	×	19	
123	N17	N-62°-W	円形	34	×	29	×	33	
124	O17	N-2°-W	円形	25	×	25	×	22	1古墳(古)
125	O17	N-58°-E	隅丸方形	26	×	22	×	35	1古墳(古)
126	O16・O17	N-9°-W	楕円形	81	×	43	×	31	1古墳(古)
127	O16	N-88°-E	円形	30	×	26	×	20	1古墳(古)
128	M17	N-35°-W	円形	27	×	25	×	22	
129	M17	N-76°-E	円形	25	×	23	×	19	
130	M17	N-80°-W	隅丸方形	50	×	44	×	41	1掘井(古)

表7　2面土坑一覧

番号	グリッド	形状	主軸方位	長さ	×	幅	×	深さ(cm)	備考
1	M18	楕円形	N-10°-E	126	×	114	×	67	1掘井
18	N16・O16	隅丸方形	N-88°-W	160	×	153	×	112	1古墳(新)
19	N16	円形	N-0°	160	×	160	×	97	1古墳(新)
20	N17	隅丸方形	N-4°-W	150	×	133	×	89	
22	I16・J16	楕円形	N-19°-E	157	×	109	×	29	
23	I16・J16	隅丸方形	N-55°-E	120	×	110	×	44	
24	M14	楕円形	N-76°-E	(96)	×	(88)	×	62	2(新)・10(新)住居
25	M14・M15	円形	N-40°-W	(136)	×	(136)	×	53	10住居(新)

番号	グリッド	形状	主軸方位	長さ	×	幅	×	深さ(cm)	備考
26	O15・O16	楕円形	N-52°-W	196	×	113	×	84	1古墳(新)
27	M15・N15	楕円形	N-42°-W	(138)	×	124	×	83	10住居(新)
28	O15・O16	楕円形	N-39°-E	(161)	×	149	×	72	1古墳(新)
29	R16	円形	N-10°-E	88	×	85	×	49	
30	R16	隅丸方形	N-85°-W	84	×	79	×	34	
31	R15	楕円形	N-42°-W	(86)	×	55	×	137	10住居(新)
32	M15・M16	隅丸方形	N-33°-E	177	×	166	×	65	
33	N15・N16	円形	N-0°	159	×	158	×	40	
34	N16	円形	N-0°	116	×	113	×	88	

表8　1面遺物観察表(古墳時代以降)

1号住居

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第11図 PL.19	1	土師器 杯	覆土 口縁部～体部片	口径	16 15.6				細砂粒/良好/浅黄	口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面は体部から口縁部に連弧状暗文。	
第11図 PL.19	2	土師器 甕	床直～床下-7 口縁部～胴部上位片	口	20.6				細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
PL.19	3	剥片石器 二次加工ある剥片	覆土	長	-	厚	-		ホルンフェルス	縦長の薄片。下端部に裏面からの剥離調整。	
				幅	-	重	81.9				

2号住居

第12図 PL.19	1	土師器 杯	覆土 口縁部～体部片	口	13 12				細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(被下)から底部は手持ちヘラ削り、器面が荒れており単位不明。	

3号住居

第16図 PL.19	1	土師器 杯	床直 口縁部一部欠損	口	12.7 10.1	高	5		細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(被下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第16図 PL.19	2	土師器 杯	床直 口縁部一部欠損	口	15.3 13	高	4.9		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(被下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第16図 PL.19	3	土師器 杯	+6 1/3	口	12.4 13.8				細砂粒/良好・燃/淡黄	口縁部は横ナデ、体部(被下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第16図 PL.19	4	須恵器 杯蓋	+42 2/3	口	12.7 4.6	高			細砂粒・粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は回転ヘラ削り。口縁部上位に凹線が1条巡る。	
第16図 PL.19	5	須恵器 高杯	掘方覆土 脚部端部片	脚	9.8				細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。	
第16図 PL.19	6	土師器 小型甕	覆土 口縁部～胴部 1/3	口	16.8				細砂粒/良好/黄橙	成型時の歪大。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第16図 PL.19	7	土師器 小型甕	床下-4 口縁部～胴部上位片・胴部下位～底部						細砂粒・粗砂粒/良好/浅黄	胴部上位片と内面はとも器面が荒れており整形不明。底部と胴部下位はヘラ削り。	
第16図 PL.19	8	土師器 甕	床直 口縁部～胴部 1/4	口 胴	20.8 20.7				細砂粒/良好/明黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第16図	9	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上位片	口	15.8			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は緩い波状を呈す。内面頸部に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデか、器面が荒れており単位不明。	
PL.19	10	礫石器 棒状礫	覆土	長 幅	15.5 7.3	厚 重	5.2 742.3	変質安山岩	中位に幅5.7cmの摩耗痕一周。	こも編石
PL.19	11	礫石器 棒状礫	+6	長 幅	14.1 6.9	厚 重	2.6 417.5	粗粒輝石安山岩	表面に研磨痕。中位に幅5.4cmの摩耗痕一周。	こも編石
PL.19	12	礫石器 棒状礫	-3	長 幅	12.0 5.2	厚 重	4.4 503.8	ひん岩	下端に敲打痕。中位に幅4.5cmの摩耗痕一周。	こも編石
PL.19	13	礫石器 棒状礫	+4	長 幅	13.9 5.5	厚 重	4.6 469.6	石英閃緑岩	上下端に敲打痕。表裏目右面研磨。中位下より摩耗痕一周。	こも編石
PL.19	14	礫石器 棒状礫	P1覆土	長 幅	14.4 6.1	厚 重	3.1 449.4	粗粒輝石安山岩	表・右面研磨。上端に敲打痕。幅4.8cmの摩耗痕一周。	こも編石
PL.19	15	礫石器 棒状礫	床直	長 幅	8.7 3.3	厚 重	2.4 80.2	黒色頁岩	頂部に敲打痕。中位上寄りに幅2.9cmの摩耗痕一周。	こも編石
PL.19	16	礫石器 棒状礫	+9	長 幅	15.4 6.0	厚 重	4.2 561.4	ひん岩	表裏面に研磨痕。上下端に敲打痕。中位に幅4.7cmの摩耗痕一周。	こも編石
PL.19	17	礫石器 加工礫	P3覆土	長 幅	12.7 15.5	厚 重	6.3 952.9	二ッ岳石	表裏面削り か。	擂石か
PL.19	18	礫石器 礫	床直	長 幅	- -	厚 重	- 4200.2	二ッ岳石	表面に研磨痕跡。	台石か

4号住居

第17図 PL.20	1	土師器 杯	+11 口縁部～部欠損	口 稜	12.2 14	高	5.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部に放射状ヘラ磨き。	内外面とも底部を除き黒色、ススか漆塗りか。
PL.20	2	礫石器 棒状礫	床直	長 幅	15.0 5.8	厚 重	4.5 704.5	ひん岩	やや上位寄りに幅4.6cmの摩耗痕一周。	

5号住居

第20図 PL.20	1	土師器 杯	+21 完形	口 稜	11.5 11.8	高	5	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第20図 PL.20	2	土師器 杯	+19 完形	口 稜	13.1 12.4	高	5.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第20図 PL.20	3	土師器 杯	床直～ +18 口縁部一部欠損	口 稜	11.8 11.4	高	4.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第20図 PL.20	4	土師器 杯	+6 ～ +22 3/4	口 稜	11.6 11.8	高	5.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第20図 PL.20	5	土師器 杯	床直～ +16 3/4	口 稜	12.6 11.4	高	4.5	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第20図	6	土師器 杯	床下-3~+39 1/3	口 稜	11.4 11.2	高	5	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第20図 PL.20	7	土師器 杯	床下-3 口縁部1/4欠損	口 稜	12.7 11.4	高	5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り、器面摩滅のため単位不鮮明。	
第20図 PL.20	8	土師器 杯	床直 3/4	口 稜	13.2 12.6			細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第20図 PL.20	9	土師器 杯	+14 口縁部一部欠損	口 稜	12.4 12.2	高	5.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り後底部周縁部から体部にヘラ磨き。	
第20図 PL.20	10	須恵器 高杯	+7 杯身部1/5欠損	口 脚	19.3 12.8	高	17.3	細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。杯身部と脚部は接合、脚部に3方所の透孔。杯身部体部上位に波状文が巡り、体部下位から底部は回転ヘラ削り。	
第20図 PL.20	11	土師器 甕	+8 完形	口 底	27.2 10.5	高	33.4	細砂粒/良好/明黄褐	内面胴部中位に輪積み痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第21図 PL.20	12	土師器 甕	+23 胴部一部欠損	口 底	19.5 7.5	高	30.3	細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	内面口唇部に溝い凹線が巡る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第21図 PL.21	13	土師器 甕	+8 ～ +28 胴部一部欠損	口 胴	17.8 21.1	底 高	6.3 36.6	細砂粒/良好/明黄褐	口縁部は横ナデ、胴部と底部ヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第22図 PL.21	14	土師器 甕	+23 ～ +28 胴部一部欠損	口 胴	18.6 21.2	底 高	4.6 38.7	細砂粒/良好/浅黄橙	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部はヘラナデ。	
第22図 PL.21	15	土師器 甕	床直～ +23 胴部1/4欠損	口 胴	18.3 32.2	底 高	8.1 33	細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部と胴部上位はヘラ磨き、胴部中位・下位と底部はヘラ削り。内面は口縁部が横ナデ、底部から胴部はヘラナデか、器面摩滅のため単位等不明。	

6号住居

第23図 PL.21	1	土師器 杯	床直 1/2	口 稜	10.6 10	高	3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第23図	2	土師器 大型杯	覆土 口縁部～体部片	口 稜	17.2 16.3			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り、器面摩滅とめ単位不明。	
第23図	3	土師器 小型壺	覆土 口縁部～胴部上位片	口	10			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。	

7号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第25図 PL.21	1	肥前磁器 染付小碗	×22 1/2	口 (7.5) 底 (3.3)	高 4.0			夾雑物含まない。 /一/灰白	口縁部外面雨降り文。高台脇1重圏線。高台外面2重圏線。内面と高台内無文。	18世紀前半。
第25図 PL.21	2	肥前磁器 染付丸皿	×17 口縁1/4欠	口 6.6 底 4.0	高 4.5			夾雑物含まない。 /一/白	外面水製地に菊花文5ヶ所。内面水製地に菊花文6ヶ所。高台内無文。	18世紀前葉。
第25図 PL.22	3	肥前磁器 染付鉢か	×21～×33 口縁部1/2、底部3/4	口 10.2 底 4.4	高 7.0			夾雑物含まない。 /一/白	外面植物文地の窓内に竹文。内面と高台内無文。貫入入り、やや焼成不良。	江戸時代。
第25図 PL.22	4	肥前磁器 染付皿	×24 口縁部1/4欠	口 12.3 底 4.6	高 3.6			夾雑物含まない。 /一/白	内面2ヶ所に染付。見込み蛇の目釉剥ぎ。内面から高台脇透明釉。	17世紀後葉～18世紀前葉。
第25図 PL.22	5	瀬戸・美濃 陶器 腰錆碗	×9 口縁部一部欠	口 9.5 底 4.8	高 6.1			夾雑物含まない。 /一/白	外面口縁部下螺旋状凹線。内面から口縁部外面貫入の入る灰釉。体部外面から高台内やや薄い鉄釉。高台端部無釉。	18世紀後葉。
第25図 PL.22	6	瀬戸・美濃 陶器 灯火皿	×5・×20 口縁部1/2、底部2/3	口 9.6 底 4.5	高 2.4			夾雑物含まない。 /一/淡黄	外面口縁部下から底部回転篦削り。底部格笥底状。内面から体部外面中位付近釉。	江戸時代。
第25図 PL.22	7	瀬戸・美濃 陶器か ひょうそく	床下-2 口縁部1/2、脚部1/3欠	口 5.1 底 5.5	高 6.5			夾雑物含まない。 /一/灰・淡黄	杯部中央に切り込みの入った灯芯立て貼付。脚底部石回転糸切無調整。内面から脚部飴釉か、焼成不良で釉が白濁し、光沢がない。	18世紀後葉～19世紀前葉。
第25図 PL.22	8	製作地不詳 陶器 ひょうそく	×17 完形	口 1.6 底 2.5	高 3.5			鉱物、赤色粒少量含む。/一/浅黄橙	軟質施釉陶。上部が低い算盤玉形を呈する。釣り手1ヶ所貼付。底部内面に粘土を貼り付けた後、底部外面から穿孔孔を開ける。外面透明釉と黄緑色釉の二彩。底部内面黄緑色釉。	江戸時代以降。
第25図 PL.22	9	在地系土器 皿	覆土 1/2	口 9.4 底 6.1	高 2.0			黒色鉱物、赤色粒含む。/一/にぶい黄橙	体部開き。口縁部内湾。底部底部左回転糸切無調整。体部外面下端低く立ち上がる。	江戸時代。
第25図 PL.22	10	在地系土器 皿	×20 口縁部一部、底部2/3	口 (10.0) 底 4.0	高 2.4			黒色鉱物、赤色粒含む。/一/にぶい黄橙	体部外面下端立ち上がち、口縁部から体部ゆるく内湾。底部底部左回転糸切無調整。	江戸時代。
第25図 PL.22	11	在地系土器 皿	覆土 1/3	口 (10.6) 底 (6.2)	高 2.3			黒色鉱物、赤色粒含む。/一/橙	体部から口縁部ゆるく内湾して立ち上がる。底部回転糸切無調整。	江戸時代。
第25図 PL.22	12	在地系土器 皿	覆土 底部	口 - 底 5.4	高 -			黒色鉱物、赤色粒含む。/一/にぶい黄橙	体部外面下端わずかにくぼむ。底部右回転糸切無調整。	江戸時代。
第25図 PL.22	13	在地系土器 皿	×18・×20 底部	口 - 底 6.1	高 -			黒色鉱物、赤色粒含む。/一/橙	底部底部左回転糸切無調整。底部内面左回転螺旋状軸線目。	江戸時代。
第25図 PL.22	14	在地系土器 鍋	×23・×25 1/4	口 (26.0) 底 (21.0)	高 12.0			黒色鉱物、赤色粒含む。/一/にぶい黄橙	断面淡黄色、器表黒色、外面器表煤付着。口縁部屈曲し、水平に開く。	江戸時代。
第25図 PL.22	15	在地系土器 焙烙	×20 口縁部から底部片	口 - 底 -	高 -			黒色鉱物少量含む。/一/褐灰	断面中央褐灰色、断面淡黄色、器表オリーブ黒色。体部外面下暗黄灰色。体部外面上位接合痕残る。内面釣り手貼付。	江戸時代。
第25図 PL.22	16	製作地不詳 陶器 人形	×7 完形	幅 2.8 厚 2.3	高 5.3			夾雑物含まない。 /一/淡黄	前後の型で製作。陶器質で薄い黄緑釉と緑釉の二彩。猿の肩車。	江戸時代以降。
第25図 PL.22	17	搬入系土器 小皿	×11 側部と左脚	幅 - 厚 -	高 -			鉱物少量含む。/一/浅黄橙	裾の長い服を左前に着、腰の部分で縛る。頭部、右腕、裾部欠損。現状で着色なし。手びねり成形。	江戸時代以降。
第26図 PL.22	18	石製品 硯	×5 1/2	長 (5.5) 幅 4.8	厚 0.8 重 24.6			硅質粘板岩	表面の裏部分は全体的に剥落している。裏面、左右側面、上部小口面の5面が平滑で、各面が直角をなす。各面とも二丁寄に研磨整形されている。	短冊形
第26図 PL.22	19	剥片石器 打製石斧	×8 完形	長 10.6 幅 4.4	厚 1.5 重 84.2			黒色頁岩	表面に自然面を大きく残し大形剥片を素材とすると考えられる。表裏面の先端部付近に摩滅が認められ使用痕の可能性がある。両側辺の中央付近につぶれが認められ着柄痕の可能性がある。	
第26図 PL.22	20	銅製品 キセル	×11 破片	長 2.1 幅 2.1	厚 0.3 重 1.64				キセル雁首の火皿部分で扁平につぶれる。	
第26図 PL.22	21	金属製品 不詳	×32 ほぼ完形	長 1.6 幅 1.1	厚 1.0 重 13.88				直方体をした金属製品で、各側面はやや凹み一面は3×7mmの範囲で鑢上に凹む。表面は灰白色に腐食し重量も重いが材質は不明。	
第26図 PL.22	22	銅製品 銭貨	×14 完形	長 2.272 幅 2.278	厚 0.114 重 2.09				寛永通寶(背元)。外縁・文字・郭とも彫り深く明瞭、裏面も外縁・郭とも掘り深く明瞭、元の文字は彫り浅くやや不明瞭。	
第26図 PL.22	23	銅製品 銭貨	×36 完形	長 2.524 幅 2.520	厚 0.140 重 3.78				寛永通寶(背文)。外縁・文字・郭とも彫り深く明瞭、裏面も外縁・郭とも掘り深く明瞭、文の文字は明瞭だが彫は浅い。	
PL.22	24	礫石器 棒状礫	×24	長 9.7 幅 2.5	厚 2.1 重 69.4			黒色片岩	中位に幅3.7cmの摩耗痕一周。	こも編石
PL.22	25	礫石器 礫	覆土	長 - 幅 -	厚 - 重 27.3			玉髄	表裏面に若干の研磨痕。	

10号住居

第32図 PL.22	1	土師器 杯	床直 完形	口 10.7 底 10.2	高 4.1			雲母粒/やや軟質/橙	口縁部は横ナデ、体部(棱下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第32図 PL.22	2	土師器 杯	床直 完形	口 12 底 11.2	高 4.4			雲母粒/やや軟質/橙	口縁部は横ナデ、体部(棱下)から底部は手持ちヘラ削り。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第32図 PL.22	3	上師器 杯	貯蔵穴内-9 完形	口 11.4 10.3	高 4.6			細砂粒/やや軟質/橙	口縁部は横ナデ、体部(穀下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第32図 PL.22	4	上師器 杯	貯蔵穴内-9・床下-3 1/2	口 12.7 12.7	高 5.2			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(穀下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第32図 PL.23	5	上師器 杯	+14 完形	口 11.8 10.6	高 3.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(穀下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第32図 PL.23	6	上師器 杯	+10 1/2	口 12.1 11	高 3.9			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(穀下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第32図	7	上師器 杯	竈袖覆土 1/4	口 11.4 11.4	高 3.6			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(穀下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第32図 PL.23	8	上師器 杯	<36・貯蔵穴内 +7 体部～底部3/4 欠損	口 11.5 10.2				細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(穀下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第32図 PL.23	9	上師器 杯	+6 1/3	口 11.4 10.1				細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(穀下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第32図	10	上師器 杯	覆土 1/3	口 12.4 10.6	高 3.1			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(穀下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第32図	11	上師器 杯	床下-17 1/4	口 11.8 11.1				細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(穀下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第32図	12	上師器 杯	覆土 口縁部～体部片	口 12 10.6				細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(穀下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第33図 PL.23	13	上師器 鉢	床直 口縁部一部欠損	口 11 最 13	高 10.7			細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部がヘラナデ。	
第33図 PL.23	14	上師器 鉢	床直 3/4	口 15.8 最 16	底 9.1 高 8.5			細砂粒/良好/明赤褐・燻	口縁部に段を有す。口縁部は横ナデ、体部(穀下)と底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部がヘラナデ。	
第33図	15	上師器 鉢	床下土坑 口縁部～体部片	口 23.6				細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。	
第33図 PL.23	16	上師器 有孔鉢	床下-1 一部欠損	口 18.4 底 6.9	高 16.8 孔 3.0×2.0			細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	外面頸部に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。内面は底部から体部がヘラナデ。	
第33図 PL.23	17	上師器 小型短頸壺	床直 ほぼ完形	口 8.2 胴 9.5	高 7.4			細砂粒・粗砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部から底部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデか、器面摩滅のため不鮮明。	
第33図 PL.23	18	上師器 小型短頸壺	床直～ +6 口縁部～胴部片	口 7.2 頸 7.5	胴 9.2			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第33図 PL.23	19	上師器 小型甕	床直 胴部一部欠損	口 15.2 胴 17.2	底 6.3 高 17.3			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。内面は底部から体部がヘラナデ。	
第33図 PL.23	20	上師器 甕	竈内-35 完形	口 212.5 底 4.2	高 37.4			細砂粒/良好/にぶい橙	内面胴部中位に輪積み痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第34図 PL.24	21	上師器 甕	床直～竈内-11 一部欠損	口 21.4 底 4.2	高 38.3			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第34図 PL.24	22	上師器 甕	竈内-33 完形	口 19.7 底 4.6	高 38.6			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第35図 PL.22	23	上師器 甕	床直 胴部一部欠損	口 22.4 底 2.9	高 42.5			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部はヘラナデか、器面摩滅のため不鮮明。	外面の一部にススが付着。
第35図 PL.25	24	上師器 甕	+26・床下-5 2/3	口 20.7 底 3.3	高 36.9			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	
第34図	25	上師器 甕	床直 口縁部～胴部上 位片	口 16.6				細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第34図	26	上師器 甕	床下-2 口縁部～胴部上 位片	口 20.8				細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第34図 PL.23	27	上師器 甕	覆土 口縁部～胴部上 位片	口 21.6				細砂粒/良好/橙	口縁部下に1条の凹線が巡る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第35図	28	上師器 甕	貯蔵穴内-9・掘方-3 胴部～底部	底 4.6				細砂粒/良好/にぶい橙	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデか、器面剥落箇所があり単位不鮮明。	
第36図 PL.25	29	上師器 甕	床下-10 口縁部一部欠損	口 19.7 胴 27.4	底 9 高 32.8			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ磨き、底部周辺は器面摩滅のため単位不明。底部はヘラ削り。内面胴部は器面剥落のため整形不明。	外面胴部にススが付着。
第36図 PL.24	30	上師器 甕	+41 口縁部～胴部 1/3	口 21 頸 19.4	胴 28.5			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部は器面摩滅のため整形不明。内面は胴部がヘラナデ、上半は器面摩滅のため単位不明。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第30図 PL.24	31	石製品 玉	+4 完形	長 幅	1.6 1.3	厚 重	1.5 3.8	菜ろう石	全面的に滑らかであり研磨調整されている。孔は中央付近がやや狭くなっており両面穿孔と考えられる。	
PL.24	32	剥片石器 石核	掘方覆土	長 幅	- -	厚 重	- 94.7	黒色安山岩	右側面に自然面残る。	
PL.24	33	礫石器 棒状礫	貯蔵穴覆土	長 幅	15.9 6.5	厚 重	3.8 516.4	変質安山岩	下端に敲打痕。中位に幅4.6cmの摩耗痕一周。	こも編石
PL.24	34	礫石器 棒状礫	+7	長 幅	13.2 6.6	厚 重	3.5 519.9	石英閃緑岩	中位上寄りに幅4.7cmの摩耗痕一周。	こも編石
PL.25	35	礫石器 棒状礫	床直	長 幅	10.2 5.6	厚 重	3.6 305.3	変質玄武岩	中位に幅3.7cmの摩耗痕一周。	こも編石
PL.25	36	礫石器 棒状礫	+41	長 幅	14.3 5.5	厚 重	6.0 580.8	変質安山岩	上位に幅2.8cmの摩耗痕一周。	こも編石
PL.25	37	礫石器 棒状礫	上坑内+5	長 幅	11.9 6.5	厚 重	4.6 552.0	ひん岩	上位に幅3.7cmの摩耗痕一周。	こも編石
PL.25	38	礫石器 棒状礫	上坑内+10	長 幅	12.8 5.5	厚 重	4.2 446.2	ひん岩	中位に幅4.0cmの摩耗痕一周。	こも編石
PL.25	39	礫石器 棒状礫	竈床下-18	長 幅	13.2 6.1	厚 重	3.4 405.7	ひん岩	中位に幅3.5cmの摩耗痕一周。	こも編石
PL.25	40	礫石器 棒状礫	床下-4	長 幅	12.6 5.3	厚 重	4.2 397.8	変質安山岩	中位上寄りに幅4.4cmの摩耗痕一周。	こも編石
11号住居										
第37図 PL.25	1	土師器 杯	覆土 口縁部～体部片	口 稜	12 12.4			細砂粒/良好/赤褐	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
12号住居										
第38図 PL.25	1	剥片石器 打製石斧	+6 完形	長 幅	12.7 5.0	厚 重	2.1 130.7	黒色頁岩	裏面に自然面を大きく残し円礫を利用する。表面の先端部付近に摩滅が認められ使用痕の可能性がある。両側辺の中央付近から上方にかけてつぶれが認められ着柄痕の可能性がある。	撥形
1号古墳										
第44図 PL.25	1	土師器 杯	+29 2/3	口 最	10.4 10.8	高	3.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第44図 PL.25	2	土師器 杯	周溝覆土 1/4	口	12.2			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半から底部は手持ちヘラ削り。口縁部に焼成後の穿孔あり。	
第44図 PL.25	3	土師器 杯	周溝覆土 1/3	口 最	12.8 13	高	4.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。体部中位に焼成後の穿孔あり。	
第44図 PL.25	4	土師器 杯	床下-1 1/4	口 稜	12.8 12			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第44図	5	土師器 杯	周溝覆土 口縁部～体部片	口	13.6			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は手持ちヘラ削り。	
第44図	6	須恵器 甕	石室覆土 胴部上位～頸部片					細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。胴部上位に凹線が巡る、凹線下に刺突文。	
2号古墳										
第45図	1	土師器 杯	周溝覆土 口縁部～体部小片	稜	10.2			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第45図 PL.26	2	土師器 甕	+10 ほぼ完形	口 胴	21.9 28.9	底 高	9 33.7	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部はヘラナデ。	
3号古墳										
第47図 PL.26	1	土師器 杯	周溝覆土 口縁部～底部片	口 稜	10.2 9.4			細砂粒/良好/黄橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第47図 PL.26	2	土師器 杯	覆土 1/4	口 稜	12.8 12.4	高	3.9	細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
4号古墳										
第49図	1	土師器 杯	+5 口縁部～体部片	口 最	11.8 12.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第49図 PL.26	2	須恵器 長頸壺か	+18 口縁部上半・胴部1/3欠損	底 頸	9.6 5.7	胴	16.6	細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。頸部にて胴部と口縁部を接合。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付、胴部下位は回転ヘラ削り。上位に刺突文が巡る。内面胴部はヘラナデ。	
第49図	3	須恵器 長頸壺	+45・+84 口縁部片	口	9.8			細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。口縁部中程に1条も凹線が巡る。外面はカキ目。	
第49図	4	須恵器 長頸壺か	+108 胴部片	胴	18.8			細砂粒/還元焰/浅黄	ロクロ整形。胴部上位はカキ目。	

6号古墳

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第51図	1	土師器 杯	覆土 口縁部～体部片	口 11.4 最 12				細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	

8号古墳

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第55図 PL.26	1	土師器 杯	+8 ほぼ完形	口 10.6 最 11.2	高	2.9		細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	
第55図 PL.26	2	須恵器 高杯	+4 脚部1/3	脚 11.4				細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。上下２段の透孔が１対、脚部中位と脚部に各条の凹線が巡る。内面上位はナデ。	
第55図 PL.26	3	須恵器 広口壺	+4 2/3	胴 24.2				細砂粒/還元焰/灰白	底部から胴部下半は、平行叩き痕が残る。胴部上半は回転ヘラ削りと回転ヘラナデ。内面はヘラナデでアテ具痕の痕跡は残らない。	

2号溜井

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第69図 PL.26	1	瀬戸・美濃 陶器 腰錆碗	覆土 1/3	口 (9.6) 底 (4.0)	高	5.4		夾雑物含まない。/一/灰白	腰部稜をなす。口縁部から体部外面螺旋状横線。内面から口縁部外面貫入の入る灰釉。鉋痕に近い鉄釉。高台端部無釉。	18世紀中葉～後葉。

3号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第71図	1	土師器 杯	覆土 口縁部～体部片	口 11 最 10				細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	

遺構外

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第78図	1	土師器 杯	覆土 口縁部～体部片	口 11.9 稜 10				細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第78図	2	土師器 杯	覆土 1/4	口 11.8 最 12.2	高	3.5		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第78図	3	土師器 杯	覆土 口縁部～体部片	口 11 稜 10.2				細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第78図	4	土師器 杯	覆土 口縁部～体部片	口 11 稜 10				細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第78図 PL.26	5	土師器 杯	覆土 1/3	口 12 稜 12				細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第78図	6	土師器 杯	覆土 口縁部～体部片	口 11.6 最 12				細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部から底部は手持ちヘラ削り。	
第78図 PL.26	7	須恵器 杯身	覆土 口縁部～体部片	口 13.8 稜 8				細砂粒・粗砂粒：石英/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。体部は回転ヘラ削り。	
第78図 PL.26	8	在地系土器 皿	覆土 口縁部1/4、底部1/2	(9.8) 底 (6.5)	高	2.1		黒色鉱物、赤色粒含む。/一/にぶい橙	体部外面下端外反するように低く立ち上がる。口縁部から体部内湾。	江戸時代。

表9　2面遺物観察表(縄文時代)

14号住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第81図 PL.31	1	縄文上器 深鉢	+11 ～ 37 胴部上半1/2	口 底		高			貝縄文を横位・多段に施文し、複数本単位の浮線文を横位や渦巻状に施す。外面煤状炭化物付着、内面横位磨き・やや被熱風化。	諸磯b式
第81図 PL.31	2	縄文上器 深鉢	+10 胴部片	口 底		高			貝縄文を横位施文し、浮線文を横位に施す。内面横位箆磨き。	諸磯b式
第81図 PL.31	3	縄文上器 深鉢	+18 口縁部片	口 底		高			貝縄文を横位施文し、浮線文を縦・斜位に施す。外面煤状炭化物付着、内面横位箆磨き。	諸磯b式
第81図 PL.31	4	縄文上器 深鉢	+19 口縁部片	口 底		高			口縁波頂部にイノシシの獣面突起を施す。内面横・斜位の箆磨き。No.１と同一個体か。	諸磯b式
第81図 PL.31	5	縄文上器 浅鉢	+37 口縁部片	口 底		高			口縁部に２条の浮線文を横位施文し、その間隙に長径10mmの楕円形状の焼成前穿孔を施す。内面風化。	諸磯b式
第81図 PL.31	6	縄文上器 深鉢	+3 頸部～胴部1/2	口 底		高			貝縄文を横位・多段に施文し、半截竹管の集合沈線文の横帯を多段に施す。内外面共にやや被熱風化。内面一部に煤状炭化物付着。胴部下半被熱剥離。	諸磯b式
第81図 PL.31	7	縄文上器 深鉢	+44 胴部片	口 底		高			半截竹管の平行沈線により縦・横位の集合沈線文を施す。内面やや被熱風化。	諸磯b式
第81図 PL.31	8	縄文上器 深鉢	+11・45 底部1/3	口 底	(12)	高			LR縄文を横位に施文し、半截竹管の集合沈線文を横位に施す。内外面共にやや被熱風化。	諸磯b式
第81図 PL.31	9	縄文上器 深鉢	+36 胴下半部片	口 底		高			粗製的な無文深鉢か。外面やや粗い横位磨き、内面やや粗い縦・斜位の箆磨き。	諸磯b式
第81図 PL.31	10	縄文上器 深鉢	+22 胴部片	口 底		高			アナダラ属の波状貝殻文を横位・多段に施文。内面やや被熱風化、一部に煤状炭化物付着。	浮島式
第81図 PL.31	11	縄文上器 深鉢	+12 ～ 47 底部1/4	口 底	(10)	高			器面風化により不鮮明だが、アナダラ属の貝殻文を施し、横位の単沈線文を複数段に施文。内外面共に被熱風化。	浮島式
第81図 PL.31	12	剥片 石器 石鏃	+32 完形	長 幅	2.1 1.7	厚 重	0.3 0.5	チャート	押圧剥離により整形する。	凹基無茎鏃

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第81図 PL.31	13	礫石器 凹石	×5 完形	長幅	13.0 8.3	厚重	5.2 733.4	粗粒輝石安山岩	円礫を利用すると考えられる。表面の中央やや上方に横長の凹みが認められる。裏面には敲打痕が散在する。表裏面の全面に磨面が認められる。	
第81図 PL.31	14	礫石器 多孔石	×17 完形	長幅	20.6 16.6	厚重	9.0 4234.0	粗粒輝石安山岩	表裏面の中央付近を中心に漏斗状の小形の凹みが複数認められる。表裏面には部分的な磨面が認められる。右側面は折断面と想定されるが、全体的に磨面が認められる。	
PL.31	15	剥片石器 石鏃	欠上	長幅	(1.6) 1.5	厚重	0.3 0.4	チャート	表裏面からの剥離調整。	
PL.31	16	剥片石器 スクレイパー	×19	長幅	– –	厚重	– 25.5	黒色頁岩	表面左上位自然面残る。側縁の一部に剥離調整痕。	
PL.31	17	剥片石器 二次加工ある剥片	×17	長幅	– –	厚重	– 83.5	細粒輝石安山岩	裏面に自然面残る。上下端に剥離による突出部が形成される。	
PL.31	18	剥片石器 二次加工ある剥片	×35	長幅	– –	厚重	– 61.2	黒色安山岩	表面に自然面残る。左側縁に実感の剥離調整痕見られる。	

15号住居

第83図 PL.31	1	縄文土器 深鉢	×4・6 口縁～胴上半 1/4	口底	(23.4)	高			4単位の波状口縁、波頂部にイノシシの顔面突起や近接する口唇上面に浮線文を施す。貼縄文を横位・多段に施文し、口縁部から胴部にかけて複数本単位の浮線文で渦巻文や横帯文を施す。内面横位筋磨き。No 4と同一個体か。	諸磯b式
第83図 PL.31	2	縄文土器 深鉢	×37 口縁部片	口底		高			半裁竹管の集合沈線文を横・斜位に施す。内面横位筋磨き。	諸磯b式
第83図 PL.31	3	縄文土器 深鉢	×5 胴下半～底部 1/2	口底	(7.6)	高			貼縄文を横位・多段に施文し、半裁竹管の集合沈線文の横帯を多段に施す。内外面共にやや被熱風化、内面煤状炭化物付着。	諸磯b式
第83図 PL.31	4	縄文土器 深鉢	欠上 胴部片	口底		高			貼・LRの結束縄文を横位・多段に施文。内面横位筋磨き。	諸磯b式
第83図 PL.31	5	縄文土器 深鉢	×15・29 口縁部片	口底		高			粗製の角筒深鉢。外面削り状の粗い横位撫でで、やや被熱風化。内面横位筋撫で後、やや粗い横位筋磨き。	諸磯b式
第83図 PL.31	6	縄文土器 浅鉢	×25 口縁部片	口底		高			口縁部に幅広の横位沈線文を施し、その沈線文内に径5mmの焼成前穿孔を施す。外面丁寧な横位筋磨きで、光沢を帯びる。	諸磯b式
第83図 PL.31	7	縄文土器 深鉢	×3 口縁部片	口底		高			外削ぎ状の口唇部外端に縦位の刻み目を施し、以下に幅広半裁竹管の平行沈線文や単沈線の蕨面文、円形竹管文など施文。内面被熱風化。	浮島Ⅲ式
第83図 PL.31	8	剥片石器 石鏃	床直 ほぼ完形	長幅	(2.8) 1.6	厚重	0.6 1.7	チャート	裏面に素材剥片の主要剥離面を大きく残し、小形の横長剥片を素材する。入念な両面加工により先端部を作出する。	
第83図 PL.31	9	礫石器 多孔石	×4 不明	長幅	26.2 21.2	厚重	11.9 5600.3	粗粒輝石安山岩	漏斗状の凹みが多数認められる。外面は全体的に自然面であるのか剥離面であるのか判断できない。本来的に角礫であるものを利用しているのか、打撃により現在の角を有する形態になったものか不明である。	
PL.31	10	剥片石器 スクレイパー	床直	長幅	– –	厚重	– 5.0	チャート	縦長の薄片使用。一側縁に刃部が形成される。	
PL.31	11	礫石器 多孔石	×13	長幅	12.0 8.8	厚重	6.0 475.8	粗粒輝石安山岩	裏面は縁残し削り取れる。径0.8cm程の窪みが、表面に2ヶ所穿たれ、裏面に2ヶ所穿たれる。	
PL.31	12	礫石器 多孔石	床直	長幅	9.5 7.9	厚重	5.8 453.9	粗粒輝石安山岩	表面に径1.4cm、深さ0.5cmの窪みが穿たれ、裏面にも小孔が見られる。	

3号陥穴

第86図 PL.31	1	剥片石器 有茎尖頭器	×75 ほぼ完形	長幅	(5.4) 2.1	厚重	0.8 7.1	黒色頁岩	全体に面的な二次加工が認められる。風化が著しく剥離面の先後関係等を把握するのが難しい。	

18号土坑

第87図 PL.32	1	縄文土器 深鉢	×30 胴部片	口底		高			貼縄文を横位・多段に施文し、半裁竹管の集合沈線文の横帯を多段に施す。内外面共にやや被熱風化。	諸磯b式
第87図 PL.32	2	礫石器 石皿	×8 完形	長幅	31.6 20.2	厚重	9.5 6100.0	粗粒輝石安山岩	大形円礫を利用すると考えられる。中央に浅鉢状の凹みが認められ内部は非常に滑らかである。下部には擦痕部が形成される。裏面には小形の漏斗状の凹みが多数認められ、磨面が形成されている。	

19号土坑

第88図 PL.32	1	縄文土器 深鉢	欠上 胴部片	口底		高			貼縄文を横位施文し、浮線文を横位に施す。内外面共に煤状炭化物付着。	諸磯b式
第88図 PL.32	2	縄文土器 深鉢	欠上 胴部片	口底		高			半裁竹管の平行沈線により、やや崩れた米字文を施す。内面横位筋磨き。	諸磯a式
第88図 PL.32	3	縄文土器 深鉢	欠上 胴部片	口底		高			LR縄文を横位施文し、半裁竹管の平行沈線を重ね引きして横位の集合沈線文を施す。内面やや被熱風化。	諸磯a式
第88図 PL.32	4	縄文土器 深鉢	欠上 胴部片	口底		高			貼縄文を横位・多段に施文。内外面共に被熱風化・剥離。	諸磯b式
第88図 PL.32	5	縄文土器 浅鉢	欠上 胴部片	口底		高			無文。内外面共に一部に煤状炭化物付着、丁寧な横位磨き。	諸磯b式
第88図 PL.32	6	剥片石器 石鏃	欠上 4/5	長幅	(2.1) 1.9	厚重	0.4 1.4	チャート	表裏面に素材剥片段階の剥離面を残し、小形剥片を素材とすると考えられる。入念な両面加工により先端部を作出する。先端部欠損。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第88図 PL.32	7	礫石器 凹石	+3 完形	長幅	9.9 7.2	厚重	7.1 514.2		粗粒輝石安山岩	円礫を利用すると考えられる。表面の2ヶ所に漏斗状の凹みが認められる。凹み周辺の表面全体はザラザラしており、敲打等により自然面が剥落して形成されたと考えられる。	
22号土坑											
第88図 PL.32	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片	口底		高				アナダラ属の波状貝殻文を横位に施文。内外面共にやや被熱風化。	浮島式
25号土坑											
第89図 PL.32	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部片	口底		高				半載竹管の集合沈線文を横・斜位に施文。内面横位毘磨き。	諸磯b式
第89図 PL.32	2	縄文土器 深鉢	+33 口縁部片	口底		高				波状口縁。口唇上面に斜位刻目を施す。口縁部は細い単沈線で菱形文を施文か。内外面共にやや被熱風化。外面煤状炭化物付着、一部被熱剥離。	浮島Ⅱ式
第89図 PL.32	3	縄文土器 深鉢	+14・68 口縁部片	口底		高				波状口縁。口唇外端に円形竹管の刺突による斜位刻目を施す。口縁部は幅広の変形爪形文を2帯施し、下位に半載竹管の菱形文を施文。径4mmの焼成後穿孔あり。外面やや被熱風化。内面横位磨き。	浮島Ⅱ式
26号土坑											
第89図 PL.32	1	礫石器 凹石	+46 完形	長幅	10.3 6.6	厚重	4.7 390.6		粗粒輝石安山岩	円礫を利用すると考えられる。表面の2ヶ所と裏面の1ヶ所に漏斗状の凹みが認められる。表面と裏面の中央付近には磨面が認められる。左側面に敲打痕が集中する。	
PL.32	2	礫石器 凹石	+49	長幅	(10.8) 9.0	厚重	4.8 566.8		粗粒輝石安山岩	径1.1cm、深さ0.3cm程の窪みが、表裏各2ヶ所以上穿たれる。	
PL.32	3	剥片石器 二次加工ある剥片	覆土	長幅	- -	厚重	- 62.7		黒色頁岩	右側面に自然面残る。上端縁に剥離痕。	
27号土坑											
第89図 PL.32	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片	口底		高				半載竹管の平行沈線で横線文や円文を施す。内面被熱風化。	諸磯b式
28号土坑											
第90図 PL.32	1	縄文土器 深鉢	+27 口縁～胴上半 1/4	口底	(19)	高				波頂部に3連の小突起を付す。RL縄文を横位・多段に施文し、半載竹管の集合沈線により木葉状の楕円文や横帯文を施す。内外面共に被熱風化・一部被熱剥離、外面煤状炭化物付着。	諸磯b式
PL.32	2	剥片石器 スクレイパー	+19	長幅	- -	厚重	- 84.3	黒色頁岩		左側縁に裏側から。右側縁に表側からの剥離調整痕。	
30号土坑											
第90図 PL.33	1	剥片石器 スクレイパー	+43 完形	長幅	10.1 5.1	厚重	1.2 61.9	黒色頁岩		表面に自然面を大きく残し円礫を利用する。裏面に素材剥片の上裏剥離面を大きく残し大形の横長剥片を素材とする。背面の左側辺を中心に連続する二次加工痕が認められる。	
32号土坑											
第91図 PL.32	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片	口底		高				半載竹管の平行沈線で横・斜位の文様を施す。内面被熱風化。	諸磯b式
第91図 PL.32	2	礫石器 多孔石	+32 不明	長幅	33.4 19.4	厚重	8.6 8600.0		粗粒輝石安山岩	漏斗状の凹みが2ヶ所認められる。外面は全体的に自然面であるのか剥離面であるのか判断できない、本来的に角礫であるものを利用しているのか、打割により現在の角を有する形態になったものか不明である。	
PL.32	3	剥片石器 スクレイパー	覆土	長幅	- -	厚重	- 42.3	黒色頁岩		裏面に自然面残り、左側縁に細かい剥離痕見られる。	
PL.32	4	剥片石器 石核	+38	長幅	- -	厚重	- 355.2	ホルンフェルス		表裏左右面に自然面残る。	
33号土坑											
第91図 PL.33	1	縄文土器 深鉢	+30 胴部片	口底		高				やや粗雑な RL縄文を横位・多段に施文し、横位の単沈線文を集合沈線的に施す。内外面共にやや被熱風化、外面一部に煤状炭化物付着。	諸磯b式
第91図 PL.33	2	礫石器 磨石	+20 完形	長幅	12.6 6.9	厚重	4.8 631.1		粗粒輝石安山岩	亜円礫を利用すると考えられる。表裏面の中央付近に敲打痕が散在する。表裏面の全体に磨面が認められる。	
第91図 PL.33	3	礫石器 石皿	+13 完形	長幅	37.0 20.8	厚重	10.6 9800.0		粗粒輝石安山岩	非常に整った形態を呈し全体的に整形されている。表面の上側縁と両側縁に断面三角形の明瞭な縁をもち、下端には掘出部が認められる。	
PL.33	4	剥片石器 二次加工ある剥片	覆土	長幅	- -	厚重	- 22.5	黒色頁岩		左右側縁に剥離痕残る。	
34号土坑											
第92図 PL.33	1	縄文土器 深鉢	+74 ～ 85 口縁部～胴部 1/5	口底	(33) 0	高				細い半載竹管の平行沈線文で崩れた木葉状あるいは肋骨状の意匠を施す。内外面共にやや被熱風化、内面やや粗い横位毘磨き。	諸磯b式
第92図 PL.33	2	縄文土器 深鉢	+86・89 口縁～胴部片	口底		高				細い半載竹管の平行沈線文で崩れた肋骨状の意匠を施す。内外面共にやや被熱風化、内面粗い横位磨き。	諸磯b式
第92図 PL.33	3	縄文土器 深鉢	+81 胴部片	口底		高				RL縄文を横位施文し、複数本単位の浮線文を縦・斜位に施す。内面横位毘磨き。	諸磯b式
第92図 PL.33	4	縄文土器 深鉢	+37 底部1/5	口底		高				内外面共に被熱風化。	諸磯b式

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第92図 PL.33	5	剥片石器 石鏃	+76 2/3	長 (1.6) 幅 (1.8)		厚 0.3 重 0.7		チャート	押圧剥離により整形する。先端部及び左脚部先端欠損。	凹基無茎鏃
第92図 PL.33	6	剥片石器 石鏃	+76 2/3	長 (2.9) 幅 (2.0)		厚 0.4 重 1.3		チャート	押圧剥離により整形する。左脚部欠損。	凹基無茎鏃
第92図 PL.33	7	剥片石器 石鏃未製品	+74 完形	長 3.3 幅 2.0		厚 0.7 重 4.2		チャート	石鏃未製品	
第92図 PL.33	8	剥片石器 有茎尖頭器	+89 不明	長 (2.1) 幅 (1.6)		厚 (0.5) 重 1.1		チャート	全面に面的な二次加工が認められる。上端折断部分の両端が外方向に向かい僅かに広がっており、有茎尖頭器の基部の可能性が高い。	
第92図 PL.33	9	剥片石器 石核	+69	長 - 幅 -		厚 - 重 91.6		細粒輝石安山岩	表面に自然面残る。四周側縁に裏面からの剥離調整痕残る。	

遺構外

第93図 PL.33	1	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片	口 底		高			凡縄文を横位施文し、浮線文を横位・多段に施文。外面やや被熱風化。内面横位磨き。	諸磯b式
第93図 PL.33	2	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片	口 底		高			L縄文を横位施文し、浮線文を横位に施す。内面やや被熱風化。	諸磯b式
第93図 PL.33	3	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片	口 底		高			凡縄文を横位施文し、浮線文を横位・多段に施文。内面被熱風化・剥離。	諸磯b式
第93図 PL.33	4	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部～胴部 1/4	口 底	(25.4)	高			半截竹管の平行沈線文を横位・多段に施文。内面やや粗い横位毟磨き。	諸磯b式
第93図 PL.33	5	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部1/4	口 底	(21)	高			波状口縁。口唇部上面に半截竹管の爪形文を施す。口縁部は回工具の重ね引きにより、横・斜位集合沈線文や渦巻文を施す。内外面共に被熱風化。	諸磯b式
第93図 PL.33	6	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部片	口 底		高			波状口縁。R縄文を横位施文し、半截竹管の重ね引きにより蕨手状や渦巻状の集合沈線文を施す。内面横位磨き。	諸磯b式
第93図 PL.33	7	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片	口 底		高			L縄文を横位施文し、半截竹管の重ね引きによる集合沈線で渦巻文を施す。内面横位磨き。	諸磯b式
第93図 PL.33	8	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片	口 底		高			R縄文を横位施文し、半截竹管の集合沈線で横線文や渦巻文を施す。内外面共にやや被熱風化。	諸磯b式
第93図 PL.33	9	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片	口 底		高			R縄文を横位施文し、半截竹管の重ね引きにより横位の集合沈線文を施す。内面撫で状の横位磨き。	諸磯b式
第93図 PL.33	10	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片	口 底		高			LR縄文を横位施文し、半截竹管2本持ちの横位平行沈線文を多段に施す。内面やや被熱風化。	諸磯b式
第93図 PL.33	11	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部片	口 底		高			半截竹管の重ね引きにより集合沈線で渦巻文を施す。内面やや被熱風化。	諸磯b式
第93図 PL.33	12	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部片	口 底		高			半截竹管の平行沈線により横線文や鋸歯文を施す。内面被熱風化・剥離。	諸磯b式
第93図 PL.33	13	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片	口 底		高			波状口縁。半截竹管の重ね引きにより、横・斜位集合沈線文や渦巻文を施す。外面一部に煤状炭化物付着、内面やや被熱風化。	諸磯b式
第93図 PL.34	14	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片	口 底		高			半截竹管により蕨手状の平行沈線文を施す。内面毟撫で状の粗い横位毟磨き。	諸磯b式
第93図 PL.33	15	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部片	口 底		高			口縁部にイノシシの獣面突起を付し、その周囲に半截竹管の平行沈線文を施す。内面やや粗い横位毟磨き。	諸磯b式
第93図 PL.33	16	縄文土器 深鉢	覆土 口縁～胴部片	口 底		高			L縄文を口唇上面から胴部にかけて横位・多段に施文。内面やや粗い横位磨き。	諸磯b式
第93図 PL.33	17	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部片	口 底		高			凡縄文を横位施文。内面横位磨き。	諸磯b式
第93図 PL.34	18	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部片	口 底		高			波状口縁。波頂部に3～4単位の小突起を作出。L縄文を横位・多段に施文。内面やや粗い横位毟撫で。	諸磯b式
第94図 PL.34	19	縄文土器 浅鉢	覆土 口縁部片	口 底		高			低平な浮線文を横位に施文し、毟状工具により刻み目を付した木葉文を施す。内面横位磨き。	諸磯b式
第94図 PL.34	20	縄文土器 浅鉢	覆土 胴部～底部1/3	口 底		高			隆帯文を横位に施す。内外面共にやや粗い横位磨き。	諸磯b式
第94図 PL.34	21	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部片	口 底		高			口唇部外端に連続した押圧文を施す。5～7本の櫛歯状工具により横・縦位の集合沈線文を施す。	諸磯c式
第94図 PL.34	22	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片	口 底		高			結節浮線文により重層的な渦巻文を施す。内面横位磨き。	諸磯c式
第94図 PL.34	23	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片	口 底		高			半截竹管の背面を使った斜位条痕文を施し、結節浮線文により蕨手状の文様を構成。内面横位磨き。24と同一個体。	諸磯c式
第94図 PL.34	24	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部片	口 底		高			波状口縁。半截竹管の背面を使った斜位条痕文を施し、結節浮線文により蕨手状の文様を構成。内面横位磨き。23と同一個体。	諸磯c式
第94図 PL.34	25	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部片	口 底		高			波状口縁。外削ぎ状の口唇上面に斜位刻目を施す。口縁部は2帯1単位の幅広変形爪形文と波頂の長い半截竹管の肋骨文を施す。内面横位磨き。	浮島Ⅱ式

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値					胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第94図 PL.34	26	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部1/4	口 底		(12.8)	高			推定2～3単位の波状口縁。口唇部に円形竹管による斜位方向からの刺突状刻み目を施す。風化により不鮮明だが、半裁竹管の平行沈線文を施文。内外面共に被熱風化・剥離、煤状炭化物付着。	浮島Ⅱ式
第94図 PL.34	27	縄文土器 小型深鉢	覆土 口縁部片	口 底			高			外削ぎ状の口唇部外端に斜位の刻み目を施し、以下に半裁竹管の変形爪形文や連続斜位刻み目文を羽状に施文。	浮島Ⅱ式
第94図 PL.34	28	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部片	口 底			高			口唇部外端に半裁竹管背面の刺突文を、口縁部に幅広の半裁竹管の変形爪形文を施す。内面横位磨き。	浮島Ⅱ式
第94図 PL.34	29	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部片	口 底			高			波状口縁。口唇部上面に幅狭な半裁竹管背面の刺突文を、口縁部に幅広な半裁竹管の変形爪形文を多段に施文。内外面共にやや被熱風化。	浮島Ⅱ式
第94図 PL.34	30	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片	口 底			高			アナダラ属の波状貝殻文を横位に施文。内面縦位磨き。	浮島式
第94図 PL.34	31	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片	口 底			高			波状貝殻文を横位・多段に施文。内外面共にやや被熱風化。32と同一個体。	浮島式
第94図 PL.34	32	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片	口 底			高			波状貝殻文を横位・多段に施文。内外面共にやや被熱風化、内面一部に煤状炭化物付着。31と同一個体。	浮島式
第94図 PL.34	33	縄文土器 小型深鉢	覆土 胴部片	口 底			高			半裁竹管の支点を交互に変えながら刺突した横位変形爪形文や横位の集合沈線文を施す。内面横位磨き。	興津式
第94図 PL.34	34	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片	口 底			高			縦位の沈線区画文内に列点状の刺突文を施す。内面縦位笹磨き。	堀之内1式
第94図 PL.34	35	剥片石器 有茎尖頭器	+3 4/5	長 幅		(4.5) 2.0	厚 重	0.6 5.3	チャート	石器全体に面的な二次加工をおこない整形する。	
第94図 PL.34	36	剥片石器 尖頭状石器	+3 完形	長 幅		1.7 1.2	厚 重	0.3 0.4	黒曜石	裏面に素材剥片の主要剥離面を大きく残す。小形剥片を素材とする。両面加工により尖頭部を作出する。	
第94図 PL.34	37	剥片石器 エンドスクレイパー	+4 完形	長 幅		5.8 3.2	厚 重	1.4 20.7	黒曜石	厚手の縦長剥片を素材とする。背面の右側に自然面を大きく残しバーカッションマークが多く認められる。転石を利用している可能性が高い。	
PL.34	38	剥片石器 石核	+12	長 幅		- -	厚 重	- 340.1	黒色安山岩	表面に自然面。	
PL.34	39	剥片石器 石鏃	覆土	長 幅		2.1 1.1	厚 重	0.4 0.6	チャート	表裏面側からの剥離調整。	
PL.34	40	剥片石器 スクレイパー	覆土	長 幅		- -	厚 重	- 82.9	黒色頁岩	下端部に剥離調整。	
PL.34	41	剥片石器 スクレイパー	覆土	長 幅		- -	厚 重	- 132.4	黒色頁岩	裏面の一部に自然面残る。下端縁中心に剥離調整痕。	
PL.34	42	剥片石器 スクレイパー	覆土	長 幅		- -	厚 重	- 24.0	黒色頁岩	下端縁右寄りに若干の剥離調整痕。	
PL.34	43	剥片石器 打製石斧	覆土	長 幅		13.5 6.3	厚 重	3.8 407.4	変質玄武岩	剥離調整による整形。未製品か。	
PL.35	44	剥片石器 打製石斧	覆土	長 幅		10.8 7.0	厚 重	2.6 195.5	細粒輝石安山岩	分銅型。裏面に自然面残り、縁辺部剥離調整痕。	
PL.35	45	剥片石器 石核	覆土	長 幅		- -	厚 重	- 580.6	黒色頁岩	河床礫の下端に剥離痕残る。	
PL.35	46	剥片石器 二次加工ある剥片	覆土	長 幅		- -	厚 重	- 93.7	黒色頁岩	表面に自然面残り、左側縁に裏面からの剥離調整痕。	
PL.35	47	剥片石器 二次加工ある剥片	覆土	長 幅		- -	厚 重	- 82.7	黒色頁岩	上端に自然面。下端から右下会に剥離調整痕。	
PL.35	48	剥片石器 二次加工ある剥片	覆土	長 幅		- -	厚 重	- 274.3	黒色頁岩	裏面に自然面残る。左側縁に刃部調整痕。	
PL.35	49	剥片石器 二次加工ある剥片	覆土	長 幅		- -	厚 重	- 30.3	黒色頁岩	裏面に自然面残る。下端縁中心に剥離調整痕。	
PL.35	50	剥片石器 二次加工ある剥片	覆土	長 幅		- -	厚 重	- 259.5	黒色頁岩	上面から一側面に自然面。一面に剥離調整痕。	
PL.35	51	剥片石器 二次加工ある剥片	覆土	長 幅		- -	厚 重	- 22.5	黒色頁岩	左側縁に剥離調整痕。	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
PL.35	52	剥片石器 二次加工ある剥片	覆土	長 - 幅 -		厚 - 重	62.3	黒色頁岩	縦長の剥片使用。左側縁に剥離痕見られる。	
PL.35	53	剥片石器 二次加工ある剥片	覆土	長 - 幅 -		厚 - 重	175.6	黒色頁岩	右下縁に、裏側から剥離調整痕。	
PL.35	54	礫石器 凹石	覆土	長 8.6 幅 7.3		厚 4.6 重 454.3		粗粒輝石安山岩	表面に径3.0×2.2cm、深さ0.5cm、裏面に径2.2×(2.3)cm、深さ0.4cmを測る窪み穿たれる。	
PL.35	55	礫石器 棒状礫	覆土	長 16.2 幅 5.8		厚 3.7 重 464.3		変質玄武岩	上位に幅測定不能の摩耗痕一周。	

表10　未掲載遺物一覧(土師器・須恵器等)

遺構No.	遺構種		土師器 杯・椀類	土師器 甕	須恵器 杯・椀	須恵器 甕	須恵器 羽釜・甑	黒色土器 杯・椀類	黒色土器 不明	その他	合計	備考
1	住居	点数	8	40							48	
		重量	13	300							313	
2	住居	点数	7	28							35	
		重量	23	340							363	
3	住居	点数	45	158		2			4	1	210	埋輪
		重量	268	1652		32			12	31	1995	
4	住居	点数	7	53							60	
		重量	26	544							570	
5	住居	点数	8	50							58	
		重量	52	776							828	
6	住居	点数	3	17							20	
		重量	17	135							152	
10	住居	点数	94	166	1	5					266	
		重量	360	1490	7	608					2465	
11	住居	点数	16	12		1					29	
		重量	68	92		10					170	
1	溝	点数	5	2							7	
		重量	24	20							44	
2	溝	点数	4	13							17	
		重量	7	95							102	
3	溝	点数	1	9							10	
		重量	8	165							173	
4	溝	点数	15	12							27	
		重量	55	84							139	
5	溝	点数	6	3							9	
		重量	18	67							85	
7	溝	点数	1	2		1					4	
		重量	4	23		31					58	
1	墳	点数	82	192		7					281	
		重量	435	1457		350					2242	
2	墳	点数	24	46		1					71	
		重量	95	257		78					430	
3	墳	点数	6	4		1					11	
		重量	27	30		34					91	
4	墳	点数	16	4		1					21	
		重量	75	43		15					133	
5	墳	点数	1	1							2	
		重量	6	2							8	
6	墳	点数	8	3							11	
		重量	39	34							73	
8	墳	点数	43	80		3					126	
		重量	178	447		160					785	
Z5	ピット	点数		1							1	
		重量		5							5	
H4	ピット	点数		1							1	
		重量		14							14	
C-6	グリッド	点数	1	1							2	
		重量	1	6							7	
D-4	グリッド	点数	4	2		1					7	
		重量	39	6		22					67	
E～G-6～9	グリッド	点数	3	5							8	
		重量	16	48							64	
E-7	グリッド	点数		1							1	
		重量		57							57	
F-3	グリッド	点数	1								1	
		重量	5								5	
F-6	グリッド	点数		1							1	
		重量		15							15	
FG-5・6	グリッド	点数	2	1							3	
		重量	34	14							48	
G-10	グリッド	点数	1	2							3	
		重量	6	62							68	
G-13	グリッド	点数	1								1	
		重量	9								9	
G-16	グリッド	点数		1							1	
		重量		36							36	
G-3	グリッド	点数	3	5		1					9	
		重量	14	26		37					77	
G-7	グリッド	点数		1							1	
		重量		5							5	
G-9	グリッド	点数	2	1							3	
		重量	9	42							51	
H19～G19	グリッド	点数	3	13						1	17	埋輪
		重量	26	155						10	191	
I～G-14・15	グリッド	点数	9	1							10	
		重量	68	15							83	
I-1・2	グリッド	点数	2	6		1					9	
		重量	5	80		47					132	
I-14	グリッド	点数	19								19	
		重量	82								82	
I-6	グリッド	点数				1					1	
		重量				12					12	
J-15	グリッド	点数		1							1	
		重量		9							9	
J-8	グリッド	点数	2								2	
		重量	6								6	
K-11	グリッド	点数	1	1							2	
		重量	19	19							38	
K-13	グリッド	点数		2							2	
		重量		7							7	
K-16	グリッド	点数		6							6	
		重量		50							50	
K-17	グリッド	点数	1	2							3	
		重量	2	54							56	
L-13	グリッド	点数		1							1	
		重量		8							8	
L-15	グリッド	点数		3							3	
		重量		46							46	
L-16	グリッド	点数		3							3	
		重量		21							21	
L-17	グリッド	点数		1							1	
		重量		41							41	

遺構No.	遺構種		土師器 杯・椀類	土師器 甕	須恵器 杯・椀	須恵器 甕	須恵器 羽釜・甑	黒色土器 杯・椀類	不明	その他	合計	備考
L-21	グリッド	点数		1							1	
		重量		12							12	
M-16	グリッド	点数	2	2							4	
		重量	12	4							16	
N-15	グリッド	点数	4	3		3					10	
		重量	22	32		242					296	
O-16	グリッド	点数	3	2		1					6	
		重量	28	10		44					82	
O-17	グリッド	点数	1								1	
		重量	3								3	
O-19	グリッド	点数	12	10	1		1		1	1	26	中世陶器
		重量	44	69	21		12		12	23	181	
O-27	グリッド	点数	1								1	
		重量	6								6	
OP-15・16	グリッド	点数	1								1	
		重量	5								5	
P-12	グリッド	点数	1								1	
		重量	17								17	
P-14	グリッド	点数			1						1	
		重量			4						4	

遺構No.	遺構種		土師器 杯・椀類	土師器 甕	須恵器 杯・椀	須恵器 甕	須恵器 羽釜・甑	黒色土器 杯・椀類	不明	その他	合計	備考
P-15	グリッド	点数		1							1	
		重量		8							8	
P-17	グリッド	点数		1		1					2	
		重量		12		41					53	
P-22	グリッド	点数	1	2							3	
		重量	2	26							28	
	その他	点数				3					3	
		重量				140					140	
	確認面	点数	14	49		1					64	
		重量	91	464		56					611	
	遺構外	点数		18		1					19	
		重量		230		2					232	
	土山	点数	1	1							2	
		重量	3	8							11	
	表採	点数	9	21							30	
		重量	50	316							366	
1	湯井	点数	87	44	1				1		133	埴輪
		重量	324	416	2				18		760	
2	湯井	点数	1	2							3	
		重量	4	25							29	

表11　未掲載遺物一覧(土器・陶磁器)

遺構番号	遺構種	土師器 大型製品 点数	土師器 大型製品 重量	須恵器 大型製品 点数	須恵器 大型製品 重量	中世 在地系鉢・鍋 点数	中世 在地系鉢・鍋 重量	近世 国産磁器 点数	近世 国産磁器 重量	近世 国産陶器陶器 点数	近世 国産陶器陶器 重量	近世 国産焼締陶器 点数	近世 国産焼締陶器 重量	近世 在地系焙烙・鍋 点数	近世 在地系焙烙・鍋 重量	近世 在地系瓦 点数	近世 在地系瓦 重量	近現代 陶磁器 点数	近現代 陶磁器 重量	近現代 土器類 点数	近現代 土器類 重量	近現代 ガラス 点数	近現代 ガラス 重量	近現代 その他 点数	近現代 その他 重量	時期不詳 土器類 点数	時期不詳 土器類 重量
1	古墳石室																	5	38					1	5		
1	古墳周堀南東確認面									1	6			1	7					1	12						
1	古墳周堀北東																			1	2						
1	古墳南西確認面									3	20																
2	古墳																										
2	古墳覆土							3	23	19	298	2	101	7	205	7	29									14	134
2	古墳墳丘上									4	139	1	19	1	44												
2	古墳周堀							4	54	5	312			1	42											5	103
2	古墳表土																									1	5
2	古墳攪乱							3	4	1	25																
8	古墳攪乱																			1	9						
1	住居									1	3					1	2										
7	住居			1	69			3	9	20	226			6	277	16	58					3	25			51	515
1	溝																	1	58								
3	溝																			1	43						
4	溝																									1	25
6	溝															1	5									12	25
1	湯井			1	41					1	3	1	31														
	I-17G、3	1	7																								
	H17G確認面	1	6											1	11												
	O-23G																	1	38								
	確認面									1	4																
	L-26G攪乱									1	3			2	74					1	8						
	H6-19G																									1	19
	P-16G																									1	5
	I-1～2G					1	74																				
	表土									1	85																
合計		2	13	2	110	1	74	13	90	58	1,124	4	151	19	660	25	94	7	134	5	74	3	25	1	5	86	831

表12　未掲載遺物一覧(縄文土器)

遺構名		前期				中期	後期	その他		備考
番号	遺構	諸磯b	諸磯c	浮島	興津	加曽利E3	称名寺Ⅱ	沈線	無文	
2	住居	1								
		8								
10	住居	13								
		110								
12	住居	2								
		25								
14	住居	33		2			2	33	31	
		788		21			126	262	245	
15	住居	66								
		669								
1	古墳	8	4		1	1				
		155	62		5	28				
4	古墳	1								
		10								
3	溝	4	1		1					
		34	13		5					
13	土坑	1								
		8								
18	土坑	22								
		248								
19	土坑	7								
		64								
20	土坑	1								
		15								
23	土坑	1								
		31								
25	土坑	5								
		76								
26	土坑	5								
		28								
27	土坑	1								
		38								
30	土坑	1								
		42								
32	土坑	1								
		6								
33	土坑	32								
		442								
34	土坑	71								
		915								
1	溜井	1								
		30								
E 7	グリッド	1								
		20								
E・F 1	グリッド			1						
				13						
F 9	グリッド	1								
		42								
G 9	グリッド	1								
		14								
G 10	グリッド			1						
				18						
G 16	グリッド			1						
				20						

遺構名		前期				中期	後期	その他		備考
番号	遺構	諸磯b	諸磯c	浮島	興津	加曽利E3	称名寺Ⅱ	沈線	無文	
G 19	グリッド	1								
		6								
H 16	グリッド	2								
		41								
I 14	グリッド	1								
		9								
I 16	グリッド	3								
		66								
I 17	グリッド	5								
		86								
J 16	グリッド	21		1						
		551		9						
J 17	グリッド	1								
		6								
K 11	グリッド	5								
		131								
K 13	グリッド	1		1						
		62		12						
K 16	グリッド	5								
		71								
L 13	グリッド	2		1						
		23		20						
L 14	グリッド	3								
		50								
L 15	グリッド	4		2						
		65		38						
L 16	グリッド	2		1						
		35		9						
M 16	グリッド	4								
		67								
M 17	グリッド	1								
		27								
M27・28	グリッド	1								
		8								
O 19	グリッド	4	1							
		35	7							
P 13	グリッド	2								
		22								
P 16	グリッド		1							
			8							
Q 13	グリッド	1								
		33								
Q 14	グリッド	1	1							
		24	31							
Q 16	グリッド	1								
		11								
Q R 26・27	グリッド	4								
		64								
不明	グリッド	8	1	2						
		148	6	24						
	表土	1								
		9								

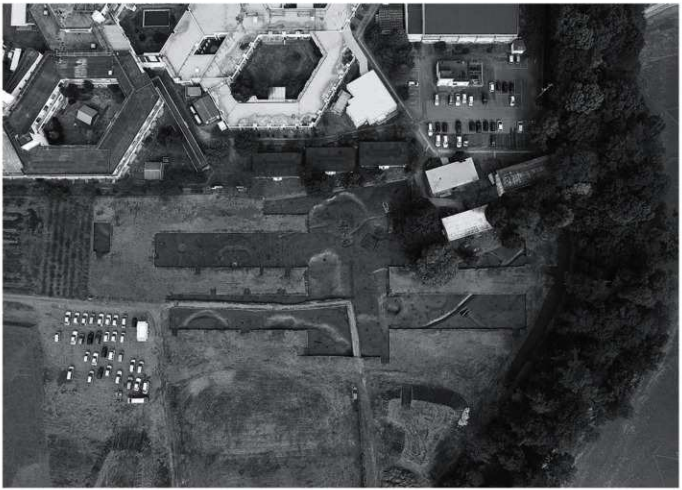
表13　出土剥片一覧

遺構名	石材	出土点数	総重量(g)
3住居	黒色頁岩	3	18.7
10住居	黒色頁岩	4	35.3
10住居	黒色安山岩	5	80.8
10住居	チャート	1	0.7
10住居	ホルンフェルス	1	29.9
14住居	黒色頁岩	11	154.9
14住居	黒色安山岩	7	6.4
14住居	チャート	25	37.5
14住居	細粒輝石安山岩	2	20.7
15住居	黒色頁岩	4	78.1
15住居	黒色安山岩	9	173.9
15住居	チャート	1	7.8
15住居	細粒輝石安山岩	2	9.2
18上坑	黒色頁岩	4	99.7
18上坑	黒色安山岩	3	7.7
18上坑	チャート	4	9.2
19上坑	黒色頁岩	4	32.1
19上坑	珪質頁岩	1	1
19上坑	黒色安山岩	4	25.5
19上坑	チャート	4	7.8
25上坑	黒色頁岩	2	162.5
26上坑	黒色頁岩	3	21.4
26上坑	チャート	1	0.7
33上坑	黒色頁岩	1	20.8
33上坑	黒色安山岩	1	2.9
34上坑	チャート	1	4.5
34上坑	黒色頁岩	6	41.6

遺構名	石材	出土点数	総重量(g)
34上坑	頁岩	1	8.6
34上坑	黒色安山岩	8	7.3
34上坑	チャート	72	36.6
34上坑	細粒輝石安山岩	1	0.1
34上坑	粗粒輝石安山岩	1	0.1
34上坑	変質玄武岩	1	4.1
3溝	黒色頁岩	1	26
7溝	黒色頁岩	1	28.9
1古墳	細粒輝石安山岩	1	22
1古墳	黒色頁岩	1	14.6
1古墳	チャート	1	2.9
3古墳	黒色頁岩	1	19.9
8古墳	黒色頁岩	1	1.5
9古墳	黒色頁岩	1	7.7
1溜井	黒色頁岩	2	18.1
1溜井	黒色安山岩	4	171.5
1溜井	チャート	1	0.6
F3グリッド	黒色頁岩	1	41.8
H13グリッド	黒色頁岩	1	26
I16グリッド	チャート	1	2.1
J16グリッド	黒色頁岩	2	112.4
J16グリッド	黒色安山岩	1	6.4
K16グリッド	黒色頁岩	5	35.9
K16グリッド	黒色安山岩	2	76.7
K17グリッド	黒色安山岩	1	8.5
L16グリッド	黒色頁岩	2	82.8
L17グリッド	黒色安山岩	1	14.7

遺構名	石材	出土点数	総重量(g)
L26グリッド	黒色頁岩	1	17
M15グリッド	黒色頁岩	1	169.3
O26グリッド	黒色頁岩	1	11.4
P17グリッド	黒色頁岩	1	4.1
P25グリッド	黒色頁岩	1	21.6
確認面	黒色頁岩	1	8
確認面	黒色安山岩	1	5
確認面	チャート	1	2.7
ローム漸移層 K-15	チャート	1	9.5
ローム漸移層 K-16	細粒輝石安山岩	1	8.6
ローム漸移層 K-16	チャート	1	0.4
ローム漸移層 K17	チャート	1	0.7
ローム漸移層 L13	チャート	2	1.5
ローム漸移層 L14	チャート	1	3.5
ローム漸移層 L15	黒色頁岩	1	53.3
ローム漸移層 L16	黒色頁岩	5	60.5
ローム漸移層 L16	黒色安山岩	3	41.6
ローム漸移層 M16	変質玄武岩	1	27.7
ローム漸移層 O16	黒色頁岩	1	8.2

写 真 図 版



1　調査区全景(上側北)

2　調査区全景(南から)

1　調査区全景(西から)

2　調査区東部(上側北)

1　1号住居全景(南東から)

2　1号住居竈全景(南東から)

3　2号住居全景(南東から)

4　2号住居土層断面(A)(南東から)

5　3号住居遺物出土状況(南東から)

6　3号住居焼土付近遺物出土状況(南東から)

7　3号住居竈全景(南東から)

8　3号住居竈掘り方全景(南東から)

1　3号住居床下土坑(南西から)

2　3号住居掘り方全景(南東から)

3　4号住居全景(北から)

4　5号住居全景(南東から)

5　5号住居貯蔵穴遺物出土状況(南東から)

6　5号住居貯蔵穴遺物出土状況(南東から)

7　5号住居貯蔵穴遺物出土状況(南東から)

8　5号住居北壁土層断面(A)(南東から)

1　6号住居土層断面全景（A）（南東から）

2　7号住居（竪穴状遺構）全景（東から）

3　7号住居（竪穴状遺構）全景（南から）

4　7号住居（竪穴状遺構）全景（西から）

5　8号住居全景（西から）

6　8号住居掘り方全景（西から）

7　10号住居全景（南東から）

8　10号住居遺物出土状況（南東から）

1　10号住居貯蔵穴付近遺物出土状況(南東から)

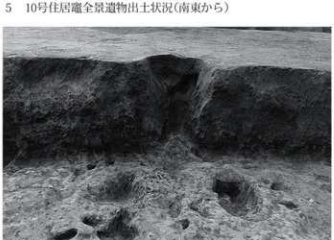
2　10号住居遺物出土状況(南東から)

3　10号住居甕遺物出土状況(南東から)

4　10号住居遺物出土状況(南東から)

5　10号住居甕全景遺物出土状況(南東から)

6　10号住居甕解体状況(南東から)



7　10号住居甕掘り方全景(南東から)

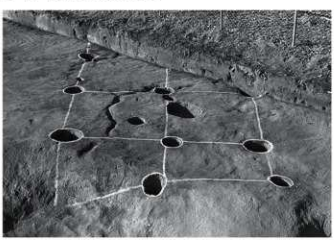
8　10号住居掘り方全景(南東から)

1　11号住居全景(東から)

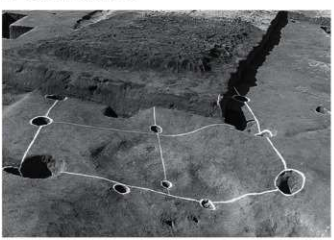
2　11号住居全景(南西から)

3　12・13号住居全景(南から)

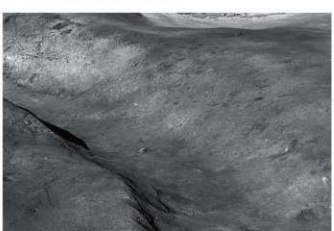
4　13号住居全景(南から)



5　1号掘立柱建物全景(南東から)



6　2号掘立柱建物全景(北東から)



7　1号古墳周堀(南から)

8　1号古墳周堀東内遺物出土状況(南から)

1　1号古墳主体部と前庭部全景(南から)

2　1号古墳石室と前庭の掘り方全景(北から)

3　1号古墳主体部全景(南から)

4　1号古墳石室と前庭の掘り方全景(北から)

5　1号古墳主体部と前庭部全景(南から)

6　1号古墳石室と前庭の掘り方全景(南から)

7　2号古墳主体部床下(南から)

8　2号古墳周堀内遺物出土状況(南東から)

1　2号古墳全景(上側北)

2　2号古墳主体部(北から)

3　2号古墳主体部全景(南から)

4　2号古墳主体部(西から)

1　2号古墳石室奥壁(南から)

2　2号古墳石室左壁(東から)

3　2号古墳全景(西から)

4　2号古墳主体部掘り方(南から)

5　3号古墳全景(上側北)

1　3号古墳土層断面（A）（北から）

2　3号古墳全景（北西から）

3　4号古墳全景（南から）

4　4号古墳土層断面（B）（西から）

5　4号古墳主体部付近土層断面（B）（西から）

6　4号古墳土層断面（A）（南西から）

7　5号古墳全景（上側北）

8　5号古墳周堀西側土層断面（B）（南から）

1　6号古墳全景(南から)

2　6号古墳東側周堀土層断面(A)(南から)

3　7号古墳全景(南から)

4　7号古墳土層断面(A)(南から)

5　8号古墳全景(上側南)

1　8号古墳全景(西から)

2　8号古墳主体部閉塞部取り外し後(南から)

3　8号古墳主体部閉塞部取り外し後(南から)

4　8号古墳主体部閉塞部取り外し後(西から)

5　8号古墳主体部(東から)

6　8号古墳主体部(南から)

7　8号古墳主体部礫床除去後(南から)

8　8号古墳石室右壁全体(北西から)

1　8号古墳石室左壁羨道(東から)

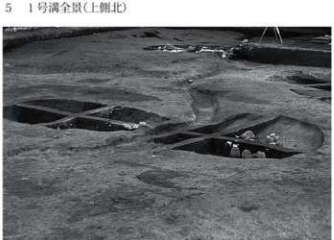
2　8号古墳主体部掘り方全景(南から)

3　9号古墳・9号住居土層断面(A)全景(北から)

4　9号古墳・9号住居土層断面(B)全景(西から)

5　1号溝全景(上側北)

6　1号溝土層断面(C)(南から)



7　2号溝全景(南西から)

8　2号溝全景(西から)

1　3号溝土層断面（A）（南から）

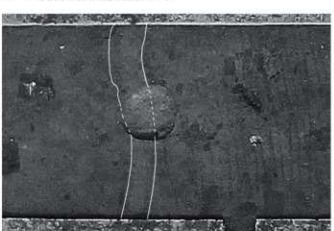
2　3号溝全景（西から）

3　4号溝調査風景（南西から）

4　4号溝中央西部分（北東から）

5　5号溝西部分（南から）

6　5号溝東部分（南東から）



7　6号溝全景（上側北）

1　7号溝全景(南から)

2　7号溝全景(北から)

3　1号溜井全景(東から)

4　1号溜井土層断面(B)(北から)

5　2号溜井全景(北東から)

6　2号溜井掘削痕(東から)

7　2号土坑全景(南から)

8　3号土坑全景(南西から)

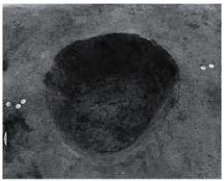
9　4号土坑全景(南西から)

1　5号土坑全景(南から)

2　6号土坑全景(南から)

3　7号土坑全景(北から)

4　8号土坑全景(南から)


5　9号土坑全景(北から)

6　10号土坑全景(北から)

7　11号土坑全景(南から)

8　12号土坑全景(南から)

9　13号土坑土層断面(A)(南から)

10　14号土坑土層断面(A)(南から)

11　15号土坑全景(南から)

12　16号土坑全景(南から)

13　17号土坑全景(南東から)

14　21号土坑全景(北西から)

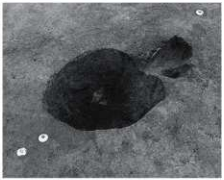
15　1号ピット全景(南から)

1　6号ピット全景(南から)

2　8号ピット全景(南西から)

3　12号ピット全景(南から)

4　16号ピット全景(南から)


5　20号ピット全景(南から)

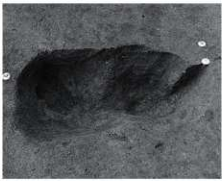
6　24号ピット全景(南から)

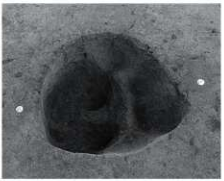
7　25号ピット全景(2号掘立柱建物)(南から)

8　27号ピット全景(2号掘立柱建物)(南東から)

9　33号ピット全景(北から)

10　50号ピット土層断面(東から)


11　72・73号ピット全景(南東から)


12　88号ピット全景(南から)

13　104・105(奥)号ピット全景(南から)

14　115号ピット全景(南から)

15　129号ピット土層断面(南から)

1面1号住居

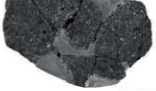
2(1/3)

3(1/2)

6(1/3)

1面2号住居

1(1/3)



7(1/3)

1面3号住居

1(1/3)

2(1/3)

3(1/3)

4(1/3)

8(1/3)

10(1/3)

11(1/3)

12(1/3)

13(1/3)

14(1/3)

15(1/3)

16(1/3)

17(1/4)

18(1/3)

1面4号住居

1 (1/3)

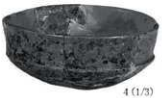
2 (1/3)

1面5号住居(1)

1 (1/3)

2 (1/3)

3 (1/3)



4 (1/3)

10(1/3)

5 (1/3)

7 (1/3)

8 (1/3)

9 (1/3)

11(1/3)

12(1/3)

1面5号住居(2)

13(1/3)

14(1/3)

15(1/3)

1面6号住居

1(1/3)

1面7号住居(1)

1(1/3)

2(1/3)

PL.22

1面7号住居(2)

3(1/3)

4(1/3)

5(1/3)

6(1/3)

9(1/3)

11(1/3)

7(1/3)

8(1/3)

16(1/2)

17(1/2)

19(1/2)

24(1/3)

25(1/2)

18(1/2)

20(1/2)

21(1/2)

23(1/3)

22(1/1)

23(1/1)

1面10号住居(1)

1(1/3)

2(1/3)

3(1/3)

4(1/3)

1面10号住居(2)

5(1/3)

6(1/3)

8(1/3)

9(1/3)

13(1/3)

14(1/3)

17(1/3)

18(1/3)

16(1/3)

20(1/3)

19(1/3)

27(1/3)

PL.24

1 面10号住居（3）

21(1/3)

22(1/3)

30(1/3)

31(1/1)

32(1/2)

33(1/3)

34(1/3)

1面10号住居(4)

24(1/3)

29(1/3)

35(1/3)

36(1/3)

37(1/3)

38(1/3)

39(1/3)

40(1/3)

1面11号住居

1(1/3)

1面12号住居

1(1/3)

1面1号古墳

1(1/3)

3(1/3)

2(1/3)

4(1/3)

1面2号古墳

2 (1/3)

1面3号古墳

1 (1/3)

2 (1/3)

1面4号古墳

2 (1/3)

1面8号古墳

1 (1/3)

2 (1/3)

1面2号溜井

1 (1/3)

1面遺構外

5 (1/3)

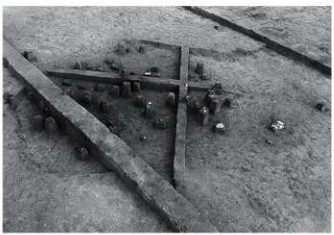
7 (1/3)

8 (1/3)

3 (1/3)

1　14号住居全景(南から)

2　14号住居土層断面(A)(南東から)

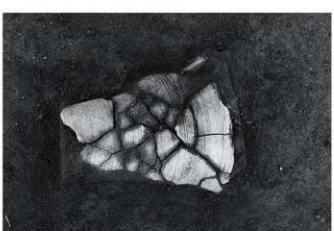


3　14号住居全景遺物出土状況(南西から)

4　14号住居遺物出土状況(南から)

5　14号住居遺物出土状況(南から)

6　14号住居遺物出土状況(東から)



7　14号住居付近　　遺物出土状況(南から)

8　15号住居全景(南西から)

1　15号住居址全景(西から)

2　15号住居遺物出土状況(南西から)

3　15号住居遺物出土状況(南西から)

4　15号住居遺物出土状況(南西から)

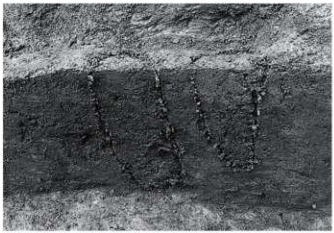
5　1号陥穴全景(東から)

6　1号陥穴全景(東から)

7　2号陥穴逆茂木検出状況(北西から)

8　2号陥穴掘削状況(北東から)

1　3号陥穴全景(北から)



2　3号陥穴底面の逆茂木部分土層断面(南から)

3　1号土坑全景(東から)

4　18号土坑全景遺物出土状況(南から)

5　19号土坑全景遺物出土状況(西から)

6　20号土坑全景(南から)

7　22号土坑全景(南西から)

8　23号土坑全景遺物出土状況(南から)

9　24号土坑全景(南東から)

10　25号土坑全景遺物出土状況(北西から)

1　26号土坑全景(北から)

2　26号土坑遺物出土状況(南西から)

3　27号土坑全景(南東から)

4　28号土坑全景遺物出土状況(南西から)

5　29号土坑全景(南から)

6　30号土坑全景遺物出土状況(西から)

7　31号土坑全景(南西から)

8　32号土坑全景(南から)

9　32号土坑全景遺物出土状況(南西から)

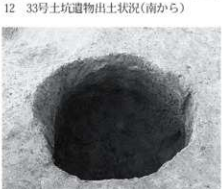
10　33号土坑遺物出土状況(南から)

11　33号土坑遺物出土状況(東から)

12　33号土坑遺物出土状況(南から)

13　33号土坑全景完掘(南から)

14　34号土坑遺物出土状況(南東から)


15　34号土坑全景(南から)

2面14号住居

1 (1/5)

2 (1/3)

3 (1/4)

4 (1/3)

5 (1/3)

7 (1/3)

8 (1/4)

6 (1/4)

9 (1/4)

10(1/3)

11(1/4)

13(1/3)

14(1/4)

12(1/1)

15(1/1)

18(1/2)

16(1/2)

17(1/2)

2面15号住居

1 (1/5)

2 (1/3)

3 (1/4)

4 (1/3)

5 (1/3)

6 (1/3)

7 (1/3)

9 (1/4)

8 (1/1)

10(1/2)

2面3号陥穴

11(1/3)

12(1/3)

1 (1/1)

PL.32

2面18号土坑

1 (1/4)

2 (1/4)

2面19号土坑

1 (1/3)

2 (1/3)

3 (1/3)

4 (1/3)

5 (1/3)

6 (1/1)

7 (1/3)

2面22号土坑

1 (1/3)

2面27号土坑

1 (1/3)

2面25号土坑

1 (1/3)

2 (1/3)

3 (1/3)

2面26号土坑

1 (1/3)

2 (1/3)

3 (1/2)

2面28号土坑

1 (1/4)

2 (1/2)

2面32号土坑

1 (1/3)

2 (1/4)

3 (1/2)

4 (1/2)

2面30号土坑

1 (1/2)

2面33号土坑

1 (1/3)

2 (1/3)

4 (1/2)

3 (1/4)

2面34号土坑

1 (1/4)

3 (1/3)

4 (1/4)

5 (1/1)

6 (1/1)

7 (1/1)

8 (1/1)

9 (1/1)

2面遺構外(1)

1 (1/3)

2 (1/3

3 (1/3)

4 (1/4)

5 (1/4)

6 (1/3)

7 (1/3)

8 (1/3)

9 (1/3)

15(1/3)

17(1/3)

10(1/3)

11(1/3)

12(1/3)

13(1/3)

14(1/3)

16(1/3)

PL.34

２面遺構外（２）

18(1/3)

19(1/3)

20(1/4)

21(1/3)

22(1/3)

23(1/3)

24(1/3)

25(1/3)

26(1/3)

27(1/3)

28(1/3)

29(1/3)

30(1/3)

31(1/3)

32(1/3)

33(1/3)

34(1/3)

35(1/1)

36(1/1)

37(1/2)

38(1/3)

39(1/1)

40(1/2)

41(1/2)

42(1/2)

43(1/2)

２面遺構外（３）

44(1/2)

45(1/2)

46(1/2)

49(1/2)

47(1/2)

48(1/2)

50(1/2)

51(1/2)

52(1/2)

53(1/2)

54(1/2)

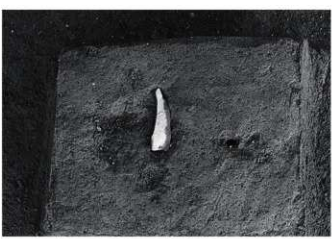
55(1/3)

1　旧石器試掘段階全景(上側北)

2　L24試掘トレンチ遺物出土状況(北から)

3　L24試掘トレンチ遺物(3)出土状況(北から)

4　L24試掘トレンチ遺物(5)出土状況(北から)



5　L24試掘トレンチ遺物(2)出土状況(北から)

1　L24試掘トレンチ遺物出土状況(北から)

2　L24試掘トレンチ土層断面、遺物出土状況(北西から)

3　T46試掘トレンチ礫出土状況(南西から)

4　T46試掘トレンチ礫出土状況(南西から)

5　X44試掘トレンチ遺物出土状況(南東から)

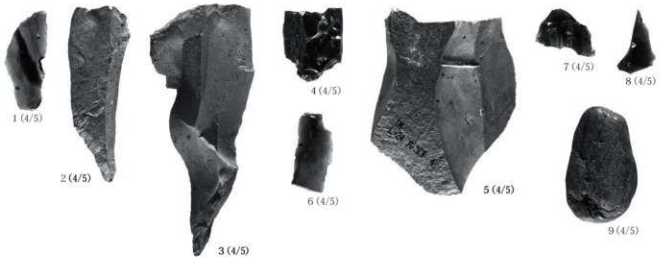
6　K25試掘トレンチ遺物出土状況(南西から)

7　G8試掘トレンチ全景(西から)

8　P14試掘トレンチ全景(西から)

PL.38

3面　旧石器



報告書抄録

書名ふりがな	いまみやいせき
書　名	今宮遺跡
副書名	県立障害者リハビリテーションセンター再編整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	620
編著者名	石守　晃・小原俊行
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20161212
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住　所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	いまみやいせき
遺 跡 名	今宮遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんいせさきしはしえまち
遺跡所在地	群馬県伊勢崎市波志江町
市町村コード	102041
遺跡番号	IS002
北緯（世界測地系）	362146
東経（世界測地系）	1391127
調査期間	20141001－20141231
調査面積	4,807
調査原因	施設増設
種　別	集落／古墳／その他
主な時代	旧石器／縄文／古墳／奈良／中世／近世
遺跡概要	旧石器－石器／縄文－竪穴住居2+陥穴3+土坑17－土器・石器／古墳－竪穴住居8+古墳9+土坑1－土師器・須恵器・石製品／奈良－竪穴住居1－土師器／古墳～古代－竪穴住居3+掘立柱建物1 ～ 2 ／中世－掘立柱建物0 ～ 2+溝1－土器・陶磁器／近世－竪穴遺構1+溝1+溜井2－土器・陶磁器・石製品・金属製品／古墳～近世－溝5+土坑16+ピット113
特記事項	旧石器時代の蛤良丹沢火山灰～浅間板鼻褐色軽石群からの石器出土。縄文時代前期諸磯ｂ式期の竪穴住居や群集墳である波志江沼西古墳群中の終末期古墳。
要　　約	本遺跡は赤城山南麓に更新生に形成された扇状地に在って、東西両側を中小河川に開析された微高地上に立地する。浅間板鼻褐色軽石を含む層等に小規模な旧石器の分布が見られ、縄文時代前期の竪穴住居や貯蔵穴、時期不特定の陥穴等、古墳時代の集落や波志江沼西古墳群（宮貝戸古墳群）に属する古墳、奈良時代の竪穴住居、中近世の溝や、近世の竪穴遺構や溜井などを調査し、これらの遺構に伴う、土器、陶磁器、石器、石製品、金属製品などが出土した。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第620集

今宮遺跡

県立障害者リハビリテーションセンター再編整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成28(2016)年12月５日　印刷
平成28(2016)年12月12日　発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
電話(0279)52-2511(代表)
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印刷／杉浦印刷株式会社